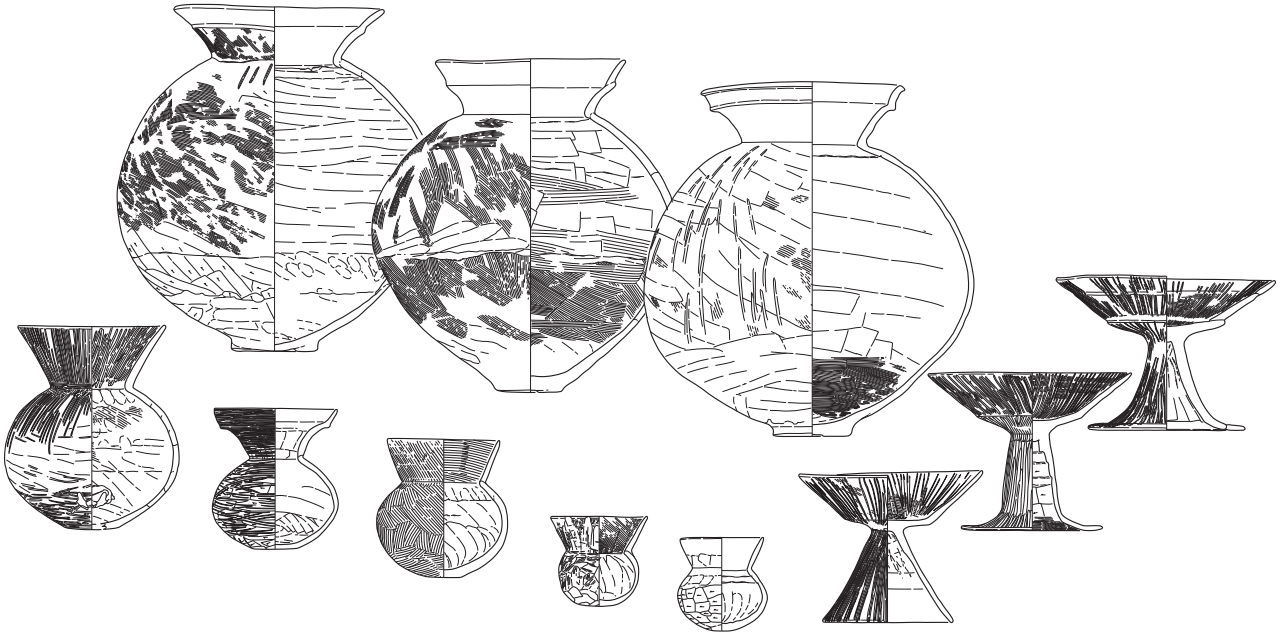
山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 344 集

北畑南遺跡（きたばたみなみ）

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴う発掘調査報告書



２０２４.３

山梨県観光文化・スポーツ部
山　梨　県　県　土　整　備　部

北畑南遺跡

きたばたみなみ

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴う発掘調査報告書

２０２４.３

山梨県観光文化・スポーツ部
山　梨　県　県　土　整　備　部

祭祀遺構（土器集積）出土遺物集合写真

巻頭写真２

祭祀遺構（土器集積）遺物出土状況

北畑南遺跡北東からの景観

北畑南遺跡　古墳時代遺構面完掘状況

巻頭写真４

3・4 号竪穴建物跡　遺物出土状況

平安時代　9 号竪穴建物跡　遺物出土状況

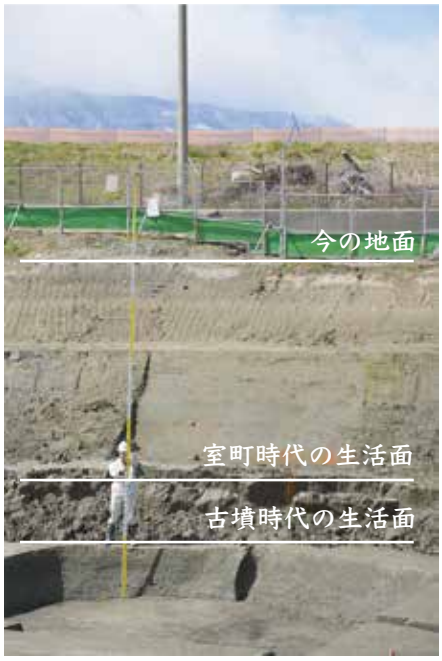
北畑南遺跡（きたばたみなみ）発掘調査のあらまし

北畑南遺跡は、新山梨環状道路東部区間建設工事に伴う試掘調査によって、新たに発見された遺跡です。建設工事によって失われる遺跡を記録として後世に残すため、令和元年（2019）度に発掘調査を実施しました。

令和２年（2020）度には沿線の福部遺跡や田通遺跡でも調査が行われており、すでに報告書も刊行されておりますので、本書と併せてご覧ください。

本遺跡の特徴は、なんといってもその見つかった深さと言えるでしょう。遺跡は笛吹市石和町東油川地区に位置していますが、この場所は平等川（昔の笛吹川）、笛吹川に囲まれたデルタ（三角）地帯になっており、川の氾濫などによって運ばれた砂層が幾重にも堆積していました。

遺跡から出土する土器などの遺物から、遺跡の年代を知ることができますが、本遺跡では、今の地面から約４ｍ下層に室町時代（約 500 年前）の生活面、同じく 4.7ｍ下層に古墳時代前期～中期（約 1600 年前）の集落が埋没していました。当センターがこれまで実施してきた発掘調査でも、あまり経験のないような深さであり、調査を進めるには困難を伴いました。



発掘調査は、今の地面に近いところから始まります。室町時代の生活面では、14 条の溝状遺構と、２つの浅い土坑が見つかりました。溝のうち２本は平行して直角にクランクすることから、道などに伴うものだった可能性があります。

当該地域は、武田信虎の叔父にあたる武田（油川）信恵の勢力基盤となった土地と推定され、本遺跡との関係性が注目されます。

中世の生活面と古墳時代の生活面の間の層からは、平安時代（９世紀前半）の遺構や遺物も見つかりました。

左の写真の土器は甲府盆地に特徴的な「甲斐型坏」と呼ばれるもので、墨書で「孫侶」と文字が書かれているようです。古代の郡や郷の境目となるような場所であり、集落として展開していたかどうか、今後の周辺の調査に期待されます。

古墳時代の生活面からは、８軒の竪穴建物跡と、２本の溝状遺構、そして冒頭の写真にあったような、土器などを集積した祭祀跡と思われる遺構が見つかりました。

工期が迫る中の作業でしたが、多くの作業員さんの手を借りながら、土器の出土状況などの記録をとっていきました。

古墳時代の祭祀遺構からは、土器が約100 個体出土し、臼玉や鉄製品なども発見されました。土器を集積していた状態をほぼ留めている一方、一部の土器は破砕された状態で見つかっています。出土した土器から、祭祀遺構は 4 世紀末頃の所産と想定でき、全国的にも貴重な事例です。

調査では隣接する流路などは検出できませんでしたが、水辺の祭祀との関係があるかもしれません。

北畑南遺跡のように、大深度にある遺跡は、現状の土地利用から遺跡の範囲を知ることはできず、丹念な試掘調査によってのみ発見されます。今後も当センターではさらなる遺跡発見に向けて調査を進めていきます。

序　　文

本書は、新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴い、2019年度（令和元年度）に実施した北畑南遺跡の発掘調査成果をまとめた報告書です。

北畑南遺跡は、笛吹市石和町東油川地内、平等川（明治時代までの笛吹川）にすぐ隣接した場所に位置する遺跡です。遺跡は、現在の地表から４m以上下層に埋没しており、今回の調査では古墳時代・平安時代・中世の生活面がそれぞれ確認されています。

古墳時代の生活面からは、複数の竪穴建物跡が発見され、古墳時代前期～中期（３世紀後半～５世紀）における、甲府盆地低部での人々の活動が明らかとなりました。また、土器を100個体以上集積した遺構が見つかり、その多くは原位置を保っていたことから、この遺構は祭祀に伴うものと想定されます。土器の年代はおおむね古墳時代中期前葉のものであり、全国的にも貴重な事例となりました。

平安時代の生活面からも、竪穴建物跡などの遺構が発見されているほか、中世の生活面からは、道に伴う可能性のある溝状遺構などが見つかっています。いずれにしても、甲府盆地の地下深くには、まだまだ遺跡が眠っている可能性を示唆する調査成果であり、今後の周辺の調査にも期待されます。

本書が、地域における歴史学習や研究のために、多くの方に御活用いただければ幸いです。

最後に、今回の発掘調査及び調査報告書の刊行に当たり、御理解と御協力をいただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

２０２４年３月

山梨県埋蔵文化財センター
所　長　　北村　　徹

例　　言

1　本書は北畑南遺跡の発掘調査報告書である。

2　当該発掘調査は、山梨県県土整備部が実施する新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に起因する。

3　遺跡は山梨県笛吹市石和町東油川地内に位置している。

4　発掘調査・整理作業・報告書刊行は山梨県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課（令和元年度までは教育庁学術文化財課）からの依頼を受け、山梨県埋蔵文化財センター（甲府市下曽根町所在）が実施した。令和元年度～５年度の調査体制は次の通りである。

調査主体　山梨県観光文化・スポーツ部（令和元年度は山梨県教育委員会）

調査機関　山梨県埋蔵文化財センター

所長　馬場博樹（令和元年度）・佐久間浩之（令和２年度）・西川秀之（令和３・４年度）・北村徹（令和５年度）

調査研究課長　笠原みゆき（令和元年度）・今福利恵（令和２年度）・宮里学（令和３・４年度）・小林健二（令和５年度）

5　発掘調査は、御山亮済、熊谷晋祐、髙左右裕、小池準一が担当し、基礎的整理作業は岩永祐貴（文化財主事）・中村有希（文化財主事）・髙左右、本格的整理作業は熊谷・岩永が担当した。

発掘作業員については次のとおり。

発掘作業員　穴山公　雨宮信次　榎原豊人　岡和子　岡正史　長田孝吉　加藤幸夫　木村喜久夫
小林英樹　小宮山幸成　斉藤幸雄　佐野克也　土屋常子　直井光江　中込榊　七澤秀一
古屋章　弘内茂明　水上喜正　宮下善雄　望月光　米山文徳　渡辺孝男　渡辺康子

6　本書の第５章第１節については、分析を委託したパリノ・サーヴェイ株式会社が、同第２節については帝京大学文化財研究所の植月学が執筆した。その他の文章執筆および全体の編集は熊谷が行ったが、第３章第３節は、確認調査を担当した御山・髙左右の簡易報告文書をもとにしている。

7　遺構の写真については熊谷・髙左右が撮影した。遺物写真については、撮影業務を委託したが、一部は熊谷・岩永が撮影した。

8　発掘調査は令和元年11月18日から令和2年3月31日まで実施した。基礎的整理作業は令和2・3年度に実施し、本格的整理作業ならびに報告書作成を令和4年度から令和5年度に実施した。

9　出土遺物の整理作業は、山梨県埋蔵文化財センターで実施した。

10　本書にかかる記録図面・電子データ、写真、出土遺物などは山梨県立考古博物館に保管してある。

11　発掘調査に係り山梨県教育庁学術文化財課（令和元年度当時）が調整機関となり、埋蔵文化財担当久保田健太郎が担当した。

12　発掘調査及び整理作業にあたって、以下のように委託をした。

・基準杭の測量、遺跡全体、遺跡景観の航空空中写真の撮影及び測量図化…株式会社シン技術コンサル
・採集炭化材・土壌等の自然科学分析…パリノ・サーヴェイ株式会社
・入れ子状土器の自然科学分析…パリノ・サーヴェイ株式会社
・出土遺物（一部の土器）の図化・トレース・写真撮影作業…株式会社シン技術コンサル
・出土金属製遺物等の保存処理…公益財団法人山梨文化財研究所

なお、遺構・遺物の測量及び図化システムとして、株式会社 CUBIC の「遺構くん」を使用した。

13　調査にあたり、次の方々から御教示・御協力をいただいた。記して謝意を表する。（敬称略）

植月学　大隈清陽　金井拓人　櫛原功一　小林青樹　志村憲一　末木健　豊島直博　中山誠二　新津健
萩野谷主税　林部光　原正人　日高慎　平塚洋一　平野修　宮澤公雄　若狭徹
笛吹市教育委員会　望月和幸　瀬田正明

凡　　例

1　遺構・遺物図面の縮尺は、各図中に示した。原則として、遺構は竪穴建物跡1/60、溝状遺構1/60ないし1/80、土坑1/40ないし1/60とし、遺物は土器1/3、石製品1/1または1/3、金属製品1/1、木製品1/2とした。

2　遺物の注記は全て「KBM」を冠して、例えば光波番号がある遺構出土のものについては「KBM　○住 P△△」などとし、グリッド一括遺物（例：Ｅ４グリッド一括の場合）については「KBM　Ｅ４」などとした。

3　遺物実測図は口径および底径が復元できるものを基準に選定した。

4　遺構図版中のドットマークは遺物を示しており、付された番号はそれぞれの遺物に対応している。ドットマークは、土器●、石製品□、動物骨☆、金属製品△、木製品◆を基本としている。

5　遺構断面図の左側基点に付した数字は標高を表す。

6　土器観察表中及び土層注記の色調名は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帖』1990年度版による。

7　遺構の写真はニコンＤ850デジタル一眼レフカメラで撮影した。

8　本報告書中遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地図を利用した。

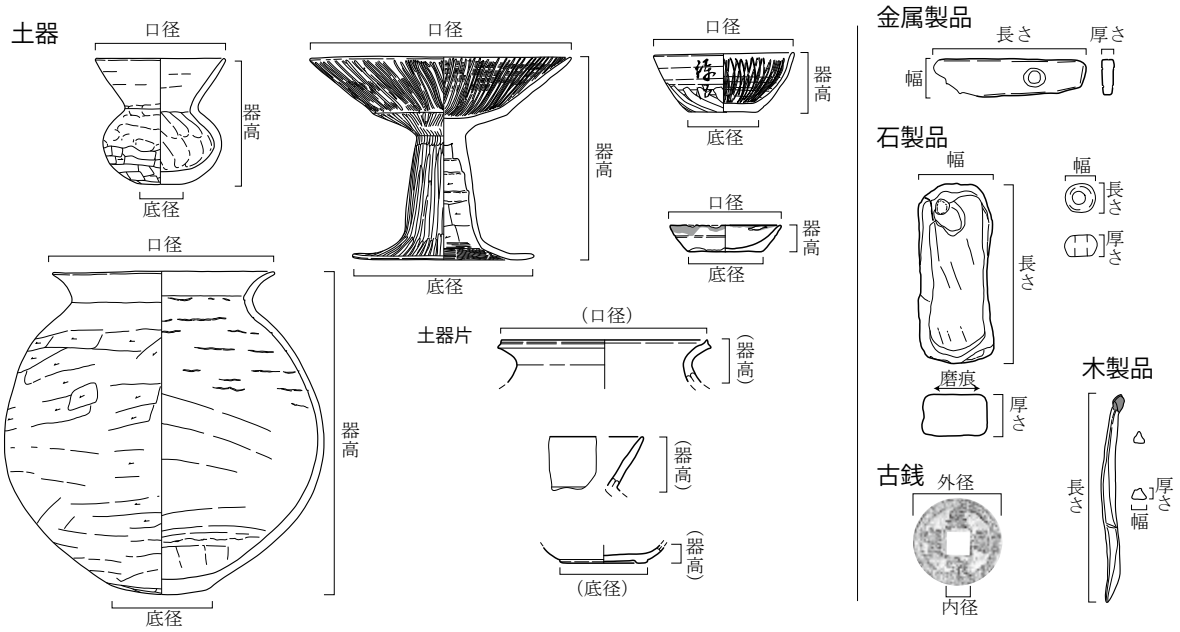
9　発掘調査時および当センター発行の既刊の『年報』等において、「○号（竪穴）住居跡」と呼称していた遺構については、「○号竪穴建物跡」と改めて報告する。

10　遺構図版・遺物図版で使用したトーンの凡例は以下のとおり。

焼土範囲　炭化物範囲

赤彩　黒斑・煤　須恵器断面　鉄製品断面

11　遺物観察表における法量の計測方法は以下のとおり。



目　次

巻頭写真図版
あらまし
序文
例言・凡例
目次

第１章　調査の経緯と経過……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の目的と課題……3
　第３節　発掘調査の経過……3
　第４節　室内作業等の経過……4
第２章　遺跡の位置と環境……6
　第１節　地理的環境……6
　第２節　歴史的環境……6
第３章　調査の方法と確認調査の成果……11
　第１節　発掘調査の方法……11
　第２節　基本層序……11
　第３節　確認調査の成果……13
第４章　本調査の成果……16
　第１節　古墳時代前期～中期の遺構と遺物……16
　第２節　古墳時代中期後半～平安時代の
　　遺構と遺物……120
　第３節　中世の遺構と遺物……134
第５章　自然科学分析……142
　第１節　土壌分析等……142
　第２節　動物遺存体……172
第６章　総括……173
　第１節　自然科学分析所見……173
　第２節　古墳時代の出土土器について……173
　第３節　土地利用の変遷について……176

写真図版
報告書抄録・奥付

図　版　目　次

第1図　都市計画決定図と遺跡範囲……1
第2図　工事図面と調査範囲……2
第3図　北畑南遺跡と周辺遺跡地図……8
第4図　基本土層図……12
第5図　範囲確認調査……14
第6図　調査区全体図及びグリット設定図……15
第7図　古墳時代前期～中期　遺構分布図……23
第8図　1号竪穴建物跡　平・断面図……24
第9図　1号竪穴建物跡　遺物分布図……25
第10図　2号竪穴建物跡　平・断面図　遺物分布図……26
第11図　3・4号竪穴建物跡　平・断面図……27
第12図　3・4号竪穴建物跡　遺物分布図……28
第13図　3・4号竪穴建物跡　遺物微細図……29
第14図　5号竪穴建物跡　平・断面図……30
第15図　5号竪穴建物跡　覆土上層遺物分布図……31
第16図　5号竪穴建物跡　覆土下層遺物分布図……32
第17図　6号竪穴建物跡・祭祀遺構　平・断面図……33
第18図　6号竪穴建物跡・祭祀遺構　平・断面図（2）……34
第19図　6号竪穴建物跡・祭祀遺構　遺物分布図……35
第20図　祭祀遺構　微細図（1）……36
第21図　祭祀遺構　微細図（2）……37
第22図　祭祀遺構ユニット１　遺物分布図（壺）……38
第23図　祭祀遺構ユニット１　遺物分布図（高坏・甕等）……39
第24図　祭祀遺構ユニット２・３　遺物分布図……40
第25図　祭祀遺構ユニット１　出土状況……41
第26図　祭祀遺構ユニット２・３　出土状況……42
第27図　7号竪穴建物跡　平・断面図……43
第28図　7号竪穴建物跡　遺物分布図……44
第29図　8号竪穴建物跡　平・断面図……45
第30図　8号竪穴建物跡　炭化材・焼土範囲及び遺物分布図……46
第31図　15号溝状遺構……47
第32図　1号竪穴建物跡　出土遺物（1）……48
第33図　1号竪穴建物跡　出土遺物（2）……49
第34図　1号竪穴建物跡　出土遺物（3）……50
第35図　1号竪穴建物跡　出土遺物（4）……51
第36図　1号竪穴建物跡（5）・2号竪穴建物跡出土遺物（1）……52
第37図　2号竪穴建物跡（2）、3・4号竪穴建物跡出土遺物（1）……53
第38図　3・4号竪穴建物跡　出土遺物（2）……54
第39図　3・4号竪穴建物跡　出土遺物（3）……55
第40図　3・4号竪穴建物跡　出土遺物（4）……56
第41図　3・4号竪穴建物跡　出土遺物（5）……57
第42図　5号竪穴建物跡　出土遺物（1）……58
第43図　5号竪穴建物跡　出土遺物（2）……59
第44図　5号竪穴建物跡　出土遺物（3）……60
第45図　5号竪穴建物跡　出土遺物（4）……61
第46図　5号竪穴建物跡　出土遺物（5）……62
第47図　5号竪穴建物跡　出土遺物（6）……63
第48図　5号竪穴建物跡　出土遺物（7）……64
第49図　5号竪穴建物跡　出土遺物（8）……65
第50図　5号竪穴建物跡　出土遺物（9）……66
第51図　6号竪穴建物跡　出土遺物（1）……67
第52図　6号竪穴建物跡　出土遺物（2）……68

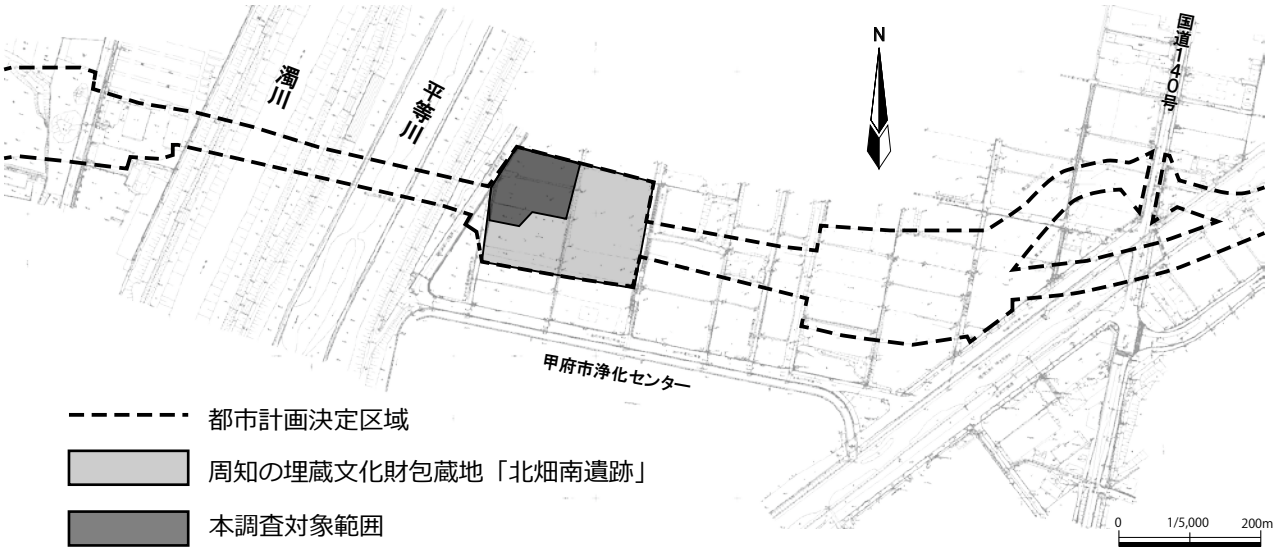
第53図　6号竪穴建物跡　出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・・・・・69
第54図　6号竪穴建物跡　出土遺物（4）・・・・・・・・・・・・・・・・70
第55図　6号竪穴建物跡　出土遺物（5）・・・・・・・・・・・・・・・・71
第56図　6号竪穴建物跡　出土遺物（6）・・・・・・・・・・・・・・・・72
第57図　祭祀遺構　出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
第58図　祭祀遺構　出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
第59図　祭祀遺構　出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
第60図　祭祀遺構　出土遺物（4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
第61図　祭祀遺構　出土遺物（5）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・77
第62図　祭祀遺構　出土遺物（6）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
第63図　祭祀遺構　出土遺物（7）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
第64図　祭祀遺構　出土遺物（8）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・80
第65図　祭祀遺構　出土遺物（9）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・81
第66図　祭祀遺構　出土遺物（10）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82
第67図　祭祀遺構　出土遺物（11）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・83
第68図　祭祀遺構　出土遺物（12）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・84
第69図　祭祀遺構　出土遺物（13）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85
第70図　祭祀遺構　出土遺物（14）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・86
第71図　祭祀遺構　出土遺物（15）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
第72図　祭祀遺構　出土遺物（16）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88
第73図　祭祀遺構　出土遺物（17）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・89
第74図　7号竪穴建物跡　出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・・・・・90
第75図　7号竪穴建物跡　出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・・・・・91
第76図　8号竪穴建物跡　出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・・・・・92
第77図　8号竪穴建物跡　出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・・・・・93
第78図　8号竪穴建物跡　出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・・・・・94
第79図　8号竪穴建物跡　出土遺物（4）・・・・・・・・・・・・・・・・95
第80図　8号竪穴建物跡　出土遺物（5）・・・・・・・・・・・・・・・・96
第81図　8号竪穴建物跡　出土遺物（6）・・・・・・・・・・・・・・・・97
第82図　8号竪穴建物跡　出土遺物（7）・・・・・・・・・・・・・・・・98
第83図　15号溝状遺構・遺構外出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・99
第84図　遺構外出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・100
第85図　古墳時代遺構面出土遺物（石製品）・・・・・・・・・・・・101
第86図　古墳時代遺構面出土遺物（金属製品）・・・・・・・・・・102
第87図　古墳時代中期後半～平安時代　遺構分布図・・・・・・122
第88図　9号竪穴建物跡　平・断面図　遺物分布図・・・・・・・123
第89図　3号土坑・17号溝状遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・124
第90図　古墳時代～平安時代　包含層・遺構外遺物分布図・・・125
第91図　9号竪穴建物跡　出土遺物（1）・・・・・・・・・・・・・・・126
第92図　9号竪穴建物跡　出土遺物（2）・・・・・・・・・・・・・・・127
第93図　9号竪穴建物跡　出土遺物（3）・・・・・・・・・・・・・・・128
第94図　3号土坑・17号溝状遺構　出土遺物・・・・・・・・・・・129
第95図　古墳時代～平安時代遺物包含層　出土遺物・・・・・・130
第96図　調査区一括等　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・131
第97図　中世遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・135
第98図　中世遺構詳細図（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
第99図　中世遺構詳細図（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・137
第100図　中世遺構詳細図（3）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・138
第101図　中世遺構外遺物分布図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・139
第102図　中世遺構面　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・140
第103図　珪藻化石群集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・151
第104図　測定結果と食材の比較・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・155
第105図　種実遺体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・156
第106図　炭化材（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・157
第107図　炭化材（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・158
第108図　炭化材（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159
第109図　炭化材（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・160
第110図　珪藻化石・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・161
第111図　花粉分析プレパラートの状況・・・・・・・・・・・・・・・162
第112図　入れ子状土器断面観察結果・・・・・・・・・・・・・・・・・165
第113図　軟Ｘ線撮影　作業工程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・167
第114図　軟Ｘ線撮影　分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・168
第115図　入れ子状土器Ｘ線ＣＴ画像（1）・・・・・・・・・・・・・169
第116図　入れ子状土器Ｘ線ＣＴ画像（2）・・・・・・・・・・・・・170
第117図　入れ子状土器Ｘ線ＣＴ画像（3）・・・・・・・・・・・・・171
第118図　動物遺存体・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・172
第119図　古墳時代出土土器編年図（1）・・・・・・・・・・・・・・174
第120図　古墳時代出土土器編年図（2）・・・・・・・・・・・・・・175
第121図　北畑南遺跡　遺構変遷図・・・・・・・・・・・・・・・・・・177

表　目　次

第1表　北畑南遺跡周辺　遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第2表　古墳時代前期～中期　土器観察表・・・・・・・・・・・・・・103
第3表　古墳時代前期～中期　石製品観察表・・・・・・・・・・・・119
第4表　古墳時代前期～中期　金属製品観察表・・・・・・・・・・・119
第5表　古墳時代～平安時代　土器観察表・・・・・・・・・・・・・・132
第6表　中世　土器観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・141
第7表　中世　古銭観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・141
第8表　中世　木製品観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・141
第9表　分析試料一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・143
第10表　土壌微細物分析・種実同定結果・・・・・・・・・・・・・・・145
第11表　5竪炉出土炭化米の計測値・・・・・・・・・・・・・・・・・・146
第12表　5竪炉出土炭化米の粒大・粒形・・・・・・・・・・・・・・・147
第13表　安定同位体分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・148
第14表　樹種同定結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・149
第15表　珪藻分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・150
第16表　花粉分析結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・152

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯



第１図　都市計画決定図と遺跡範囲

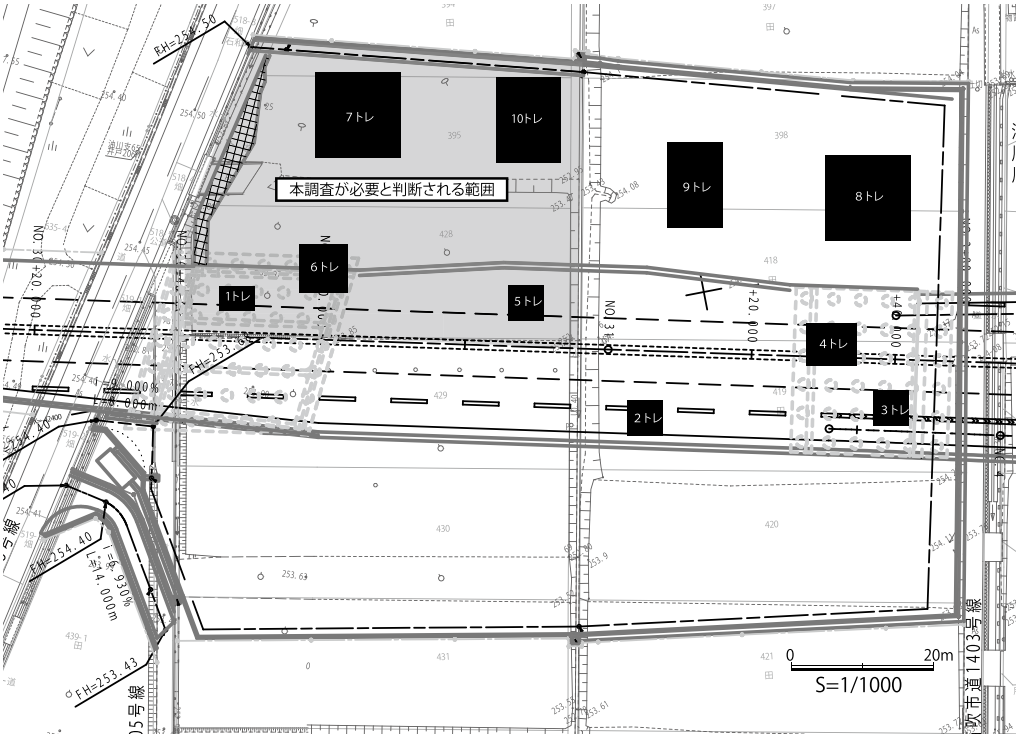
都市計画道路甲府外郭環状道路（いわゆる新山梨環状道路）東部区間は、甲府都市圏の環状道路の一部として機能するとともに、中央自動車道や中部横断自動車道、西関東連絡道路等などに接続することで、慢性的な交通渋滞の緩和を図り、観光産業や地場産業等の地域活性化にも寄与することを目的とした都市計画道路である。甲府市落合町から国道20号甲府市向町付近までの間（L= 約5.5km) は、東部区間Ⅱ期工事として、平成26年度に事業着手している。なお、当該区間は国道140号の改築としての事業性を有する。

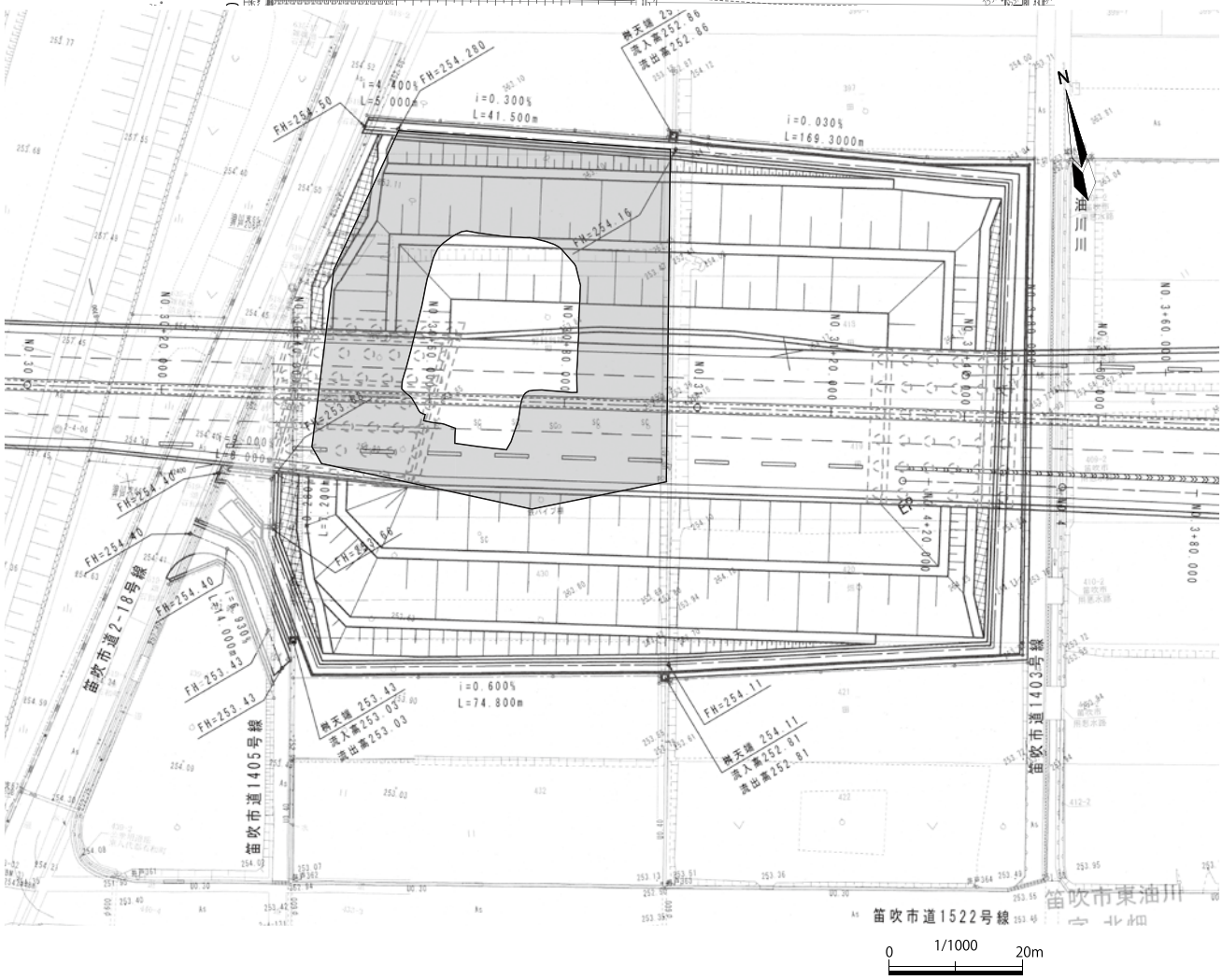
事業計画の進捗にあわせて、当センターでは県土整備部との協議を進めてきた。Ⅱ期工事区間の計画範囲には周知の埋蔵文化財包蔵地が含まれていなかったものの、沖積地堆積の著しい盆地底部における遺跡捕捉の困難さ等について事業課の理解・協力を得たうえで、全線に渡って予め試掘調査により埋蔵文化財を把握し、その保護に努めていくこととした。平成29年5月には、本報告地点から西に川を挟んで対岸地点の試掘調査を実施したが、保護を要する埋蔵文化財の確認には至らなかった。

本報告地点の試掘調査については、令和元年5月27日から30日にかけて試掘調査（１回目）を実施した。この調査では、トレンチの掘り底約４m～５mに堆積する黒褐色土層より、古墳時代～平安時代と推定される極小遺物がまばらに確認された。遺物包含層の深度が極めて深く位置していること、またトレンチ崩落の危険性があったため遺構の有無についての精査ができなかったことから、県土整備部と協議を行い、保護を要する範囲の確定や遺構面の検出を目的として追加の試掘調査を実施することとなった。２回目の試掘調査は、同年6月25日～７月2日に実施し、試掘調査範囲の西側を中心として、中世及び古墳～平安時代の２つの遺構面と、小破片ながら多量の土器が包含されている遺物包含層が確認された。

以上のことから、県土整備部と再度埋蔵文化財の保護について協議を実施したが、道路構造等計画の変更は困難であることから、令和元年度内に記録保存のための発掘調査及び用地南側未買収地の確認調査を実施することとなった。新たに発見された遺跡については、笛吹市との協議を経て、北畑南遺跡として笛吹市の遺跡台帳に登載された。遺跡名については小字の「北畑」の最南端に位置していることから命名したものである。

なお、今回の埋蔵文化財調査に係わる法的手続き等は以下のとおりである。





第２図　工事図面と調査範囲

※薄墨は法面

・令和元年10月１日　「道路改築事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書」を山梨県県土整備部道路整備課と山梨県教育委員会学術文化財課とで交換。
・令和元年10月21日　文化財保護法第99条第１項に基づく埋蔵文化財発掘調査着手の報告を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第450号「埋蔵文化財発掘調査の実施について」）。
・令和元年10月31日　確認調査で出土した埋蔵文化財について、文化財保護法第100条２項の規定により埋蔵文化財発見の通知依頼を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第468号「埋蔵文化財の発見について」）。
・令和２年３月19日　本発掘調査で出土した埋蔵文化財について、文化財保護法第100条２項の規定により埋蔵文化財発見の通知依頼を山梨県教育委員会教育長へ提出（教埋文第766号「埋蔵文化財の発見について」）。
・令和２年４月16日　「道路改築事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書」（整理作業）を山梨県県土整備部道路整備課と山梨県観光文化部文化振興・文化財課とで交換。
・令和３年６月15日　「道路改築事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書」（整理作業）を山梨県県土整備部道路整備課と山梨県観光文化部文化振興・文化財課とで交換。
・令和４年４月19日　「道路改築事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書」（整理作業）を山梨県県土整備部道路整備課と山梨県観光文化部文化振興・文化財課とで交換。
・令和５年４月25日　「道路改築事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する覚書」（整理作業）を山梨県県土整備部道路整備課と山梨県観光文化・スポーツ部文化振興・文化財課とで交換。

第２節　調査の目的と課題

試掘調査の成果から、中世の生活面及び古墳時代～平安時代の包含層が、地中深くに存在することが明らかとなった。今回の調査地点は道路事業により地盤改良・盛り土等が行われるため、発掘調査された遺構・遺物の記録を正確に記録保存し、地域に還元し将来へつなげることが第一の目的である。

調査上の大きな課題は、軟弱な堆積土層と著しい湧水であった。試掘調査において堆積土に締まりのある砂礫層は確認されず、地表下４～５ｍまで砂層やシルト層による堆積である。よって、壁面の崩落等に十分な配慮が必要となったが、工程等の都合上、鋼矢板の打設が困難であったため、法面30度の安全勾配及び２ｍの深さごとに小段を設けることで、法面崩壊からの安全性を担保することとした。ただし、一部では壁面からの出水により円弧滑りが発生するなど、極めて不安定な状態が、水位が下がるまでしばらく続いていた。

また、第２面の遺構面については、地山と遺構覆土の差異がほぼなく、検出に非常に苦慮した。炭化物が多く含まれている等で判明した遺構もあるが、多くの遺構は鋤簾で土を均したときに発生する粘性度合いの異なりや、遺物の出土状況などから判断した。試掘調査の段階では、古墳時代の明確な遺構を捉えることができていなかったが、後述するように笛吹川の橋脚工事において、地表下５～８ｍ程度から遺物の出土があったことなどから、遺物包含層や集落跡が存在する可能性を想定しながら進めていった。ただし、実際に大量の完形土器が集積された遺構を検出した際、スケジュールの変更と調査方法の変更を余儀なくされた。これらの土器集積遺構については、祭祀跡である可能性が高いと判断し、現地にて関係者から所見をいただきつつ、出土遺物や土壌については、科学的分析も用いて解明を目指した。

第３節　発掘調査の経過

⑴ 範囲確認調査

確認調査は、当センター調査研究課が主体となり、御山・髙左右が実施した。確認調査の計画は、試掘調査により包含層が確認された地表下４～５ｍまでを安全に精査できるよう、法面を緩く設けるため大きなトレンチを設定することとなった。調査は令和元年10月21日から28日で実施した。

⑵ 記録保存のための発掘調査

記録保存のための発掘調査（以下、「本調査」という。）は、同じく当センター調査研究課が主体となり、御山・髙左右が計画を立て、令和４年12月から熊谷・小池が調査に加わり、熊谷・小池・髙左右の体制で調査を進めた。

本調査は令和元年11月11日より着手した。11月11日～15日に仮設フェンスの設置及び砕石敷き均しを実施。11月18日より表土掘削を開始する。上端面積約2,000㎡、下端面積約670㎡の逆台形となる掘削土量は、第１面の遺構面である深さ４ｍまでで5,000㎥以上となり、表土掘削作業には相当の時間を要した。深さ２ｍの位置で一度底面を揃えて重機を下ろし、12月10日よりようやく第１面の遺物包含層が検出され始めた。第１面の包含層を、調査区の北1/4を除いて10cm ～ 20cm 残すこととし、12月16日にはおおよその重機による掘削作業が終了した。12月18日、24日に基準点、方眼杭等の打設・測量を実施した。

発掘作業員は12月23日より雇用を開始し、トレンチ調査も兼ねて、12月25日まで湧水対策として遺構面の四周にロ字形に溝を掘削する。一部地下から激しく湧水する箇所があったことから窯場を設け、窯場に集水して24時間排水作業をすることとした。年明けは令和２年１月７日より作業を再開した。作業員を増員し、第１面の包含層掘削および遺構検出を進めていく。１月21日までには遺構の検出が概ね完了し、遺構覆土の調査と記録作業を行い、１月25日、株式会社シン技術コンサルに委託して空中写真撮影及び測量を実施した。１月27日、28日は降雨・降雪のため作業を中止、その後も降雨は度々発生した。

第１面より下層は試掘調査でほとんど精査できていなかったため、１月29日に人力でのトレンチを設定、第１面から40 ～ 50cm 下層に古墳時代～平安時代の包含層が確認できた。１月30日より第２面包含層上面までの表土掘削（第２面の反転調査のうち、東側）を重機により開始、２月３日までに重機による掘削を終了。包含層上面で精査したところ、調査区の東側に自然流路状の粗砂層を検出する。また、包含層上面から南北方向にトレンチを再設定したところ、調査区中央付近（３・４号竪穴建物跡）から高坏など完形遺物が集中して出土。これら完形遺物が20 ～ 30cm 程度の深さにあったことから、スピードアップを余儀なくされ、２月５日より人力でスコップによる包含層掘り下げを開始。包含層掘り下げ中の２月10日にウシ歯の出土あり。同時に遺構の検出作業を行うが、前節のとおり困難を極めた。２月12日より遺構の掘り下げを行うが、建物跡も床面までの深さが相当あることが分かり、調査を急いだ。現場での工夫として、対空標識を用いながら多方向から部分的な写真撮影を行い、微細図などは整理作業において写真から図面を起こせるようにした。２月20日の朝、排水用ポンプのホースが外れており、調査区全体が湧水により水没。２月21日に調査区東側の空中写真撮影及び測量調査を実施。

２月25日より第２面反転調査の西側表土掘削を開始。当初東側は埋める予定であったが、遺構の連続性や湧水の状況から調査区外に排土を搬出。表土掘削中、想定していた遺構面の約10cm 程度上層に、平安時代の土器を伴う遺構が発見される。このことから、一部に平安時代の遺構面が残されている可能性が浮上。２月27日に２軒の古墳時代の建物跡として遺構を新たに検出。このうち６号竪穴建物跡とした範囲から完形の壺・高坏・甕類が累々と出土し、祭祀遺構の様相を呈することが判明する。３月４日に当該遺構の遺物の出土状況について写真撮影を実施する。６号竪穴建物跡は、セクションの状況等から北側に堆積土層が降下していき、遺物も分布することから、サブトレンチ等を追加していった。同時に、調査区の南側に遺構が続いている可能性が高いことから、若干の調査区の拡大を開始。古墳時代の８号竪穴建物跡と、平安時代９号竪穴建物跡を検出した。３月10日の降雨により３月11日は午前中まで調査区が水没。３月16日に第２面西側の空中写真撮影及び測量調査を実施。この日は甲府で風速20m /h 級の強風が吹く予報があり、作業に追われた。同日に発掘作業員の雇用を終了。３月17日から埋戻しを開始、同時並行して６号竪穴建物跡とした範囲の北側の一部を拡大して掘り下げたところ、遺物の集中を確認した（祭祀遺構ユニット３）ため調査員のみで精査を実施し、その日のうちに全ての調査を完了した。なお、プレハブ等は３月18日に撤収し、３月31日までに埋戻しを完了した。

発掘調査に伴って、通常、当センターでは地域住民向けの見学会等を実施しているが、令和２年１月頃より新型コロナウイルス感染症が感染拡大したため開催を見合わせた。

第４節　室内作業等の経過

今回の発掘調査において出土した遺物量は、プラスチック収納箱62箱に及んだ。このほか、土器集積遺構等から土のう袋に土壌を採取しており、微細遺物の精査を行う必要があった。遺物が多量に出土したことから、整理作業は４か年に及んで実施されることとなった。令和２年度の基礎的整理作業では、令和２年８月11日から

12月25日まで、遺物の洗浄・注記・接合作業を実施した。また、土器の混入土について、微細物の分類作業をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託している。令和３年度は、令和３年８月16日から令和４年２月28日まで、遺物の接合・復元作業及び遺構図版の作成作業を実施した。また出土鉄斧について、Ｘ線写真撮影とともに、保存処理を業務委託した。入れ子状土器についても、自然科学分析の業務委託を行っている。令和４年度は、令和４年５月17日から令和５年３月24日まで、出土遺物の実測・拓本、実測図のデジタルトレース、遺構図版の作成、掲載遺物の写真撮影等を行った。また、採取土壌の理化学分析について、追加で業務委託している。令和５年度は、報告書の執筆・図版等作成などの作業を実施し、令和６年３月26日に発掘調査報告書を刊行した。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

北畑南遺跡の位置する笛吹市石和町東油川付近は、旧鵜飼川（現在の笛吹川）及び旧笛吹川（一部は現在の平等川）の氾濫原に位置しており、これら河川の堆積により形成された砂層や粘土層などの沖積層から構成されている。笛吹市石和町付近の現地形は、ほぼ平坦で南西に向かって緩やかに傾斜しているが、旧地形は河川の流域移動を端にして浸食区と堆積区との相互関係により、部分的な湿地や自然堤防が複雑に存在していることが想定される。なお、沖積層の層厚は、厚い場所で65m前後あると想定されているが、これらの下層には約20万年前に発生した韮崎岩屑流とみられる火山性堆積層の存在が指摘されている（『石和町史』）。本遺跡において遺構の形成される堆積層準は、しまりのよいシルト層であることから、当該遺跡が形成された頃は前述したような自然堤防上の微高地となっていたと想定される。

北畑南遺跡は、笛吹川と平等川の合流するデルタ地帯に位置しており、地下水が非常に豊富である。油川という地名の由来について、石和町史では「今日でも油の浮いたような水（鉄分を含んだ水）が流れることがあるのでそれにちなんだものか」との指摘がある。実際の発掘調査においても、壁面等から染み出た地下水は鉄分を多く含んでおり、橙色の沈殿物（鉄バクテリア）が認められた。

現在の行政地名にもなっている「東油川」は、江戸時代に成立した呼称だが、もとは甲府市西油川町と一村をなしていたものと推定される。

第２節　歴史的環境

北畑南遺跡周辺の遺跡分布図について、第３図、第１表に示す。周知の埋蔵文化財包蔵地として各市に登載されている遺跡は、その多くは曽根丘陵及び曽根丘陵に由来する小河川の扇状地上に分布している。時代順に当該遺跡周辺の歴史的環境について記していきたい。

旧石器時代

曽根丘陵上の東山北遺跡（34）、立石遺跡において認められるほか、前付遺跡（142）などからも旧石器遺物の出土がある。丘陵下及び盆地底部において、彼らの活動痕跡は今のところ確認されていない。

縄文時代

同じく前付遺跡において、草創期の槍先形尖頭器の出土があり、中期中葉以降は住居跡等が確認でき集落として営まれる。このほか、甲府市の上の平遺跡（41）、立石遺跡、笛吹市の物見塚遺跡（25）、天神遺跡（26）、西原遺跡（70）等において、主として縄文時代前期～中期の集落跡が営まれた。また、諏訪尻遺跡（114）、水口遺跡（97）では縄文時代後期の住居跡が確認されている。当該地域では、旧石器時代と同様、その生活痕跡はおおよそ丘陵上に確認されているものの、地図範囲外ではあるが浅川扇状地扇端部の横田遺跡に縄文土器の散布が確認されている。

弥生時代後期～古墳時代前期

当該地域においては、弥生時代後期～古墳時代前期にかけて、連続的に集落や墓域が形成される特徴がある。まず、上の平遺跡から120基を越える弥生時代後期～古墳時代初頭の方形周溝墓群が見つかっており、特異な存在といえる。この方形周溝墓群を先駆けとして、東山一帯に首長墓群が造られる。いわゆる中道古墳群と呼ばれるこの首長墓群は、前方後方墳である小平沢古墳、約130mの前方後円墳である天神山古墳（55）、大丸山古墳（35）、当該期では東日本最大級の全長169mとなる銚子塚古墳（28）へと、一世代ごとに築造されたものと想定される。副葬品の内容が判明している銚子塚古墳や大丸山古墳については、畿内地域（畿内王権）との結びつきにより取得されたと考えられるものが多い。このほか、笛吹市では諏訪尻遺跡、物見塚遺跡、天神遺跡、白戸遺跡（136）、北原遺跡（137）、馬場遺跡（141）、前付遺跡において当該期の住居跡、方形周溝墓等が調査されている。また、注目されるのが、笛吹川の架橋工事の際に発見された土器群である。北畑南遺跡に近接する白井河原橋下遺跡（13）、上流の螢見橋、下流の下曽根橋下遺跡、豊積橋が該当するが、これらは昭和30年代の橋脚

工事の際に、旧石和町砂原の斎藤氏が採集したとのことである（『八代町誌』）。螢見橋下遺跡については河床下７m程度、その他の橋脚では河床下５～８m程度で出土したものとのことである。中でも白井河原橋では小破片を含めて327個回収されており、これらはおおよそ古墳時代前期～中期のものとされている。発掘調査された事例では、平等川の上流である甲府市外河原ヂグヤ遺跡において、やはり地表下２m程度の砂層下に、古墳時代初頭の方形周溝墓等の埋蔵文化財が調査されている。

古墳時代中期～後期

中道古墳群では、丸山塚古墳（29）、かんかん塚古墳（30）など、中期に入るとこれまでの大型前方後円墳から円墳へと墳形を変える。ただし、かんかん塚古墳から出土した副葬品（武具・馬具類）を見るに、依然として有力者の埋葬を想定できる内容となっている。また岩清水遺跡（32）からは、円形の周溝をもつ墳墓が３基発見されている。東山北遺跡（34）では方形の周溝をもつ墳墓から馬歯の発見があるが、これを方墳とみるか墳丘墓・周溝墓とみるかは議論の余地がある。同じく中期古墳では、表門神社古墳（104）の存在が知られ、埴輪を有する帆立貝形古墳と想定されている。甲府盆地最後の前方後円墳として知られる馬乗山２号墳（108）は、中期末～後期初頭の築造と推定されている。以降は横穴式石室を有する古墳となり、中道古墳群では考古博物館構内古墳（33）、稲荷塚古墳（37）、旧境川村では多数の後期古墳があり、大塚１号墳（86）などは残りがよいが、実態が不明なものも多い。集落では、北原遺跡の第３次調査で古墳時代後期の建物跡３軒が発見されているほか、金山遺跡（77）等にも認められている。中央新幹線建設工事に伴う事業において、令和３年度に毘沙門遺跡（68）で古墳時代後期の集落跡が調査されている。また、牛居沢窯跡（132）は、古墳時代後期から終末期の須恵器の窯跡である。

奈良・平安時代

条里が整備され、甲府盆地内の開発がさらに活発になると想定される。石橋条里制遺構（67）は数度発掘調査され、竪穴建物等が見つかっている。北畑南遺跡に近接する扇田遺跡（12）も古墳時代・平安時代の散布地だが、内容は不明である。前付遺跡では奈良時代の竪穴建物、掘立柱建物跡のほか、瓦塔の出土もあり、山林寺院の存在も想定されている。天神遺跡や金山遺跡（77）では平安時代の建物跡が確認されている。なお、古代律令制における石禾郷は、現在の石和町南部に比定されている。

中世

甲府盆地の底部に、中世在地豪族の居館、集落、生産域等が展開していくことが、近年の発掘調査により鮮明となってきている。同事業の路線における試掘調査を含む分布調査では、福部遺跡（２、令和２年度本調査・令和３年度報告書刊行）、田通遺跡（10、同）、池田神明遺跡（58、令和４年度発掘調査）、神明遺跡（３、令和５年度発掘調査予定）が相次いで新しく発見されている。福部遺跡では畑跡や鉄滓を含む炭溜まり遺構が、田通遺跡や池田神明遺跡では畑跡などが検出されており、生産に関わる痕跡を掴んでいる。さて、これら生産基盤を担う豪族たちの居所はというと、江戸時代の地誌『甲斐国史』等の情報から、ある程度の位置は判明している。すなわち、小瀬氏館跡（7）、今井氏館跡（8）、落合氏館跡（9）、小曲氏館跡（11）、成就院遺跡（伝武田氏館跡）（59）である。また、埋蔵文化財包蔵地としては登載されていないが、石和町東油川及び甲府市西油川町一帯は、中世豪族油川氏の支配領域であり、中世には油川荘とも呼ばれた（『石和町誌』）。武田信虎の叔父にあたる武田信恵だが、当地に拠って油川姓を名乗ったと言われている。油川氏の居館は、現在の油川山泉龍寺（6）に、詰め城は甲府市勝山城跡（15）と推定されている。永正４（1507）年に、油川氏率いる勢力と、幼くして家督を継いだ武田信虎が対立。争乱は翌年まで続き、信恵父子は坊ヶ峯にて討ち死にしたと甲斐国志では伝えている。先の泉龍寺は父の菩提を弔うために油川信友が永正11（1514）年に居館跡に建てたという。このほか、石和町の遺跡分布調査によって、（中世のものと思われる）塚がいくつか参考地点として示されており、遺跡の近接地にも存在したようである。

近世・近代

東油川の西に流れる旧笛吹川には、冬から春になると仮橋をかけたという記録がある。また、江戸時代の文書には、度々の水害により苦しめられる当地域の様子が記されている。江戸時代には絹・木綿・大豆・小豆・稗などをつくっていたという。明治８年に井戸村等と合併し、富士見村となる。

第３図　北畑南遺跡と周辺遺跡地図

第１表　北畑南遺跡周辺　遺跡一覧表

番号	遺跡名	時　期
1	北畑南遺跡	古・平・中
2	福部遺跡	中
3	神明遺跡	中
4	下向遺跡	平・中
5	西下条五割遺跡	中・近
6	泉龍寺	＜参考＞
7	小瀬氏館跡	中
8	今井氏屋敷跡	中
9	落合氏屋敷跡	中
10	田通遺跡	中
11	小曲氏屋敷跡	中
12	扇田遺跡	古・平
13	白井河原橋下遺跡	弥・古
14	無名墳	古
15	勝山城跡	中
16	お文殊さん古墳	古
17	藪の内遺跡	古
18	無名墳	古
19	無名墳	古
20	朝日遺跡	弥・古
21	無名墳	古
22	天神山塚古墳	古
23	飯潰遺跡	中・近
24	物見塚古墳	古
25	物見塚遺跡	縄・弥・平
26	天神遺跡	縄・弥・平
27	北ノ山遺跡	縄・弥・古
28	銚子塚古墳	古
29	丸山塚古墳	古
30	かんかん塚古墳	古
31	杯塚古墳	古
32	岩清水遺跡	弥・古・平
33	考古博物館構内古墳	古
34	東山北遺跡	旧・縄・弥・古
35	大丸山古墳	古
36	鍋弦塚古墳	中
37	稲荷塚古墳	古
38	無名墳	古
39	無名墳	古
40	東山南遺跡	弥・古
41	上の平遺跡	縄・弥・古・平
42	馬乗窪遺跡	弥・古
43	熊久保遺跡	弥
44	宮の上遺跡	古
45	立石遺跡	旧・縄・弥・古
46	北原遺跡	縄・弥・古
47	諏訪前西遺跡	弥・古
48	諏訪前北遺跡	縄
49	諏訪前南遺跡	縄・古
50	無名墳	古
51	無名墳	古
52	無名墳	古
53	米倉山Ｂ遺跡	旧・縄・弥・古
54	藤塚古墳	古
55	天神山古墳	古
56	金沢天神遺跡	縄・弥・古
57	前山遺跡	縄・古
58	池田神明遺跡	中・近
59	成就院遺跡（伝武田氏館跡）	中
60	増田・永井条里制遺構	奈・平
61	屋敷ノ内	中
62	屋敷ノ内遺跡	弥・中
63	神ノ木遺跡	弥・古・奈・平
64	塚越遺跡	奈・平・中
65	八幡さん古墳	古
66	米倉Ａ条里制遺構	奈・平
67	石橋条里制遺構	平
68	毘沙門遺跡	縄・古・平
69	石橋氏屋敷跡	中
70	西原遺跡	縄・弥・古
71	道見塚古墳	古
72	堤遺跡	古
73	川久保古墳	古
74	先屋敷古墳	古
75	川向塚古墳	古
76	柳原遺跡	縄・弥・古
77	金山遺跡	縄・弥・古
78	蛇山八号墳	古
79	蛇山七号墳	古
80	蛇山六号墳	古
81	蛇山五号墳	古
82	蛇山四号墳	古
83	蛇山三号墳	古
84	蛇山二号墳	古
85	蛇山一号墳	古
86	大塚一号墳	古
87	大塚五号墳	古
88	大塚二号墳	古
89	大塚三号墳	古
90	大塚四号墳	古
91	大塚六号墳	古
92	大塚遺跡	縄・古
93	水口一号墳	古
94	水口二号墳	古
95	水口三号墳	古
96	水口四号墳	古
97	水口遺跡	縄・古
98	滝ケ原一号墳	古
99	子の神古墳	古
100	智光寺遺跡	縄・古・平
101	滝ケ原三号墳	古
102	子の神古墳	古
103	切付遺跡	縄・古・奈・平
104	表門神社古墳	古
105	口開遺跡	弥
106	下向窯跡	古・近・近現
107	馬乗山1号墳	古
108	馬乗山2号墳	古
109	御所山遺跡	縄・古・中・近
110	天神山遺跡	縄・弥・古
111	飯潰一号墳	古
112	飯潰二号墳	古
113	下原遺跡	縄・弥・古・奈・平
114	諏訪尻遺跡	縄・弥・古
115	八乙女遺跡	縄・古
116	塚の越一号墳	古
117	塚の越二号墳	古
118	塚の越三号墳	古
119	後子の神遺跡	縄・弥・古
120	天神前遺跡	縄・古・奈・平
121	諏訪前一号墳	古
122	諏訪前二号墳	古
123	諏訪前三号墳	古
124	諏訪前遺跡	縄・古・奈・平
125	北の宮遺跡	縄・古・平
126	諏訪前南遺跡	縄・古
127	原氏屋敷	中
128	大塚古墳	古
129	薊在家遺跡	縄・古・奈・平
130	室屋遺跡	古・近
131	辻遺跡	縄・古
132	牛居沢窯跡	古
133	北切付遺跡	縄・古・奈・平
134	藤塁遺跡	縄・古・奈・平
135	中寺尾経塚	中
136	白戸遺跡	縄・平
137	北原遺跡	縄・弥・古
138	坂下遺跡	縄・弥・古
139	上原遺跡	縄・弥・近
140	中原遺跡	縄・平
141	馬場遺跡	縄・弥・古
142	前付遺跡	縄・弥・古
143	大祥寺跡	平・中

調査前状況

調査後の施工状況（令和６年１月　北西から）

調査後の施工状況（令和６年１月　南西から）

泉龍寺

第３章　調査の方法と確認調査の成果

第１節　　発掘調査の方法

試掘調査において、古墳時代～平安時代の遺物包含層、中世の遺構面を捉えていたことから、これらの埋蔵文化財を正確かつ迅速に記録することを目的として調査計画を立案した。一方で、試掘調査では古墳時代～平安時代の生活面について精査できておらず、遺構の残存状況は不明であった。試掘調査で当該土層中の出土遺物が極小破片であったことから、最小限の遺構検出を想定して計画立案することとなった。

発掘作業に当たっては、重機により第１面の遺物包含層まで掘削した後、調査区に国土座標に基づく三次元座標の基準杭を３点設置し、１辺５m間隔のグリッド杭を打設した。本調査地点のグリッド名については東西方向（Ｘ軸）にアルファベット大文字で西からＡ・Ｂ・Ｃ…、南北方向（Ｙ軸）にアラビア数字で北から１・２・３…の順に記号・番号を与え、その交点（平面図上でグリッドの北西端）にＡ１のようにグリッド名を付し、４点に囲まれた範囲をＡ１グリッドのように呼称した。第２面については、調査区が相当深くなることが想定されたことから、排土の搬出が困難と見込まれたため、まずは東半分を掘削し、排土については西半分に置く、いわゆる反転方式で進めることとした。しかし、調査中に遺構の連続性や、排土の搬出が可能であることが判明したため、西半分の調査時には可能な限り排土を調査区外に搬出し、結果的に全面的に遺構の広がりを捉えながら調査を進めることができた。２面目までの間層掘削についても重機により行ったが、東半分については包含層上層まで、工程の都合上西半分については遺構検出面のほぼ直上までの掘削とした。

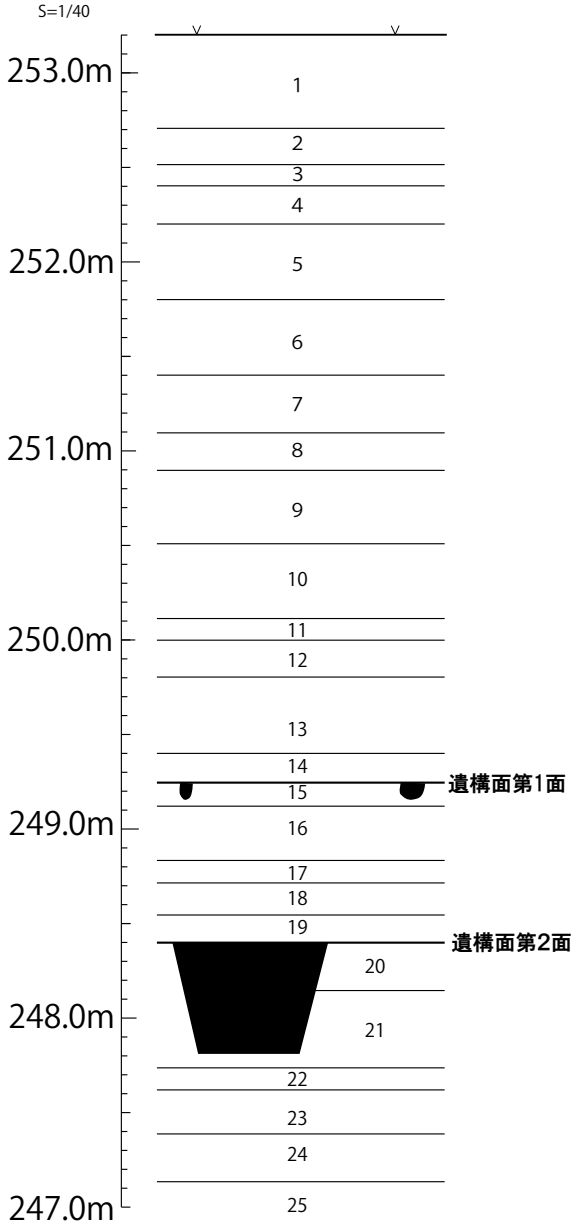
人力による遺跡の精査は、平面プランが確認出来たところで遺構の規模に応じて土層観察ベルトを設定するか半裁する方法で掘り下げていった。土層断面の観察･実測図化･写真撮影を実施したのちは、完掘して写真撮影、平面図の作成を行った。遺物の出土量に応じて、遺物の出土状況写真撮影、遺物微細図・エレベーション図の作成を行ったが、一部の遺物微細図や遺構平面図については、写真測量によって平面図・断面図を起こした。出土遺物については、光波測距儀と遺跡管理システム（『遺構くん』）により取り上げを行い、位置情報の記録をとった。なお、遺物の取り上げについては１辺３～５cm 以上の土器（Ｐ）と、石製品（Ｓ）、金属製品（Ｆ）、木質遺物（W）、炭化物（Ｃ）、骨（Ｂ）として取り上げた。なお、２面目の西半分については、工期が迫っていたこともあり、取り上げの大きさについては７～８cm 以上としたため、図上における遺物分布状況に２面目東半分と差異が発生している。なお、遺物の集積が認められた祭祀遺構については、土器が正方向を向いて置かれているものなどは、混入土ごと持ち帰り微細物を確認することとし、遺構周辺の掘削過程で発生した堆積土についても、土のう袋に集めて分析することとした。

調査の進捗状況および発見された遺構や遺物の確認状況などは、デジタル一眼レフカメラ（ニコンＤ850）により撮影した。空中写真撮影については、遺構の完掘状況や位置の把握を目的とした上方俯瞰写真のほか、景観の把握を目的として四方を望むアングルにより撮影した。

第２節　基本層序

調査区の壁面土層堆積状況については、法面を緩やかにした影響や工程上の都合もあり、表土から遺構面までの作図に至らなかった。よってここでは試掘調査により得られた層序をもとに、調査中に精査できた箇所を付け加えて基本土層図を作成した（第４図）。

発掘調査地点の標高値はおおむね253.2m程度であり、地表面から50㎝程度は厚い現耕作土である。調査地点北側はハス畑、南側は桃畑として近年使われている。なお、調査対象外となった東側では、試掘調査において地表下３～４mまで埋め土が確認されており、これらは昭和時代に行われたものである。第２層以下は、おおむね砂層とシルト層が互層となる層序関係をみせる。地表下2.5mまでは、時期を特定できるような目立った遺物はないが、すぐ西側に南流する笛吹川（現平等川）の氾濫等に由来していることは想像に難くない。上流の笛吹市石和町内松本塚ノ越遺跡においても明治40年の氾濫堆積が確認されており、本遺跡においても近世から近代にかけて笛吹川から供給されたものと想定しておきたい。



1. 表土層（黄褐色耕作土）
2. 青灰色シルト層
3. 灰色砂層
4. オリーブ灰色砂質シルト層　炭化物を含む
5. 灰色シルト質砂層　しまりなし　植物遺体含む
6. オリーブ灰色シルト質砂層　しまりなし
　５層より粒度粗い　植物遺体含む
7. 灰色砂質シルト層　ややしまる
8. 青灰色シルト質砂層　炭化物わずかに含む
9. 灰色砂質シルト層　ややしまる　炭化物を含む
10. 暗灰色砂質シルト層　ややしまる
　中世～近世の遺物をわずかに包含する
11. 青白色砂層　わずかに灰色シルト混じる
12. 暗灰色砂質シルト層　炭化物を含む
　古代～中世の遺物を包含する
13. 灰色シルト質砂層　ややしまる　炭化物を含む
14. 黄灰色（2.5Y4/1）　砂層　わずかにシルト混じる
　炭化物少し含む　遺物をわずかに含む
15. 黒褐色（10YR3/2）シルト層　しまりあり　わずかに砂混じる
　第１面の遺構検出面
16. 灰オリーブ色（5Y4/2）　細砂質シルト層　しまり強い
　植物痕跡多い　１面の基盤層で遺物は包含しない
17. 明青灰色（5BY7/1）　中砂層　しまりなし
　灰色シルトがまだらに混じる
　東側自然流路に共通する氾濫層か
18. 灰オリーブ色（5Y4/2）　シルト質細砂層　しまりなし
　まれに遺物を出土する
19. 灰オリーブ色（5Y5/2）　細砂質シルト層　しまりなし
　炭化物を含む　遺物を多く包含する
20. 灰オリーブ色（5Y5/2）　砂質シルト層　しまり弱
　第２面の遺構検出面
21. 灰色（５Ｙ５/1）細砂層　しまりなし
22. 緑灰色　砂層　灰色シルト混じる　しまり弱　粘性弱
23. 褐灰色　シルト層　しまり強　粘性強
24. 黒褐色　粘土層　しまり強　粘性強
25. 黒褐色　細砂層　しまりなし　粘性なし

第４図　基本土層図

第９層や10層はやや安定した砂質シルト層で、土壌化する傾向にあり遺物も出土したが、遺構の発見には至っていない。こうした土層が田畑の耕作土等である可能性も否定できず、今後の周辺調査では留意する必要がある。11層のややグライ化した砂層を挟んで、12層も炭化物等を含む土壌化したシルト質の層準である。陶器甕片861はこの層より出土したものである。

13層、14層はまた砂層となり、第１面（中世）の遺構検出面となる15層をパックしている。中世の遺構はおおむね14層の砂層が覆土となっている。第１面の基盤となる15層や16層はしまりの強いシルト層であり、人力により数本トレンチ精査をしたが遺物の出土は皆無であった。第17層は明青灰色の砂層で、東側の間層掘削中に検出された自然流路と同様の土質であることから、流路のオーバーフローに由来するものと想定される。

18層、19層は、古墳時代～平安時代の遺物包含層である。今回の調査では明確にとらえることができなかったが、古墳時代の検出面よりやや上層に平安時代の遺構検出面があることが想定される。第20層は、19層と見かけ上大きく変わらないが、古墳時代前～中期の遺構検出面となる。遺構の覆土との見分けは非常に困難であった。22層以下は６号竪穴建物の下層を深掘りして確認したものであるが、遺物等については確認されなかった。23層や24層はしまりが強く、24層は粘土層として捉えた。

全体的に、「砂礫層」と呼ばれるような、礫が混じる砂層は本調査区内では確認されず、砂あるいはシルト層の堆積で占められている。このことから、少なくとも現代から1700年前の間に至っては、河川本流の洪水が直接的に遺跡上層を襲ったわけではなく、やや離れた箇所で発生した洪水が細かい砂を厚く運んできたものと想定される。グライ化したシルト層の存在から、周辺が沼地のような状況になっていた時期もあると考えられる。

第３節　確認調査の成果

第１章第１節にあるとおり、令和元年５月から７月までの試掘調査において、用地の引き渡しが終了していた開発予定範囲の北側については保護を要する範囲を確定することができていた。しかし、工事工程上の課題から、用地の引き渡しが完了していない南半分についても、早急に記録保存の要否について判断する必要があった。このことから、「確認調査」と位置づけて、本調査に先行して部分発掘により記録保存範囲を確認することとした。調査では７本のトレンチを設定し、試掘調査のトレンチ番号に連続して11 ～ 17号と付した。いずれのトレンチも掘削上端は８～９ｍの幅で設定し、法面に45°程度の勾配を確保しつつ掘削した。したがって、掘削面の幅は約３～４ｍ程度となった。

●調査成果（第５図）

①土層の堆積状況

調査の結果、事業用地内における土層の堆積状況には２つの傾向が認められた。

１つ目の傾向は、11 ～ 13、15号トレンチで確認した一群である。この土層群では、地表面下約３ｍ付近において、青灰色砂層（層厚約50㎝）がみられ当該層から出水（一部液状化した状態で流出）する。この砂層以下では、植物遺体を多く含む暗灰色～褐灰色シルト層を確認したが、いずれの堆積層からも遺物の出土はなく、遺構も検出されていない。

２つ目の傾向は、14、16、17号トレンチで確認した一群である。14号トレンチにおいて、2.6m厚に及ぶ盛土層直下の明灰白色砂質シルト層（11層・層厚約50㎝）から、近世後半以降の紅猪口が出土した。11層以下は、砂を多く含む暗褐色シルト層（12層・層厚約70㎝）、炭化物を多く含む暗灰色シルト層（13層・層厚約100cm）、灰白色砂層（14層・層厚約60㎝）の順で堆積する。14号トレンチでは、13層中から帰属時期不明、器種不明の有孔の土師質土器片が１片出土した。

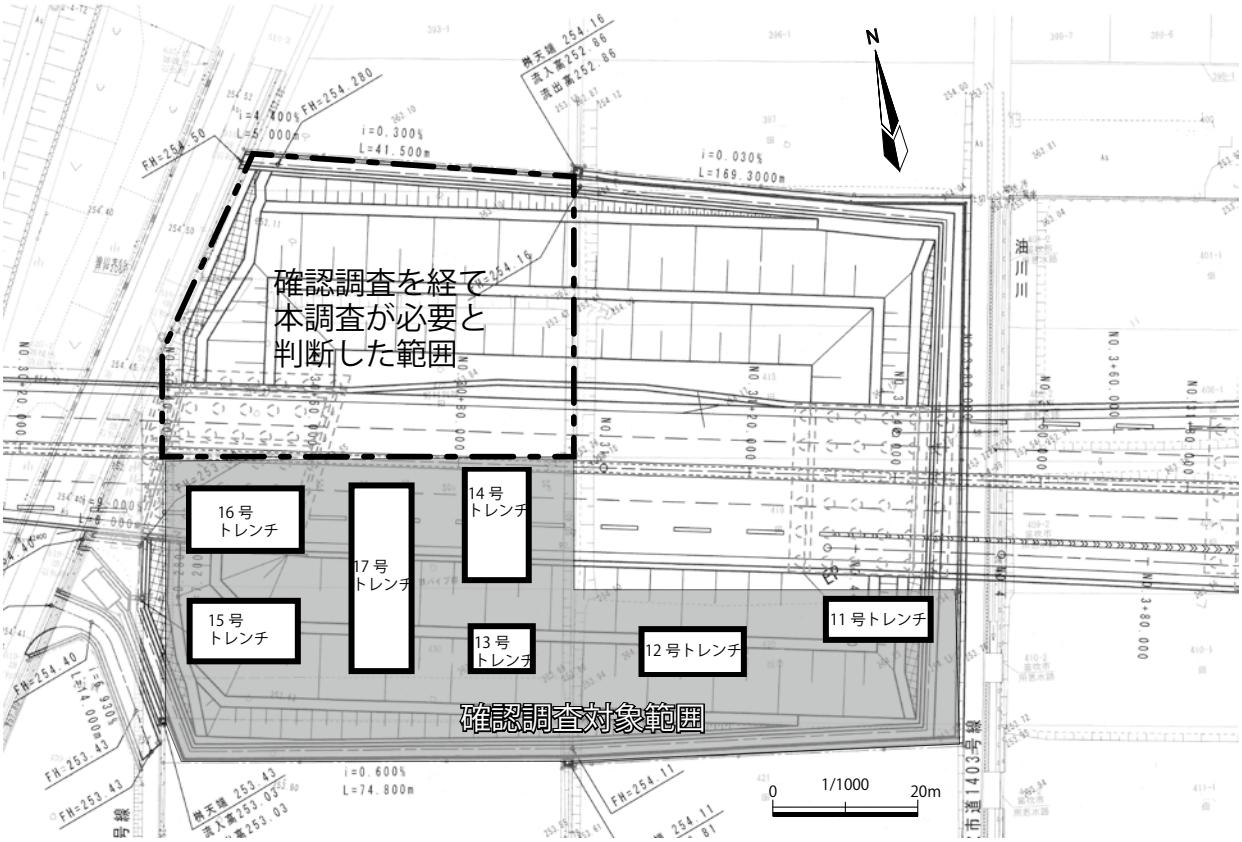
今回の調査では、11 ～ 17号トレンチのいずれにおいても遺構は確認できなかった。

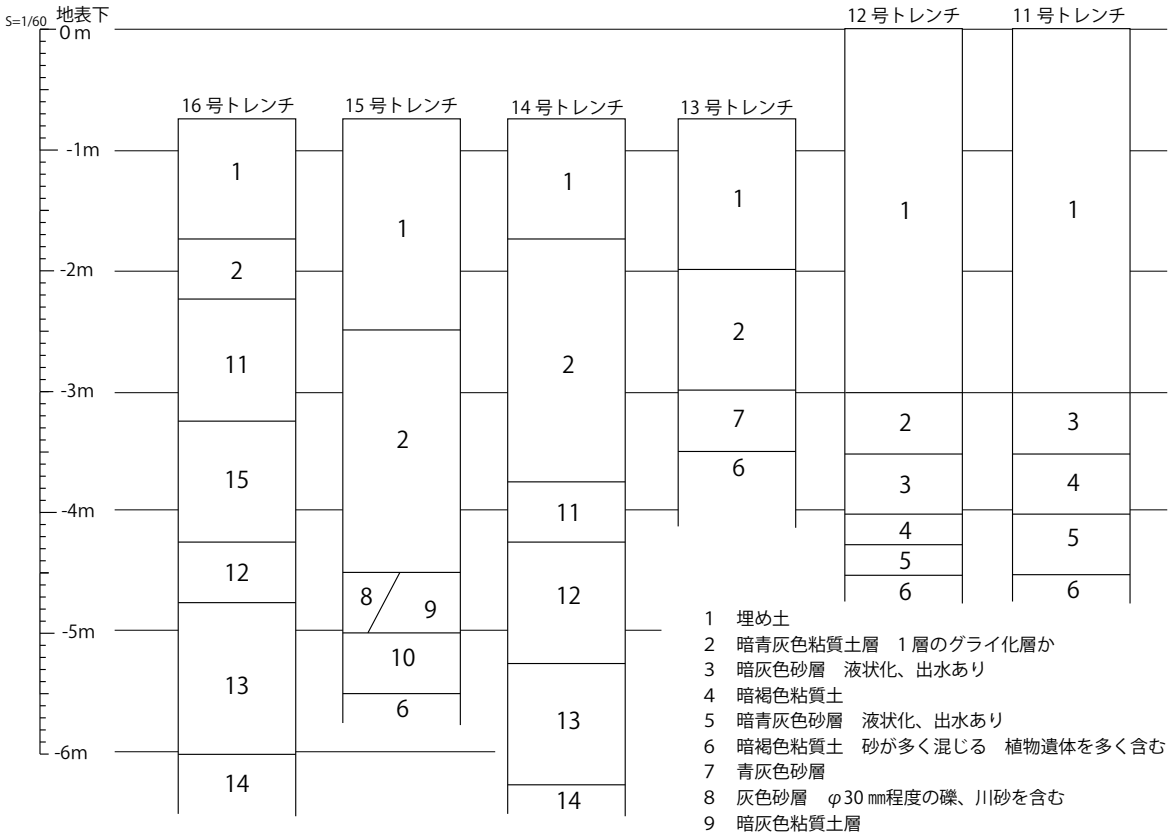
②調査所見

５～７月までに実施した試掘調査成果をあわせ、本遺跡の土層堆積状況について述べる。遺跡内の土層堆積状況は、東西の土地境界付近（南北用水路）で大きく分かれる。事業用地東側全域と西側の南端付近では、地表下約３ｍ付近に砂層があり、よく出水する。また、３ｍ以下は砂～シルト質を主体とする堆積土で構成されており植物遺体が多く包含する。遺構は確認できず遺物の包含量も少ない。

一方、西側については土壌化したシルトの堆積が認められ、これらの土層から古墳時代～中世の遺物が出土している。ただし、確認調査を実施した範囲において、遺物は２点の出土にとどまっており、遺構も確認されていないことから、遺跡の中心域はより北側にあったものと推定される。

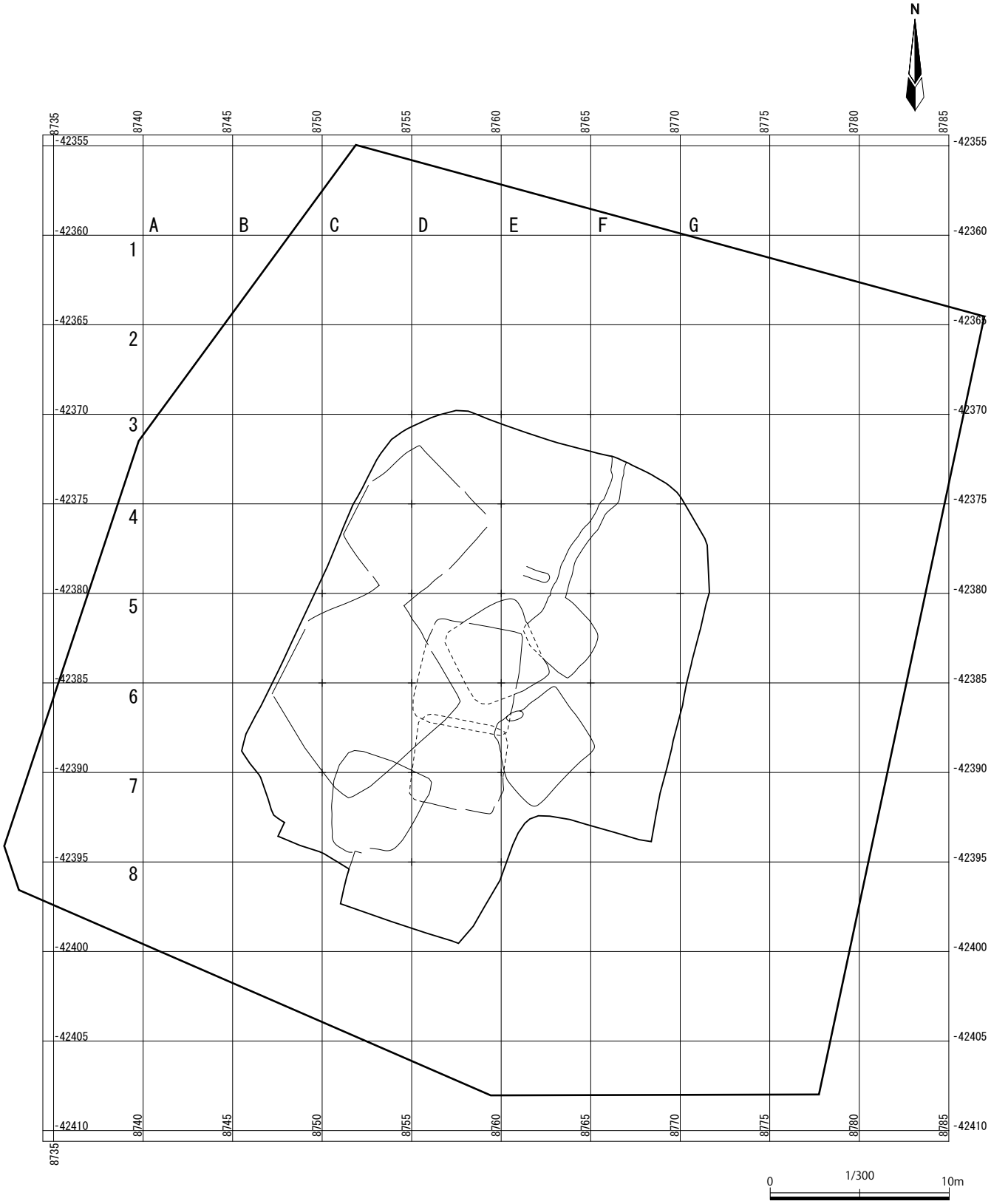
以上のことから、確認調査において追加で部分調査した範囲については、本調査による記録保存を要する範囲に含めず、遺跡の北西部を本調査対象範囲と判断した。





1　埋め土
2　暗青灰色粘質土層　1 層のグライ化層か
3　暗灰色砂層　液状化、出水あり
4　暗褐色粘質土
5　暗青灰色砂層　液状化、出水あり
6　暗褐色粘質土　砂が多く混じる　植物遺体を多く含む
7　青灰色砂層
8　灰色砂層　φ30 ㎜程度の礫、川砂を含む
9　暗灰色粘質土層
10　明灰色粘質土　青灰色砂多く混じる
11　灰色シルト層　近世の遺物混じる
12　暗褐色粘質土層
13　暗灰色粘質土層　炭化物多く含む　中世の遺物を含む
14　灰白色砂層　出水する
15　暗灰色シルト層

第 5 図　範囲確認調査



第６図　調査区全体図及びグリッド設定図

第４章　本調査の成果

本調査において、古墳時代と中世の明確な２つの遺構面を確認し、精査をおこなった。しかし、第２面目西半分の調査中に、この２つの遺構面の中間に平安時代の遺構面が含まれている可能性が浮上した。本章では時代順に①古墳時代前期～中期、②古墳時代中期以降の遺物包含層～平安時代、③中世と項目立て、成果を述べる。

第１節　古墳時代前期～中期の遺構と遺物

⑴ 竪穴建物跡

合計８軒の竪穴建物跡を検出した。

●１号竪穴建物跡　（第８・９図　遺物：第32～36図）

＜位置＞　Ｄ６・７グリッド

＜形態・規模＞　検出が著しく困難であり、確実に重複していない箇所が南東側のみであった。推定約５ｍ程度の正方形になると思われる。

＜重複関係＞　北側に４号竪穴建物跡、東側に５号竪穴建物跡、北西側に７号建物跡、南西側に８号建物跡がそれぞれ重複している。また、平安時代の３号土坑及び17号溝状遺構も重複し、１号竪穴建物の覆土を掘り込んでいる。

＜壁・床＞　壁溝及び貼床は検出できず。

＜柱穴＞　検出されず。

＜覆土＞　上層（１～３層）はシルトあるいは砂質シルトの層準であり、炭化物や焼土、遺物片をよく含む。第２面東側で覆土を精査中の際には、これらのシルト層を掘りあげ砂層（４層）が検出されたところを床面と想定していたが、西側の３号土坑精査中に４層以下から遺物が出土したため、４層以下の砂層も当該遺構覆土とみて精査を行った。

＜火処＞　検出されず。

＜その他の施設＞　検出されず。

＜遺物及び出土状況＞　１～５はいずれも小型の鉢形土器である。口唇部以外は外面内面ともに磨かれている。４の上に１が横位で重なるように出土しており、２と３も周辺で出土している。６は同様の鉢状になるか、あるいは高坏の坏部となる可能性もある。７も鉢あるいは高坏と考えられる。８～15は高坏である。13、14はほぼ完形となる良好な個体である。13は坏部の稜線が明瞭ではなく、口縁もやや外反するもので、９のような有稜高坏が変化したタイプだろうか。９、12、13、14はいずれも丹念なミガキ痕がある。一方、脚部の11はケズリ痕が明瞭で、幅広くハの字状に広がるもので、遺構覆土の上層から出土していることから、古墳時代中期のものと思われる。16、18は小型の壺。18の口縁には断面三角形の突帯がみられる。19、20は比較的大型の壺で、19は頸部のみだが、20は完形に復元できる。20は覆土中層からの出土で、プロポーションも中期的である。21～43は甕である。21、22、24、25、26は口縁部が「S」字状を呈するいわゆるＳ字状口縁台付甕である。21、24は口唇部の屈曲が明瞭で、頸部内面にハケメを施す。22、25、26は頸部内面のハケメが省略されている。23は脚部との接点はないが同一個体と想定できるもので、口縁はＳ字状とならず、いわゆる「く」の字台付甕である。28や41も口縁形状は不明だが台付甕となる。39は胴部のみだが、ハケメや器壁の薄さからＳ字甕の破片と断定できる。27は口縁から胴部下半まで復元可能な個体であり、口縁は「く」の字状になるものの、台が付くかは不明である。29は27の形態に類似するが、口縁部の内外面にハケメを施すか否かで違いがある。

＜時期＞　古墳時代前期中葉に比定できる。

●２号竪穴建物跡　（第10図　遺物：第36・37図）

＜位置＞　Ｅ５グリッド

＜形態・規模＞　長軸3.7ｍ、短軸3.3ｍ程度の長方形を呈する。

＜重複関係＞　西側の一部が３号竪穴建物跡と重複する。また、15号溝状遺構とも重複し、本遺構内でも平面・断面ともに確認できる。
＜壁・床＞　壁溝及び貼床は検出できず。
＜柱穴＞　検出されず。
＜覆土＞　灰色砂質シルト層、オリーブ黒色シルト質砂層が主体となる。
＜火処＞　検出されず。
＜その他の施設＞　一部窪みが認められる。
＜遺物及び出土状況＞　51､52は口縁が内斜する坏形土器の破片である。古墳時代中期前葉～中葉頃の所産か。53 ～ 56は高坏である。53は稜部に段を形成する。54、55は脚部で、55は比較的小型を呈する高坏である。57 ～ 59は小型の壺。60、61は大型の広口壺になるか。60の口縁は少し開き、口唇部の断面は丸くならずM字を呈する。62は甕あるいは鉢等の脚部である。器壁が２㎝弱と極端に厚い。63は高坏口縁の破片か。64は口縁の大きい鉢か。
＜時期＞　坏や高坏の年代観から、古墳時代中期前葉～中葉と想定する。

●３号竪穴建物跡　（第11 ～ 13図　遺物：第37 ～ 40図）
＜位置＞　Ｄ５・Ｅ５グリッド
＜形態・規模＞　重複のため南西側の端部は不明であるが、５m 程度の方形を呈すると想定される。
＜重複関係＞　大部分が4号竪穴建物跡と重複する。また、２号竪穴建物跡と北東側で少し重なる。土層断面上では３号竪穴建物跡を４号竪穴建物跡が切るように観察された。
＜壁・床＞　壁溝及び貼床は検出できず。
＜柱穴＞　検出されず。
＜覆土＞　灰オリーブ色砂質シルト層、オリーブ黒色砂質シルト層が主体となる。
＜火処＞　検出されず。
＜その他の施設＞　特になし。
＜遺物及び出土状況＞　まず、重複していない範囲から出土した土器について述べる。65 ～ 72、154，222は高坏である。66は複合口縁状を呈するもので、横位にミガキがある。73、74は小型丸底壺で、73の口縁部には赤彩が認められる。75は甕の口縁部。76はミニチュア状の土器である。77､78は入れ子状に出土した土器である。直口壺78を現場で取り上げる際、破片ごとに取り外したところ、内側に小型壺77が入っていることが判明した。このため、土器内に流入した土ごと持ち帰り、第５章にあるようにＸ線 CT 画像分析及び軟Ｘ線分析を行うこととした。77は完形だが、78は底部が欠失している。
　次に、４号竪穴建物跡との重複範囲から出土した遺物について述べる。重複箇所の断面観察では３号竪穴建物跡が古く、４号竪穴建物跡が新しいとの所見を得たが、遺物の出土状況からすれば３号竪穴建物跡のほうが新しいと考えられる。重複範囲のうち、３号竪穴建物跡の中心となる場所からは、土器がやや集積された状態で出土している。79 ～ 89、106の土器群がこれにあたり、大半は高坏である。高坏の出土状態はいくつかのパターンがある。A. 完形のまま横位で出土（80）。B. ほぼ完形のまま逆位で出土（79､82）。C. 坏部のみが逆位で出土（81：脚部が同一遺構内で接合、83・86：脚部の行方は不明）、D. 坏部のみが正位で出土（84）である。これらはおよそ重なり合って出土している。高坏群の周りには小型壺１点（89）が横位の状態で、球胴甕（106）の底部が正位で出土している。なお、106は同一遺構内でほかの破片と接合し、完形となる。石製品692、693の出土もある（第85図）。692は角柱形の石で、弱い砥面が認められる。693は形から編物石の可能性があるか。
＜時期＞　４号竪穴建物跡との重複箇所からの遺物も含め、古墳時代中期初頭～前葉と想定される。

●４号竪穴建物跡　（第11 ～ 13図　遺物：第41図）
＜位置＞　Ｄ５・Ｄ６グリッド
＜形態・規模＞　重複が多く明確ではないが、１辺５m前後の方形を想定する。ただし後述の通り遺構の存在自体が明瞭ではない。

＜重複関係＞　中央から北東側の大部分が３号竪穴建物跡と重複する。南西側は７号竪穴建物跡、南東側は５号竪穴建物跡、南側は１号竪穴建物跡とも重複している。
＜壁・床＞　壁溝及び貼床は検出できず。
＜柱穴＞　検出されず。
＜覆土＞　上層に灰オリーブ色シルト質砂層、下層に灰色シルト層が主体となる。
＜火処＞　検出されず。
＜その他の施設＞　小規模だが炭化物の集中する範囲が認められた。
＜遺物及び出土状況＞　114 ～ 117は高坏である。118、119は小型壺の口縁部。120は口縁が屈曲する壺。121 ～ 128までは甕。口縁の破片ではＳ字甕は認められないが､台付甕の脚部が３個（126 ～ 128）認められる。128は125と同一個体の可能性がある。129は甕あるいは壺の肩部破片。694は角柱形の石で小口面に敲打痕を持つ（第85図）。編物石あるいは敲き石として使用されたか。
　いわゆる「一括遺物」はこの限りではないが、位置情報があるものだけでも、４号竪穴建物跡の重複していない範囲からの遺物出土は少ない。例えば、120、125などは1号竪穴建物跡との推定重複箇所付近で出土しているが、あるいはこれらの出土した範囲までが１号竪穴建物跡の範囲かもしれない。
＜時期・備考＞　遺構の推定範囲内からは、古墳時代前期後半～中期前半の遺物が出土しているが、重複関係と遺物の出土位置から検討すると、当該遺構の存在自体を慎重に扱う必要がある。ここでは現場での判断に基づき遺構として報告する。

●５号竪穴建物跡　（第14 ～ 16図　遺物：第42 ～ 50図）
＜位置＞　Ｅ６・Ｅ７グリッド
＜形態・規模＞　長軸５ｍ、短軸4.4ｍ程度の不整の長方形である。
＜重複関係＞　西側の一部が１・４号竪穴建物跡と重複する。南東側は古墳時代中期以降の所産と思われる自然流路と重なる箇所がある。
＜壁・床＞　壁溝及び貼床は検出できず。
＜柱穴＞　検出されず。
＜覆土＞　灰オリーブ色シルト質砂層が主体となる。
＜火処＞　建物跡の最下層、南側で焼土の集中する範囲が検出された。炉跡とみられ、焼土及び炭化物について第５章のとおり土壌微細物分析をおこなったところ、多量の炭化米が確認されている。
＜その他の施設＞　一部窪みが認められる。数か所で炭化物の集中する範囲がある。
＜遺物及び出土状況＞　遺構覆土の上層と下層でそれぞれ微細図を作成したことから、遺物分布図についても上層・下層それぞれで報告する。なお、上層と下層の中間層はやや砂地になっており、この層に置かれるように197､200が出土していることからも､覆土の埋まる過程に若干のタイムラグを考えてもよさそうである。なお、上層は破片が多く、下層は完形あるいはほぼ完形の遺物の出土が多い。
　130､134は小型の鉢と思われる。131 ～ 133は内斜口縁する坏の破片で､上層からの出土。135は単孔の鉢。136 ～ 166は高坏であり、ややバラエティに富む。完形になるのは136 ～ 138で、136、137は隣接して出土しており型式差も近い。坏部はやや深くなるもの（138 ～ 140、143、145）と扁平気味にひらくもの（136、137、141、142、146）が認められる。144は坏部を明瞭に2段とするタイプである。脚部についても2つのパターンがある。坏部との基部からハの字状に開くもの（155、156、157、158、163、164）、柱状となり端部で強く屈折するもの（136、137、138、159、160、161、162、165）とそれぞれある。167 ～ 174、178は小型丸底壺である。168、178はやや扁平になるタイプである。175は中型の丸底壺で口縁は直線的に伸びる。176、177も中型の壺で、形状は近いが同一個体とはならない。181は大型の広口壺で口縁部はやや外反し、胴部外面は横方向のケズリが顕著である。194は181に隣接して出土しているが、大型の壺で口縁部の形状は不明。最大径が胴部のやや上半に張り出すプロポーションで、胴部は丹念なヨコミガキが施されている。正位の状態で出土。また、本遺構は甕類の出土が多い。182はＳ字甕で、明瞭なハケメはもたない（実測図では表現されていないが、胴部上半を中心にわずかながらハケ状の痕跡をもつ）。183も台付甕だが口縁の形状は不明であ

る。184 ～ 192、195は口縁「く」字状になる大型の甕で、184、187、189には脚台が付く可能性がある。いずれも外面に明瞭なハケ調整を施さない特徴があり、胴部外面は斜め方向のケズリ痕が顕著である。ほとんど長胴だが、195は球胴型である。182、185、187、188、189はまとまった場所で出土している。201は中型サイズの甕でやや長胴となる。この土器を流入土ごと持ち帰り、土壌微細物分析をしたところ、底部に植物体が集積されていることが判明している（写真図版32参照）。内容物を含んだまま、遺構内で埋没したことを示唆している。なお、植物体が付着したままの土器内混入土は、形状を留めるための保存処理を行っている。193、196、198、199は小型の球胴タイプの甕である。197、200は200の上に197を重ね置きしたかのような状態で上層壁際から出土したものである。200は大型の球胴甕で、内外面ともにハケメ調整されている。197は中型の平底となる甕。202 ～ 241までは破片実測を行ったものである。
＜時期＞　最終段階のＳ字甕とともに、有稜で脚部が屈折する高坏、小型丸底壺が出土していることから、古墳時代中期初頭の時期と想定される。

●６号竪穴建物跡　（第17 ～ 19図　遺物：第51 ～ 56図）
＜位置＞　Ｃ３・４、Ｄ３・４グリッド
＜形態・規模・重複関係＞　当該遺構についてはその存在を慎重に扱う必要があり、備考に示す。
＜壁・床＞　壁溝及び貼床は検出できず。
＜柱穴＞　検出されず。
＜覆土＞　灰色砂質シルト層や灰色細砂層が主体で、底面付近では灰白色粗砂もみられる。北東―南西断面（Ｃ－Ｃ´断面）では、北東側に向かって堆積土が落ち込んでおり、建物跡の壁面は確認できていない。
＜火処＞　遺構の西側、検出面から30㎝ほどの深さに、85㎝×70㎝ほどの楕円形の焼土の集中が認められた。焼土内には角柱の石を立てて設置している様子が認められた。炉跡の可能性がある。
＜その他の施設＞　東側で検出面から約40㎝の深さに炭化物の集中する範囲が認められる。
＜遺物及び出土状況＞　ここでは、当該遺構の範囲のうち、土器集積（祭祀遺構）の範囲から外れた箇所より出土した遺物について述べる。242 ～ 263は高坏。246は口縁部が一度外反し再度内湾するもので、本遺跡に類例がない。252は口径が小さく坏部が深いプロポーションである。255は台付甕等の脚部かもしれない。264 ～ 266は鉢か。265は口縁が直立し、底部外面に縦方向のミガキがある。267 ～ 279は小型の壺。280は壺の上半部。281は広口の直口壺。282 ～ 287は甕の口縁。289は台付甕の脚部。290は壺の底部か。292 ～ 359は破片実測したものである。いわゆる「一括遺物」で祭祀遺構遺物周辺の土から出土したものも含まれる。696（第85図）は焼土集中のやや上から出土したもので、角柱状の上面にごく浅い円形の刺突がある。管玉の未製品と考えられる。
＜時期＞　出土遺物からは、祭祀遺構の時期と比較して、極端に古い・新しいといったことはない。概ね古墳時代中期前葉頃の所産である。
＜備考＞　Ｃ－Ｃ′断面からすれば、当該遺構が竪穴建物跡として機能していたことを証明することは難しく、後述する祭祀遺構のユニット１（第１層に集中）と、ユニット３（29層・30層付近に集中）は同時期の所産とみられることから、単純に竪穴建物跡の凹地を利用して祭祀遺構を形成したとみるのは適切ではない。ただし、祭祀遺構の土器集積以外の当該遺構覆土からも遺物が出土することや、炉跡の可能性がある火処が確認されていることからも、祭祀遺構以前に何かしらの遺構が存在した可能性を全く除去するわけにもいかない。２つのパターンを想定しておく。①当該遺構付近には北方向へ谷地形が広がっており、谷地形を利用して祭祀遺構が形成されていたが、検出の際に遺物出土の広がりから竪穴建物跡と誤認した。②谷地形を利用して、南西側は掘り込みをもち、北東側は掘りこまずに自然地形とするような平場を形成した（建物跡に限らない）。

●７号竪穴建物跡　（第28・29図　遺物：第74・75図）
＜位置＞　Ｂ５・６、Ｃ５・６、Ｄ５・６グリッド
＜形態・規模＞　１辺8.6m程度の正方形を呈する大きな遺構である。
＜重複関係＞　東側のコーナーが１・４号竪穴建物跡、南側が８号竪穴建物跡と重複する。

＜壁・床＞　壁溝及び貼床は検出できず。
＜柱穴＞　検出されず。
＜覆土＞　灰色砂質シルト層、灰オリーブ色シルト質砂層、灰色細砂層が主体となる。
＜火処＞　検出されず。
＜その他の施設＞　Ｂ－Ｂ′断面に、試掘調査時の掘削痕がみられる。
＜遺物及び出土状況＞　他の遺構に比べて遺物の出土状況は散漫であり、垂直分布のエリアは上層（検出面）と下層（床面）に分かれている。506は内斜口縁の坏で、胴部は半球状である。507 ～ 510は高坏。511 ～ 514は小型丸底壺で完形となるものはない。515は口唇部に刻みをもつ甕で、内面にヘラミガキを施す。516、518、519は同じく甕。515と516は４号竪穴建物跡との重複部分からの出土である。519は本遺構の中心床面付近と4号竪穴建物跡との重複範囲（上層）との接合関係がある。517は広口壺で北隅の床面付近から出土。520 ～ 533は破片実測したもの。これらのうち、甕516、519、525、529は、口唇部を外側に向け箱型あるいは弱いＭ字型に整形する。北陸北東部系のいわゆる「千種甕」とみられる。
＜時期＞　1・4号竪穴建物跡との重複もあり、時期の考察が困難だが、８号竪穴建物跡が７号竪穴建物跡を切っていることから、古墳時代前期の所産と考えておく。

●８号竪穴建物跡　（第30・31図　遺物：第76 ～ 82図）
＜位置＞　Ｃ６・７グリッド
＜形態・規模＞　１辺4.6m程度の不整の方形を呈する。
＜重複関係＞　北東側が１号竪穴建物跡と重複、北西側が７号竪穴建物跡と重複する。８号竪穴建物跡は、７号建物跡の覆土精査中、南隅に炭化物の範囲が広がっており、それを追って検出に至ったものであり、７号竪穴建物跡よりも新しいと判断できる。
＜壁・床＞　壁溝及び貼床は検出できず。
＜柱穴＞　検出されず。
＜覆土＞　灰オリーブ色砂質シルト層、灰色シルト質砂層、オリーブ灰色細砂層が主体となる。
＜火処＞　焼土の集中する範囲が２か所認められたが、炭化物の出土状況から建物の焼失に伴うものであるかもしれない。
＜その他の施設＞　炭化物が遺構覆土内に水平堆積している様子が見受けられた。形を成している範囲を平面図で表したが、覆土自体にも炭化物が多く含まれており、焼失した建物の可能性がある。
　また、床面の一部に窪みが認められ、遺構床面の東西方向に浅い溝が設けられていた。
＜遺物及び出土状況＞　534、535は鉢。高坏は536 ～ 591までだが、大半は大きめの破片である。坏部・脚部ともにバリエーションに富んでいるが、坏部はほとんど稜をもって屈曲する。588のみ半球型の坏部となっている。脚部は坏部との基部からハの字に開くもの（536、575など）と、柱状に垂下したのち強く屈折して開くもの（537、574など）、一度ハの字に開いたのち、端部でさらに外側に屈折して開くもの（582、583など）がある。
　また、脚部に円窓を施すもの（564、572、573、582）がある。579及び581は脚部内側面に布目痕が残存している。592 ～ 597は小型丸底壺で、592は口縁部の横位のミガキが顕著である。598 ～ 602は中型～大型の壺口縁部か。603 ～ 606は鉢となるか。606は底部単孔のものである。607 ～ 616は甕で、全貌の分かるものはないが、607や611は胴部外面の調整はケズリのみである。617、618などは大型の壺の底部となるか。619 ～ 621は甕あるいは壺の底部。622 ～ 653まで一括遺物等の破片実測である。特記すべきものとして、652は手づくね土器である。653は平安時代の甲斐型坏の破片（墨書土器）であるが、どのような経緯で本遺構の覆土から出土したかは不明。このほか、695（第85図）は管玉で、単独で出土している。749（第86図）は刀子の柄部で、二重の丸い文様が表裏に刻まれている。イノシシの歯も、覆土中層から出土している（第５章第２節）。
＜時期＞　古墳時代中期前葉頃か。

⑵　祭祀遺構（第17 ～ 26図　遺物：第57 ～ 73図）

６号竪穴建物跡周辺で確認された土器集積遺構を、ここでは祭祀遺構として報告する。第17図は６号竪穴建

物跡の平面図上に、祭祀遺構の範囲を示したものであるが、土器集積はいくつかのユニットに分けられる（垂直分布は第19図を参照）。ユニット１は検出面付近に分布し、小型丸底壺などを中心に多くの土器等を集積する。ユニット２はユニット１より20㎝程下層に甕・壺を中心に集積する。ユニット３は６号竪穴建物跡の北壁とした範囲を越えて、ユニット１より50㎝程下層に認められた。先述した通り、６号竪穴建物跡のＣ－Ｃ′断面（第18図）では北方向に落ち込んでいく土層を捉えており、もともとは谷状の地形だった可能性も考えられる。以下に各ユニットの状況を示す。

①ユニット１

＜遺物配置＞　土器集積は水平に展開しており、一部の遺物は積み重なっているが、重層的とはいえない。なお、ユニット１の南側に散布する甕の破片群については、次項で取り扱う。目を引くのが東西方向に３つの大型壺（453、449、454）を正位で配置（449は横転したか）していることである。このほかの遺物として高坏を16個体以上、小型の壺を44個体以上、中～大型の壺７個体、甕・小型甕各２個体、手づくね土器２個体が出土しているほか､臼玉48個と鉄製品３点が出土している。臼玉の多くは､土器集積に堆積していた土壌を持ち帰り、洗浄した結果見つかったもので、個体ごとの位置情報を有していない。一方、一部の臼玉は同じように土器に付着（混入）していた土壌を洗い出した際に見つかっている。すなわち高坏371脚部―玉698、壺405―玉699、壺425―玉700、壺406―玉701、壺424―玉702、甕462―玉703、壺433―玉704、壺390―玉709・710、壺388―玉735 ～ 739である。特に５個入っていた壺388などは、意図的に臼玉を土器内に納めていた可能性もあるが、玉をバラまくように散布した結果、土器内に混入した可能性もある。さて、大型壺３個体以外の土器配置は整然としたものではないが、高坏がやや北寄り、小型壺がやや南寄りに分布している。また、いくつかの遺物は積み重なったように出土したり、正位を保ったりしている。積み重なった例として、高坏364の上に小型丸底壺402が、小型甕396に小型丸底壺409が、多数の遺物の上より甕463が出土している。463内部からは袋状鉄斧（751）が出土しており、集積行為の最後に、何らかの意義を込めて集積済の土器群の上に置いたことを示唆しているかもしれない。

＜遺物解説＞　360は小型の高坏で精製されている。361 ～ 384まで高坏である。ほとんどは坏部有稜で屈折する脚部を有するが、362は口縁に稜をもたず直線的に開く。脚部は大きく３種類のパターンがあり、坏部との基部からハの字に開くもの（362、365、370、371、376）と、柱状に垂下したのち強く屈折して開くもの（363、364、372）、一度ハの字に開いたのち、端部でさらに外側に屈折して開くもの（361、363、366、367、368、369、373、375）がある。このほか374は脚部端が複合的な段をもつ。385 ～ 395、397 ～ 429、434 ～ 448は小型丸底壺。本報告では概ね器高15cm 以下を「小型」と捉えた。形状はそろばん形の胴部に直線状に外側へ開く口縁をもつものが大半だが、口縁が開かず直立するもの（387）、複合口縁状になるもの（386、426 ～ 429、439）もある。また丹念なミガキが施されるもの（419、422、423、427 ～ 429）もあれば、ハケメを強調するもの（425）もある。続いて中型サイズ（器高15㎝～ 25㎝）の壺に430 ～ 433、450、451がある。430 ～ 433は小型丸底壺の形状と大きく変わらない。450は大きな複合口縁をもつもので、胴部には焼成後穿孔の円孔が１か所開けられ、ヘラミガキも丹念である。451は長胴で甕に近い形状。大型の壺は先述した453､449､454以外に452（横位で潰れて出土）がある。欠失のある454を除いてすべて複合口縁となっている。甕は小型のもの（396、459）、球胴のもの（456、457、458、460）、やや長胴のもの（455、461、462、463）がある。いずれも口縁は「く」字状か強く外反するもので、胴部外面への強いハケメは施されていない。464、465はいわゆる「手づくね土器」で、指頭圧痕がよく残っている。

　このほか臼玉（第85図698 ～ 745）の出土がある。いずれも滑石製で、径は最小３㎜～最大5.8㎜。3.0 ～ 3.5㎜程度の群と､4.5㎜前後の群にやや偏差する｡いずれもそろばん玉状に側面中央部がやや張り出す｡金属製品は、単独で出土した748は刀子の刃部か。手づくね土器465内部から見つかった750は表裏面剥離が激しく、鉄片として報告する。751は甕463内部にあった袋状鉄斧で、肩はあまり張らずソケットには木質が残存する。

②ユニット２

＜遺物配置＞　ユニット２は甕を中心に遺物が出土しており、小型丸底壺は伴わない。特筆すべきは、先述したユニット１の南側に散布していた甕の破片群が、ユニット２の破片群と接合したことである。惜しまれるのは、甕の破片１点ごとに番号を付して取り上げる余裕がなく、ある程度ブロックごとに測点をしてしまったため、お

およその位置関係のみの把握となっているが、455、457、458は深さの異なる各単位でバラバラになって出土していたことがわかる。一方で完形のまま出土した遺物群もあり、これらは密集してまとめられている。興味深いのは、473、475、468は正位で出土していることに対し、466、474、472は逆位で出土していることである。また、471は位置情報の記録からすれば、475のすぐ下より出土している（写真等がなく、担当者の記憶も曖昧だが、位置情報からすれば471に475が被るように配置されていた可能性がある）。
＜遺物解説＞　高坏466は坏部が深く脚部が短い。器壁も厚いもので、ユニット１や３では見られないタイプ。468は中型サイズの丸底壺。469、471は平底で長胴の広口壺となり、口縁の欠損する472も同様か。455 ～ 458、473 ～ 476は甕。474は台付甕、455は長胴甕で、それ以外は球胴型である。また口縁は475を除き強く外反する。いずれも外面に顕著なハケメ調整は施されない。

③ユニット３

＜遺物配置＞　遺物分布図だが、ほぼ完形の遺物でもある481、482、485、499、500、502については微細図を作ることができなかったため、点で示している。上記６点の出土時の状態は不明であることに注意が必要である。ユニット３も、ユニット１と同様に高坏・甕・壺が基本となっているが、やや高坏の率が高い。壺495を中心にまとまった一群が認められるが、壺495の周辺三方に横位の高坏（486、488、489）があり、それを挟むように正位の高坏（484、487）が出土している。489の南には鉢478も正位で出土している。これら土器群の東側には甕504が正位で、甕503が横位で出土しており、以北、以東から遺物の出土はない。なお、これらの中心的な一群から少し離れて西側で高坏490、甕505が正位で出土している。
＜遺物解説＞　484 ～ 494は高坏である。いくつかバリエーションがあるのはユニット１と同じ状況だが、490は坏部に２段の稜をもち、脚部も有段となるタイプで、よく磨かれている。492は器台状の浅い坏部のみが出土している。小型丸底壺は479 ～ 483で、磨かれてはいない。495は丸底長胴で、甕と迷うが頸部がやや狭く口縁がやや長いことから今回は壺として報告する。496も同様の理由で壺とする。499 ～ 505は甕。501は小型のもの、503は台付甕で、505は最大径が胴部下半に位置するタイプのもの。

⑶ 溝状遺構

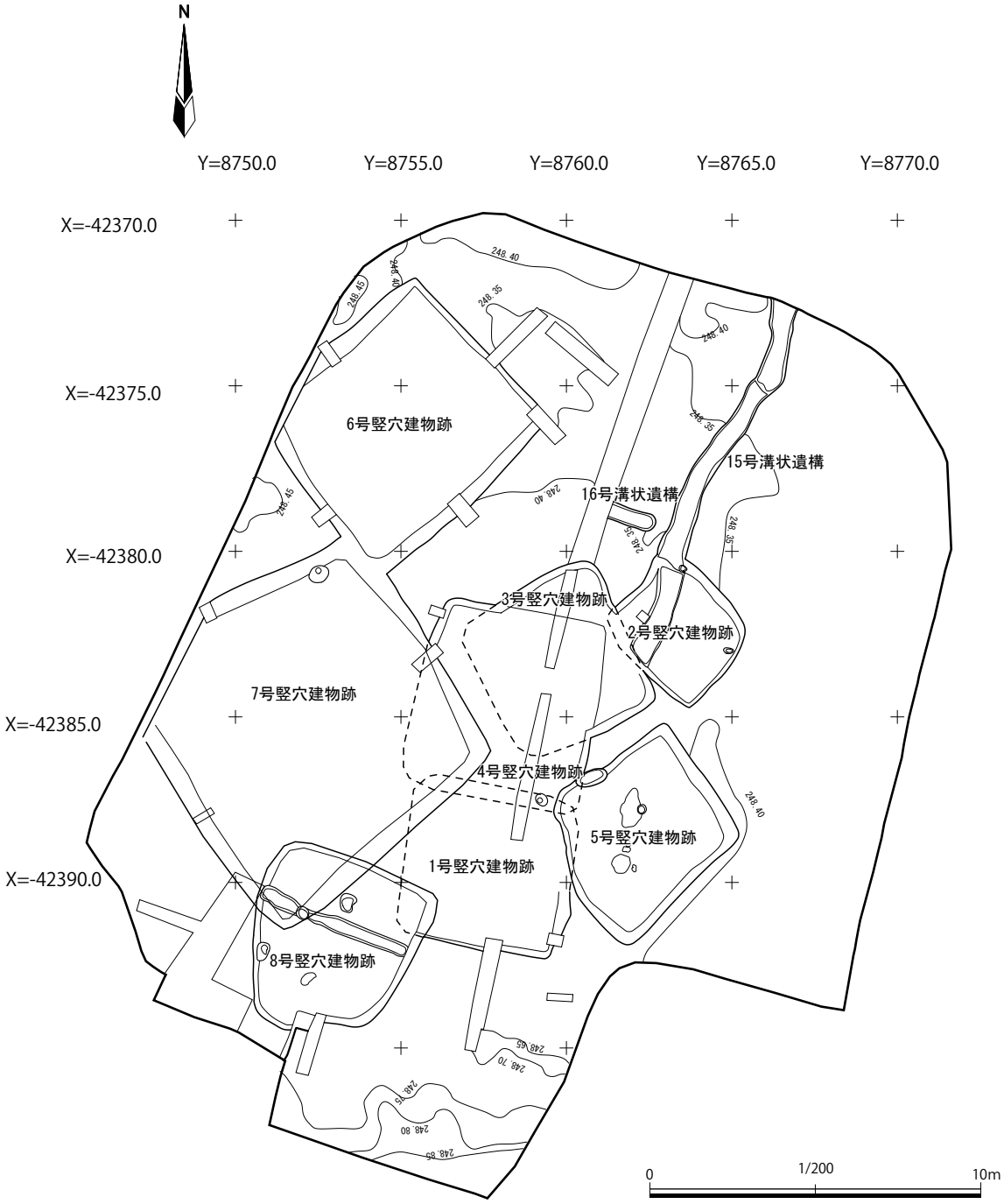
15号溝状遺構と16号溝状遺構を検出しているが、後者は誤認の可能性がある。

●15号溝状遺構　（第32図　遺物：第83図）

Ｅ４・５、Ｆ３・４グリッドに位置している。２号竪穴建物跡と重複し、同遺構内の断面で確認することができる。２号竪穴遺物跡以南では検出できていない。確認できた範囲で長さ約11.6m、幅64㎝、深さ11㎝。主軸はＮ－24°－Ｅをとる。出土遺物654は定型化した内斜口縁の坏で、古墳時代中期中葉。高坏657も低い脚部であり、同様の時期か。

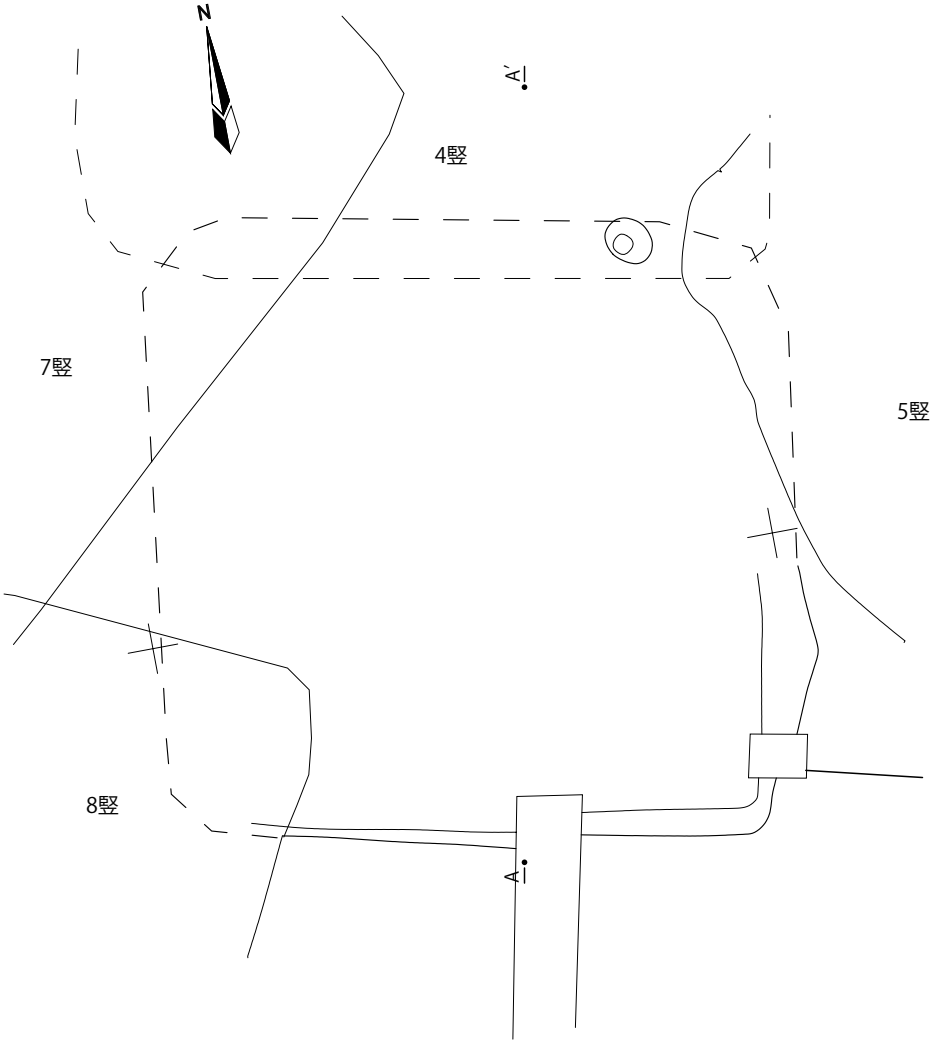
⑷ 遺構外出土土器　（第90図　遺物第83・84図）

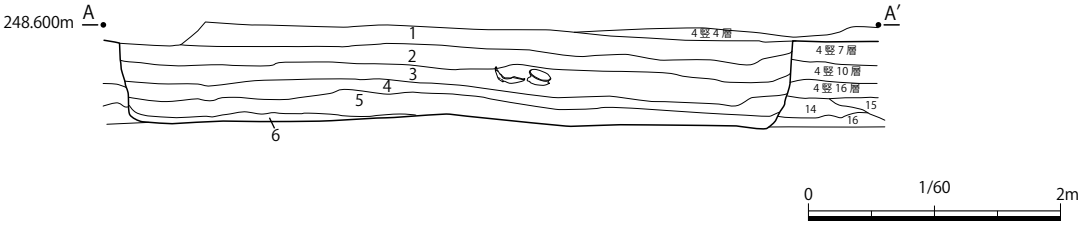
ここでは主に調査区西側の遺構面直上～包含層下層から出土したものを報告する。調査区東側から出土したものや平安時代以降の遺物は次節で述べる。660 ～ 669は高坏。660は完形に復元でき、坏部が深く脚部が低いもので、古墳時代中期中葉の所産か。670は小型丸底鉢で古墳時代前期後半のもの。671 ～ 679は小型丸底壺。680、681は壺の底部か。682、683は鉢。684 ～ 686は甕の口縁で、687 ～ 690は甕ないし壺である。660、671、681は９号竪穴建物跡の南側で近接して見つかっており、遺構の存在が示唆される。661、682、684の出土位置は６号竪穴建物跡の上層にあたる箇所となる。



第７図　古墳時代前期～中期　遺構分布図

1 号竪穴建物跡

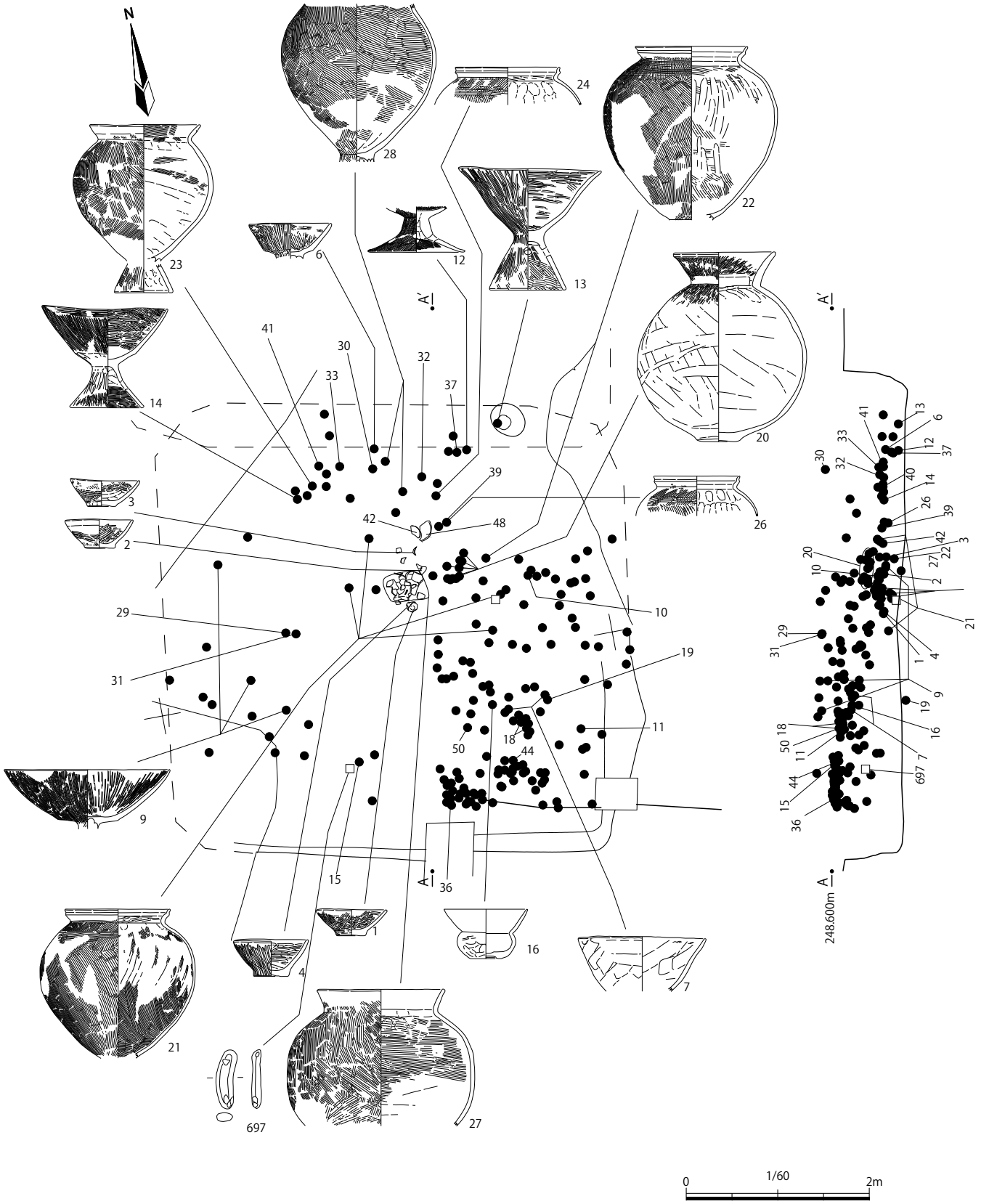




1．灰オリーブ色（5Y5/2） シルト層　細砂わずかに混じる　しまり強　粘性強　炭化物を少し含む
2．灰オリーブ色（7.5Y5/2） 砂質シルト層　しまり強　粘性弱　炭化物を多く含む　焼土を少し含む
3．灰色（5Y5/1） シルト質細砂層　しまり強　粘性弱　炭化物を少し含む　遺物をよく含む
4．暗灰黄色　シルト層　白色砂層ブロック混じる　しまり弱　粘性弱
5．明灰色　細砂層　しまり弱　粘性なし
6．灰白色　砂層　しまり強　粘性なし　植物痕を含む

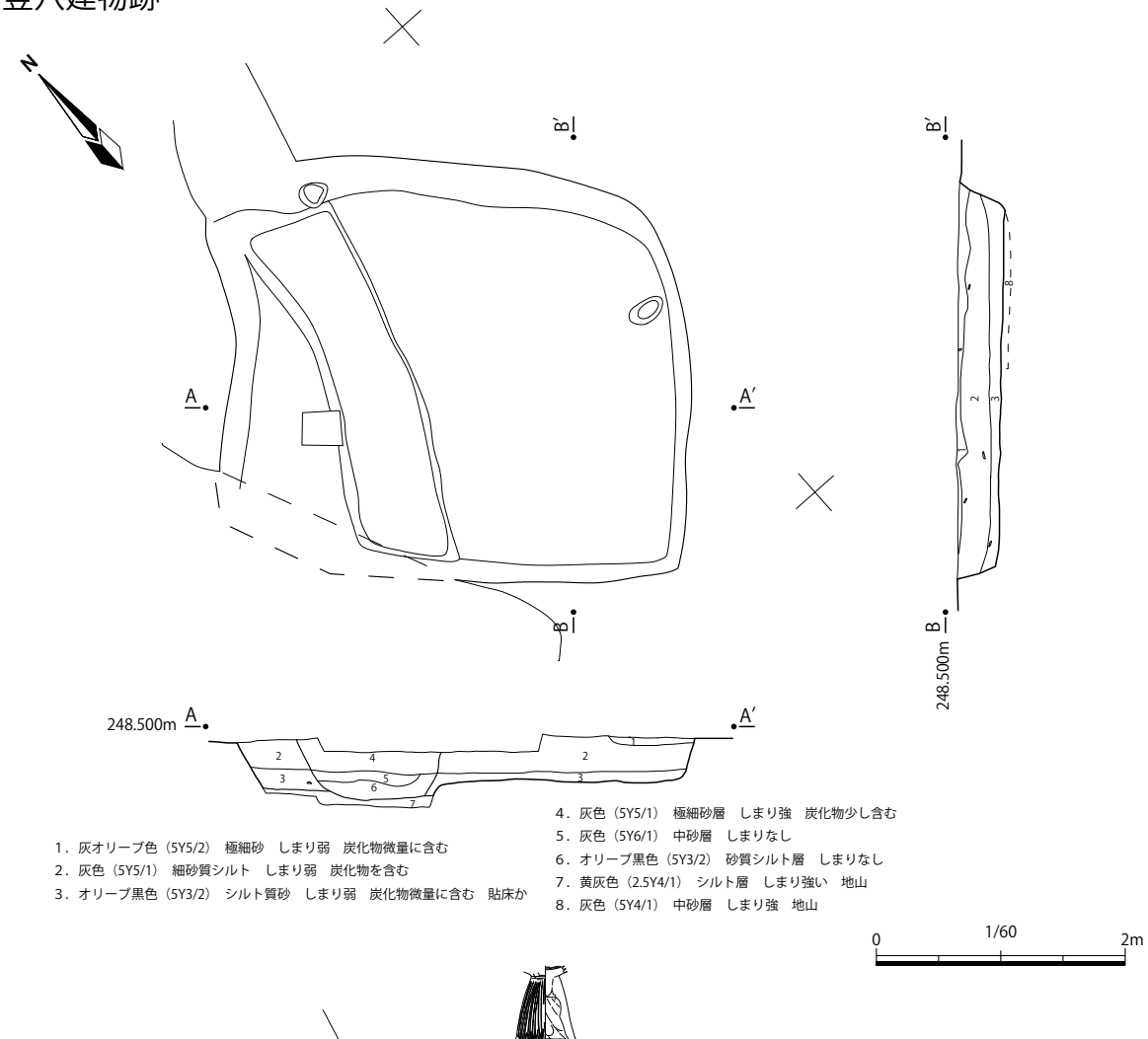
14. 灰色　砂層とシルト層の混じる層
15. 灰白色　砂層　しまりなし
16. 灰白色　砂層　しまりあり

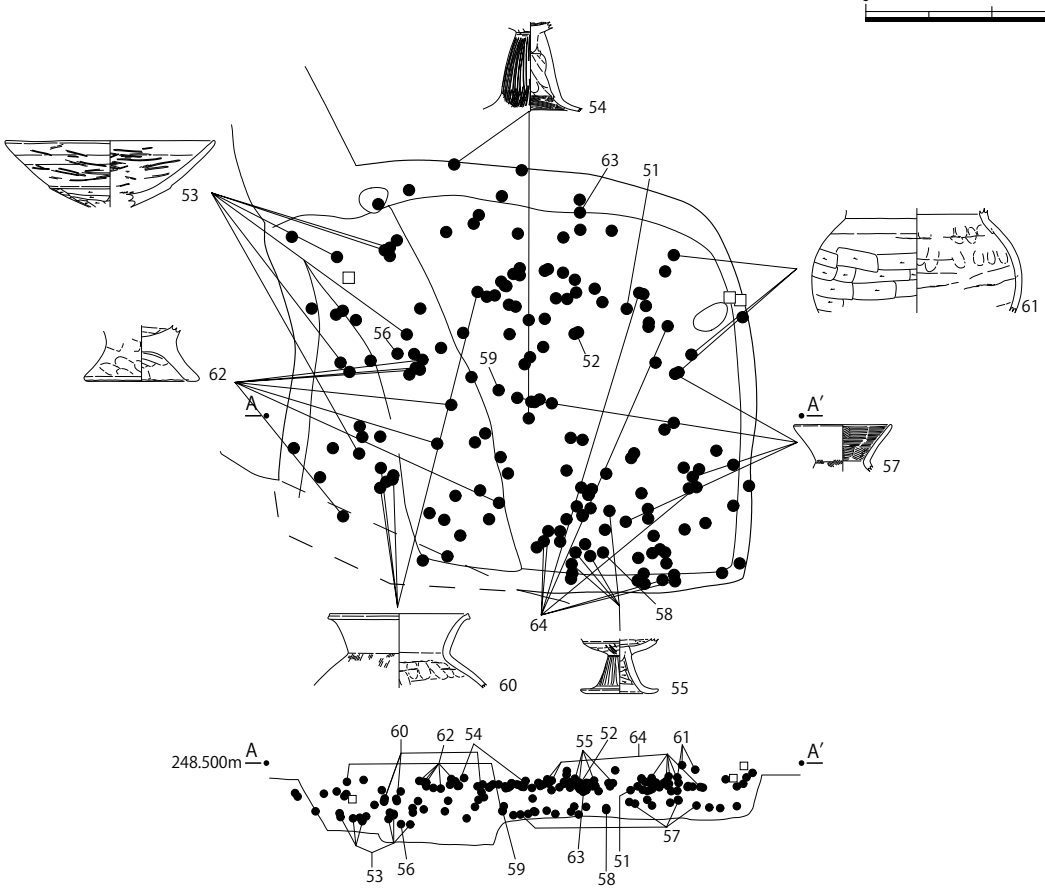
第 8 図　1 号竪穴建物跡　平・断面図



第９図　１号竪穴建物跡　遺物分布図

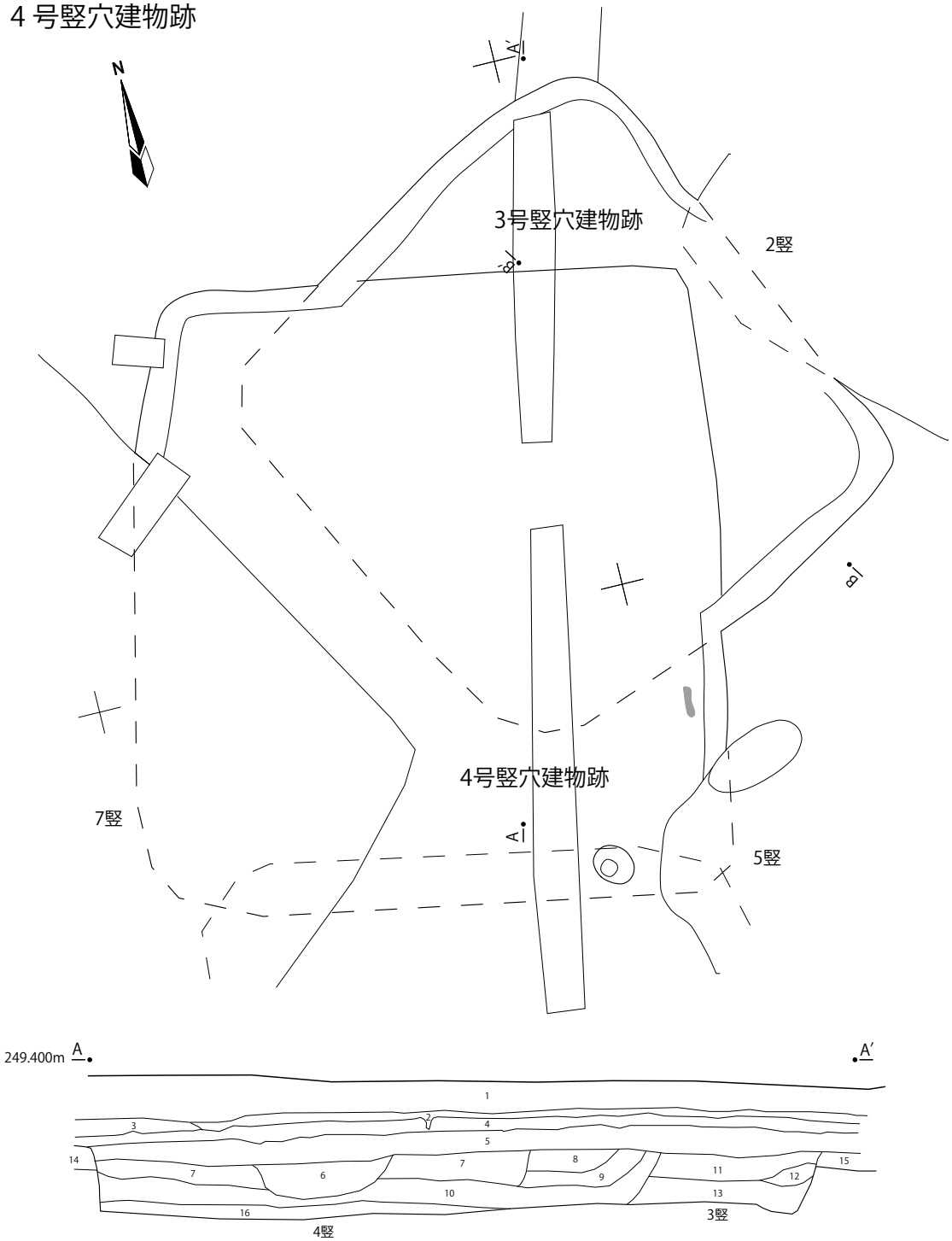
2 号竪穴建物跡



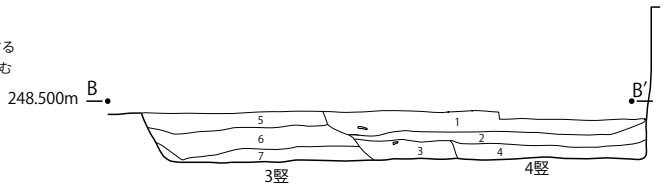


第 10 図　2 号竪穴建物跡　平・断面図　遺物分布図

3・4 号竪穴建物跡



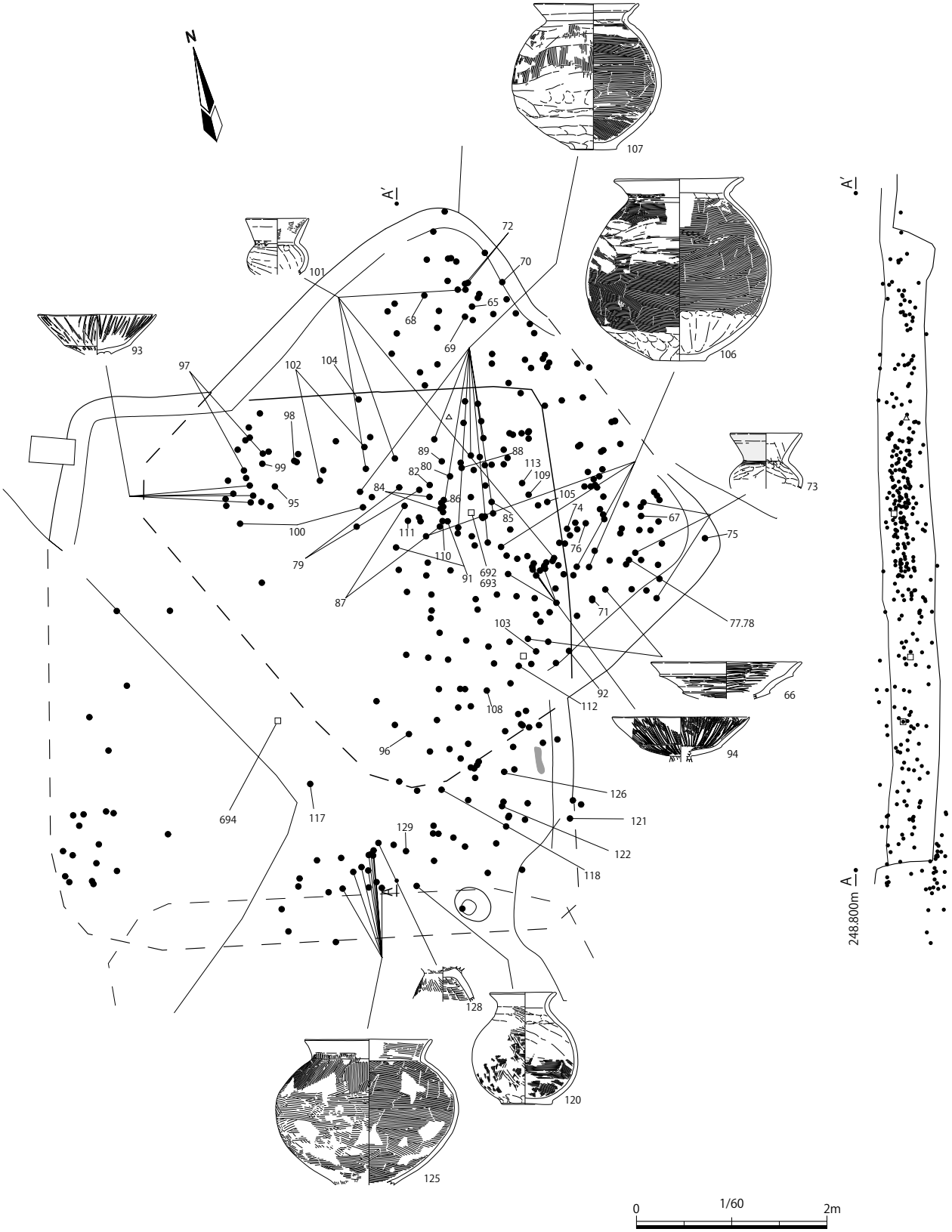
1．灰オリーブ色（5Y4/2） 細砂質シルト層　しまり強　植物痕跡多い　１面の基盤層で遺物は包含しない
2．明青灰色（5BY7/1） 中砂層　しまりなし　灰色シルトがまだらに混じる　１号流路に共通する氾濫層か
3．暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト　しまりなし　植物痕多い
4．灰オリーブ色（5Y4/2） シルト質細砂　しまりなし　まれに遺物を出土する
5．灰オリーブ色（5Y5/2） 細砂質シルト　しまりなし　炭化物を含む　遺物を多く包含する
6．灰オリーブ色（7.5Y5/2） 細砂層　わずかにシルト混じる　しまり弱　炭化物を多く含む
7．灰オリーブ色（7.5Y5/2） シルト質細砂層　しまりなし　炭化物少し含む
8．灰オリーブ色（7.5Y5/2） シルト層　しまりなし
9．灰色（5Y5/1） シルト質細砂層　しまり強　炭化物多く含む
10．灰色（5Y5/1） シルト層　わずかに砂混じる　しまり弱　炭化物を少し含む
11．灰オリーブ色（5Y5/2） シルト層　しまりなし　植物痕多く含む
12．灰オリーブ色（5Y6/2） シルト層細砂　しまりなし
13．オリーブ黒色（5Y3/2） 細砂質シルト層　しまり弱　炭化物少し含む
14．灰オリーブ色（5Y6/2） シルト質細砂　しまり弱
15．灰オリーブ色（5Y5/2） 砂質シルト　しまり弱　第２面検出面（北側）
16．灰オリーブ色（5Y6/2） シルト層　しまり弱　地山か



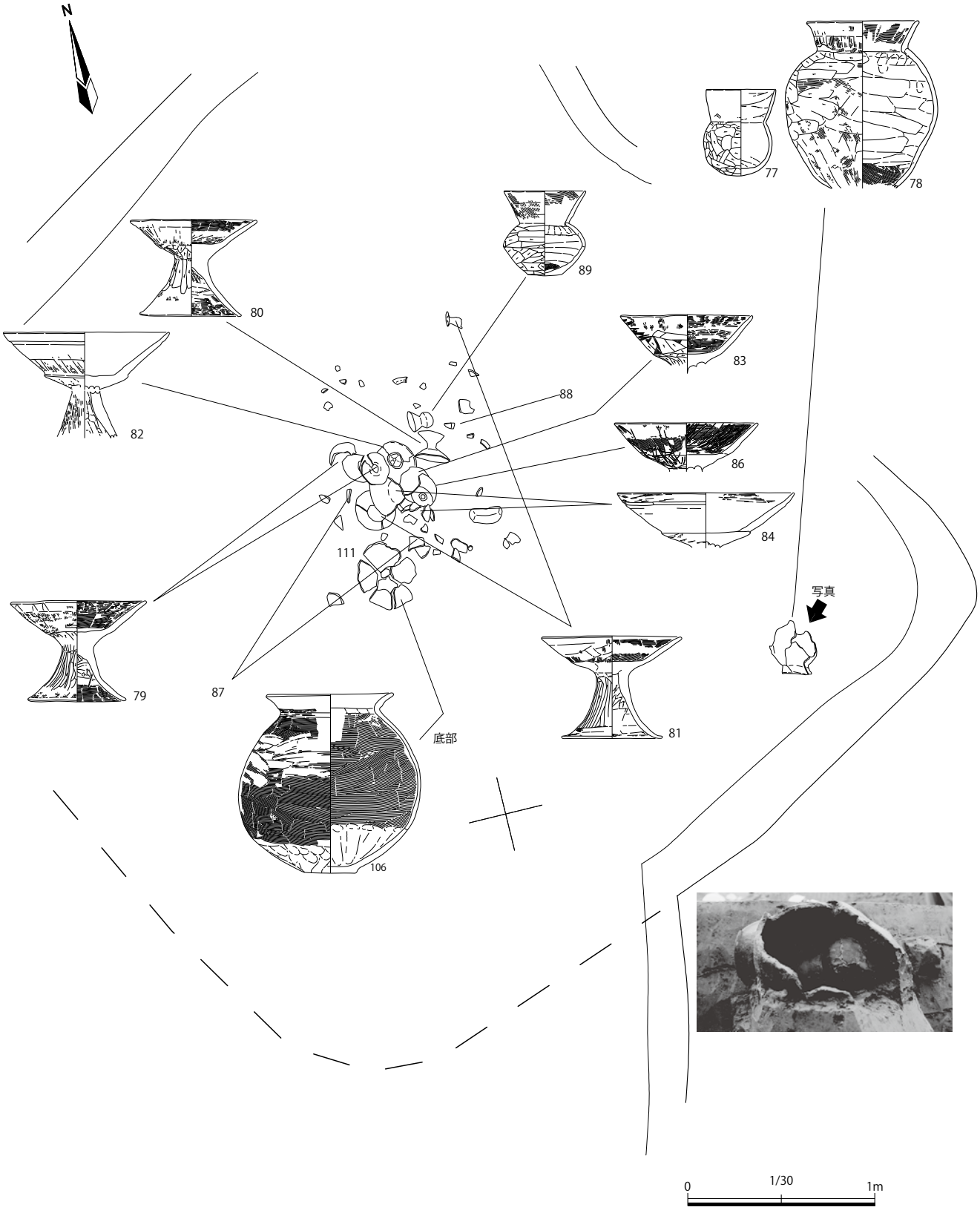
1．灰オリーブ色（5Y5/2） 細砂層　しまり強い
2．灰色（5Y4/1） 細砂質シルト層　しまり強い　炭化物微量に含む
3．オリーブ黒色（5Y3/2） シルト質細砂層　しまりなし　炭化物微量に含む
4．灰色（5Y4/1） 細砂質シルト層　しまり弱い
5．灰オリーブ色　シルト質細砂層　しまり強い
6．灰オリーブ色　細砂層　シルトわずかに混じる　しまり弱い　炭化物含む
7．灰色（5Y4/1） 細砂質シルト層

0　1/60　2m

第 11 図　3・4 号竪穴建物跡　平・断面図

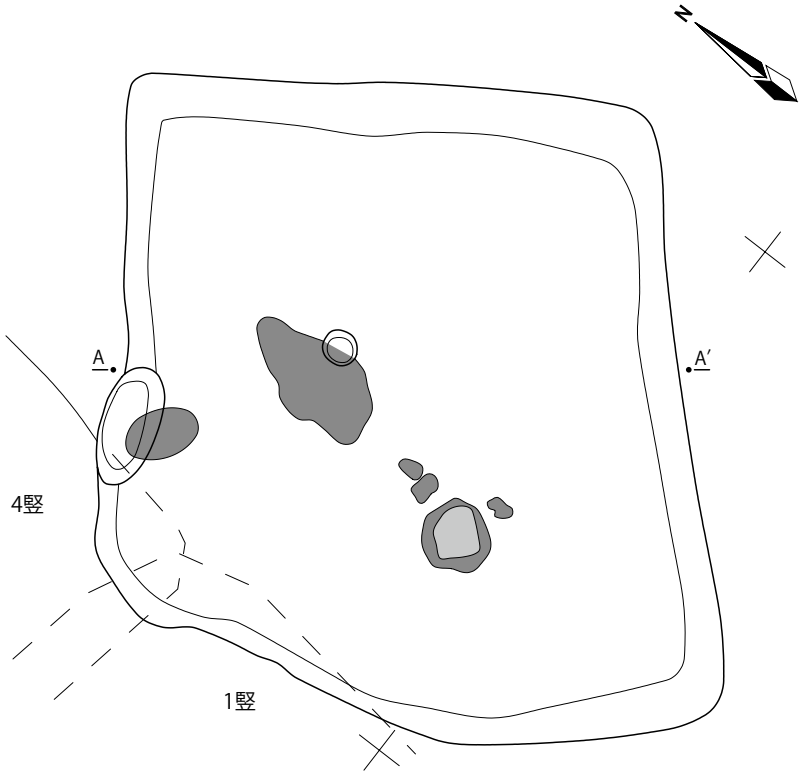


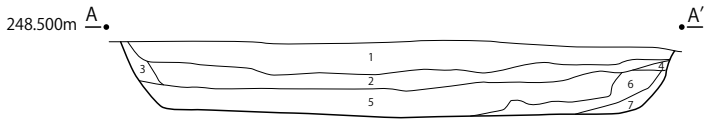
第 12 図　3・4 号竪穴建物跡　遺物分布図



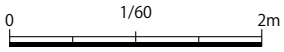
第 13 図　3・4 号竪穴建物跡　遺物微細図

5 号竪穴建物跡

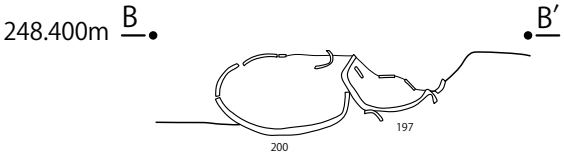


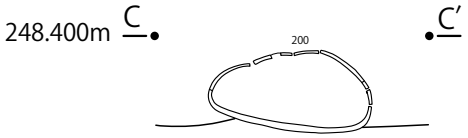


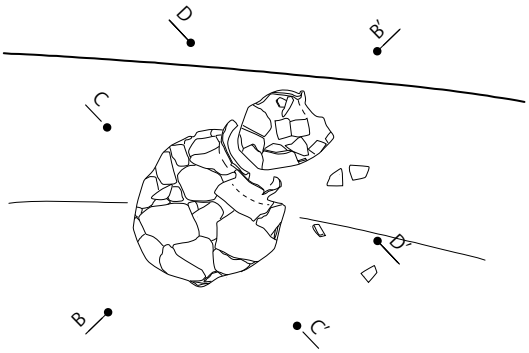
1．灰オリーブ色　シルト質細砂　しまり弱　炭化物わずかに含む
2．灰色　中砂層　しまりなし
3．灰色　シルト質細砂　しまりなし
4．灰色　粗砂
5．オリーブ黒色　砂質シルト　砂のブロックを含む　炭化物を含む
6．灰白色　砂層
7．灰色　シルト　しまり強い　地山

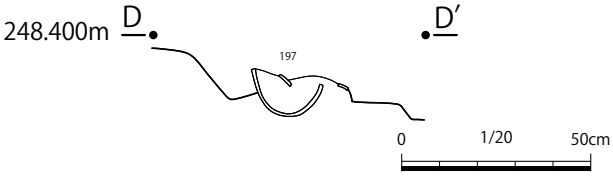


次頁第15図　遺物197、200出土状況詳細



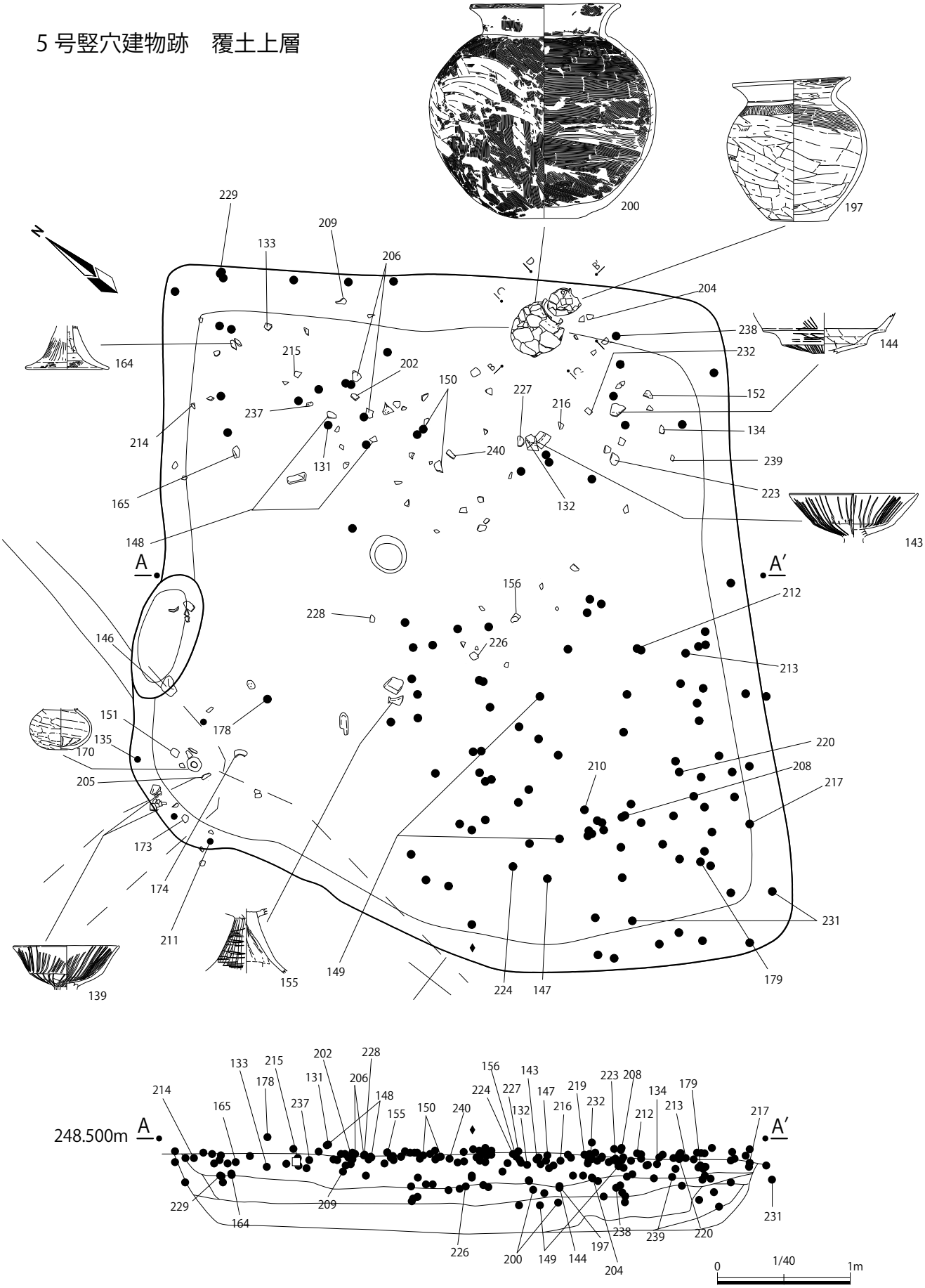




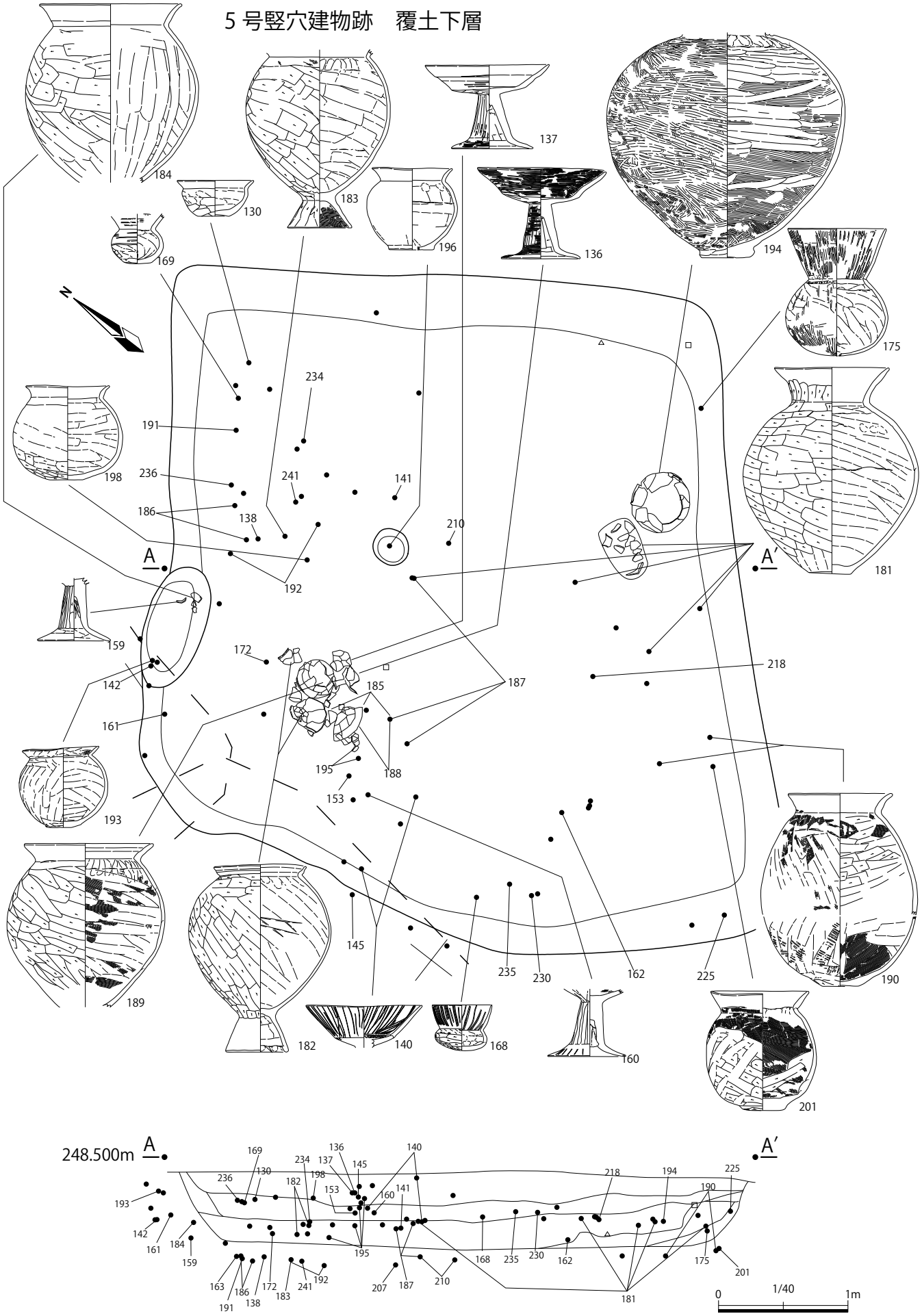


第 14 図　5 号竪穴建物跡　平・断面図

5 号竪穴建物跡　覆土上層

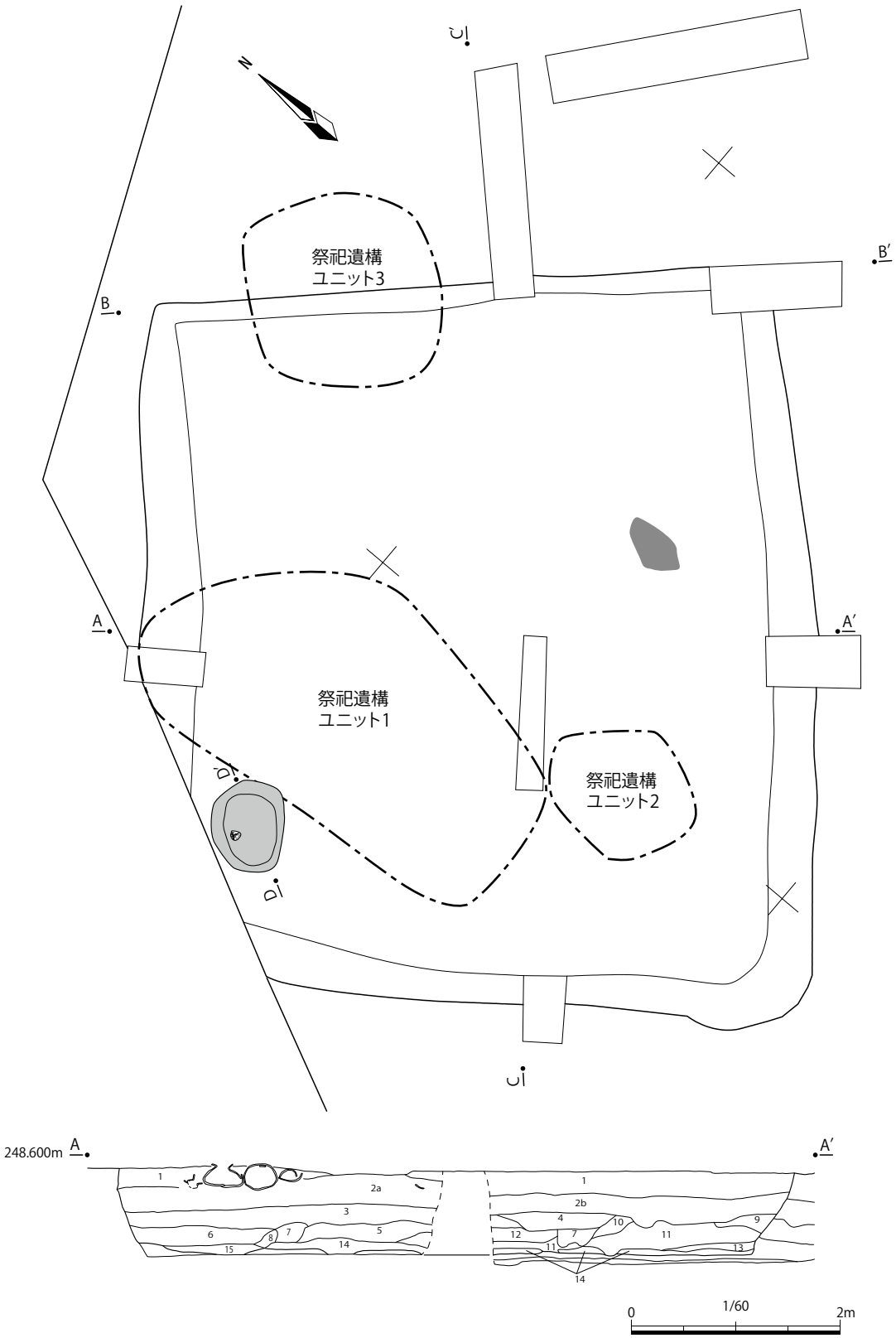


第 15 図　5 号竪穴建物跡　覆土上層遺物分布図

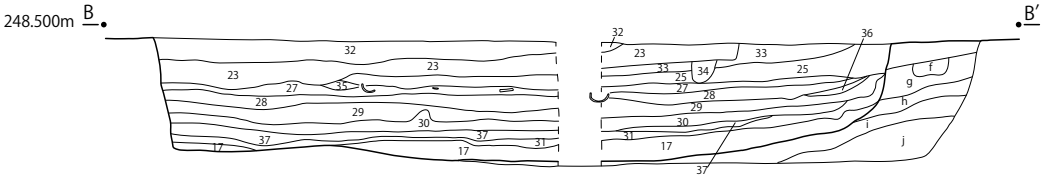


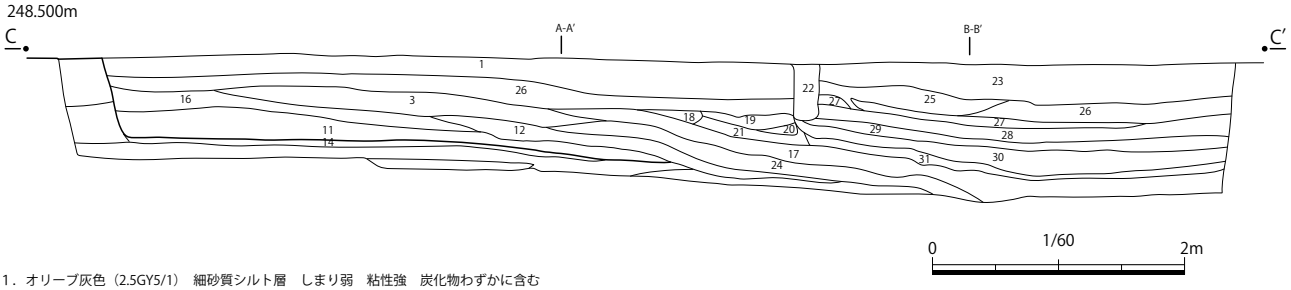
第 16 図　5 号竪穴建物跡　覆土下層遺物分布図

6 号竪穴建物跡および祭祀遺構



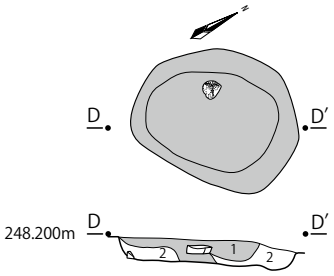
第 17 図　6 号竪穴建物跡・祭祀遺構　平・断面図（1）





1．オリーブ灰色（2.5GY5/1） 細砂質シルト層　しまり弱　粘性強　炭化物わずかに含む
2．灰色（7.5Y4/1） 細砂質シルト層　しまり強　粘性強　２ａ：炭化物を多く含む　焼土粒を少し含む　２ｂ：炭化物を少し含む
3．灰色（5Y5/1） シルト質細砂層　しまり弱　粘性弱　炭化物少し含む
4．灰色（7.5Y5/1） 細砂層　しまりなし　粘性弱　炭化物少し含む　灰色シルトブロックを含む
5．黄灰色（2.5Y4/1） シルト質細砂層　しまり弱　粘性弱　白色砂層ブロックを多く含む
6．灰色（7.5Y6/1） 細砂層　しまりなし　粘性なし　黄灰色シルトブロック、白色砂層ブロックを含む
7．灰色（7.5Y6/1） 細砂層　しまり弱　粘性なし　暗褐色シルトブロックを多く含む
8．黄灰色（2.5Y4/1） シルト層と灰白色砂層が１～２㎝ブロックで混じる層　しまりなし
9．灰白色（10Y7/1） 細砂層　しまり弱　粘性なし　灰色シルトブロック（Φ５㎝）を多く含む　炭化物を含む
10. 灰色（7.5Y5/1） 砂質シルト層　しまり強　粘性弱　白色砂層ブロックが混じる
11. 灰白色（10Y7/1） 細砂層　しまり弱　粘性なし　灰色シルトブロック（Φ５㎝以下）を多く含む
白色砂層ブロック（Φ３㎝以下）を含む
12. 灰色（7.5Y5/1） シルト層　しまりなし　粘性弱　白色砂ブロックを含む
13. 灰オリーブ色（5Y6/2） 細砂層　しまり弱　粘性なし　白色砂と暗褐色シルト混じる
14. 黄灰色（2.5Y4/1） シルト層　しまり強　粘性強　白色砂ブロック少し含む　遺構床面か
15. 灰色（5Y5/1） 細砂層　しまり弱　粘性なし　暗褐色シルトブロックを含む　白色砂を含む
16. 灰色（5Y4/1） 砂質シルト層　しまり弱　粘性弱　白色砂層ブロックを含む　炭化物を含む
17. 灰色（7.5Y4/1） 砂質シルト層　しまりなし　粘性強　炭化物をわずかに含む
18. 黄灰色（2.5Y4/1） シルト層　しまり弱　粘性強　炭化物・焼土を少量含む
19. オリーブ黒色（5Y3/2） シルト層　しまり弱　粘性強
20. 灰色（5Y4/1） 砂質シルト層　しまり弱　粘性弱　炭化物を少し含む
21. 黒褐色（10YR3/1） 砂質シルト層　しまり強　粘性弱　炭化物を多く含む
22. 灰色（7.5Y5/1） 細砂層　しまり弱　粘性なし　炭化物を多く含む
23. 灰色（10Y4/1） 細砂層　しまりなし　粘性弱　黒褐色シルトブロックわずかに含む
23. 灰オリーブ色（5Y5/2） シルト質細砂層　しまり弱　粘性弱　炭化物を含む
24. 灰色（7.5Y4/1） 細砂層　しまりなし　粘性なし　炭化物を少し含む
25. オリーブ黒色（5Y3/2） 砂質シルト層　しまり強　粘性強　炭化物を多く含む　焼土を少し含む
26. 灰色（5Y4/1） 砂質シルト層　しまり弱　粘性弱　炭化物を少し含む
27. 灰オリーブ色（5Y5/2） 細砂層　しまり弱　粘性なし
28. 灰色（7.5Y5/1） 細砂層　しまり弱　粘性なし
29. 灰色（5Y4/1） シルト層　しまり強　粘性強　炭化物を含む
30. 灰オリーブ色（5Y5/2） シルト質細砂　しまり弱　粘性弱
31. オリーブ黒色（7.5Y3/2） シルト質細砂　しまり強　粘性弱　炭化物を含む
32. 黄灰色（2.5Y5/1） シルト質砂層　しまり弱　粘性弱
33. 灰色（5Y4/1） 砂質シルト層　しまりなし　粘性弱　炭化物を多く含む　焼土をわずかに含む
34. 黄灰色（2.5Y5/1） シルト層　白色砂ブロックを含む　しまりなし　粘性弱　炭化物を含む
35. 黄灰色（2.5Y4/1） 砂質シルト層　しまりなし　粘性強　炭化物を含む
36. 灰オリーブ色（5Y5/2） 細砂層　しまりなし　粘性弱　微小炭化物を含む
37. 灰オリーブ色（5Y6/2） 細砂層　砂層ブロックと灰色シルトブロックが混じる、各Φ１㎝以下　炭化物を含む

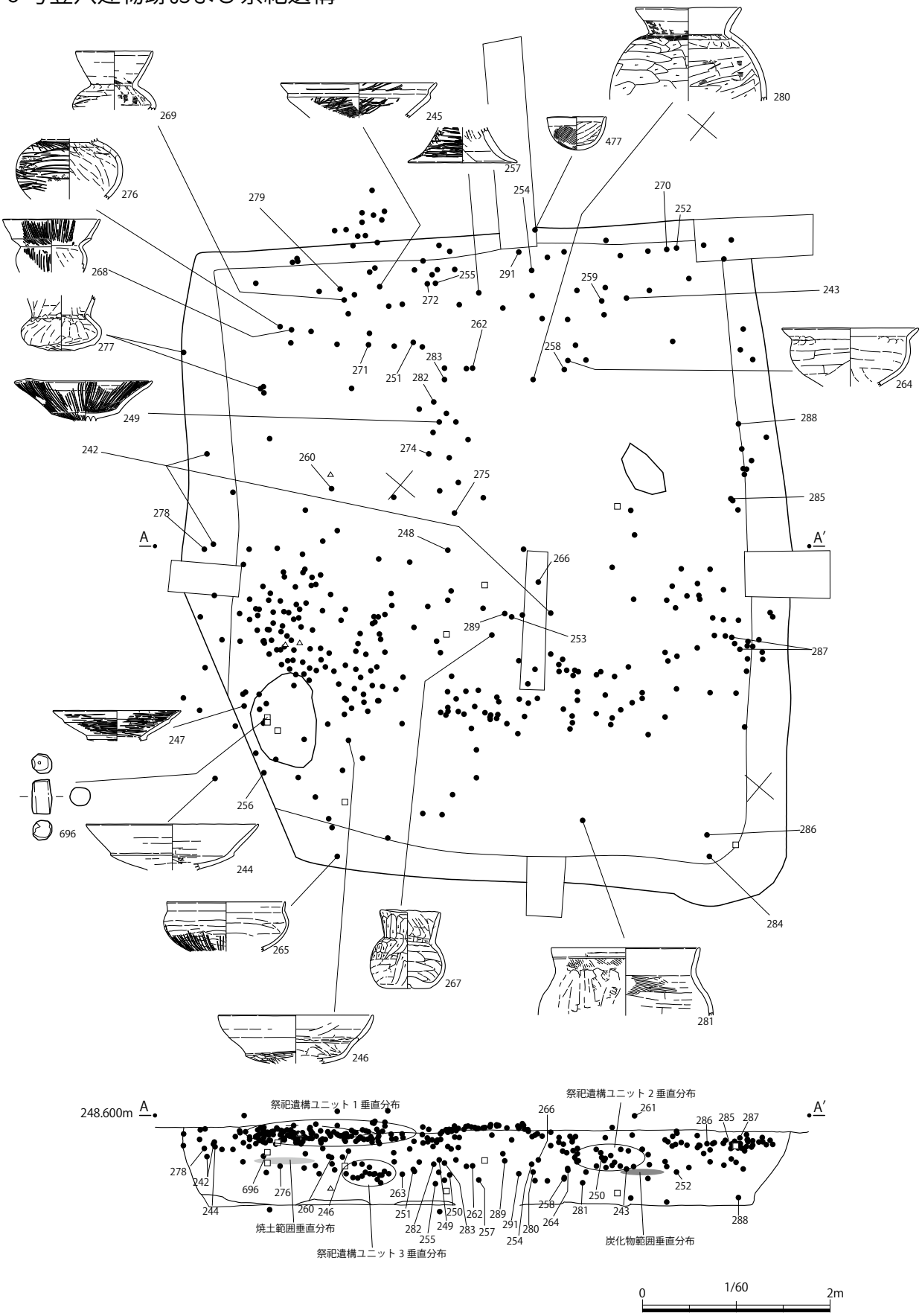
地山層
ｆ．灰色（5Y4/1） 砂質シルト層　しまり弱　粘性強　炭化物を多く含む
ｇ．灰オリーブ色（5Y5/2） 砂質シルト層　しまりなし　粘性強　炭化物を多く含む
ｈ．黒褐色（2.5Y3/2） シルト層　しまり強　粘性強　炭化物を含む
ｉ．灰色（5Y5/1） 細砂層　しまりなし　粘性なし
ｊ．灰オリーブ色　シルト層　しまり強　粘性強　包含物なし



1．黒褐色（10YR3/1）土　しまり弱　粘性弱　焼土溜まり
Φ0.5 ㎜程の粒子　焼土は赤褐色（2.5YR4/6）
2．黒褐色（10YR3/1）土　しまりやや強　粘性やや強）

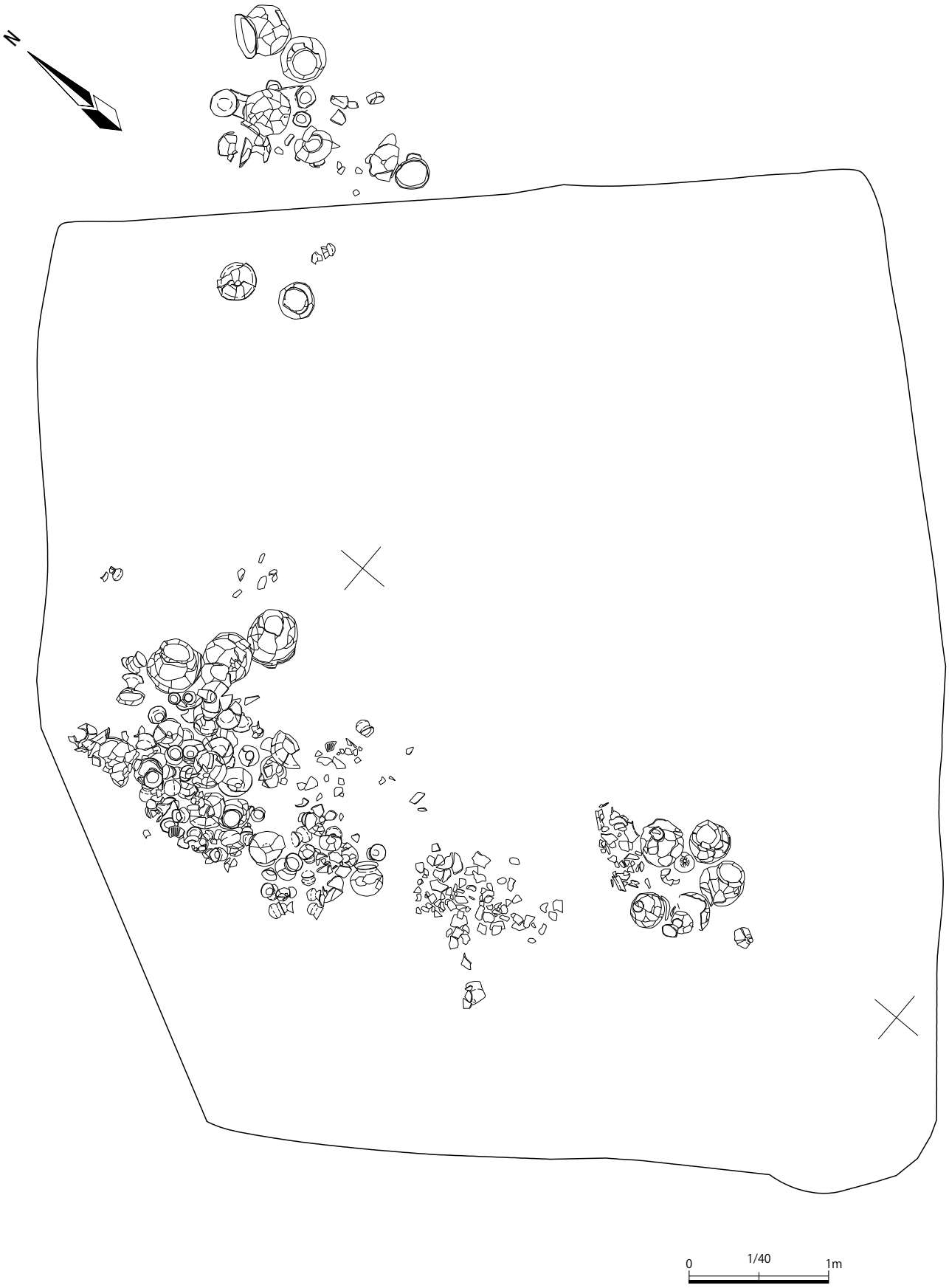
第 18 図　6 号竪穴建物跡・祭祀遺構　平・断面図（2）

6 号竪穴建物跡および祭祀遺構

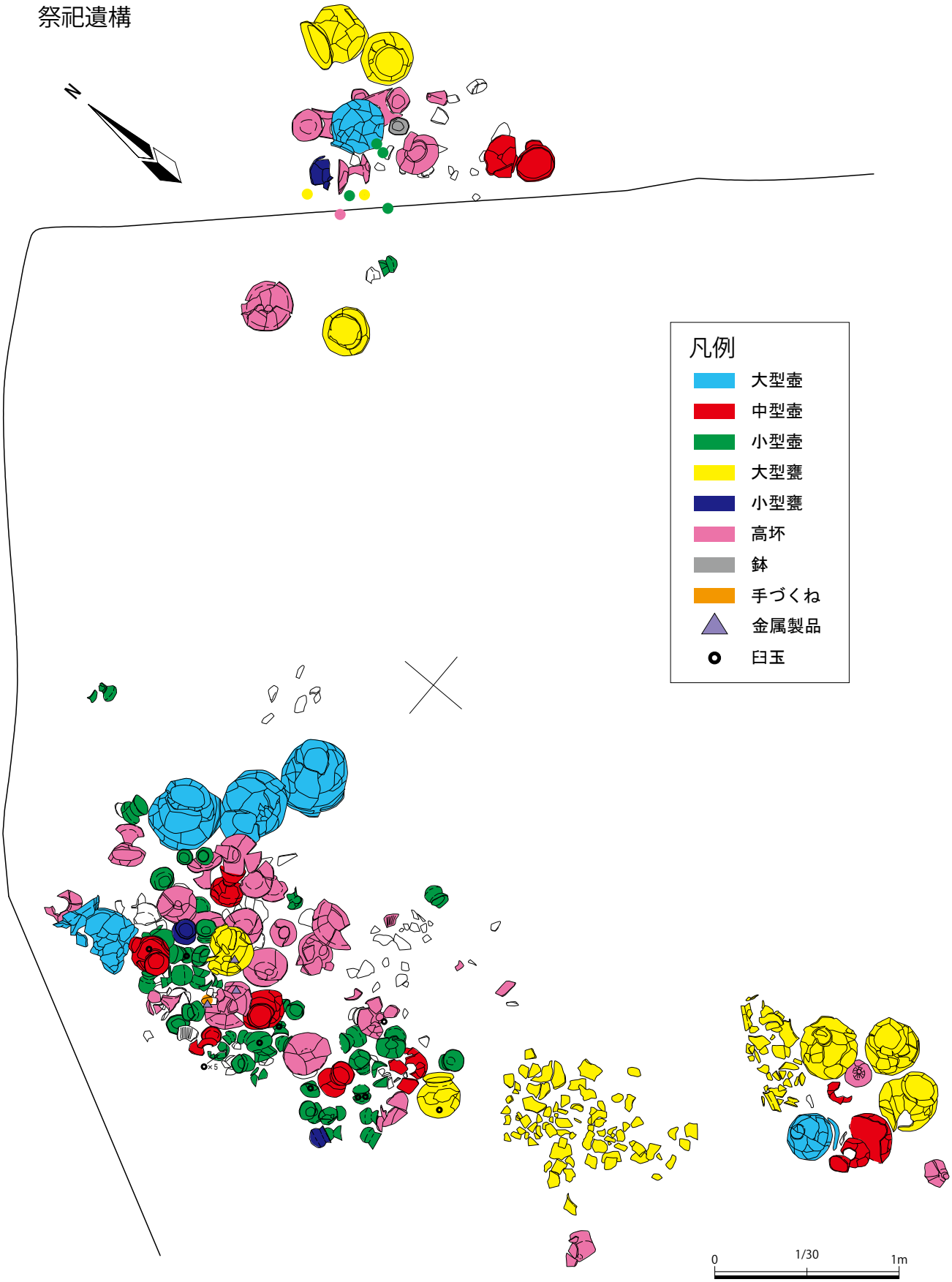


第 19 図　6 号竪穴建物跡・祭祀遺構　遺物分布図

祭祀遺構

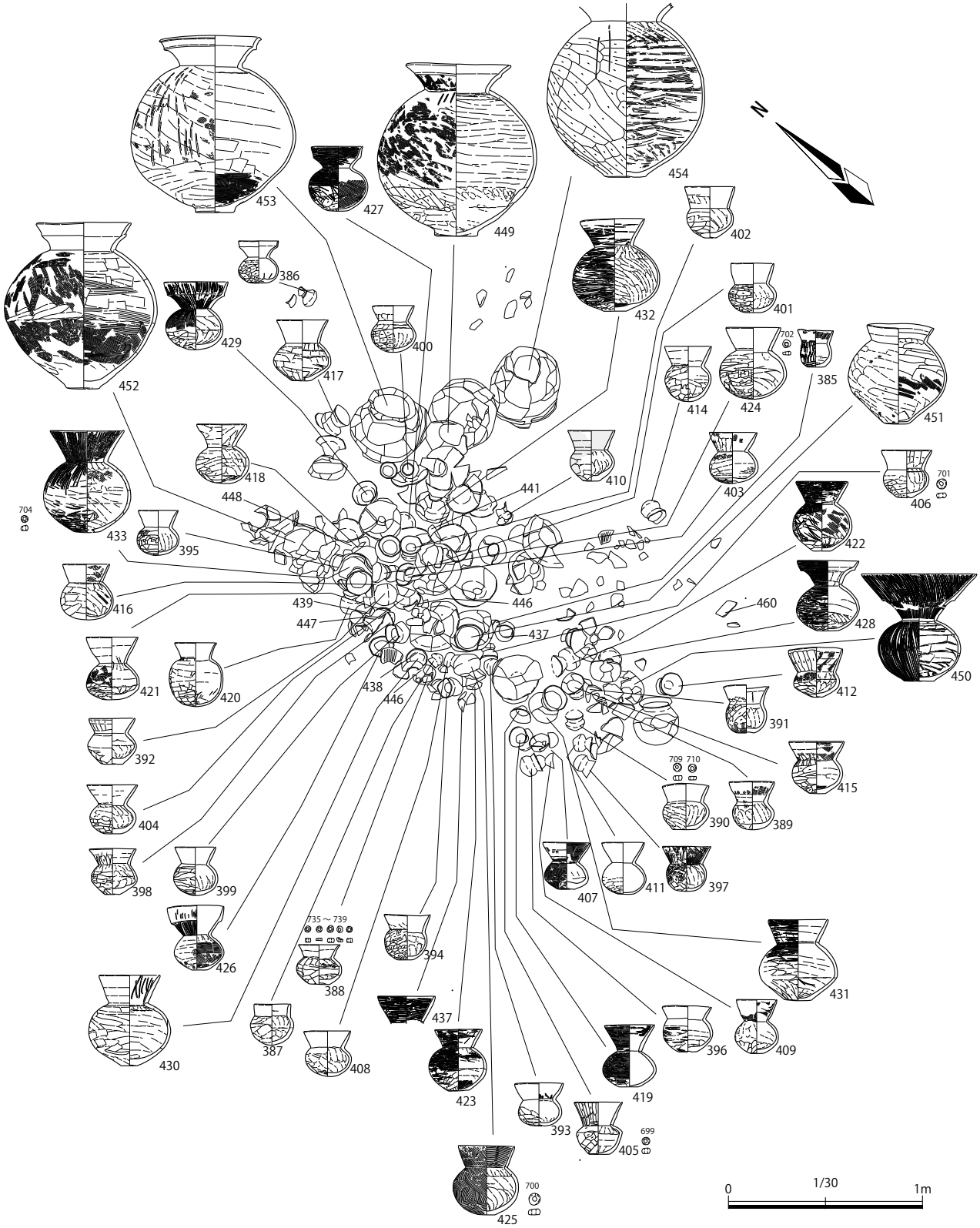


第 20 図　祭祀遺構　微細図（1）



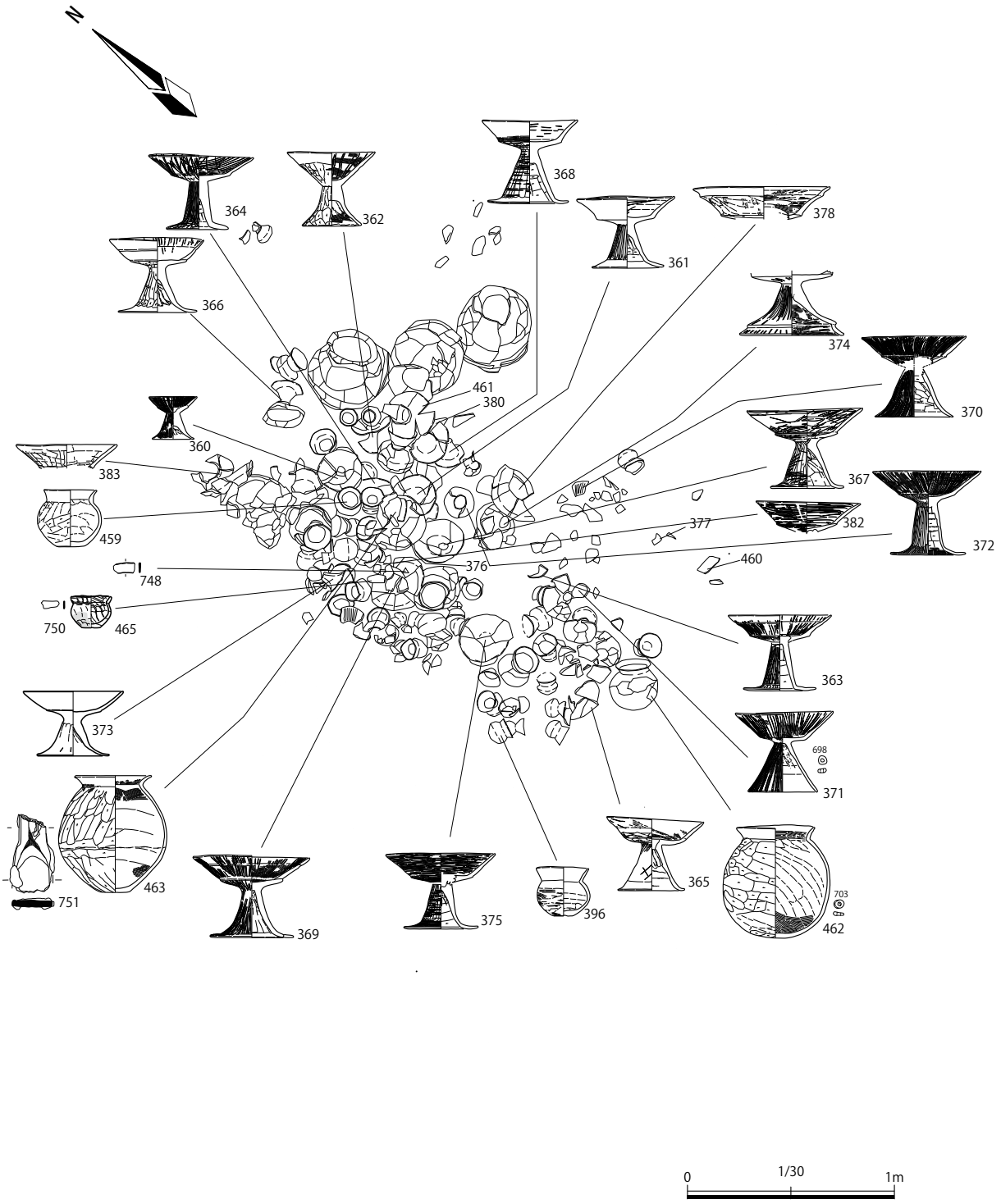
第 21 図　祭祀遺構　微細図（2）

祭祀遺構ユニット１

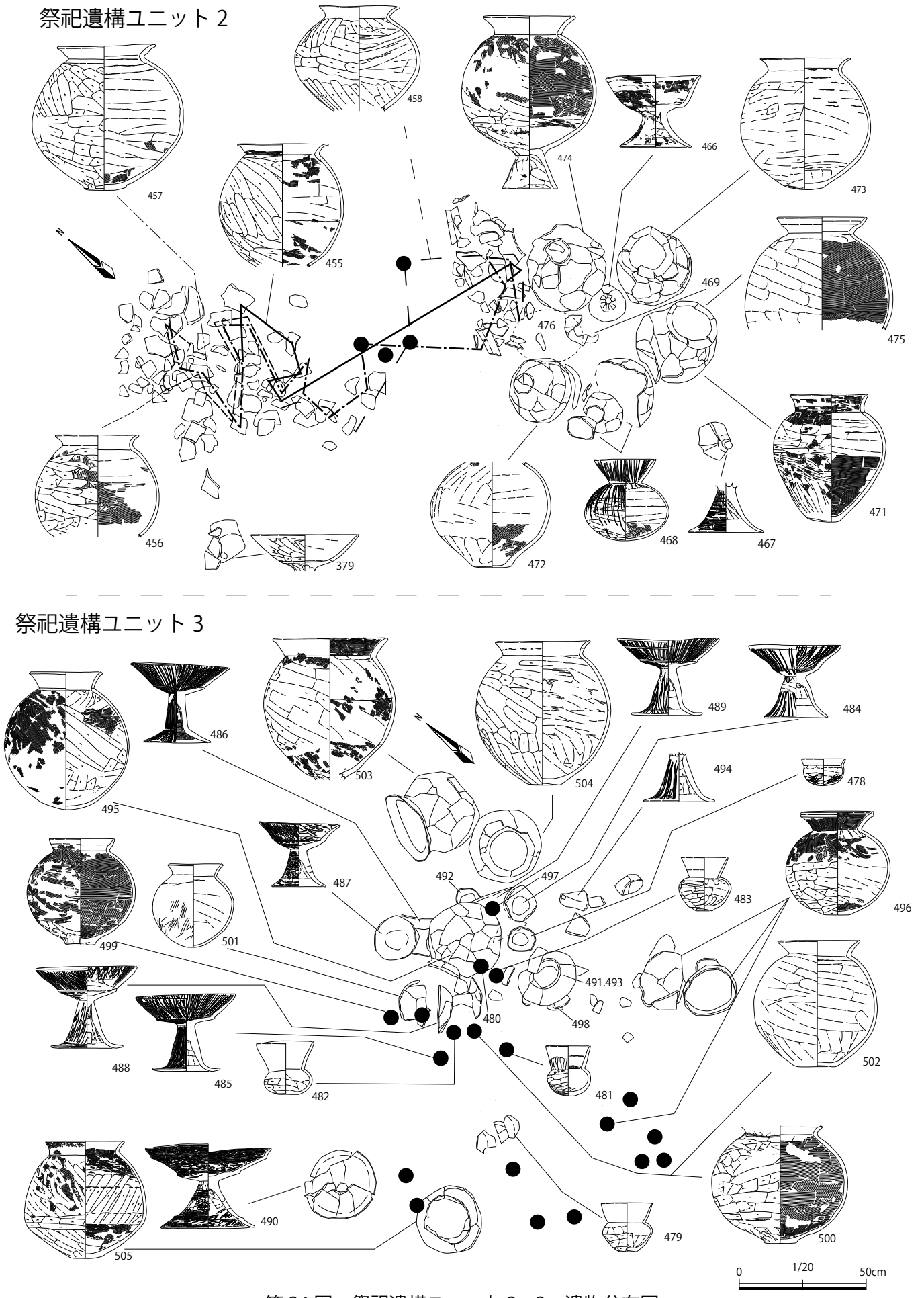


第 22 図　祭祀遺構ユニット１　遺物分布図（壺）

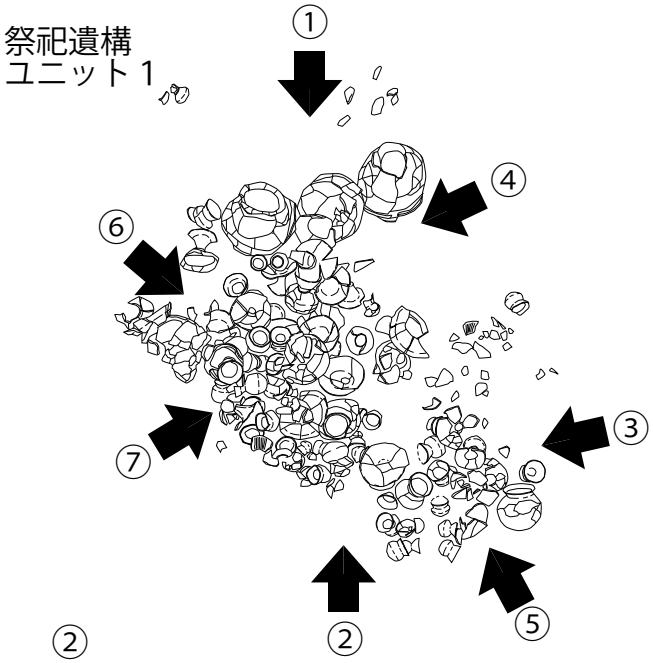
祭祀遺構ユニット１



第 23 図　祭祀遺構ユニット１　遺物分布図（高坏・甕等）



第 24 図　祭祀遺構ユニット 2・3　遺物分布図



①

②

③

④

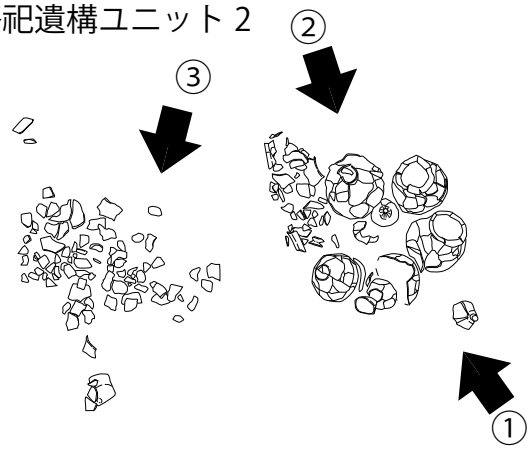
⑤

⑥

⑦

第 25 図　祭祀遺構ユニット１　出土状況

祭祀遺構ユニット 2

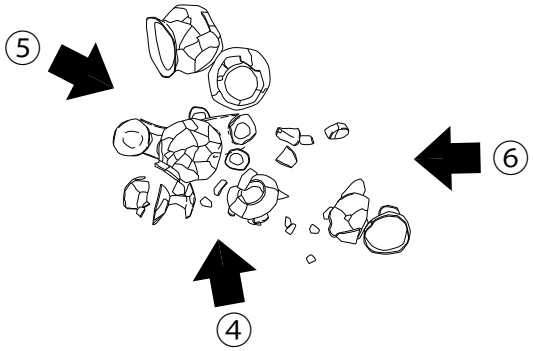


①

②

③

祭祀遺構ユニット 3



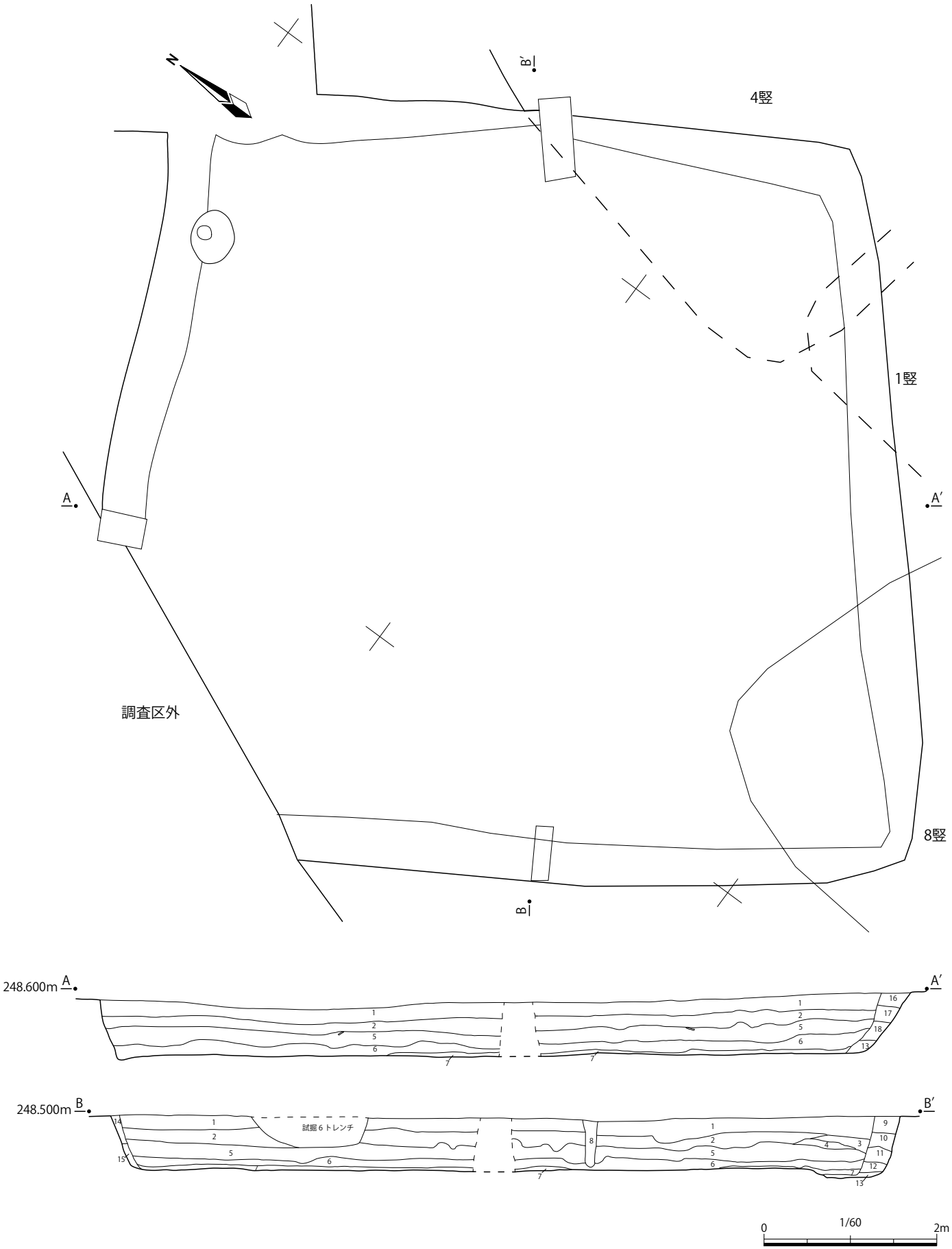
④

⑤

⑥

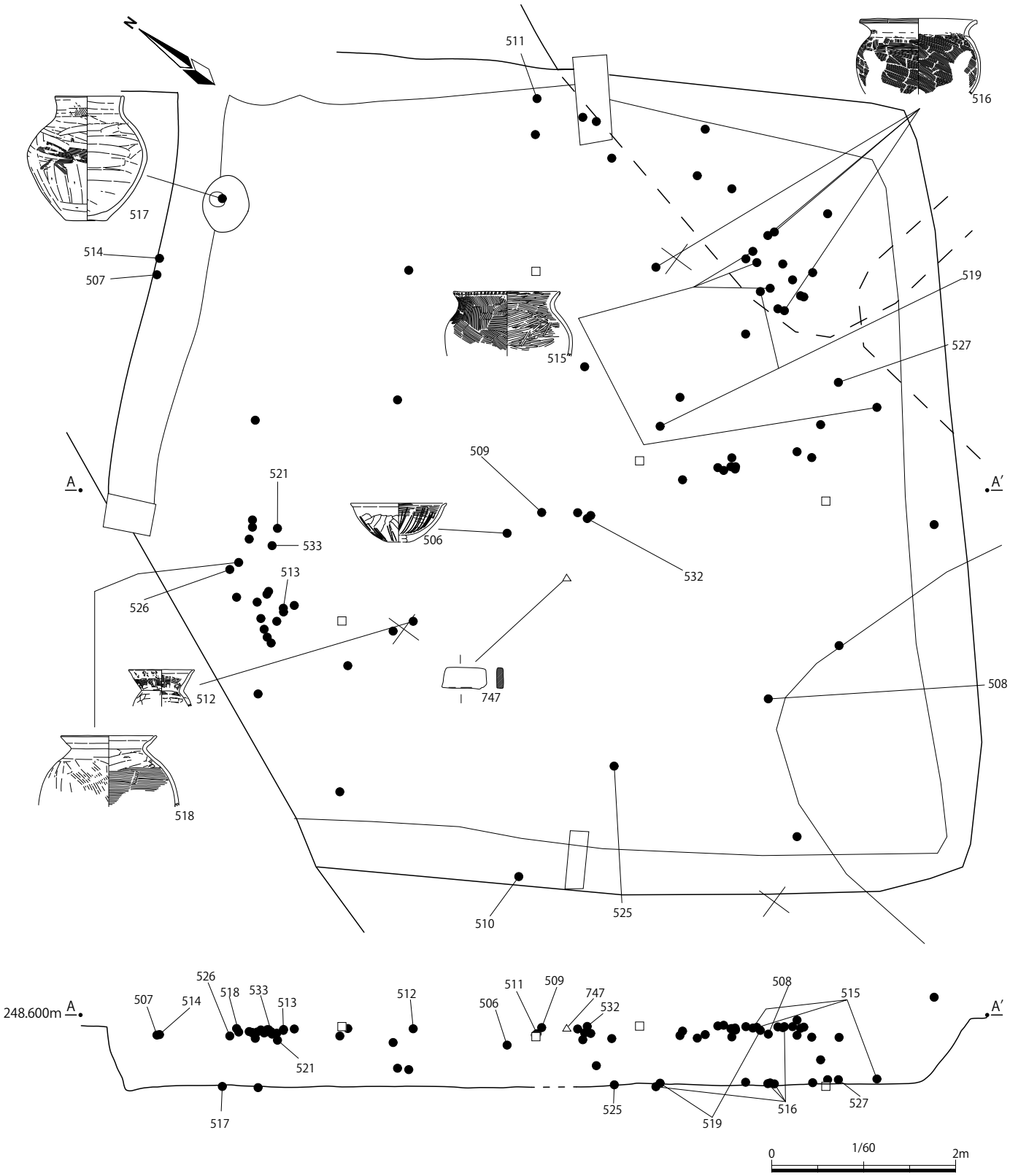
第 26 図　祭祀遺構ユニット 2・3 出土状況

7 号竪穴建物跡



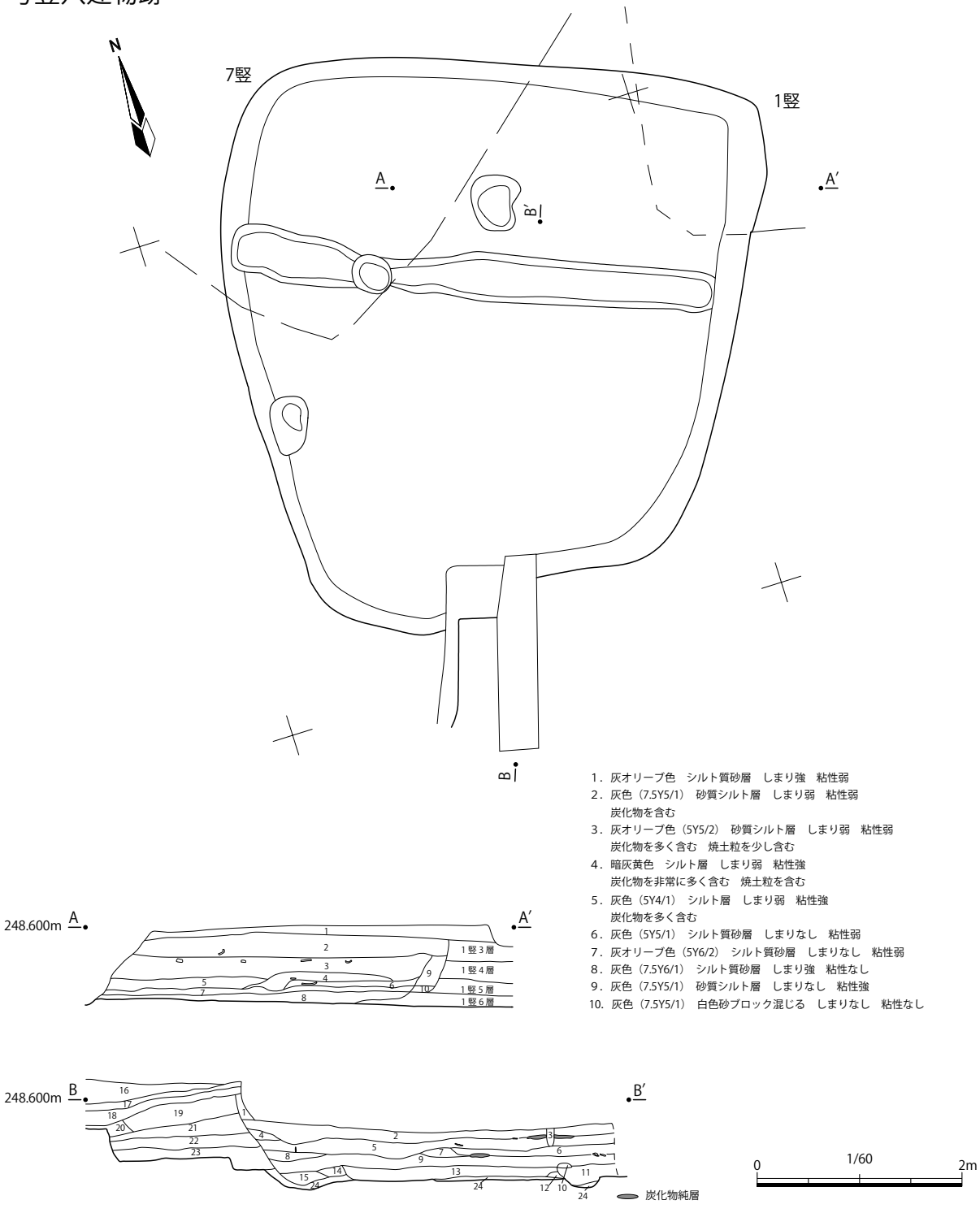
第 27 図　7 号竪穴建物跡　平・断面図

1．灰色（7.5Y5/1）　細砂質シルト　しまり弱　粘性強　炭化物粒多く含む
　焼土粒少し含む　植物遺体を含む
2．灰オリーブ色（5Y5/2）　シルト質細砂　しまり弱　粘性弱　炭化物粒微量に含む
3．灰色（5Y5/1）　シルト層　しまりなし　粘性強い
4．灰色（5Y6/1）　細砂層　しまり弱　粘性なし　暗灰色シルトブロック含む
5．灰色（10Y6/1）　細砂層　しまりなし　粘性なし　暗灰色シルトブロック含む
6．灰色（5Y6/1）　細砂層　しまり弱　粘性なし
　白色砂層と暗灰色シルトがまだらにみられる
7．灰オリーブ色（5Y4/2）　シルト層　しまり弱　粘性強
　白色砂層ブロックを含む　貼床か
8．黄灰色（2.5Y4/1）　砂質シルト層　しまり弱　粘性弱　炭化物多く含む
　ピットの覆土（７竪廃絶後）か？
9．灰色（7.5Y5/1）　シルト質細砂層　しまり弱　粘性弱　炭化物多く含む
10．灰オリーブ色（5Y5/2）　シルト層　しまりなし　粘性強　炭化物微量に含む
11．灰色（10Y6/1）　細砂層　しまりなし　粘性なし　暗灰色ブロックを含む
12．灰オリーブ色（5Y4/2）　砂質シルト層　しまりあり　粘性弱
13．オリーブ黒色（5Y3/2）　細砂層　しまりあり　粘性弱　地山層か
14．灰色（7.5Y5/1）　砂質シルト層　しまりなし　粘性強　炭化物を含む　包含層か
15．灰色（5Y4/1）　細砂層　しまり弱　粘性なし
16．灰色（7.5Y5/1）　細砂質シルト　しまり強　粘性強　炭化物粒・焼土少量含む
17．灰色（7.5Y5/1）　シルト質砂層　しまり強　粘性弱　炭化物少し含む
18．灰色（5Y6/1）　細砂層　白色砂混じる　しまり弱　粘性なし



第 28 図　7 号竪穴建物跡　遺物分布図

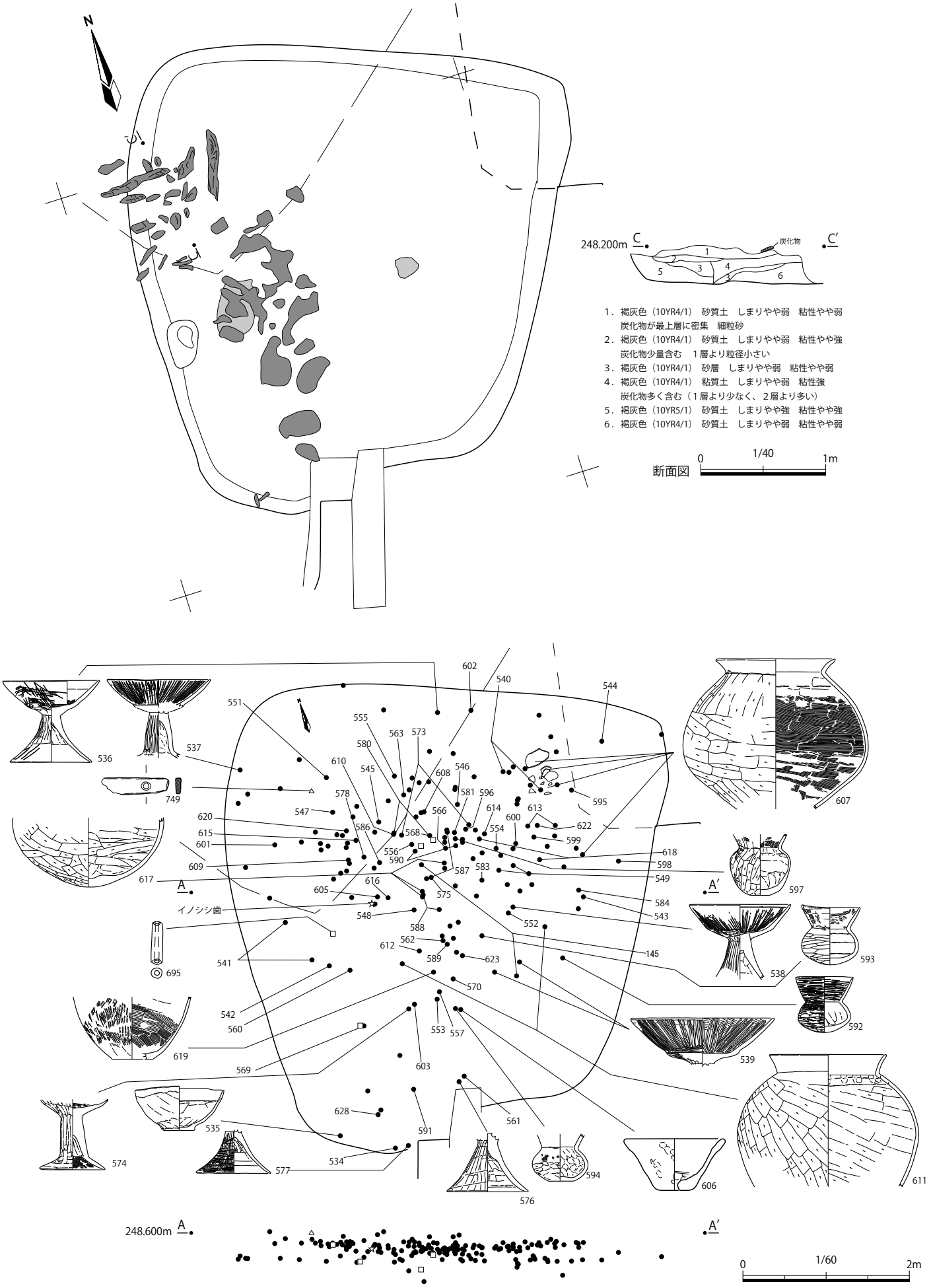
8 号竪穴建物跡



1．灰オリーブ色　シルト質砂層　しまり強　粘性弱
2．灰色（7.5Y5/1）　砂質シルト層　しまり弱　粘性弱
　炭化物を含む
3．灰オリーブ色（5Y5/2）　砂質シルト層　しまり弱　粘性弱
　炭化物を多く含む　焼土粒を少し含む
4．暗灰黄色　シルト層　しまり弱　粘性強
　炭化物を非常に多く含む　焼土粒を含む
5．灰色（5Y4/1）　シルト層　しまり弱　粘性強
　炭化物を多く含む
6．灰色（5Y5/1）　シルト質砂層　しまりなし　粘性弱
7．灰オリーブ色（5Y6/2）　シルト質砂層　しまりなし　粘性弱
8．灰色（7.5Y6/1）　シルト質砂層　しまり強　粘性なし
9．灰色（7.5Y5/1）　砂質シルト層　しまりなし　粘性強
10．灰色（7.5Y5/1）　白色砂ブロック混じる　しまりなし　粘性なし

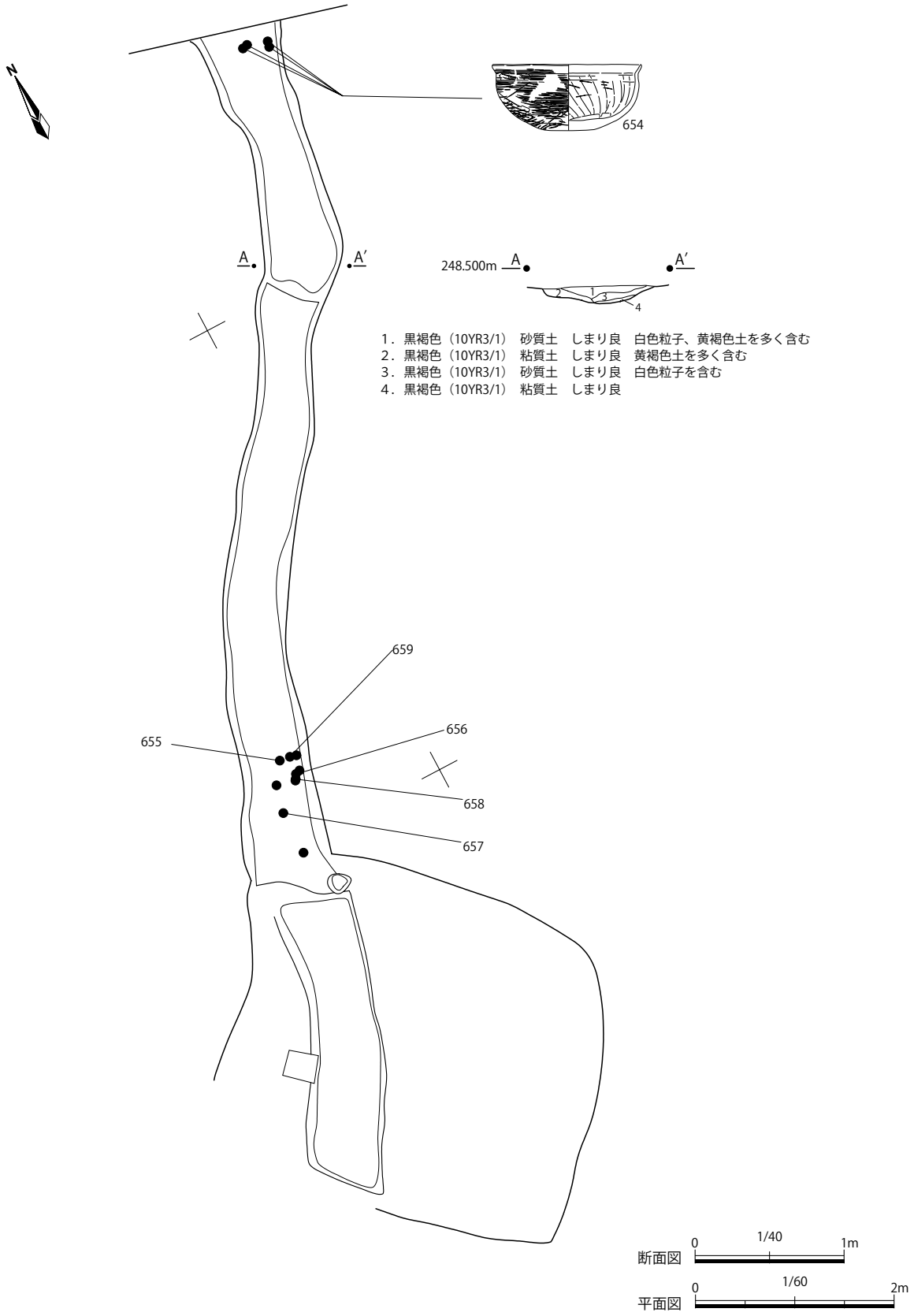
1．灰色（5Y5/1）　シルト質細砂層　しまり弱　粘性弱　炭化物を少し含む
2．灰オリーブ色（7.5Y5/2）　砂質シルト層　しまり強　粘性強　炭化物を多く含む　焼土粒を少し含む
3．灰白色（7.5Y7/2）　細砂層　しまりなし　植物痕含む
4．灰色（5Y5/1）　砂質シルト層　しまり弱　粘性弱　炭化物（3㎝長）を含む　焼土粒を含む
5．灰色（7.5Y4/1）　シルト質砂層　しまり弱　粘性弱　炭化物を非常に多く含む
　焼土を多く含む　遺物が多い
6．オリーブ黒色（5Y4/2）　シルト層　しまり弱　粘性強
　灰白色砂層ブロック（Φ～５㎝）を含む　炭化物・焼土を含む
7．オリーブ灰色（2.5GY5/1）　シルト質砂層　しまり弱　粘性弱
　白色砂ブロック（～Φ２㎝以下）を多く含む
8．灰色（10Y4/1）　細砂層　しまりなし　粘性なし　白色粗砂ブロックを含む　炭化物わずかに含む
9．オリーブ灰色（5GY6/1）　細砂層　しまり弱　粘性弱　炭化物・焼土を少し含む
　白色砂ブロック（Φ２㎝以下）を含む
10．明オリーブ灰色（2.5GY7/1）　細砂層　しまりなし　粘性なし　灰色ブロック（Φ５㎜大）を５０％含む
11．オリーブ灰色（5GY6/1）　細砂層　しまり弱　粘性なし　白色砂ブロックを含む
12．灰色（10Y6/1）　細砂層　しまりなし　粘性なし　褐灰色ブロック（Φ３㎝）を含む
13．灰色（5Y5/1）　砂質シルト層　しまり弱　粘性弱　灰白色ブロック（Φ１㎝以下）を含む
　炭化物少し含む
14．オリーブ灰色（2.5GY6/1）　細砂層　しまりなし　粘性なし　炭化物・焼土を多く含む
15．オリーブ黒色（7.5Y3/2）　シルト層　しまり弱　粘性弱　壁溝か
16．灰色（7.5Y6/1）　シルト質砂層　しまり強　粘性弱
　明緑灰シルトブロック（～Φ５㎝）を含む　炭化物を少し含む
17．明緑灰色（10GY7/1）　細砂層　しまりなし　粘性弱　灰色シルトブロック（Φ５㎜）を含む
18．オリーブ灰色（2.5GY5/1）　シルト質砂層　しまり弱　粘性強
　緑灰色砂層ブロック（～Φ１㎝）を含む
19．灰色（7.5Y5/1）　砂質シルト層　しまり強　粘性強　炭化物を含む
20．灰色（7.5Y5/1）　砂質シルト層　しまり弱　粘性強
21．灰オリーブ色（7.5Y6/2）　シルト質砂層　しまり弱　粘性弱　炭化物を少し含む　植物痕を含む
22．灰色（7.5Y5/1）　細砂層　しまり弱　粘性弱　炭化物わずかに含む
23．暗オリーブ灰色（2.5GY4/1）　細砂層　しまり強　粘性弱
24．オリーブ黒色（5Y3/2）　粘土層　しまり強　粘性強

第 29 図　8 号竪穴建物跡　平・断面図



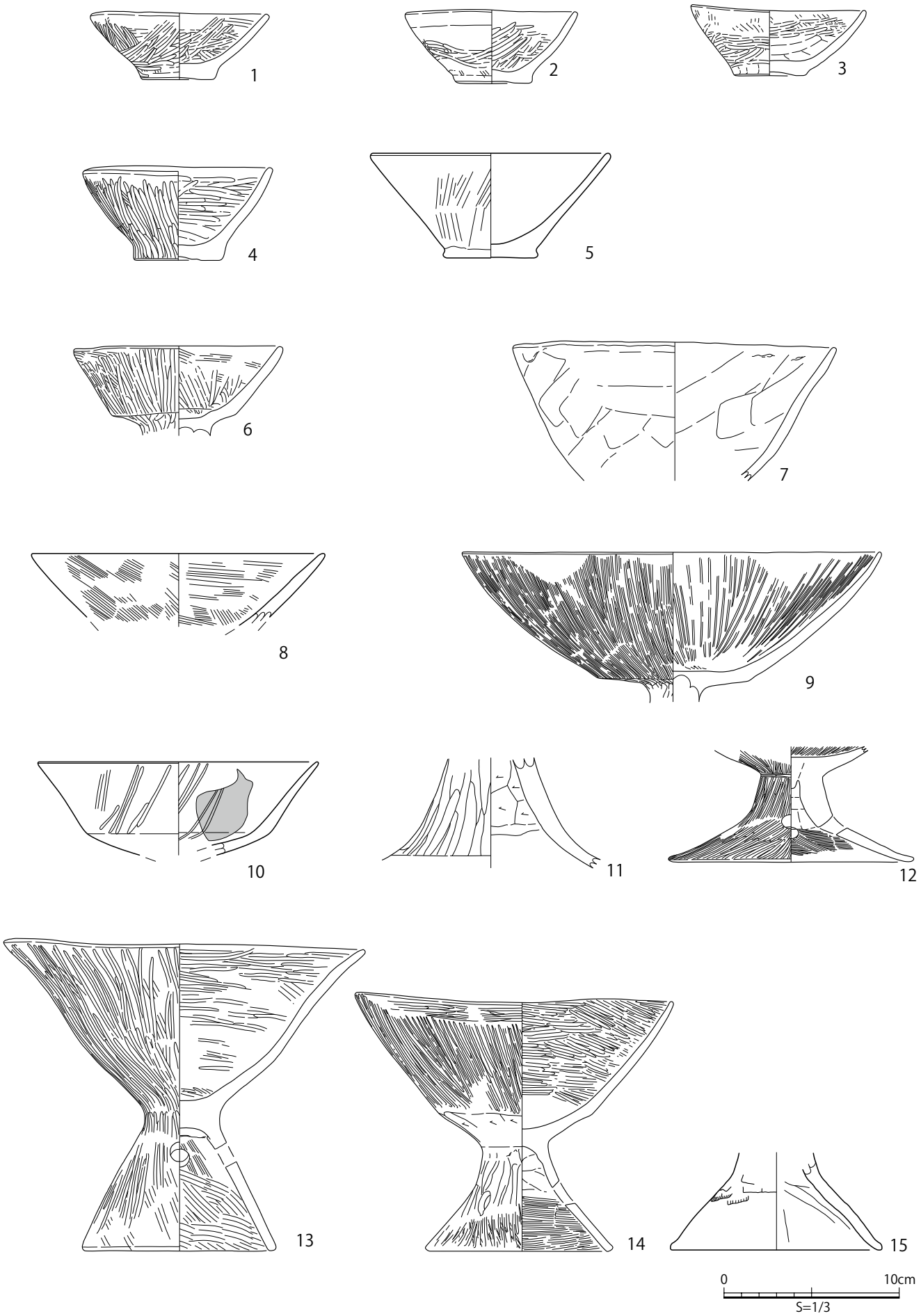
第 30 図 8 号竪穴建物跡 炭化材・焼土範囲及び遺物分布図

15 号溝状遺構

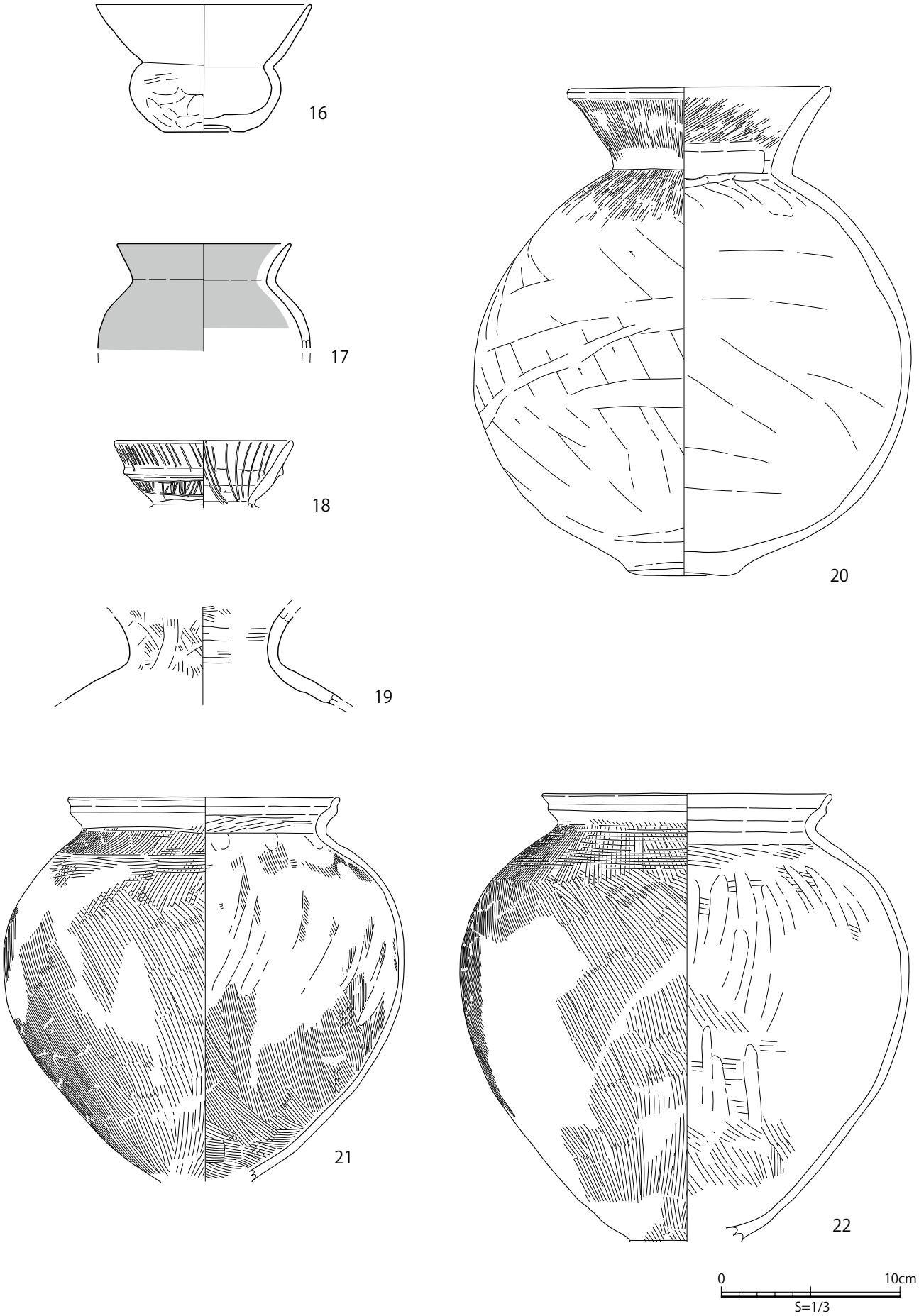


第31図　15号溝状遺構

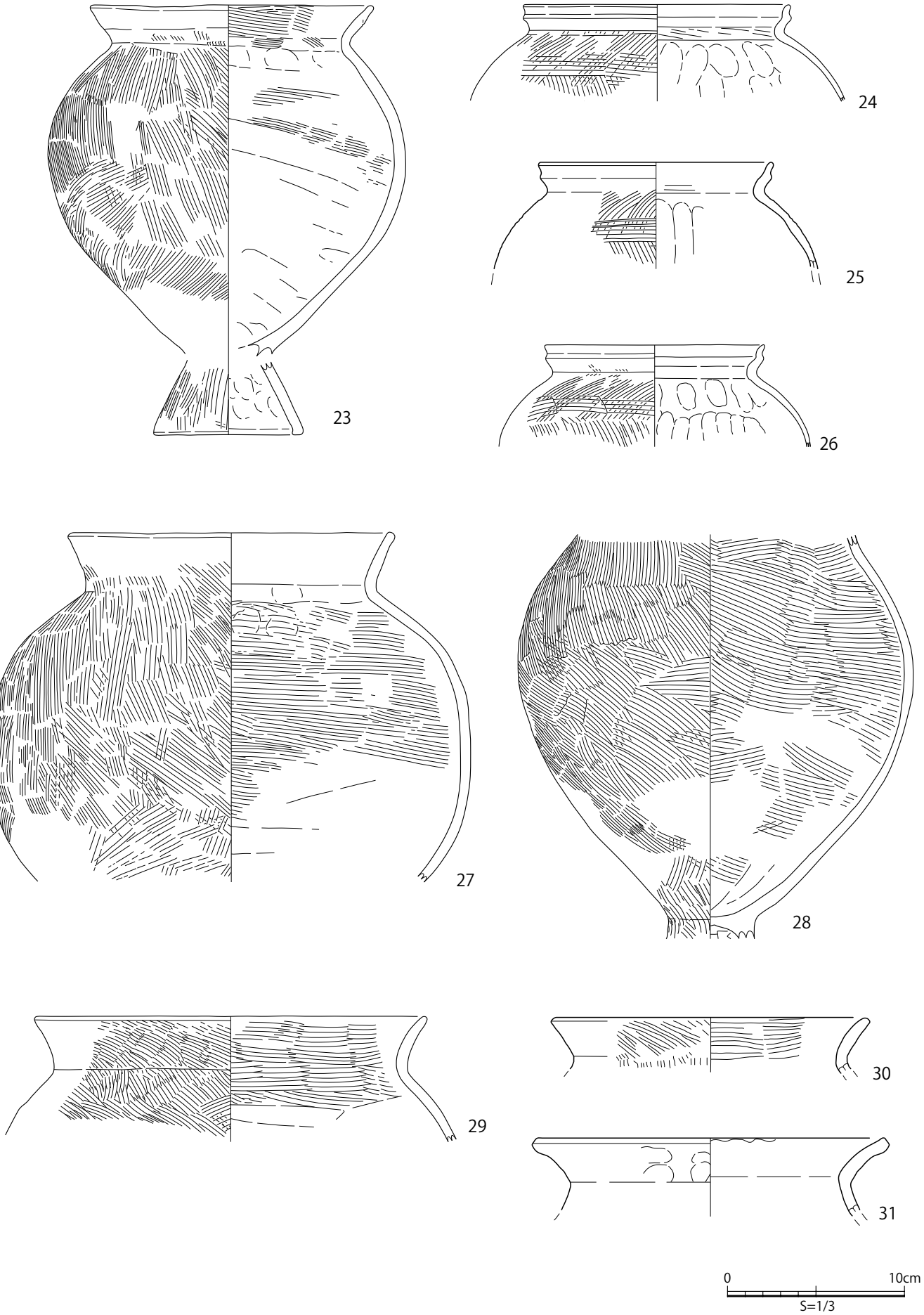
1 号竪穴建物跡



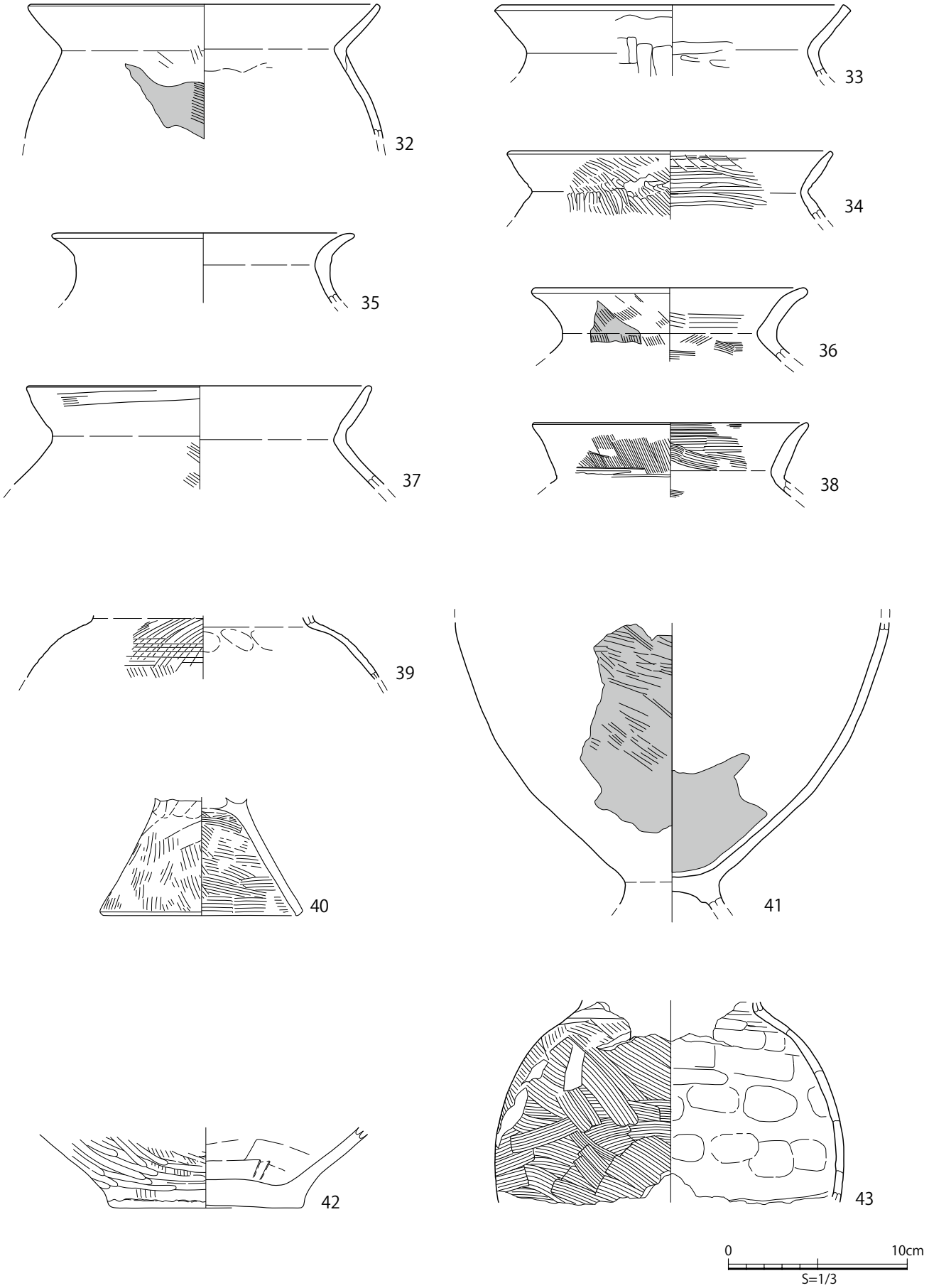
第 32 図　1 号竪穴建物跡出土遺物（1）



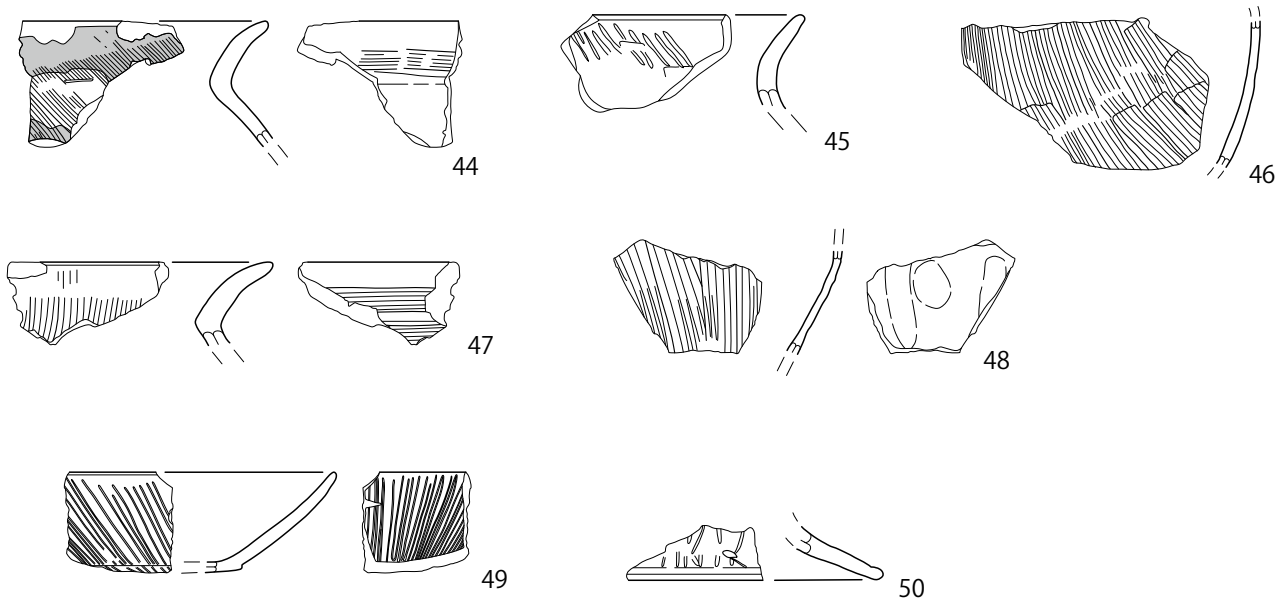
第 33 図　1 号竪穴建物跡出土遺物（2）



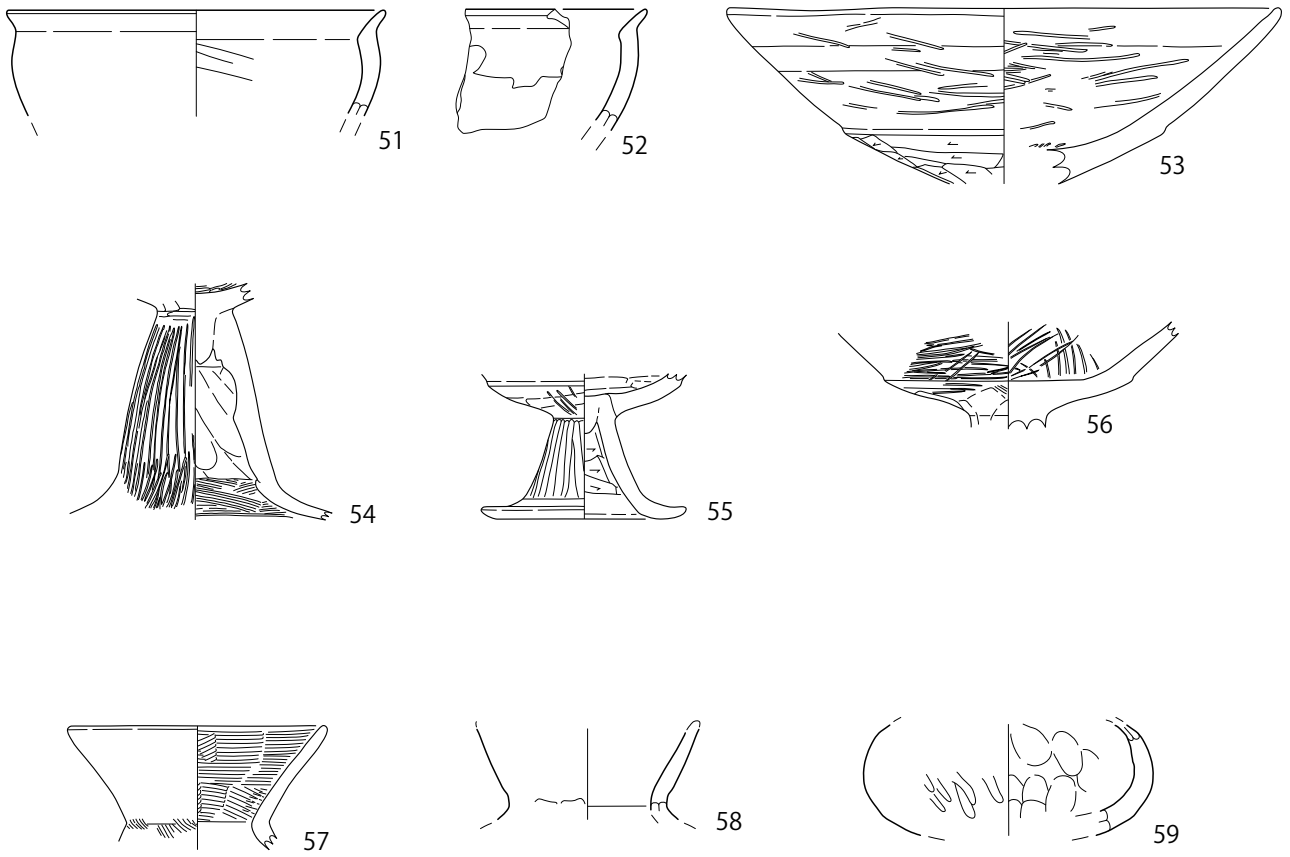
第 34 図　1 号竪穴建物跡出土遺物（3）

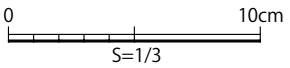


第 35 図　1 号竪穴建物跡出土遺物（4）

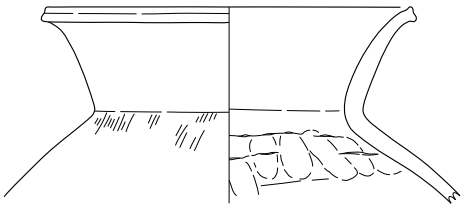


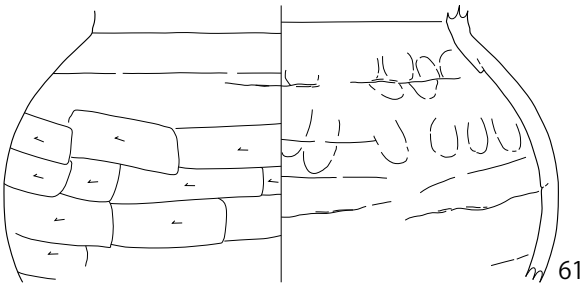
2 号竪穴建物跡

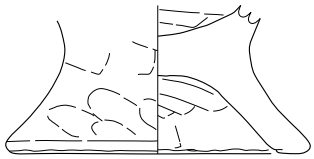


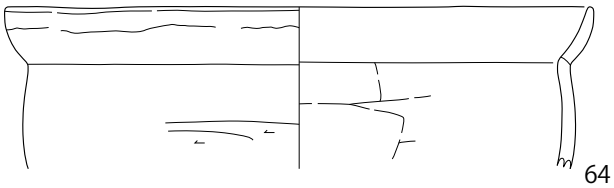


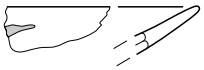
第 36 図　1 号竪穴建物跡（5）・2 号竪穴建物跡出土遺物（1）



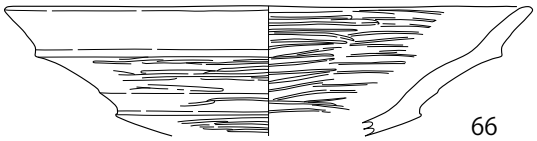


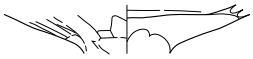


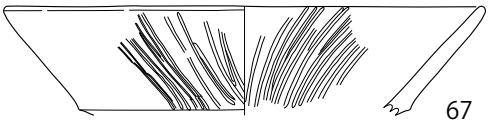


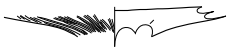


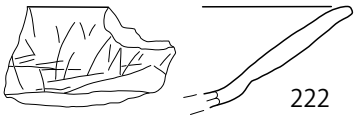
3 号竪穴建物跡

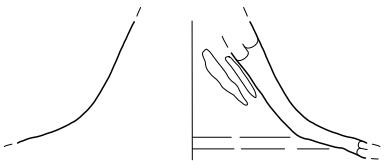


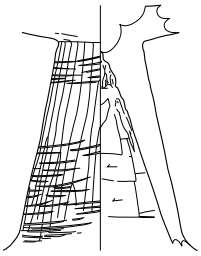


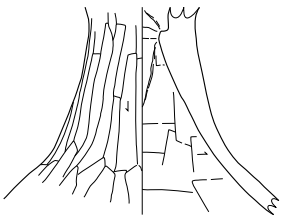


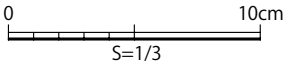




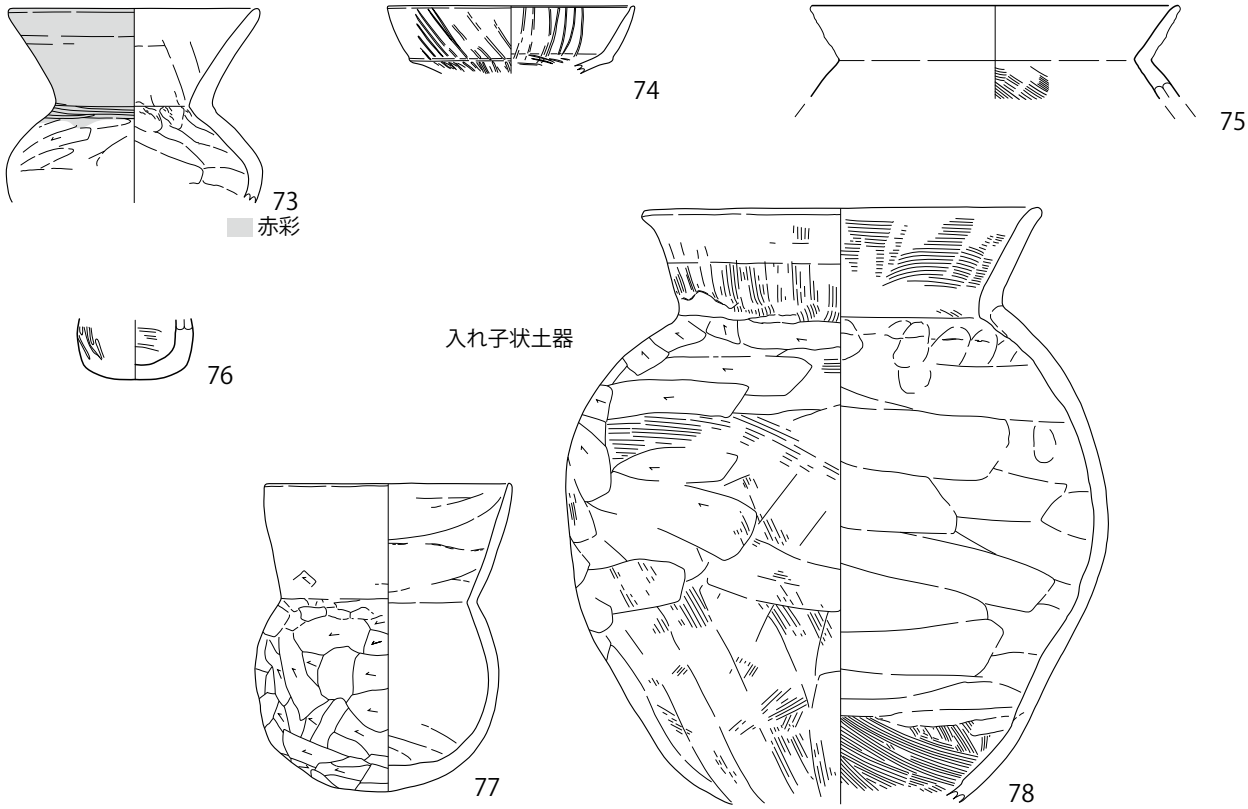




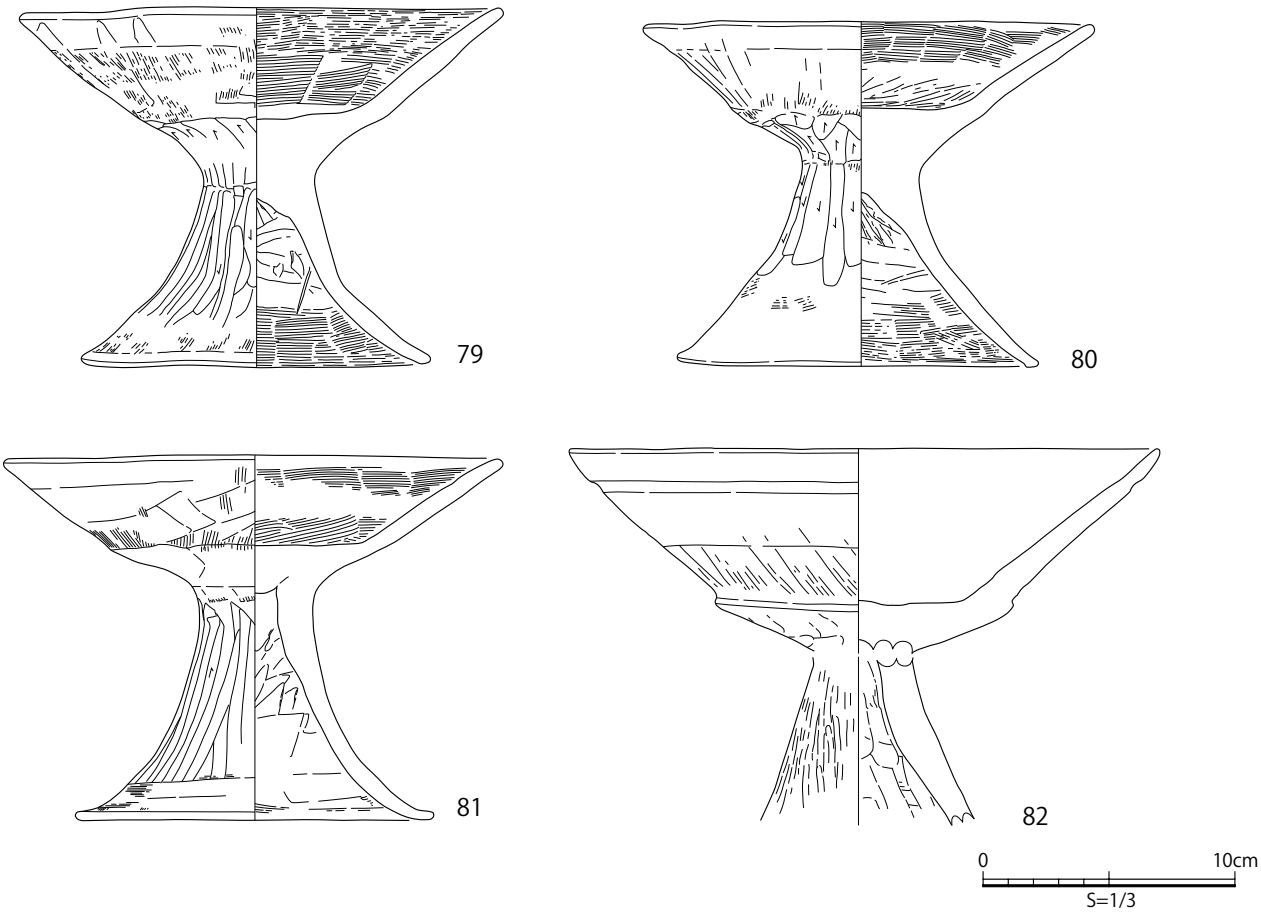




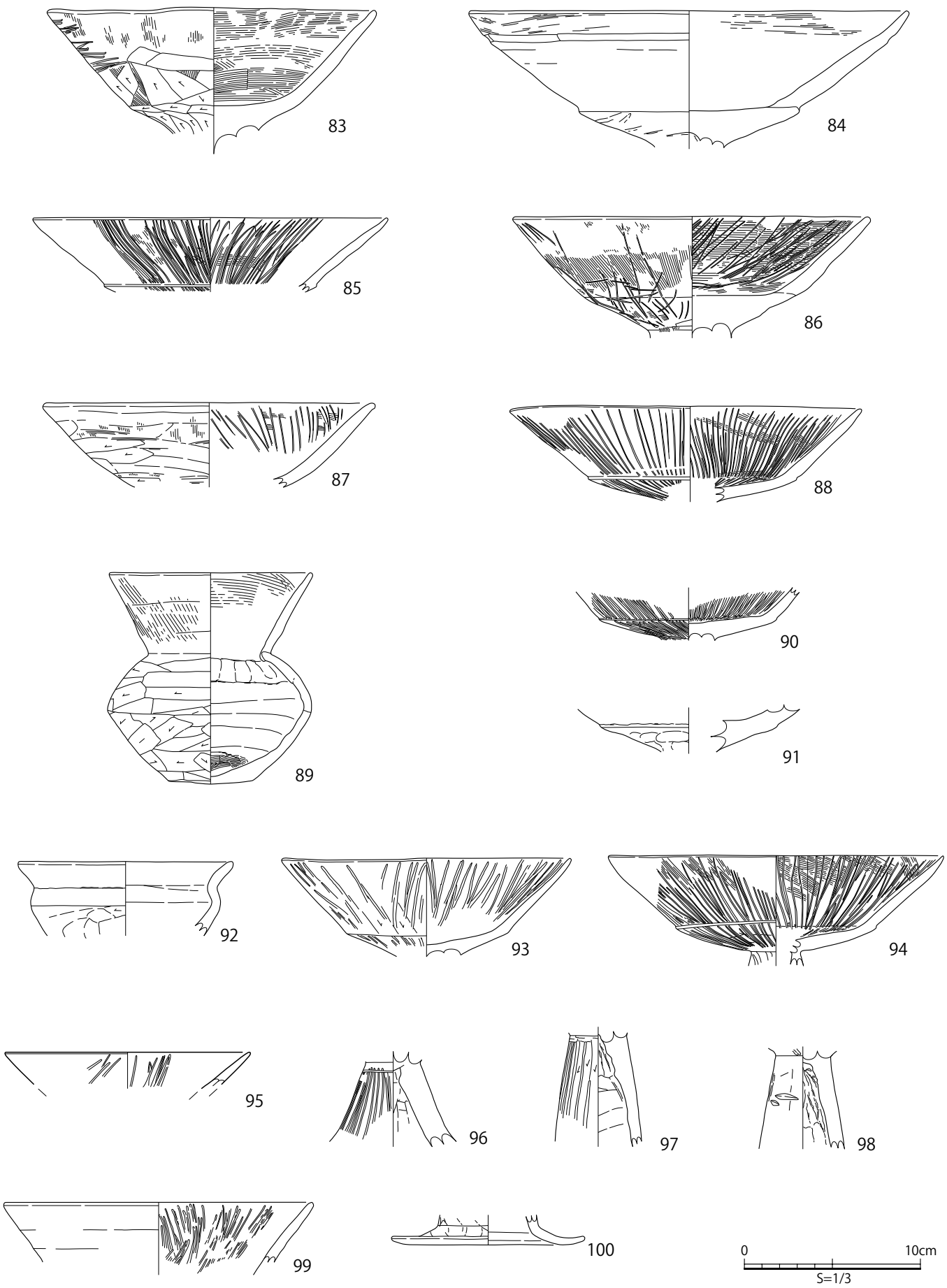
第 37 図　2 号竪穴建物跡（2）　3・4 号竪穴建物跡出土遺物（1）



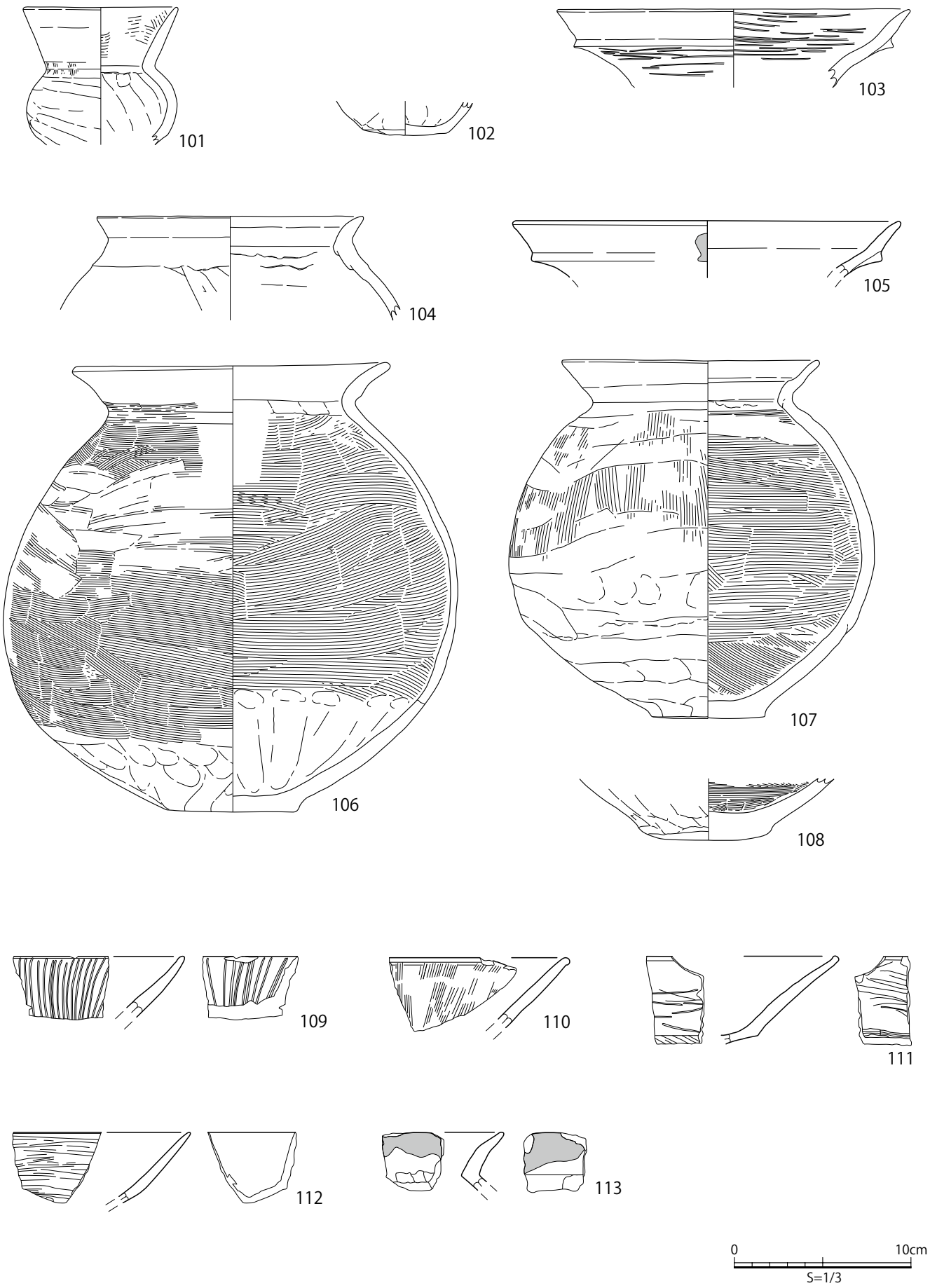
3・4 竪重複範囲



第 38 図　3・4 号竪穴建物跡（2）

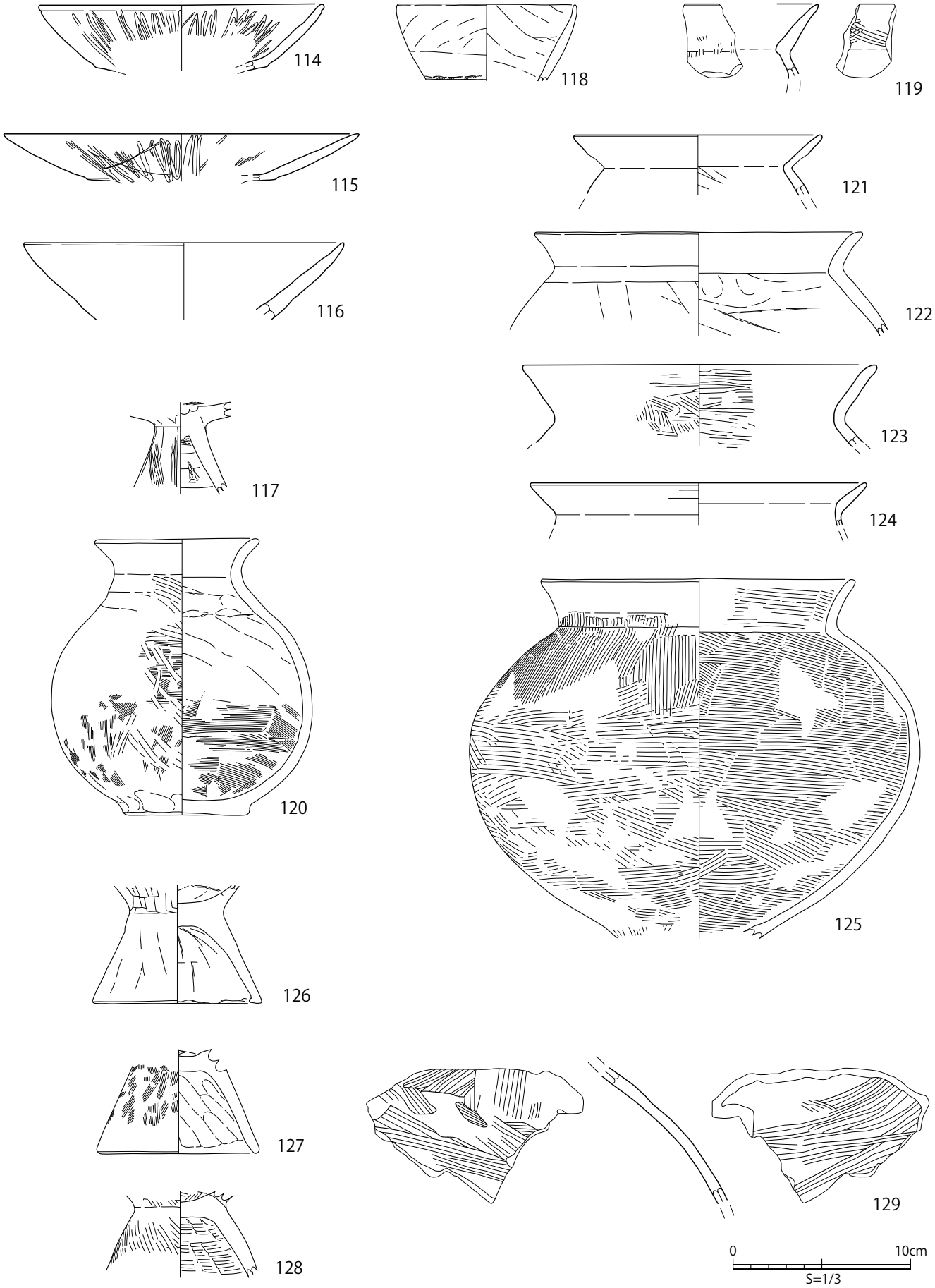


第 39 図　3・4 号竪穴建物跡（3）



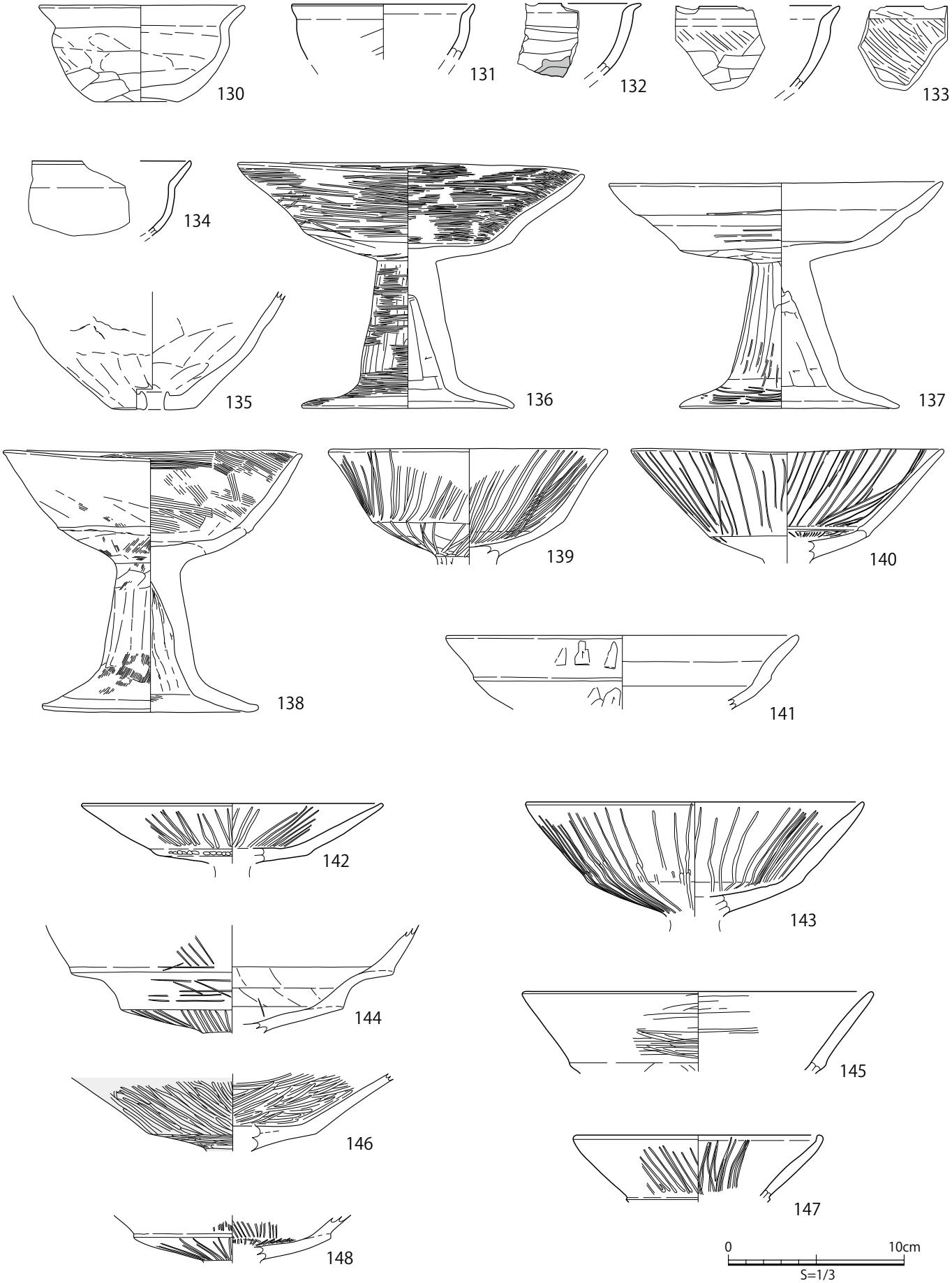
第 40 図　3・4 号竪穴建物跡（4）

4 号竪穴建物跡

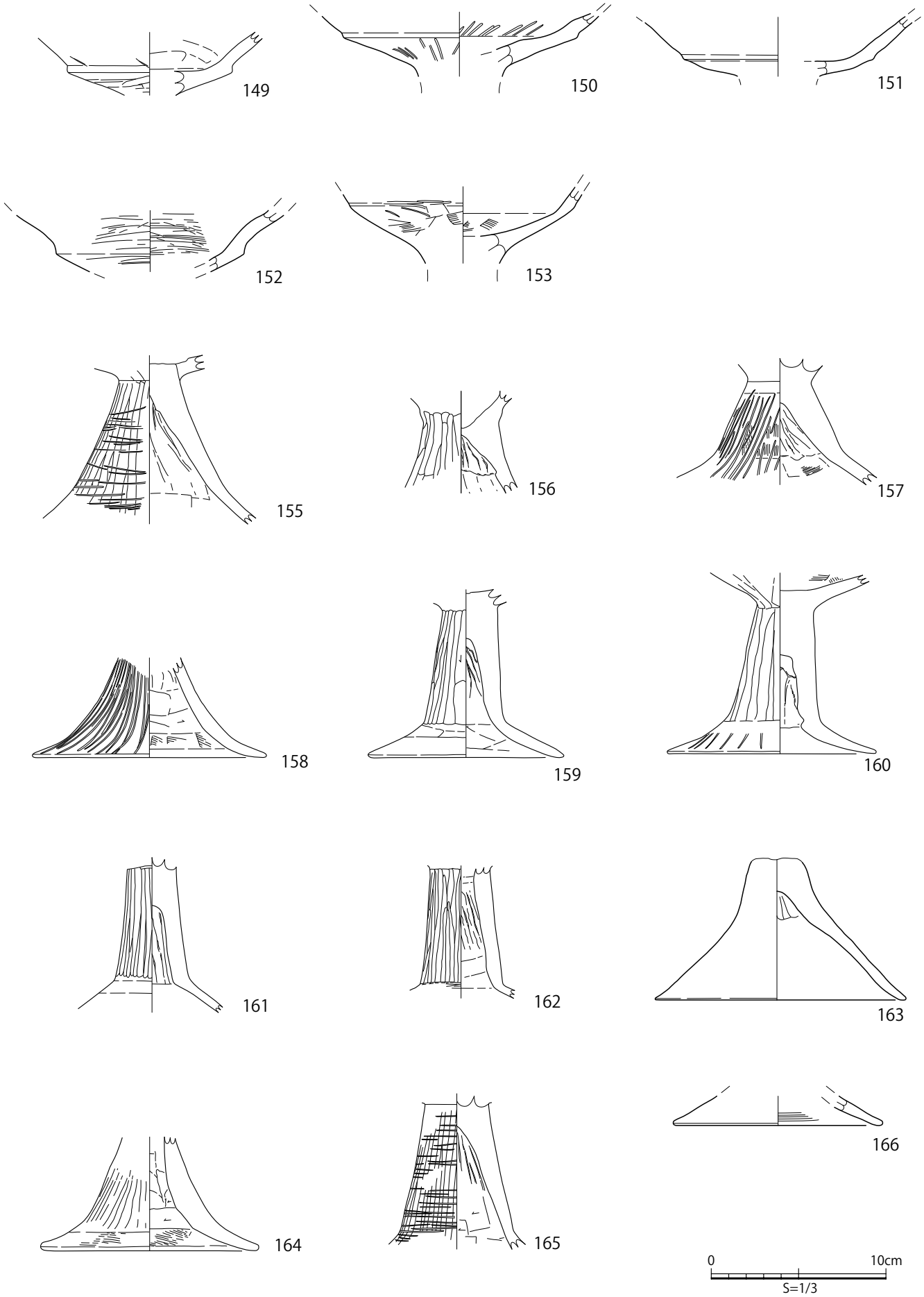


第 41 図　3・4 号竪穴建物跡（5）

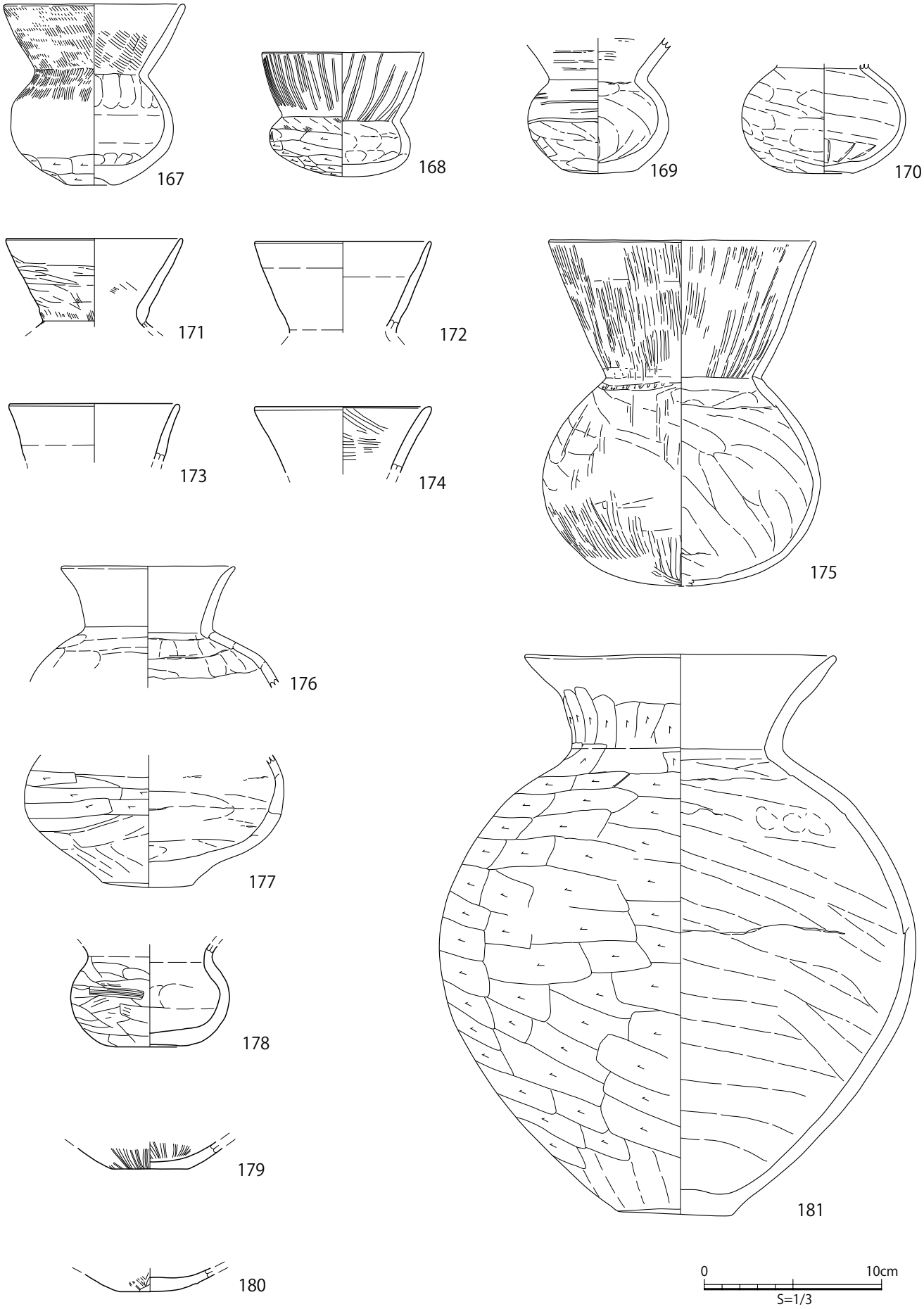
5 号竪穴建物跡



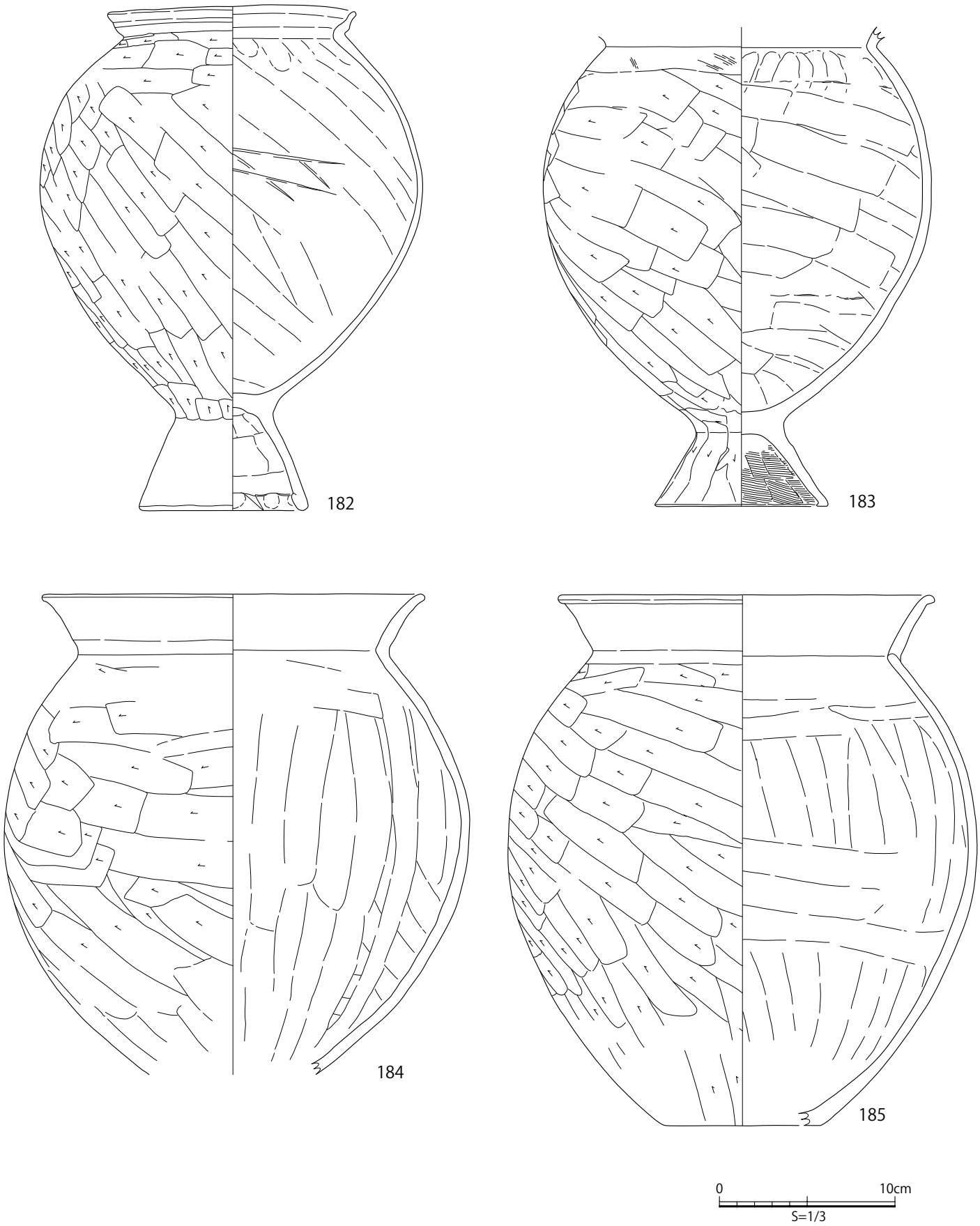
第 42 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（1）



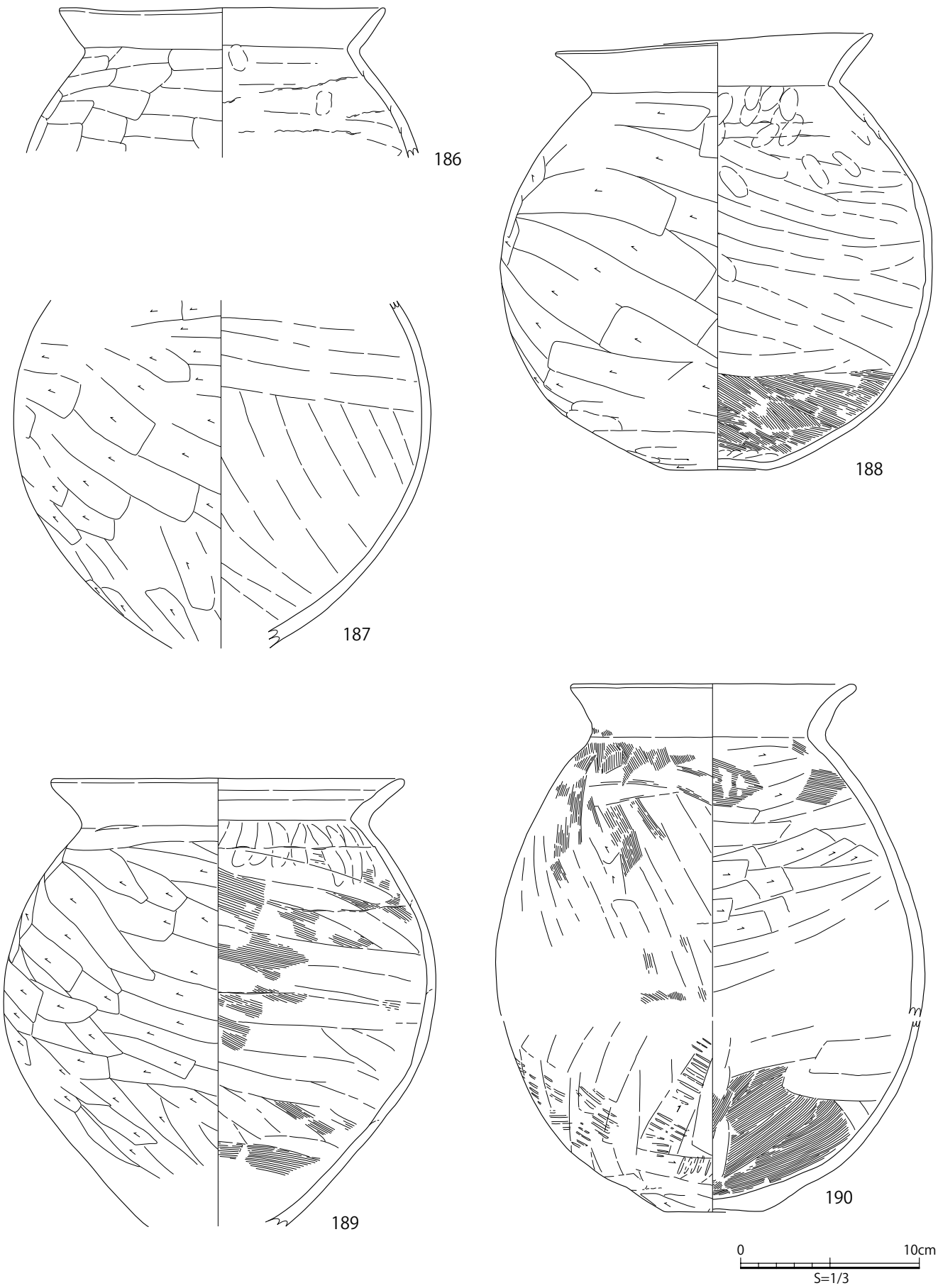
第 43 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（2）



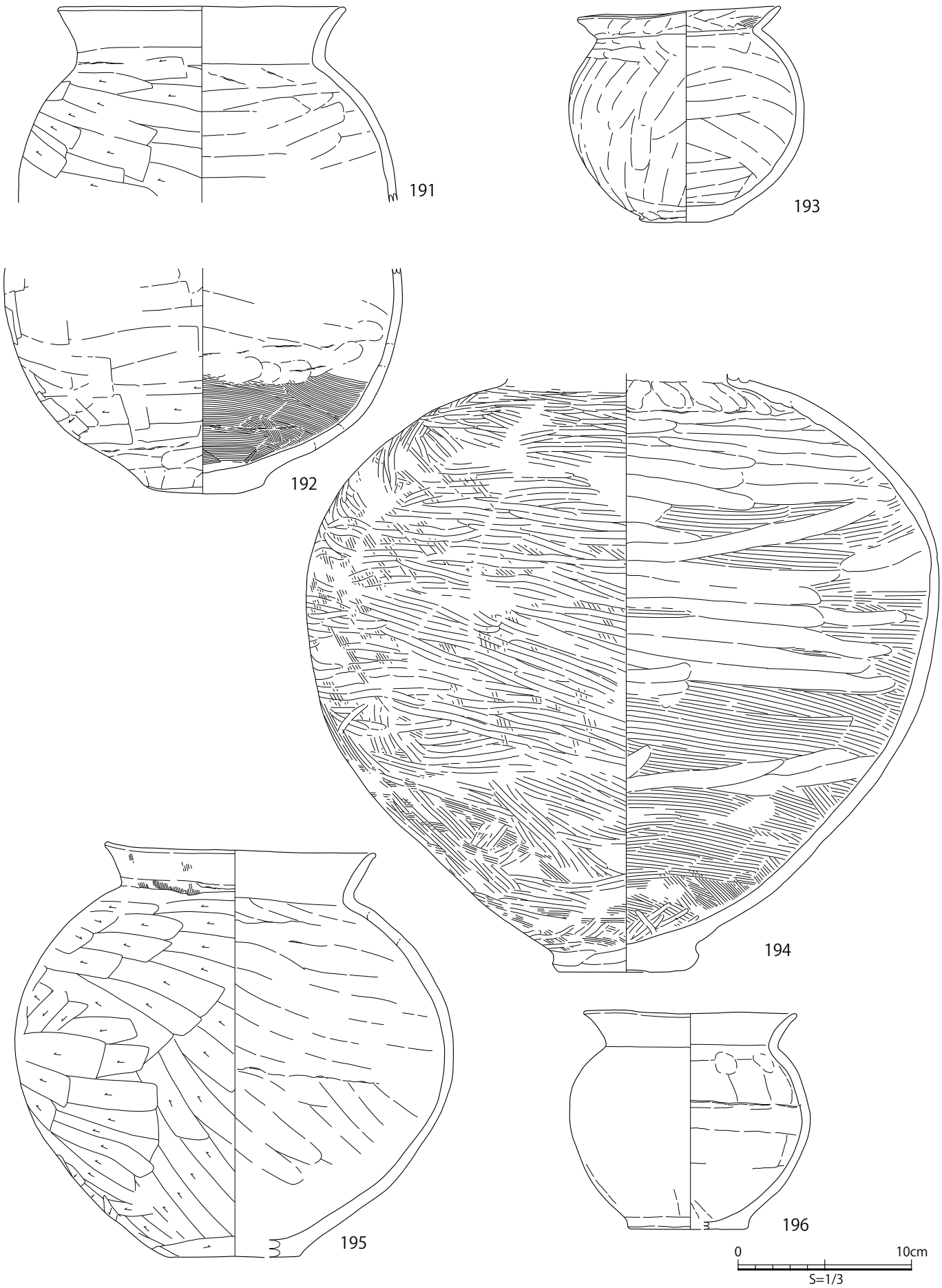
第 44 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（3）



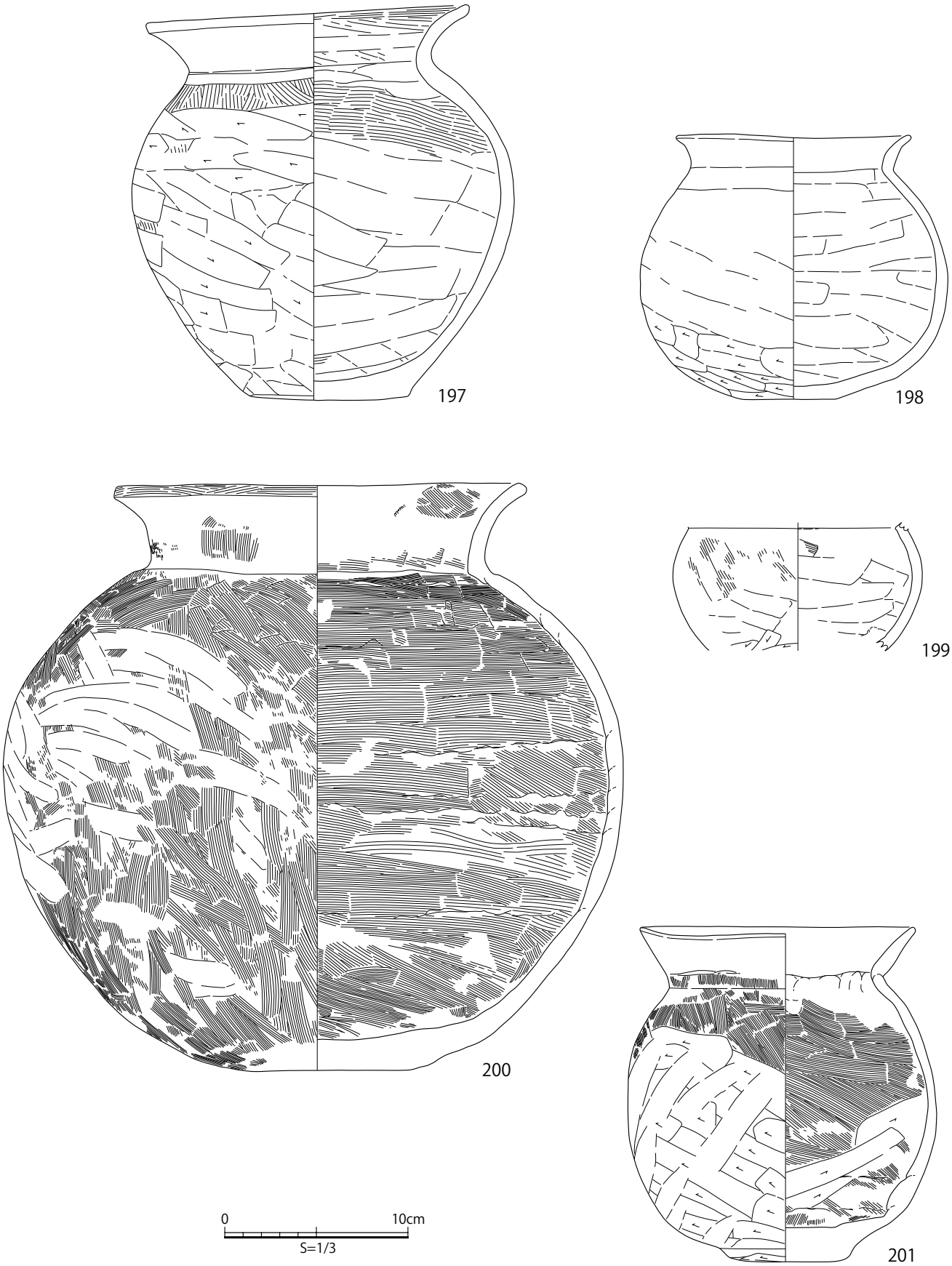
第 45 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（4）



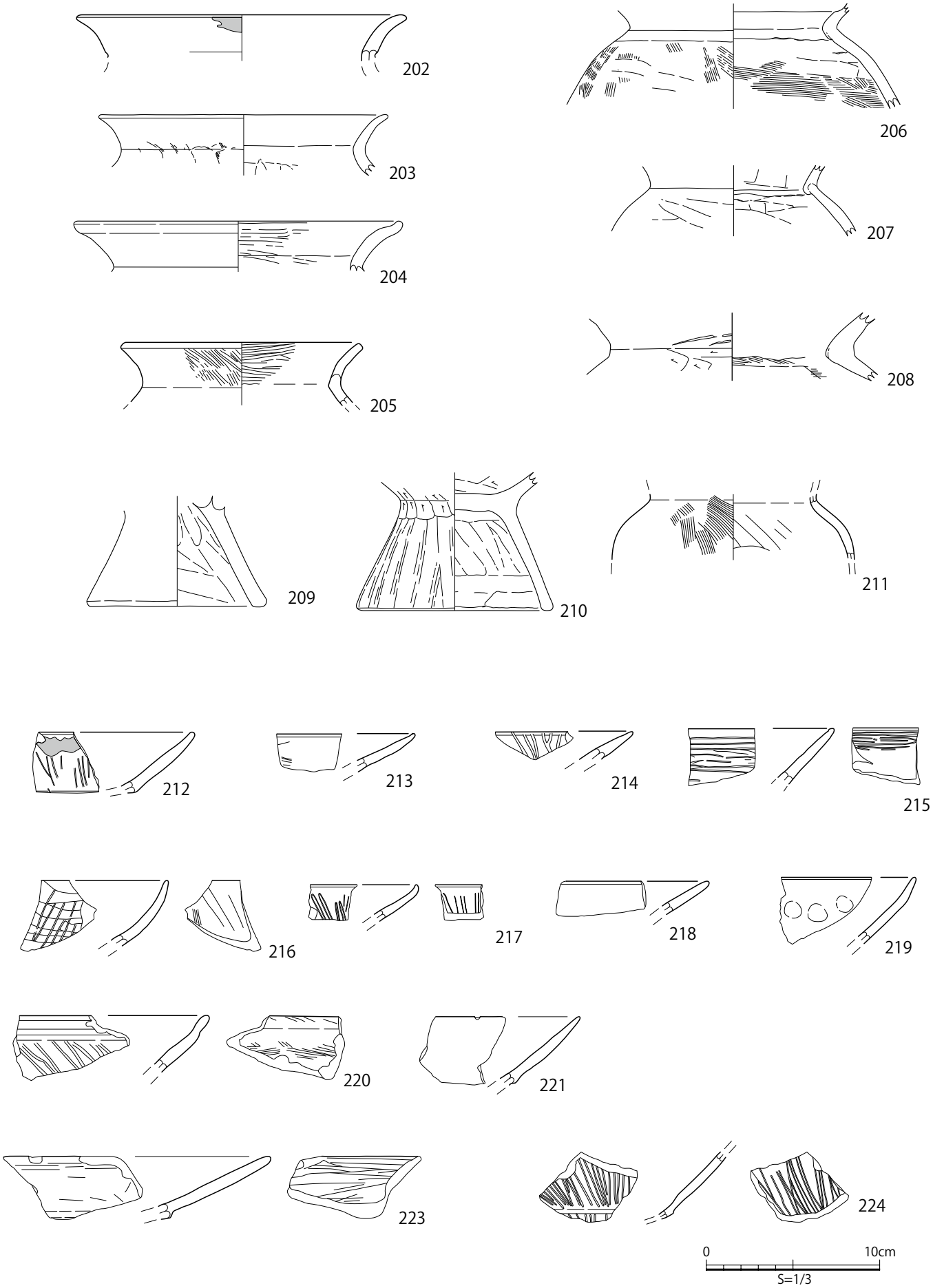
第 46 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（5）



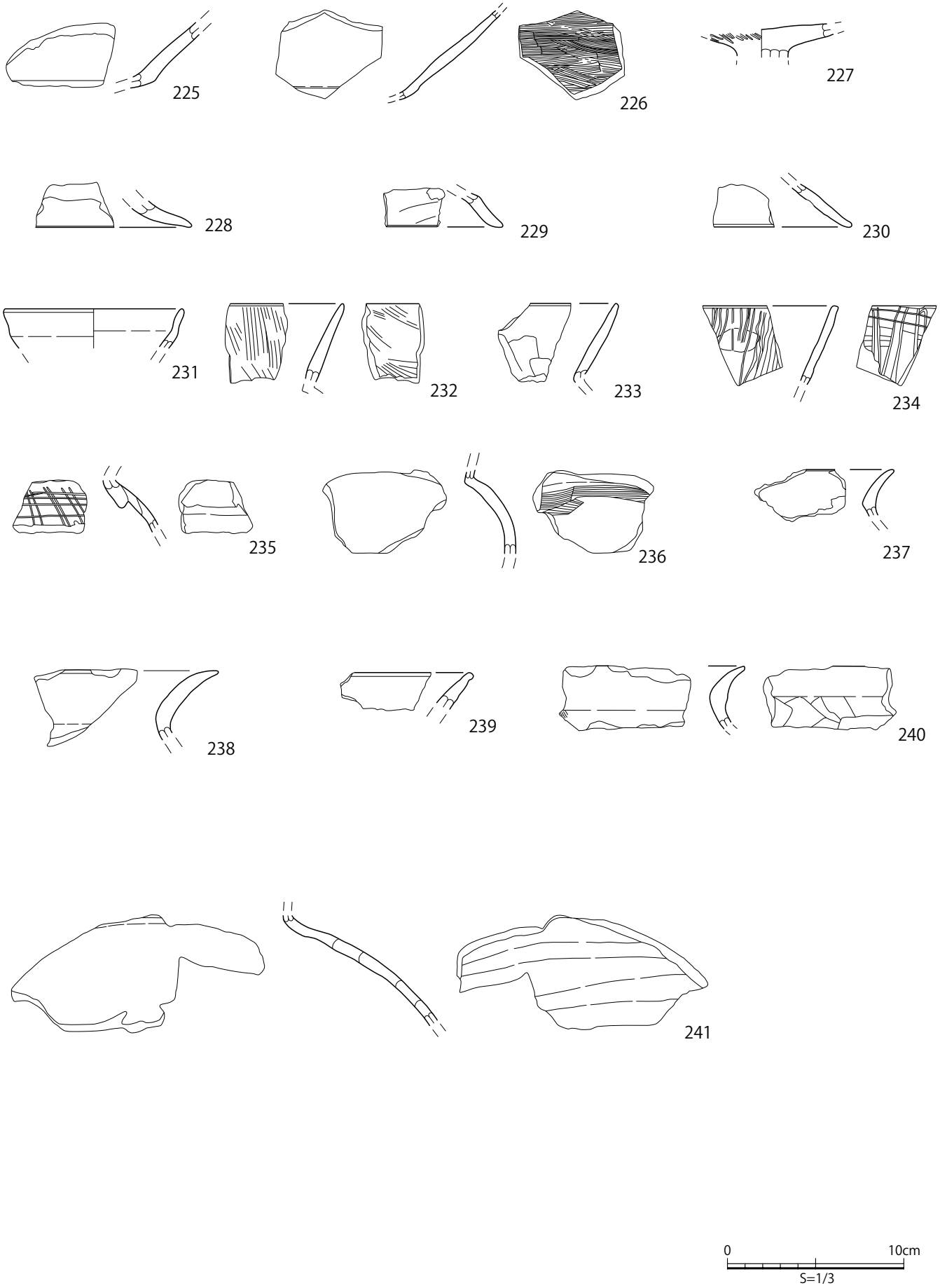
第 47 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（6）



第 48 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（7）

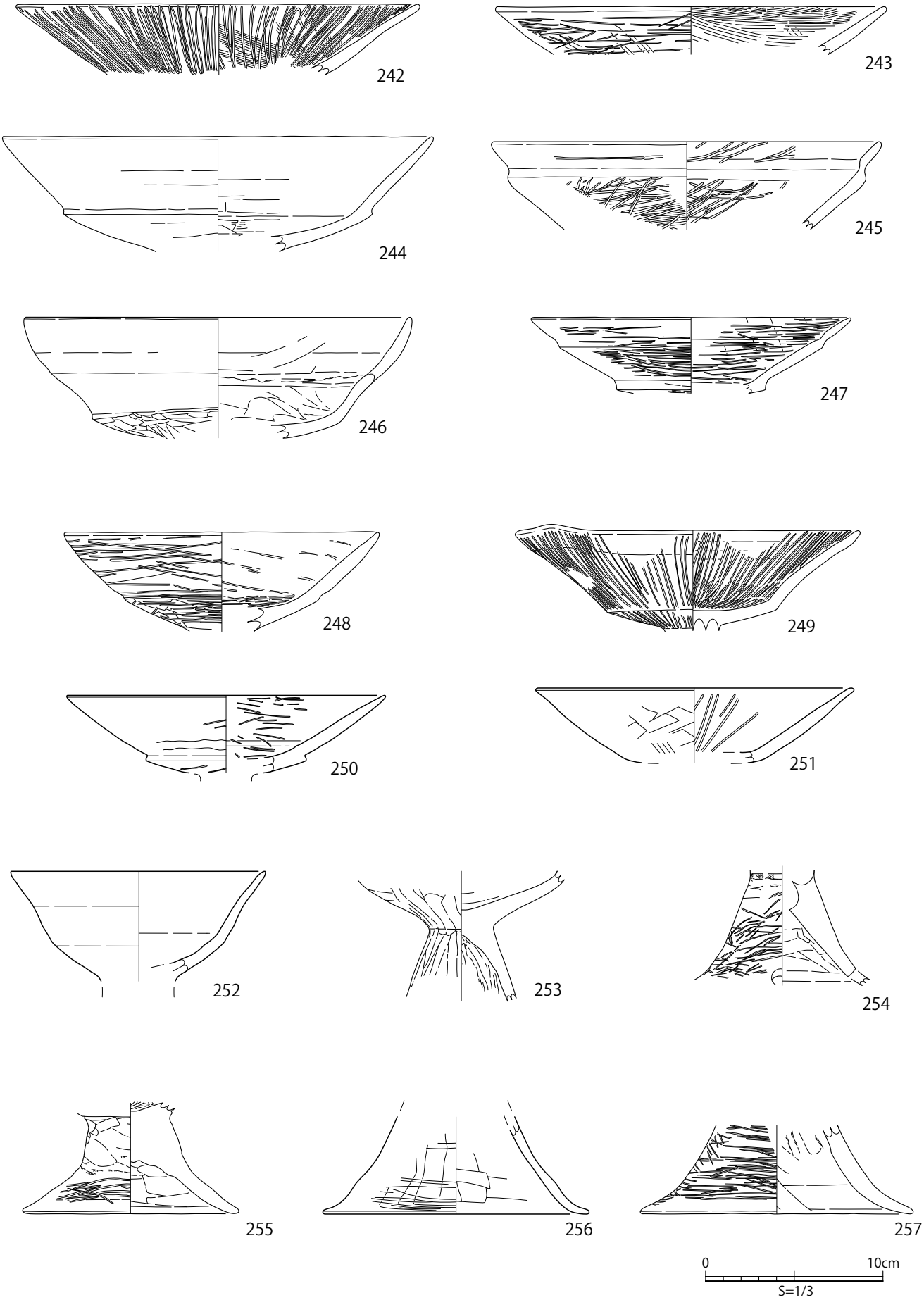


第 49 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（8）

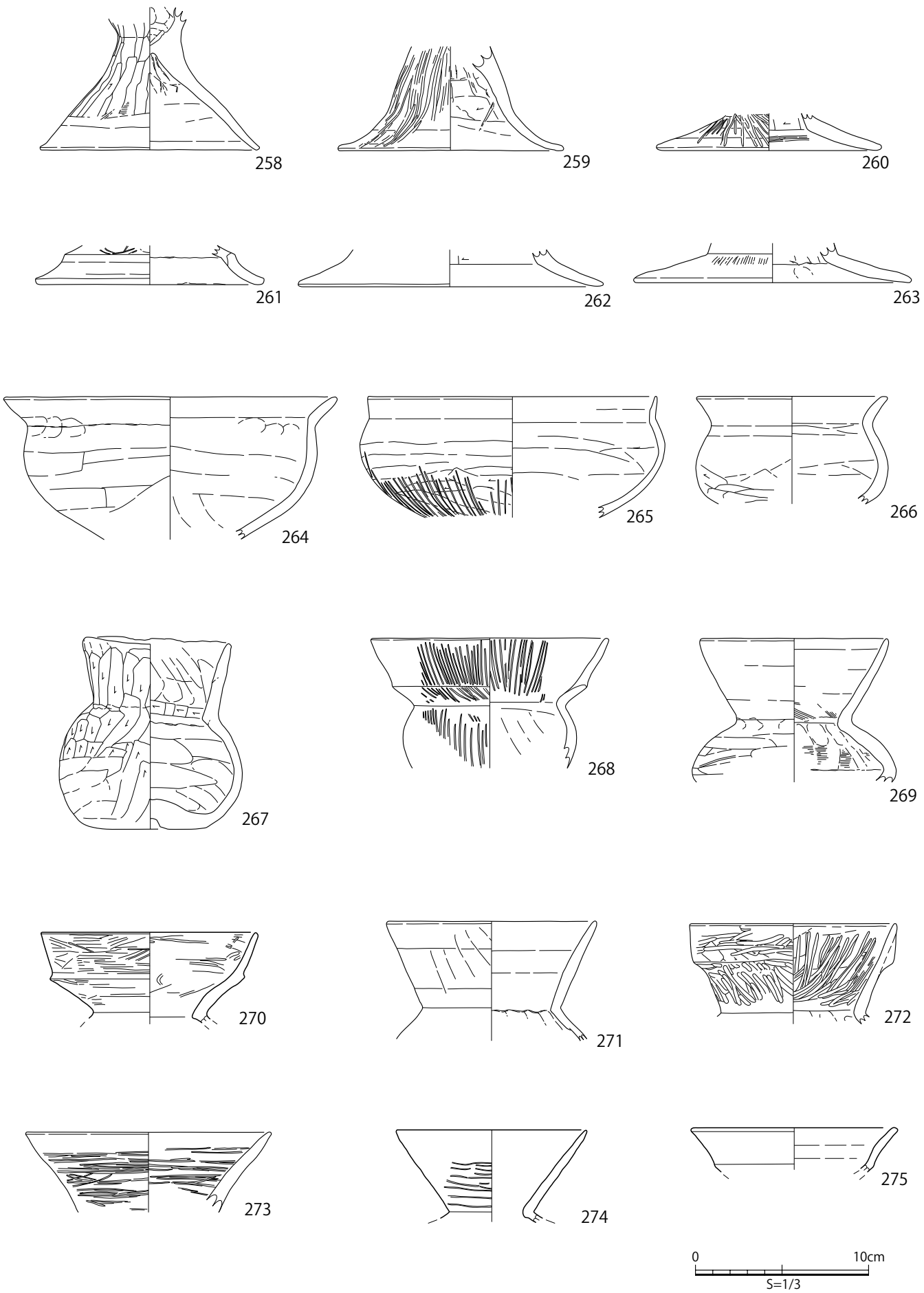


第 50 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（9）

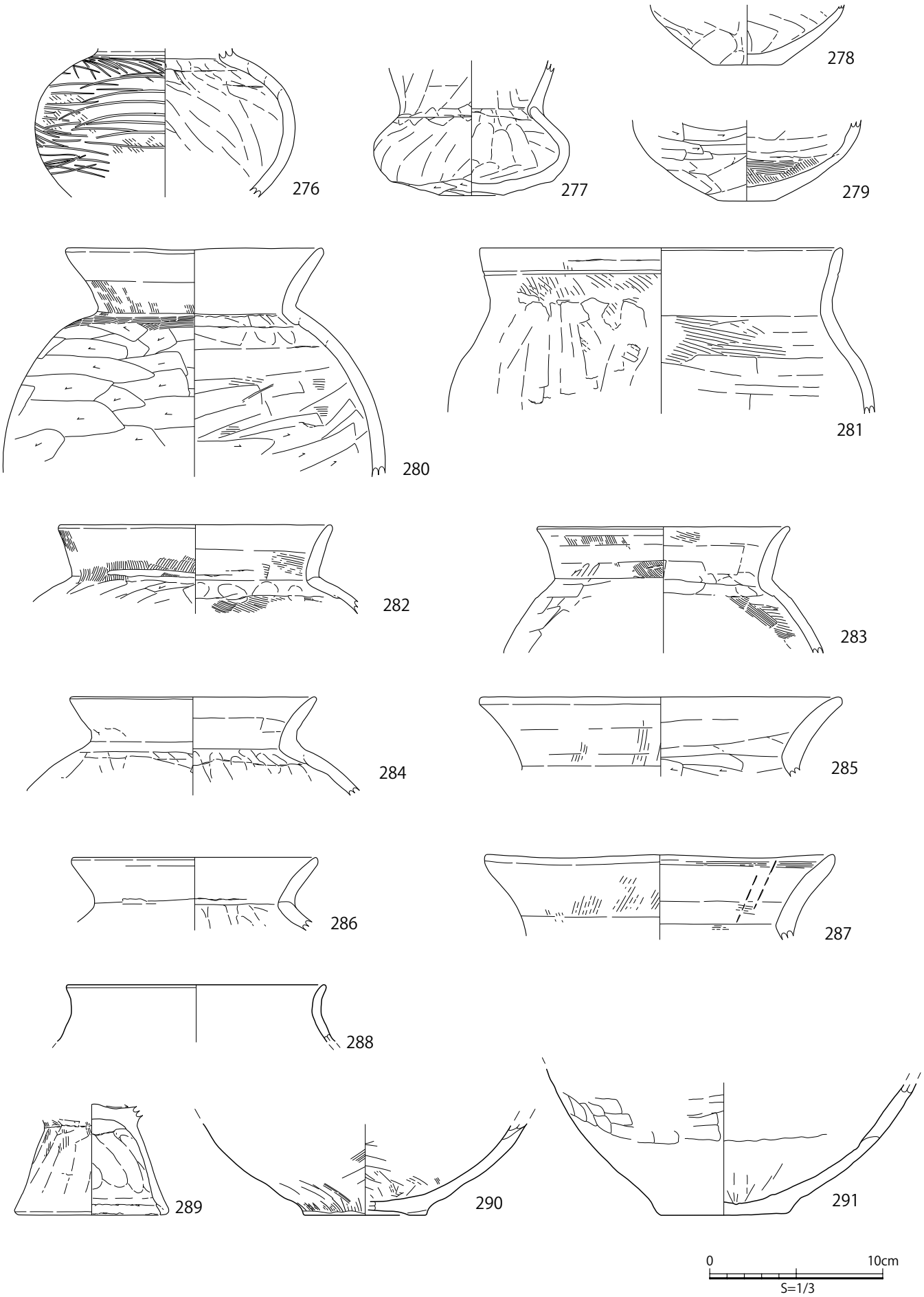
6 号竪穴建物跡



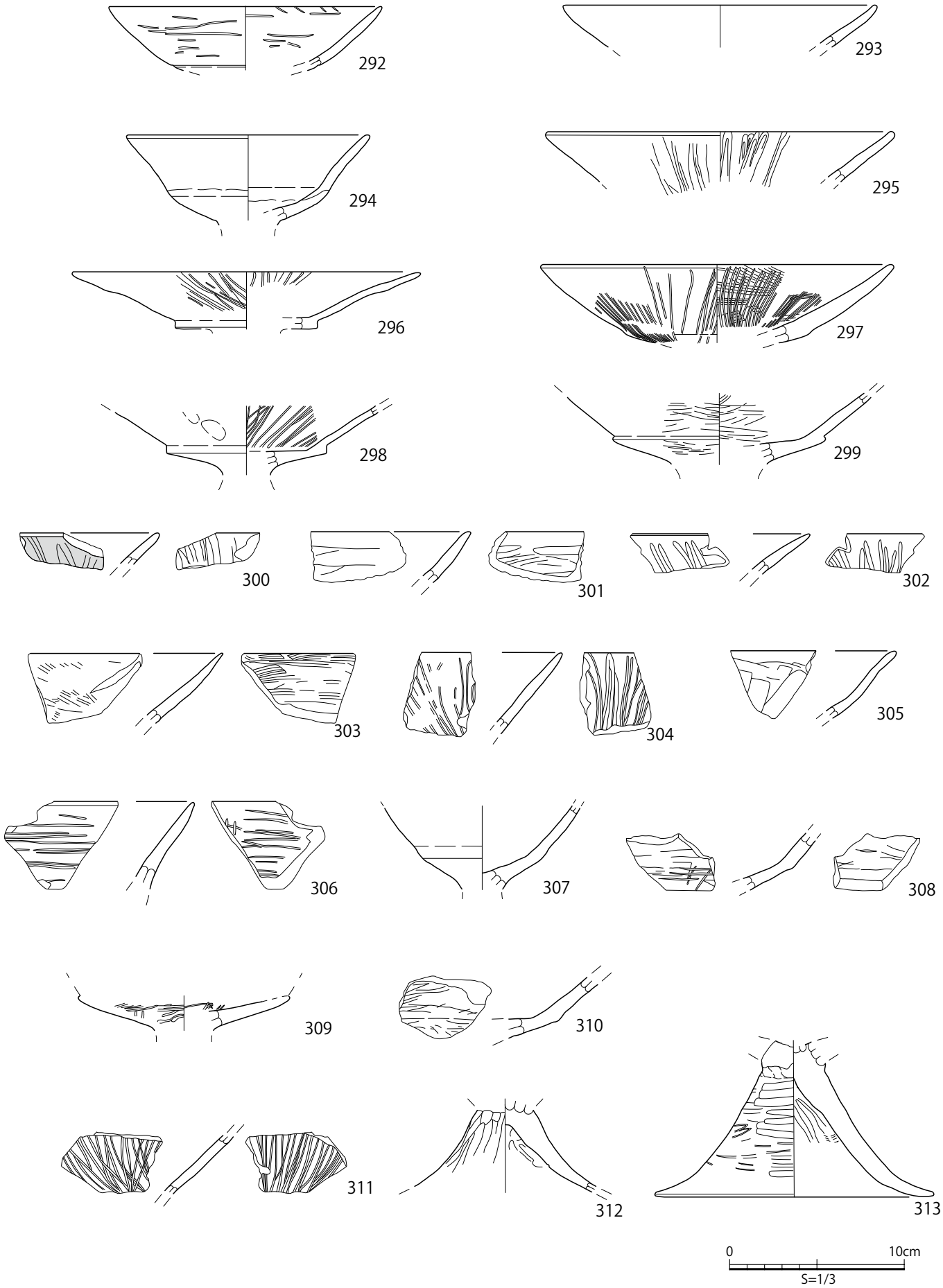
第 51 図　6 号竪穴建物跡出土遺物（1）



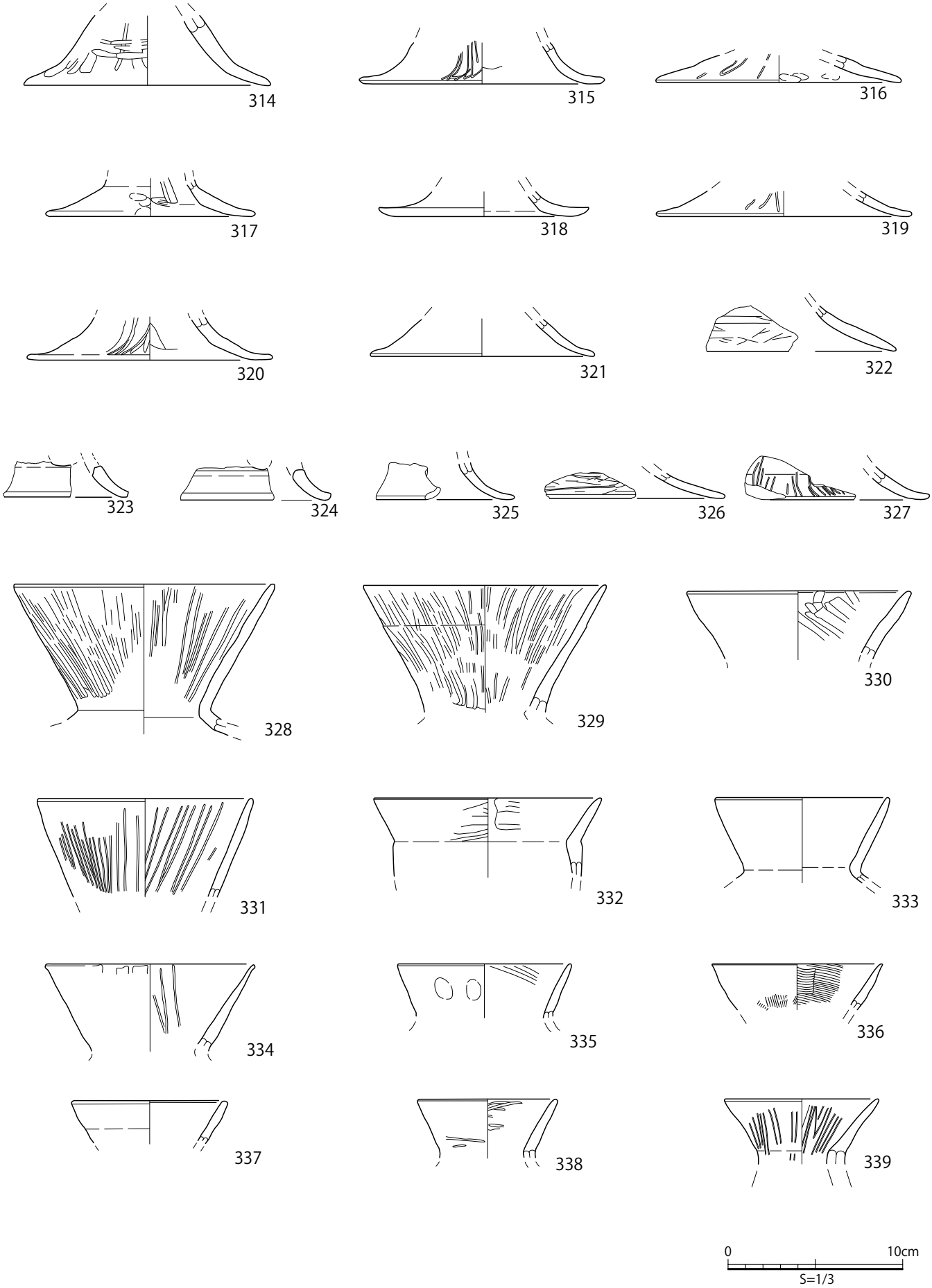
第 52 図　6 号竪穴建物跡出土遺物（2）



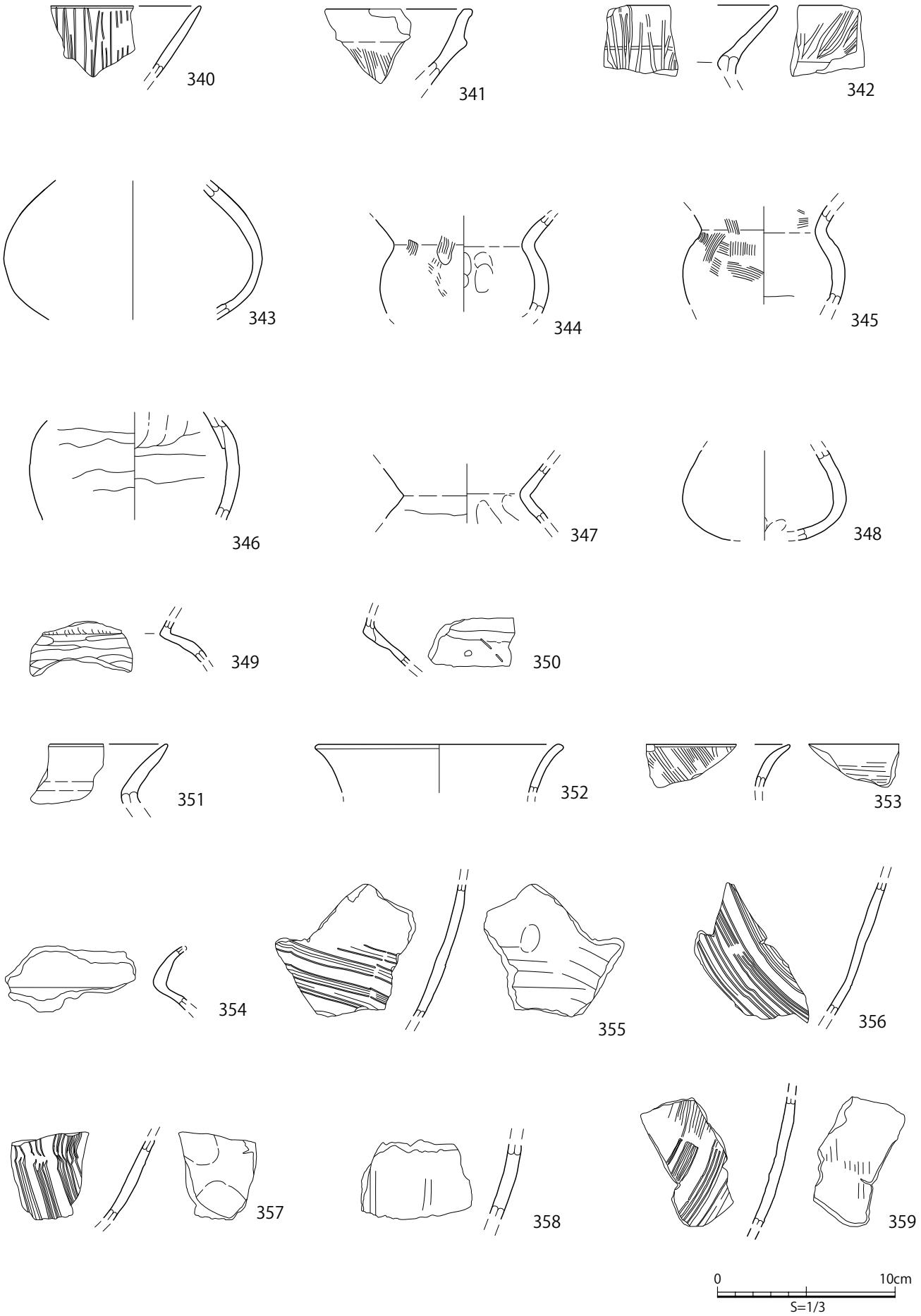
第 53 図　6 号竪穴建物跡出土遺物（3）



第 54 図　6 号竪穴建物跡出土遺物（4）

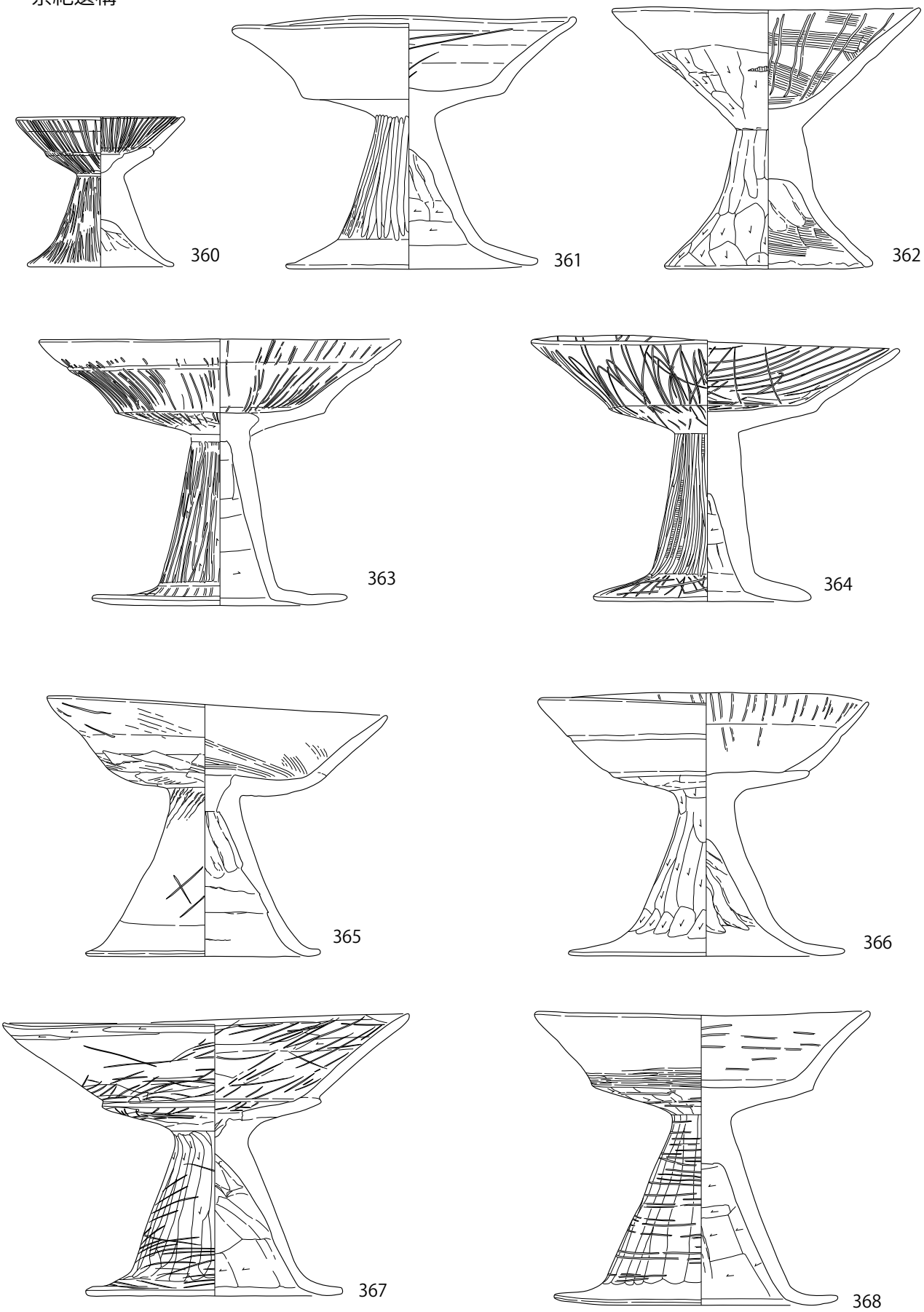


第 55 図　6 号竪穴建物跡出土遺物（5）



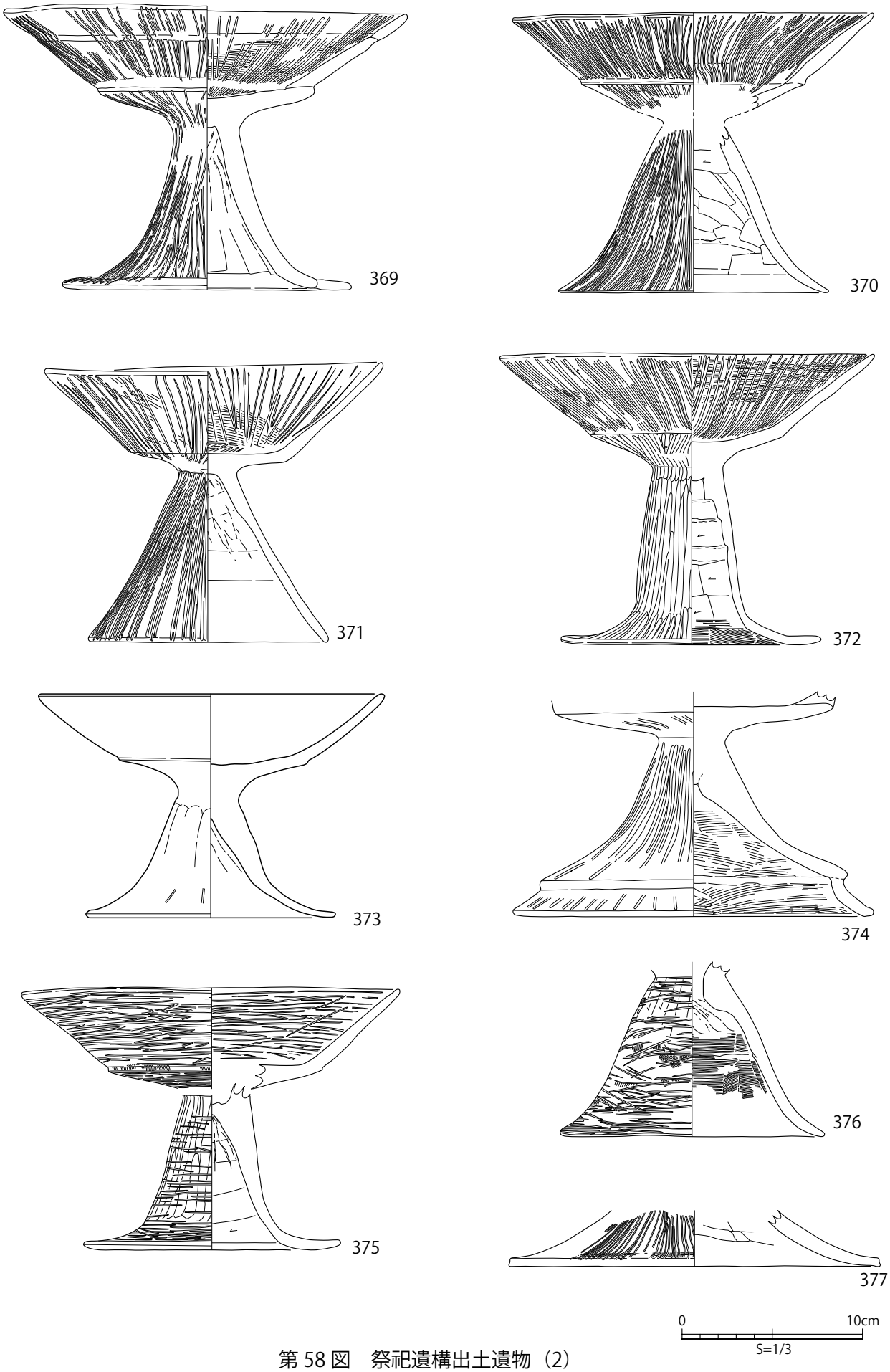
第 56 図　6 号竪穴建物跡出土遺物（6）

祭祀遺構

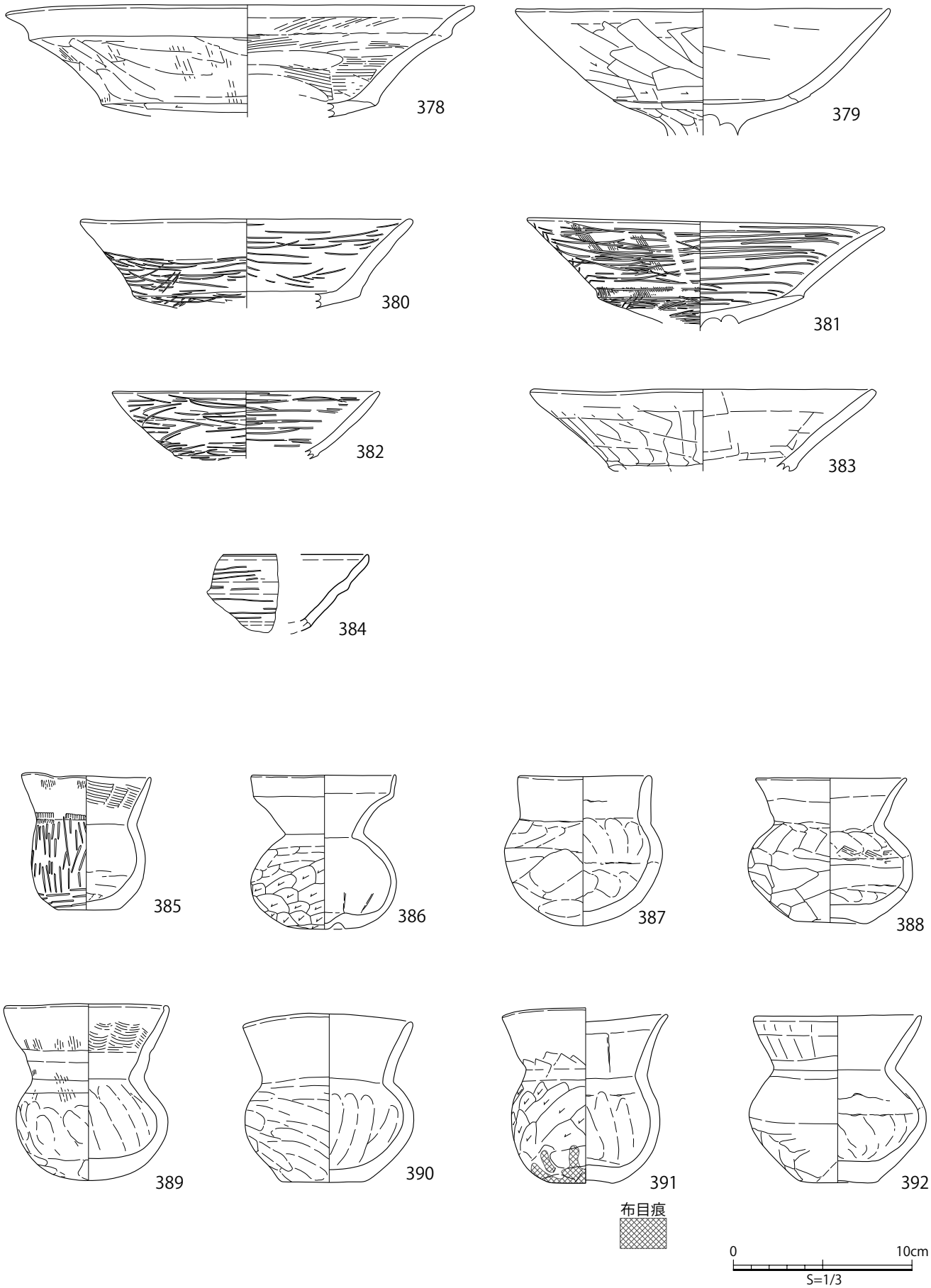


第 57 図　祭祀遺構出土遺物（1）

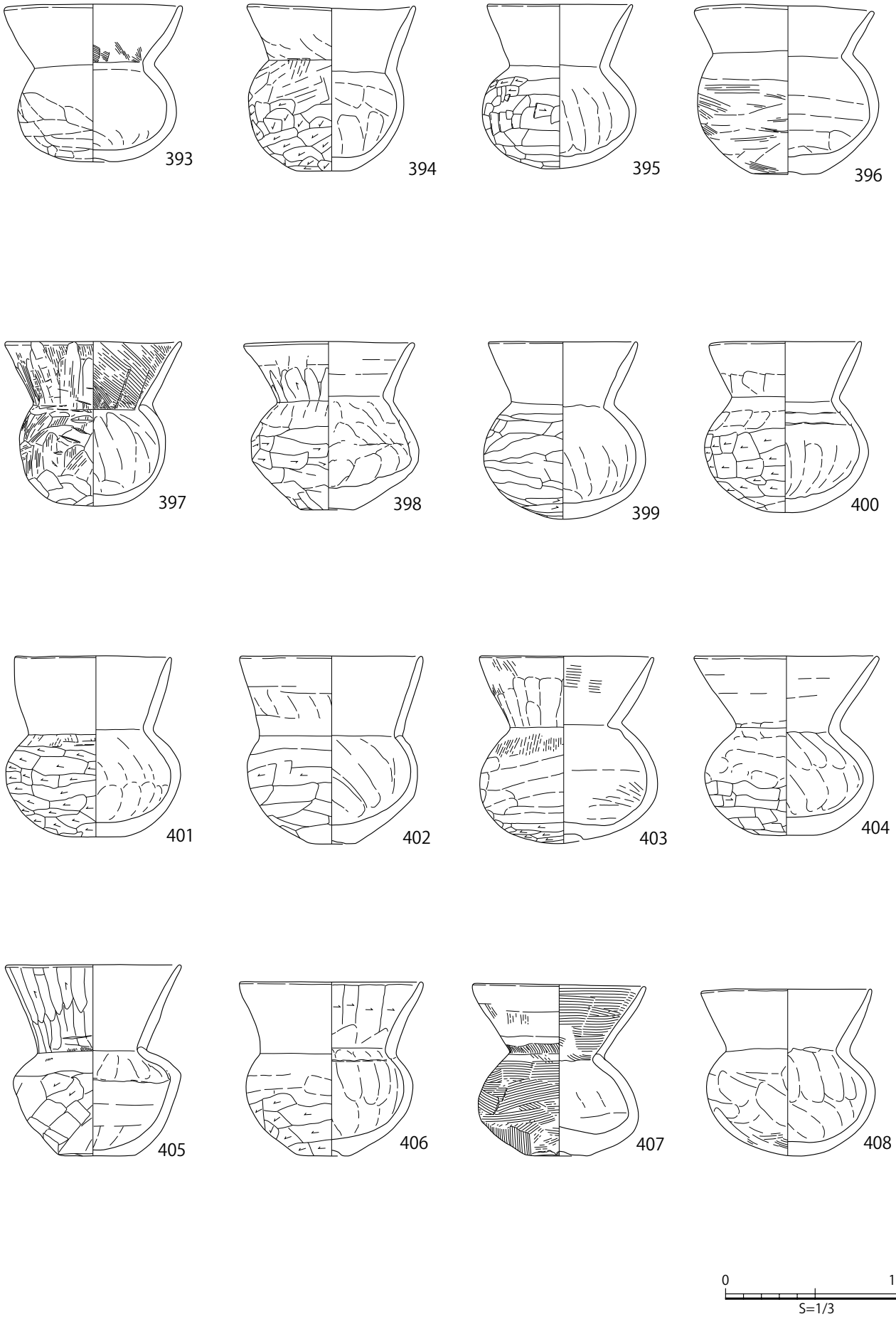
0　10cm
S=1/3



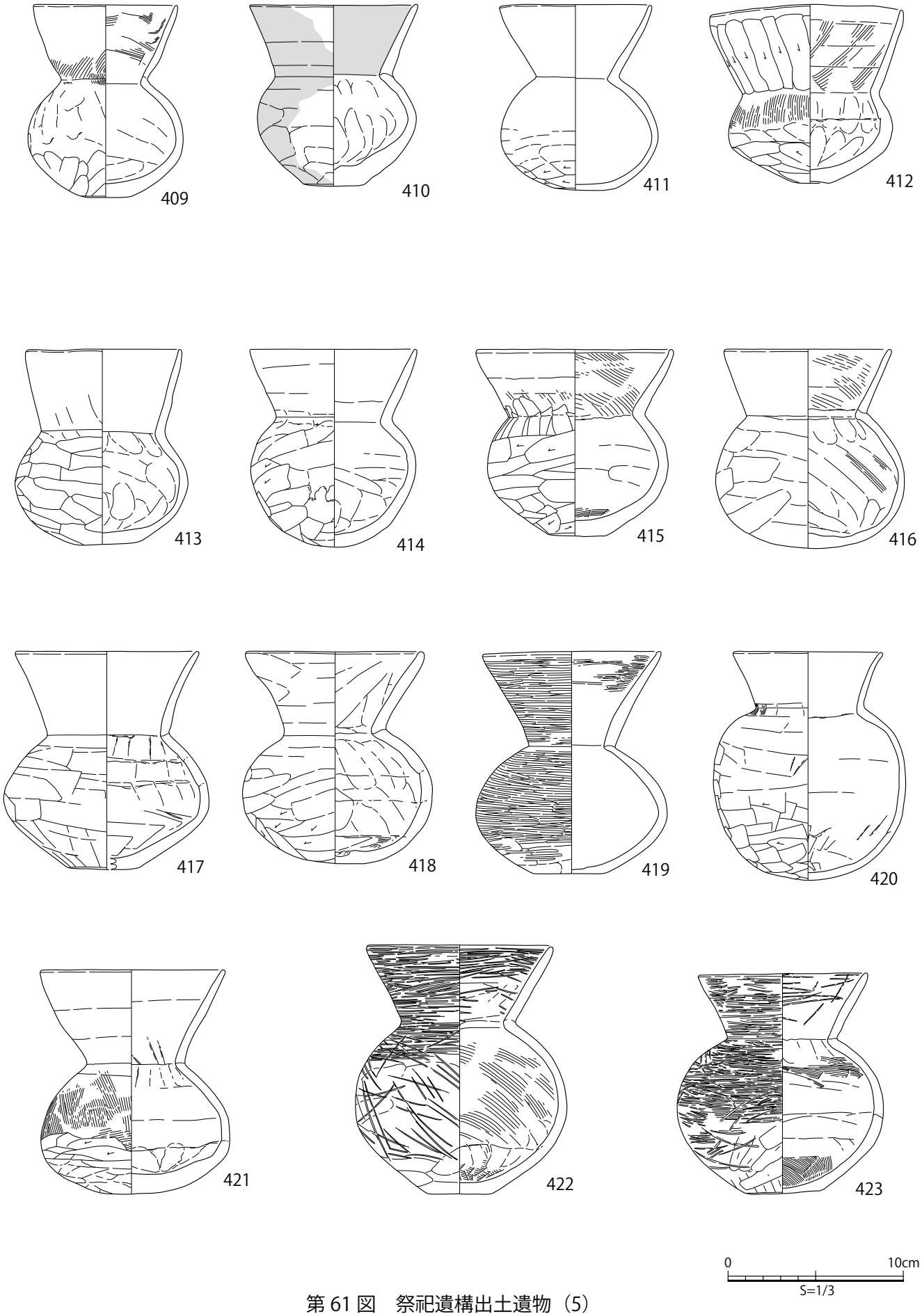
第 58 図　祭祀遺構出土遺物（2）



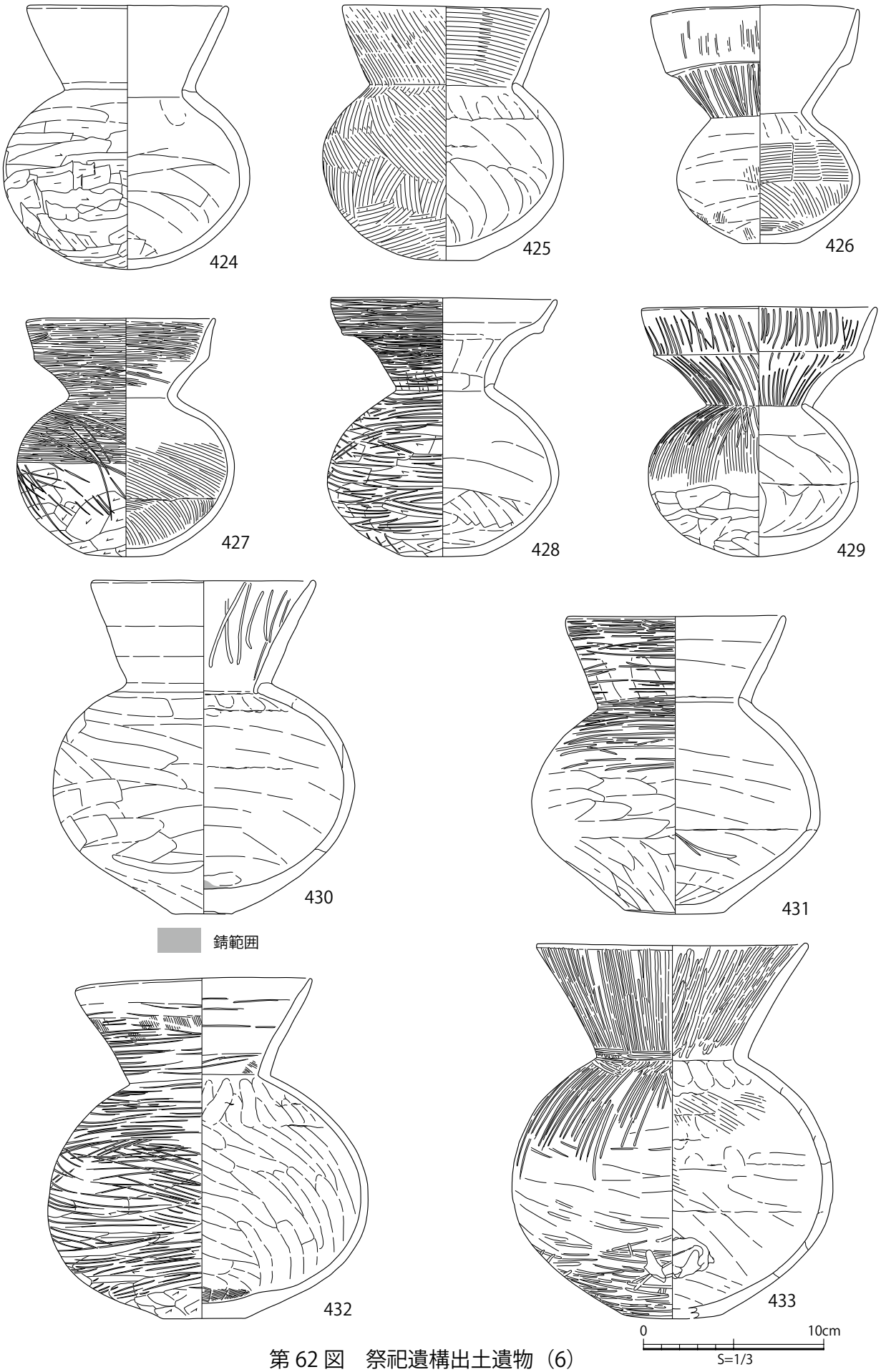
第 59 図　祭祀遺構出土遺物（3）



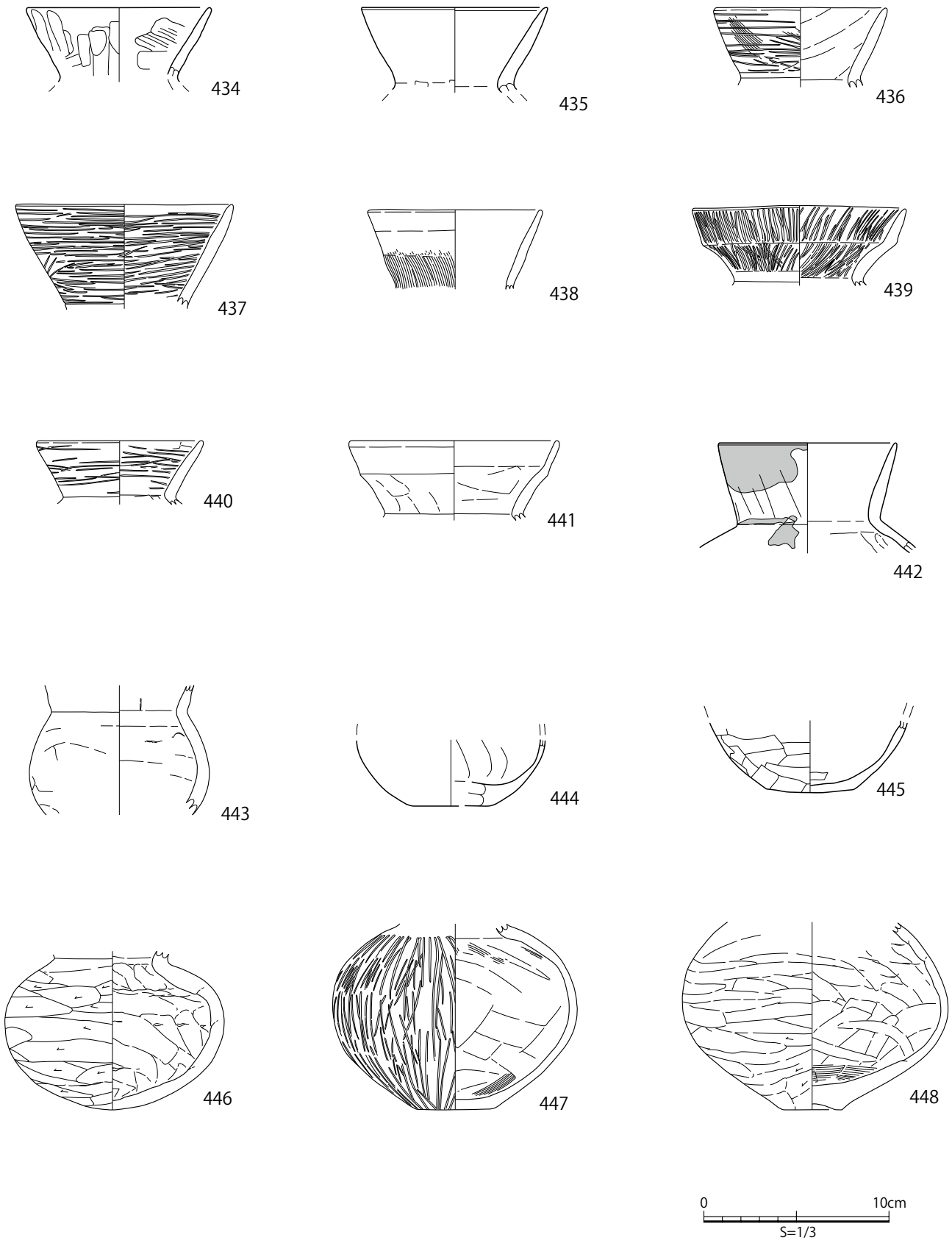
第 60 図　祭祀遺構出土遺物（4）



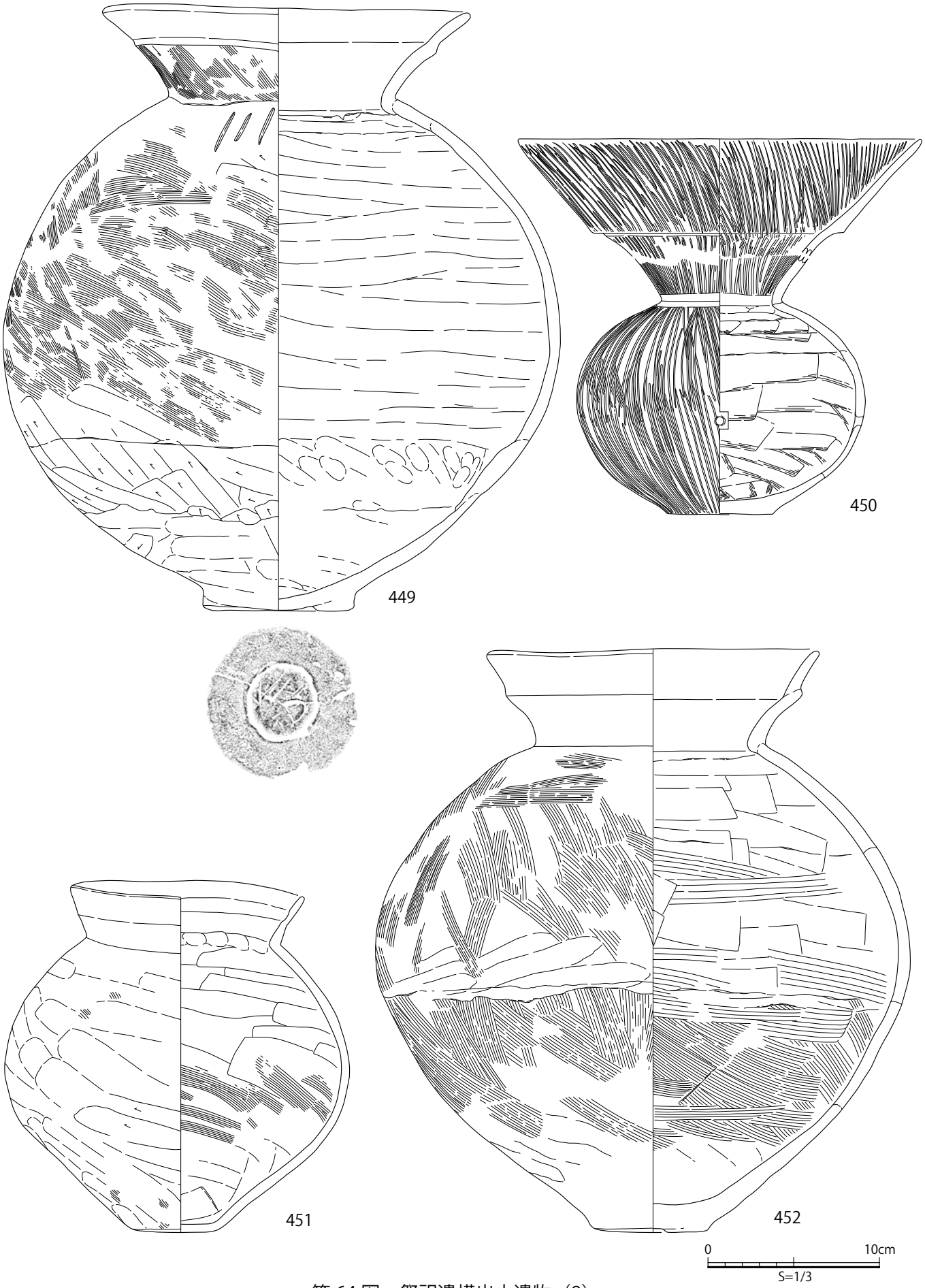
第 61 図　祭祀遺構出土遺物（5）



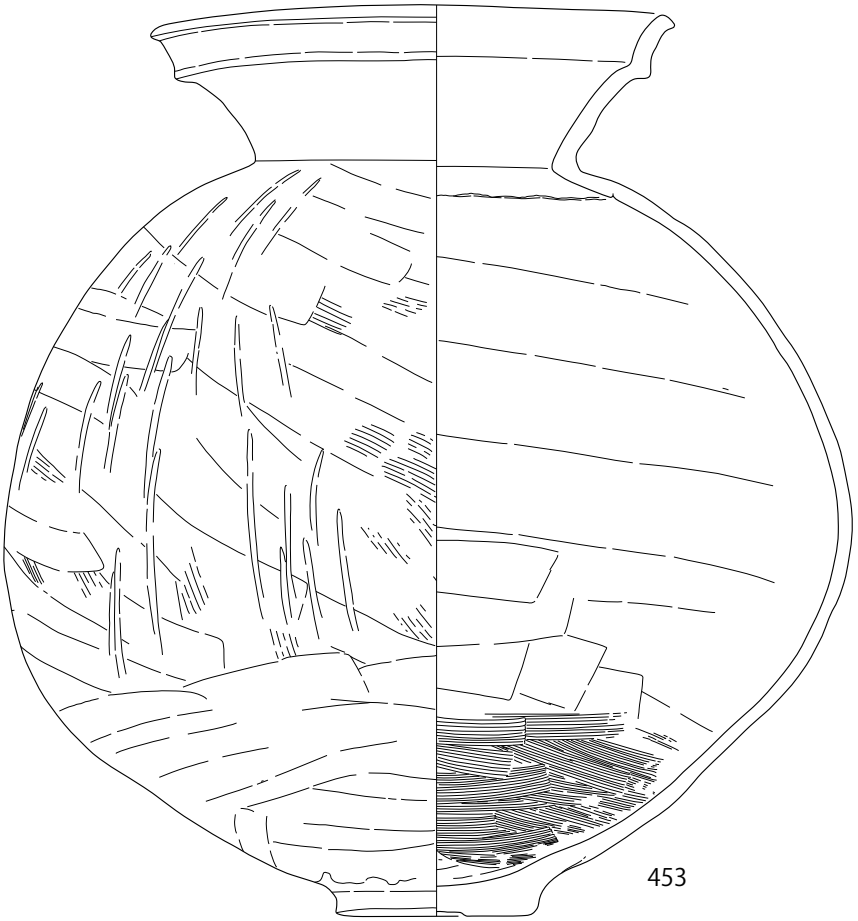
第 62 図　祭祀遺構出土遺物（6）

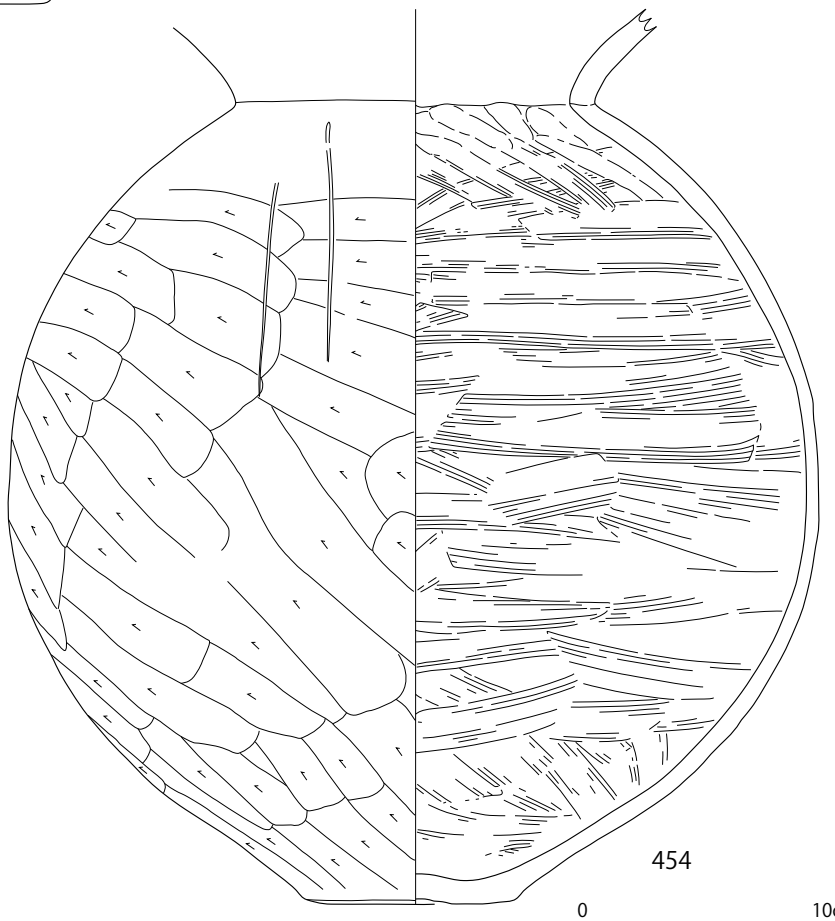


第 63 図　祭祀遺構出土遺物（7）



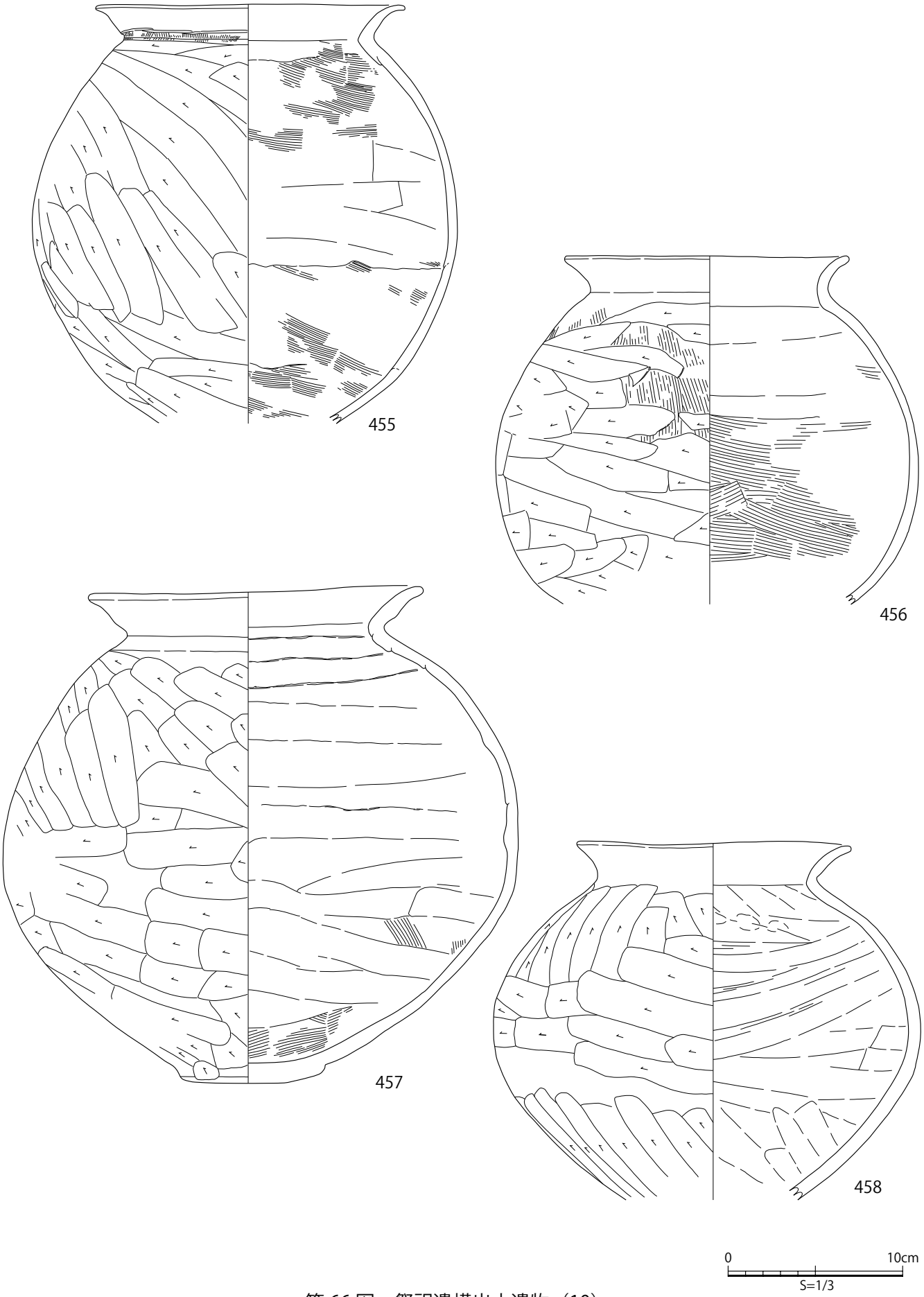
第 64 図　祭祀遺構出土遺物（8）



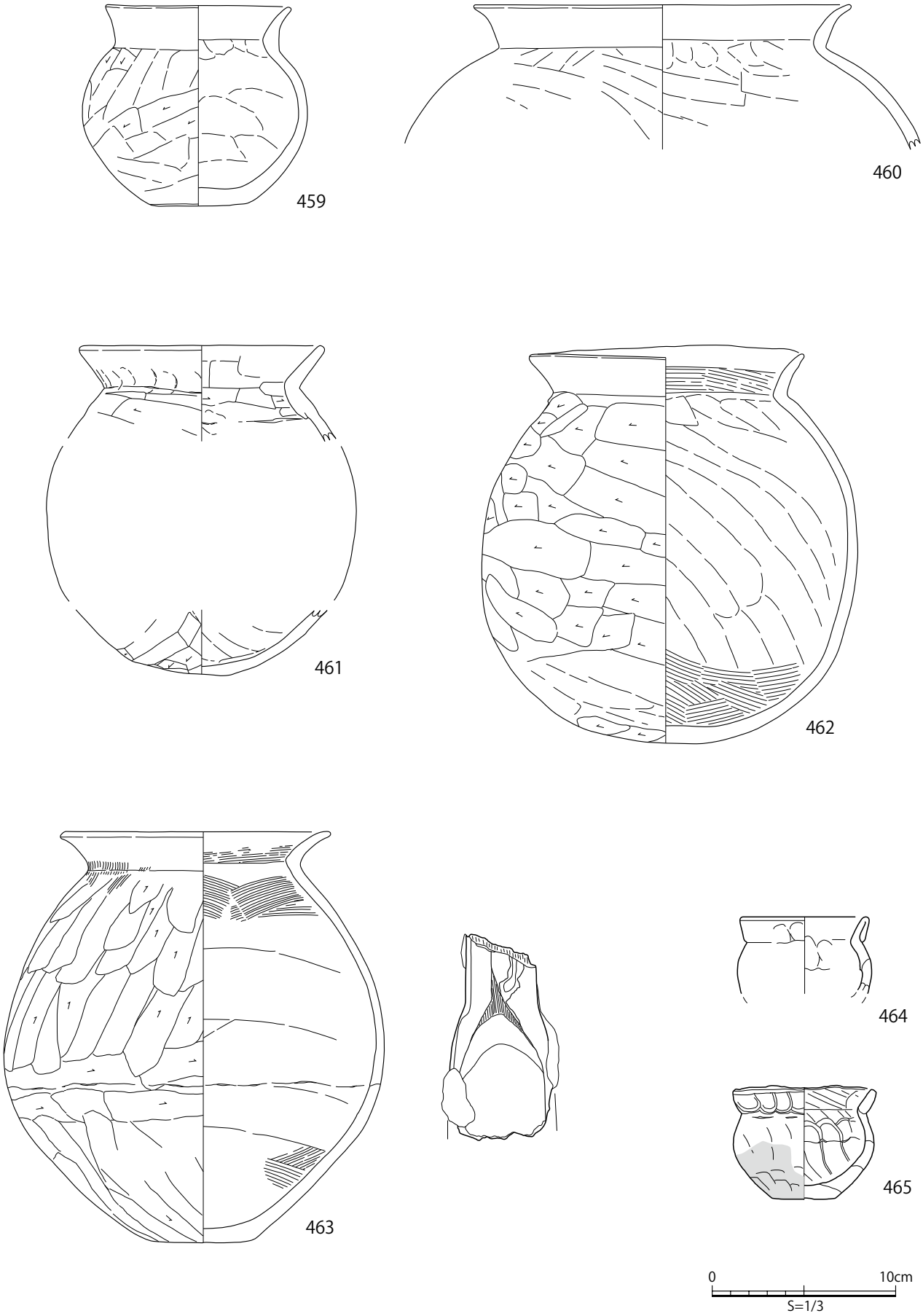


0　10cm
S=1/3

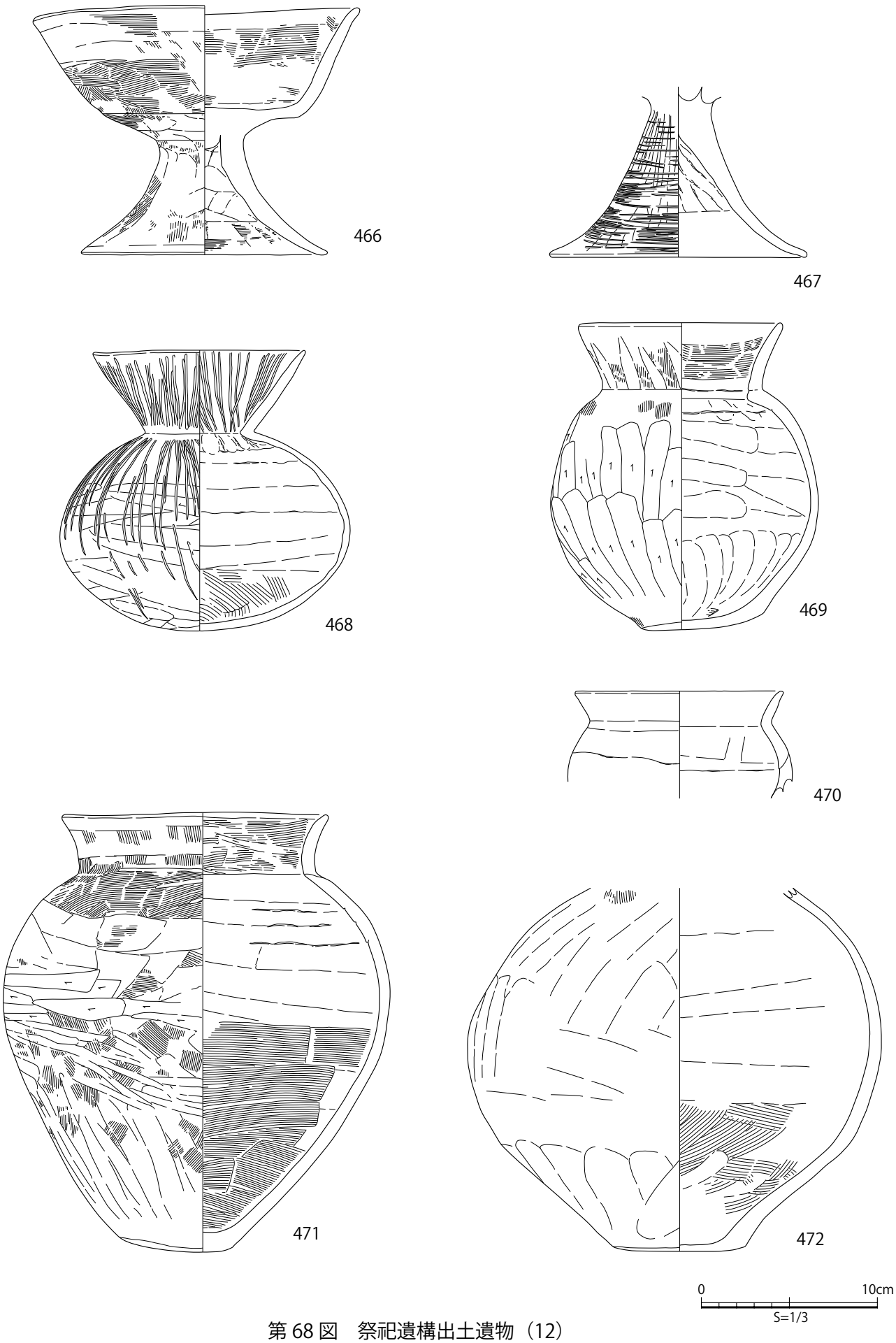
第 65 図　祭祀遺構出土遺物（9）



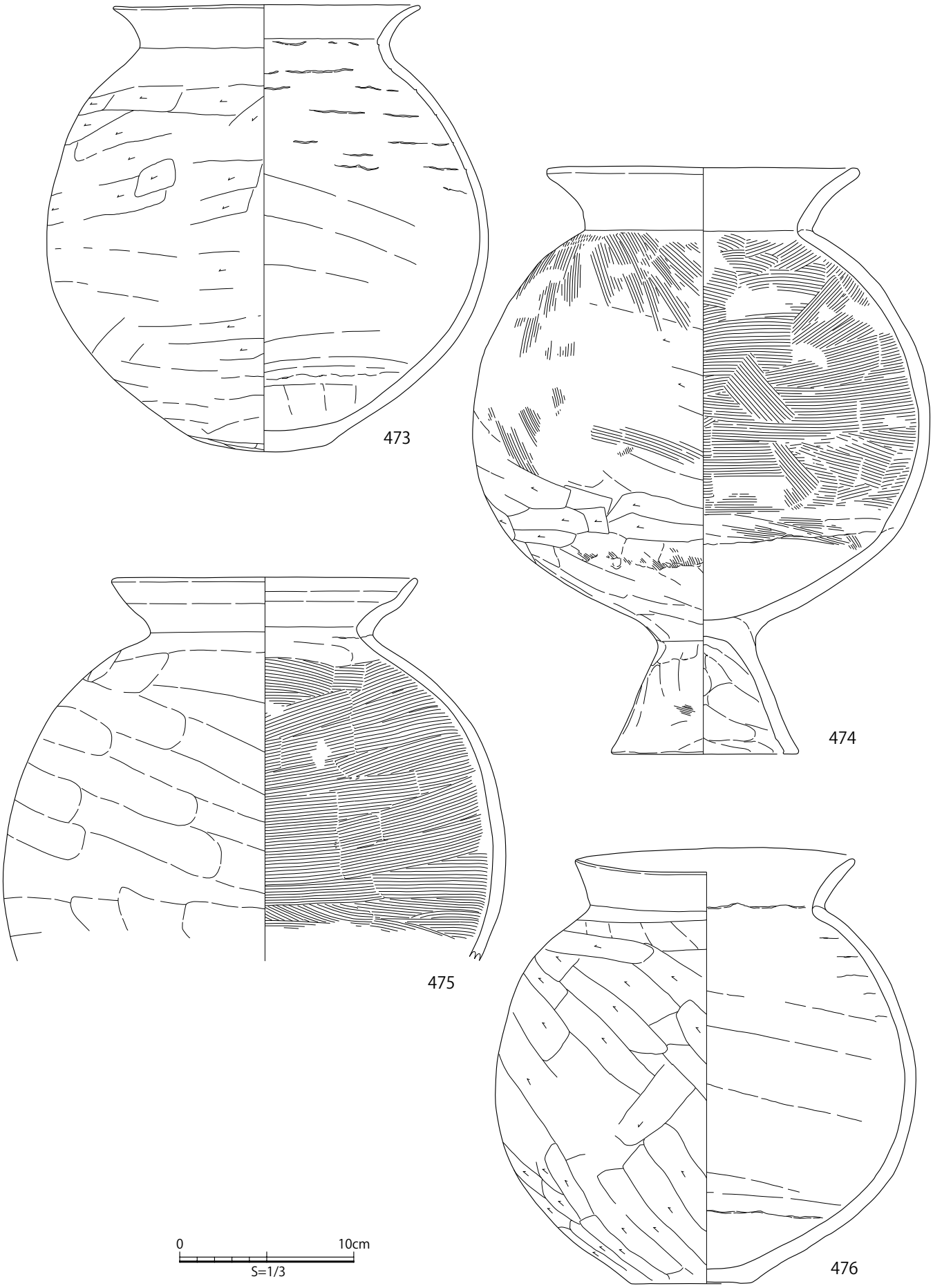
第 66 図　祭祀遺構出土遺物（10）



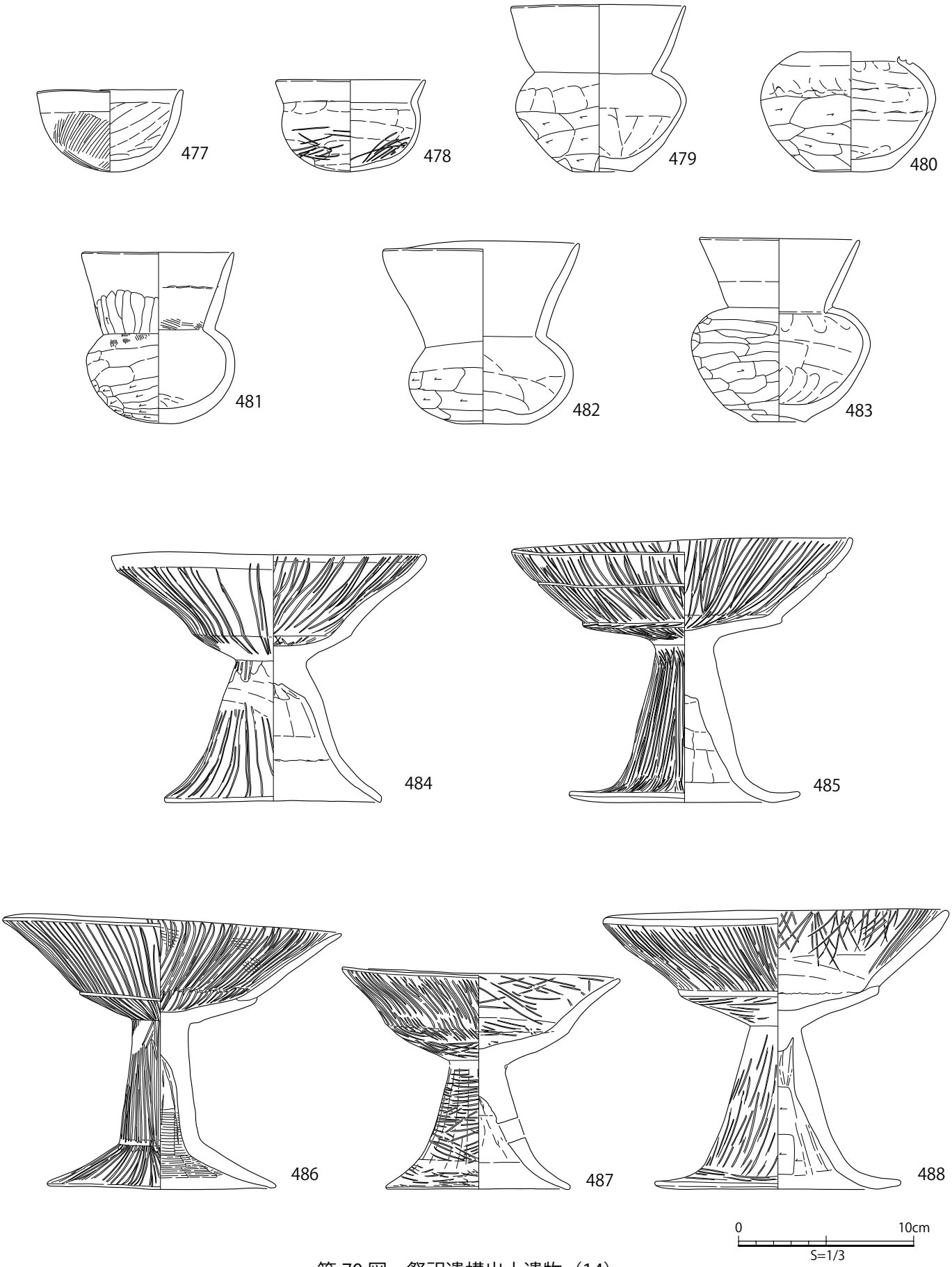
第 67 図　祭祀遺構出土遺物（11）



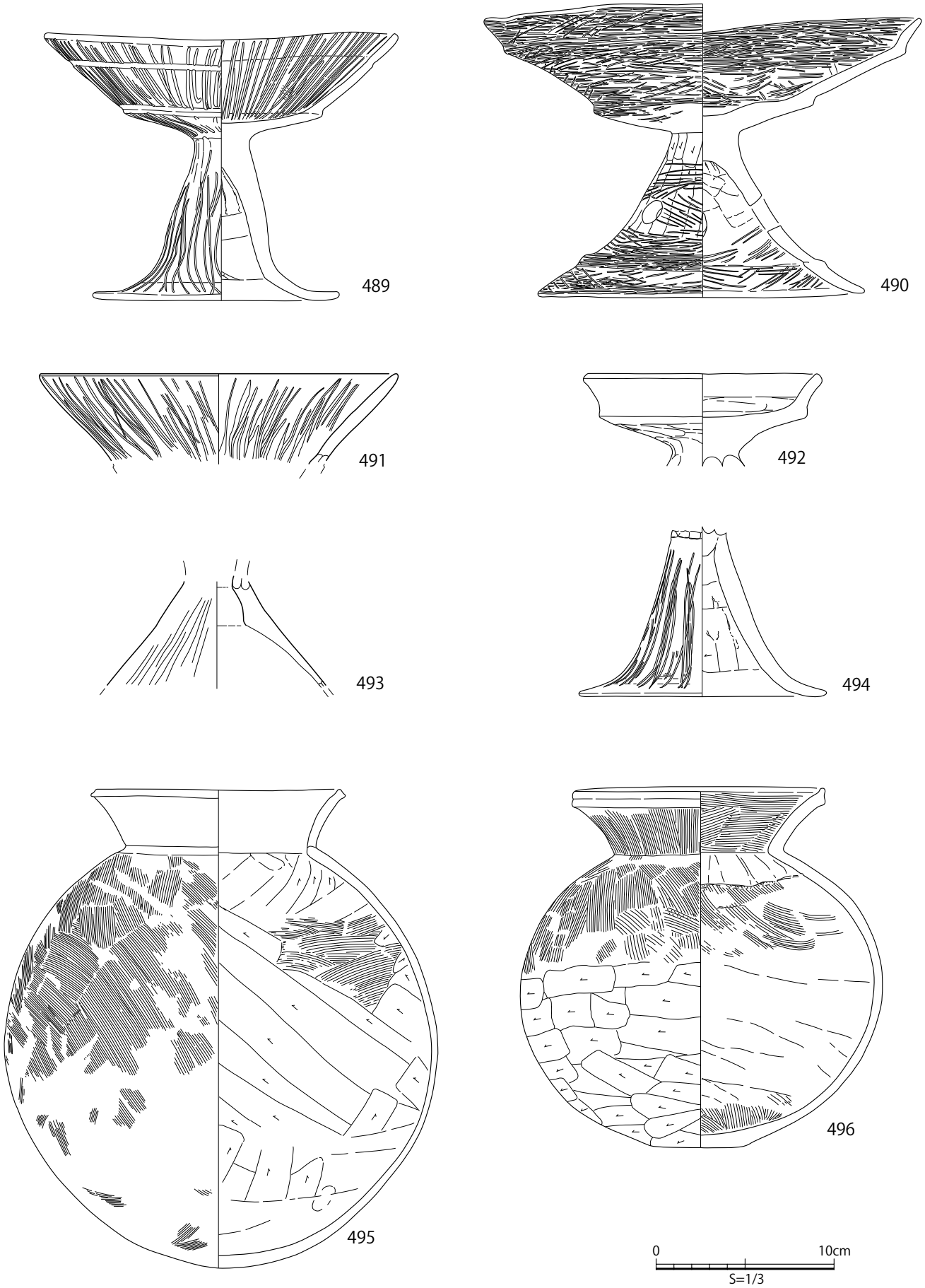
第 68 図　祭祀遺構出土遺物（12）



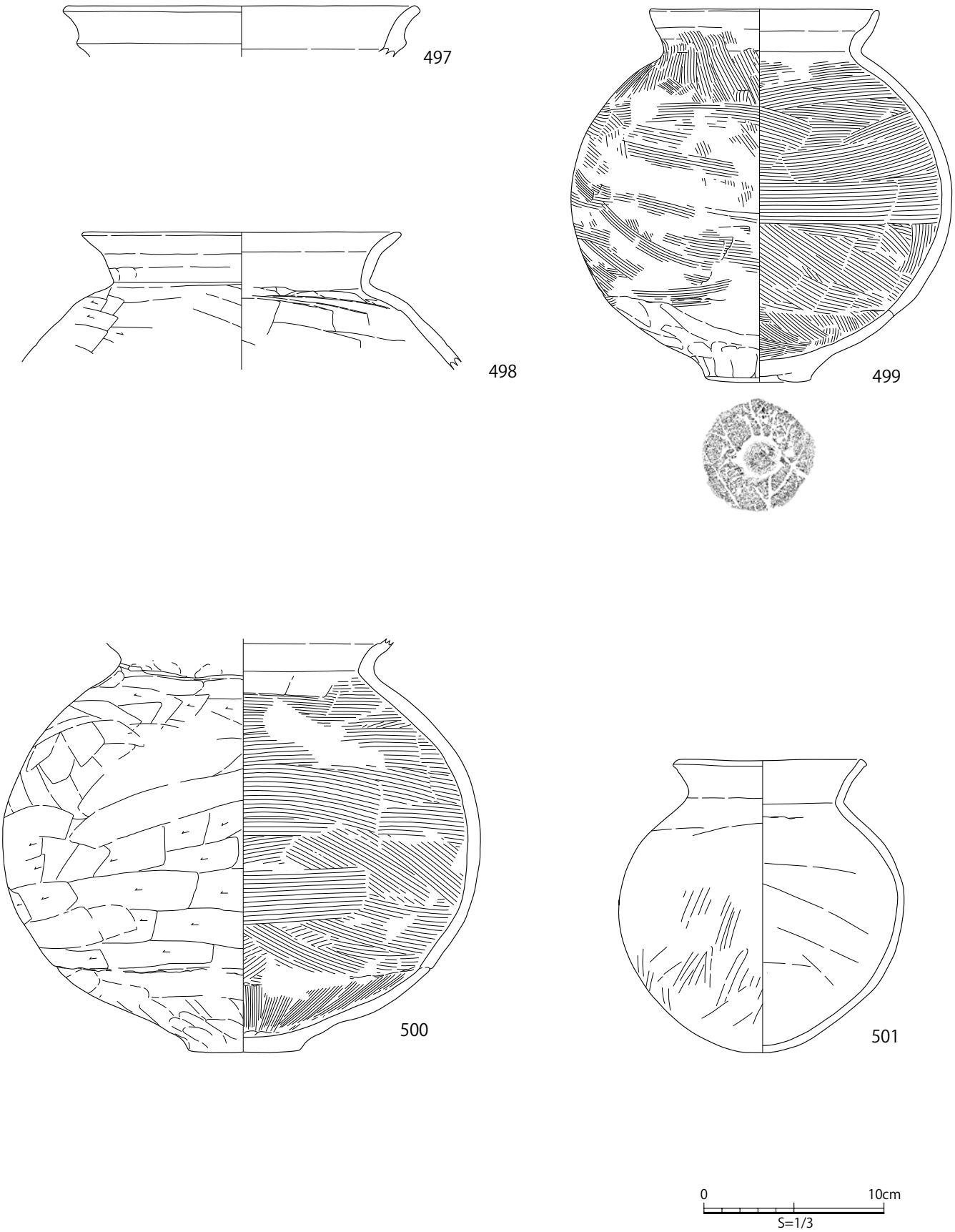
第 69 図　祭祀遺構出土遺物（13）



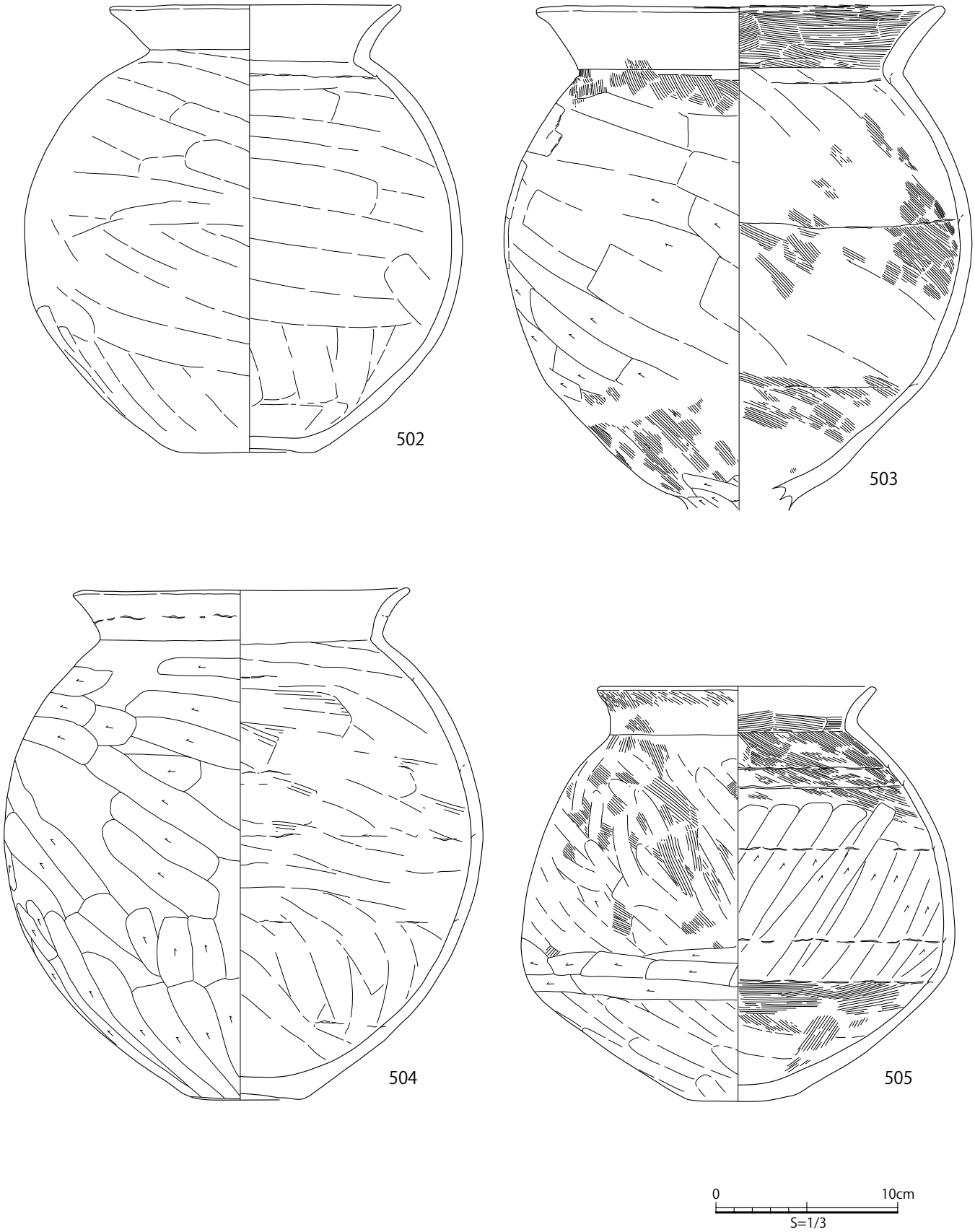
第 70 図　祭祀遺構出土遺物（14）



第 71 図　祭祀遺構出土遺物（15）

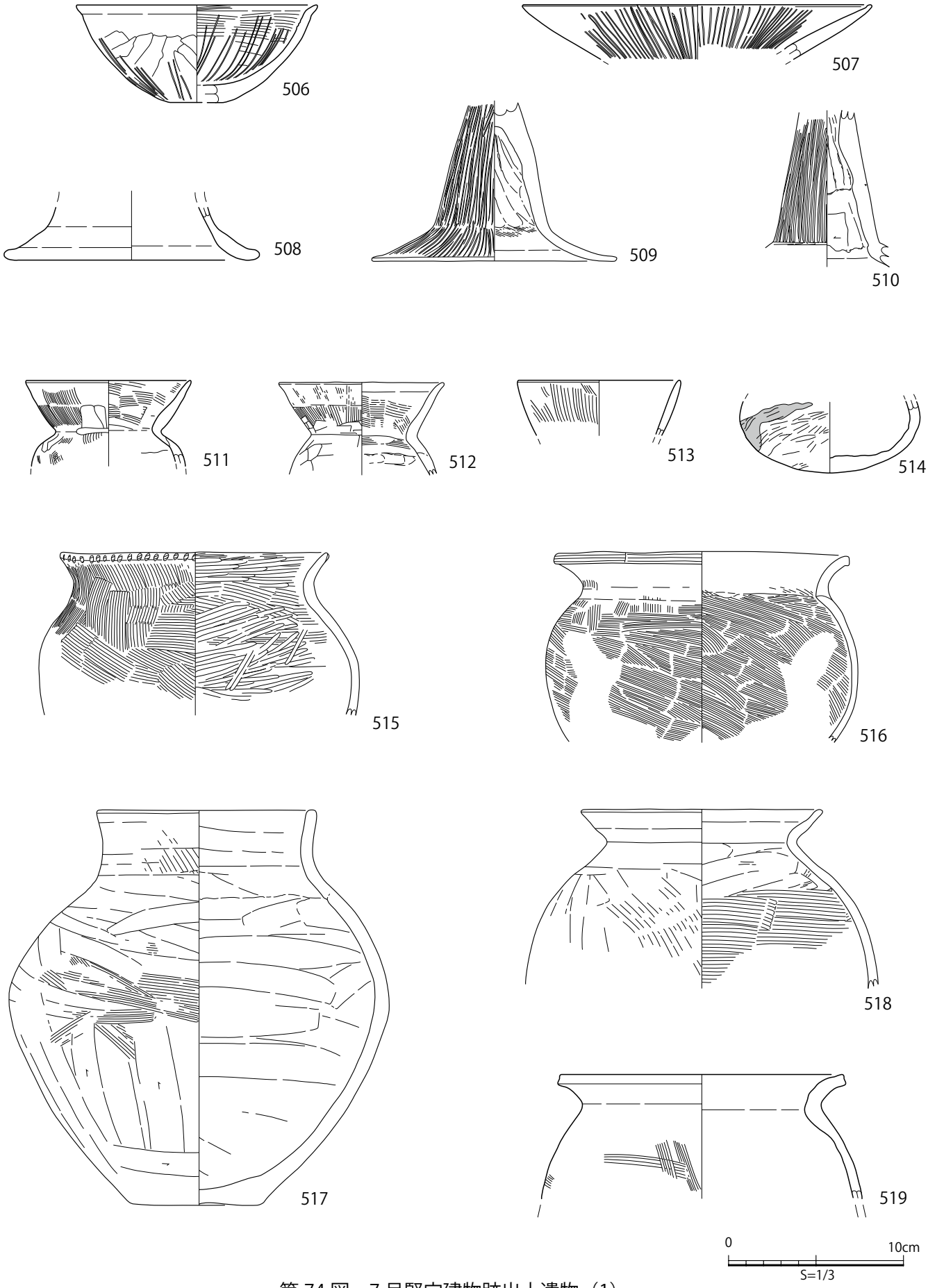


第 72 図　祭祀遺構出土遺物（16）

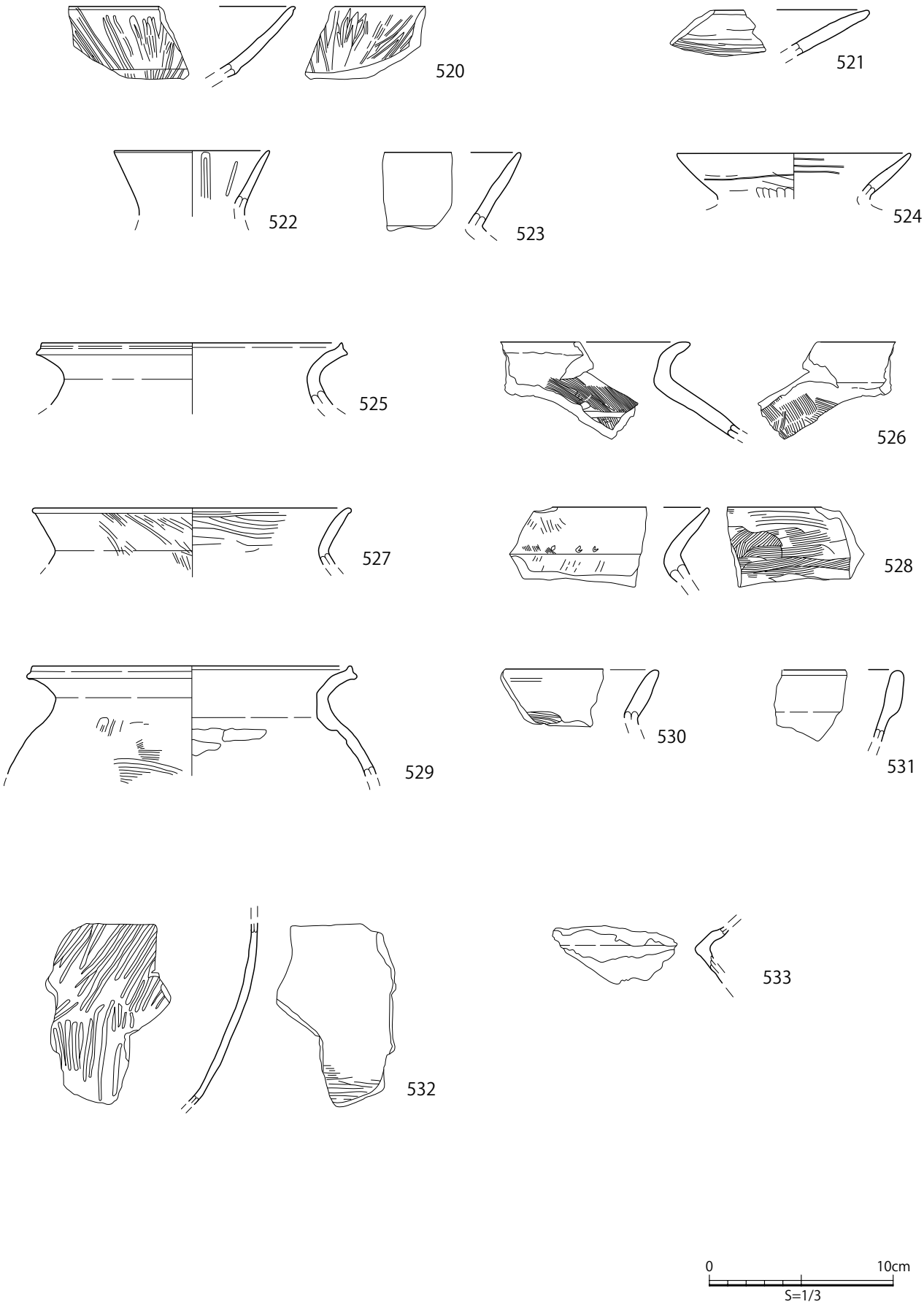


第 73 図　祭祀遺構出土遺物（17）

7 号竪穴建物跡

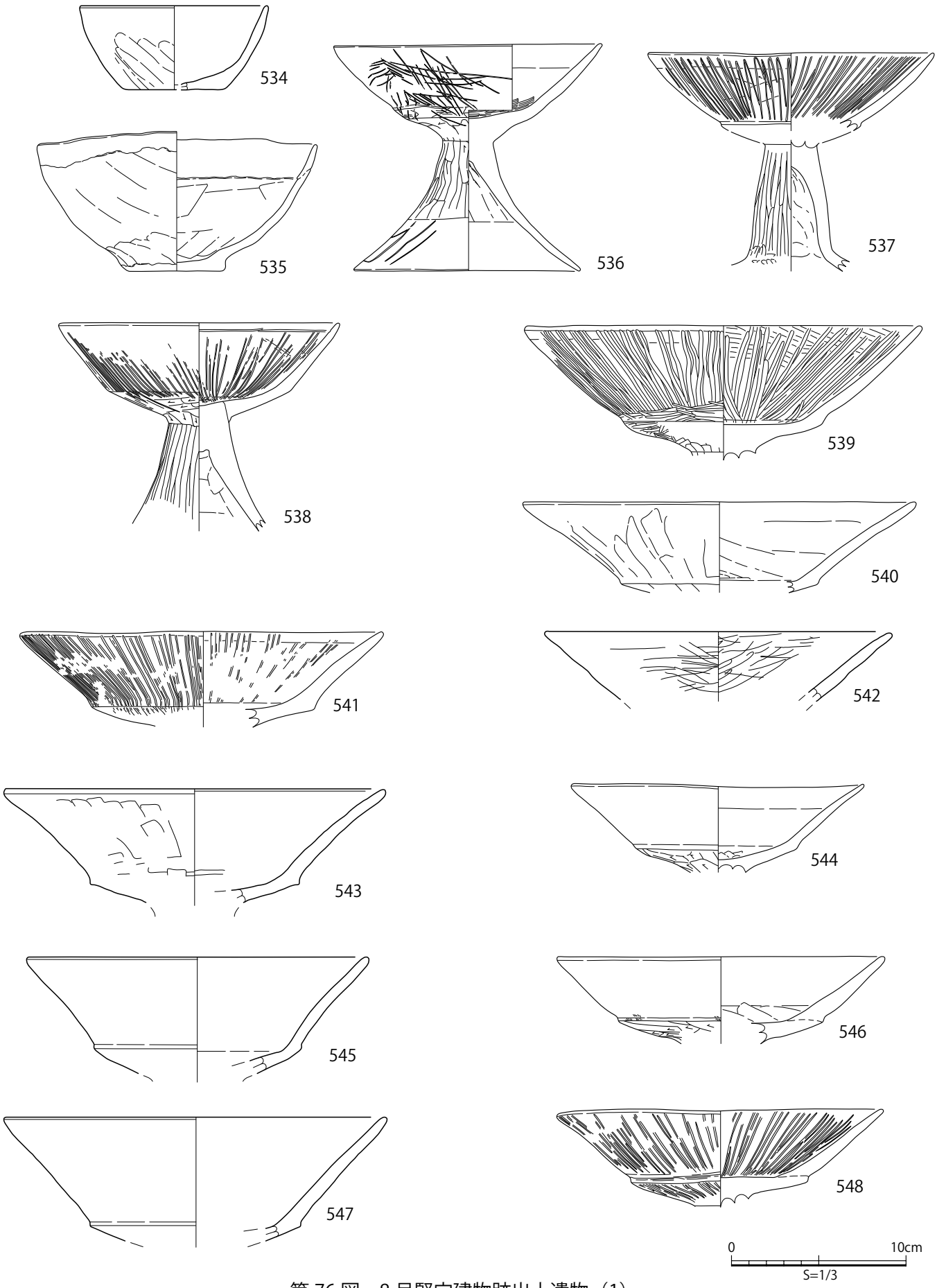


第 74 図　7 号竪穴建物跡出土遺物（1）

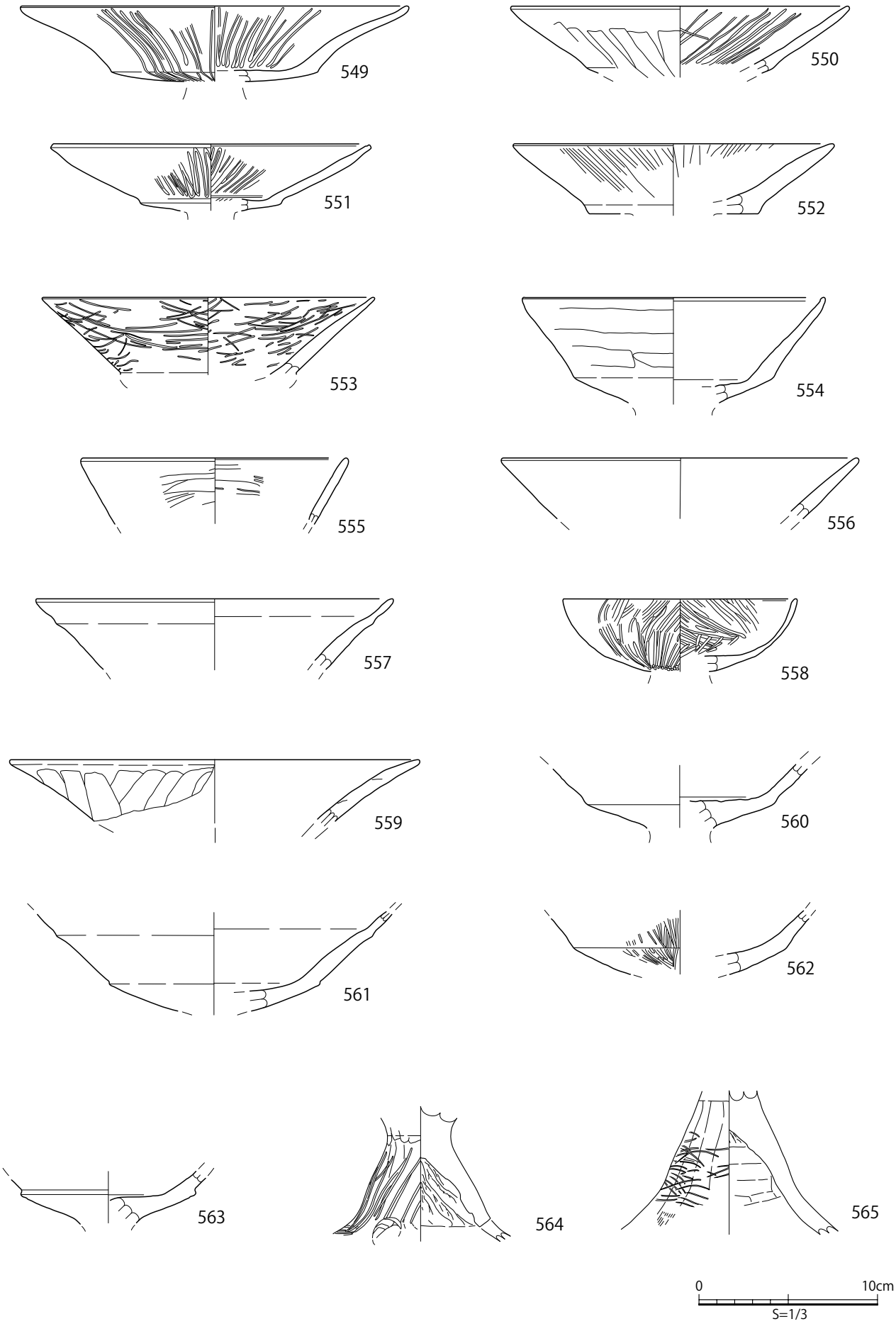


第 75 図　7 号竪穴建物跡出土遺物（2）

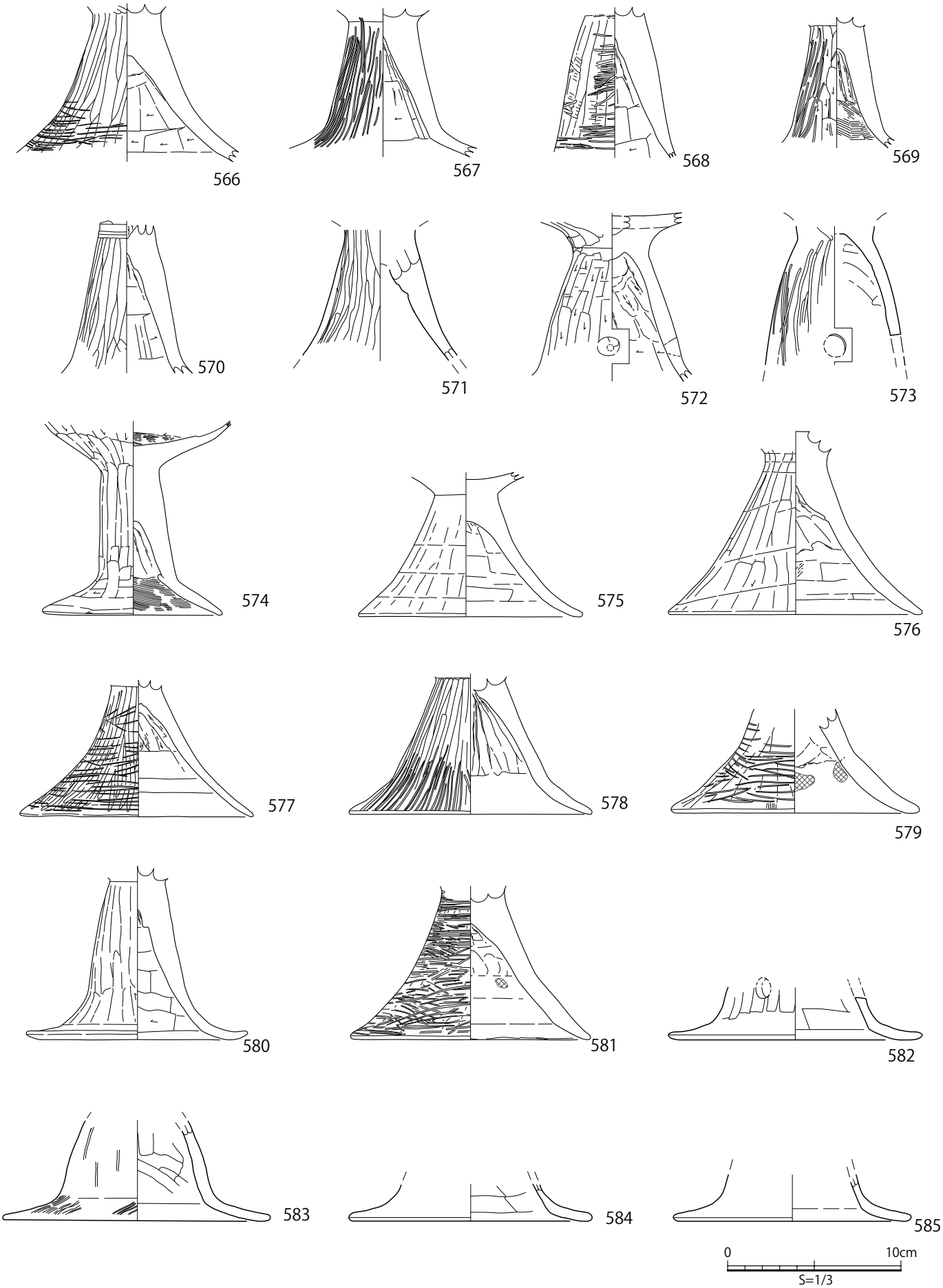
8 号竪穴建物跡



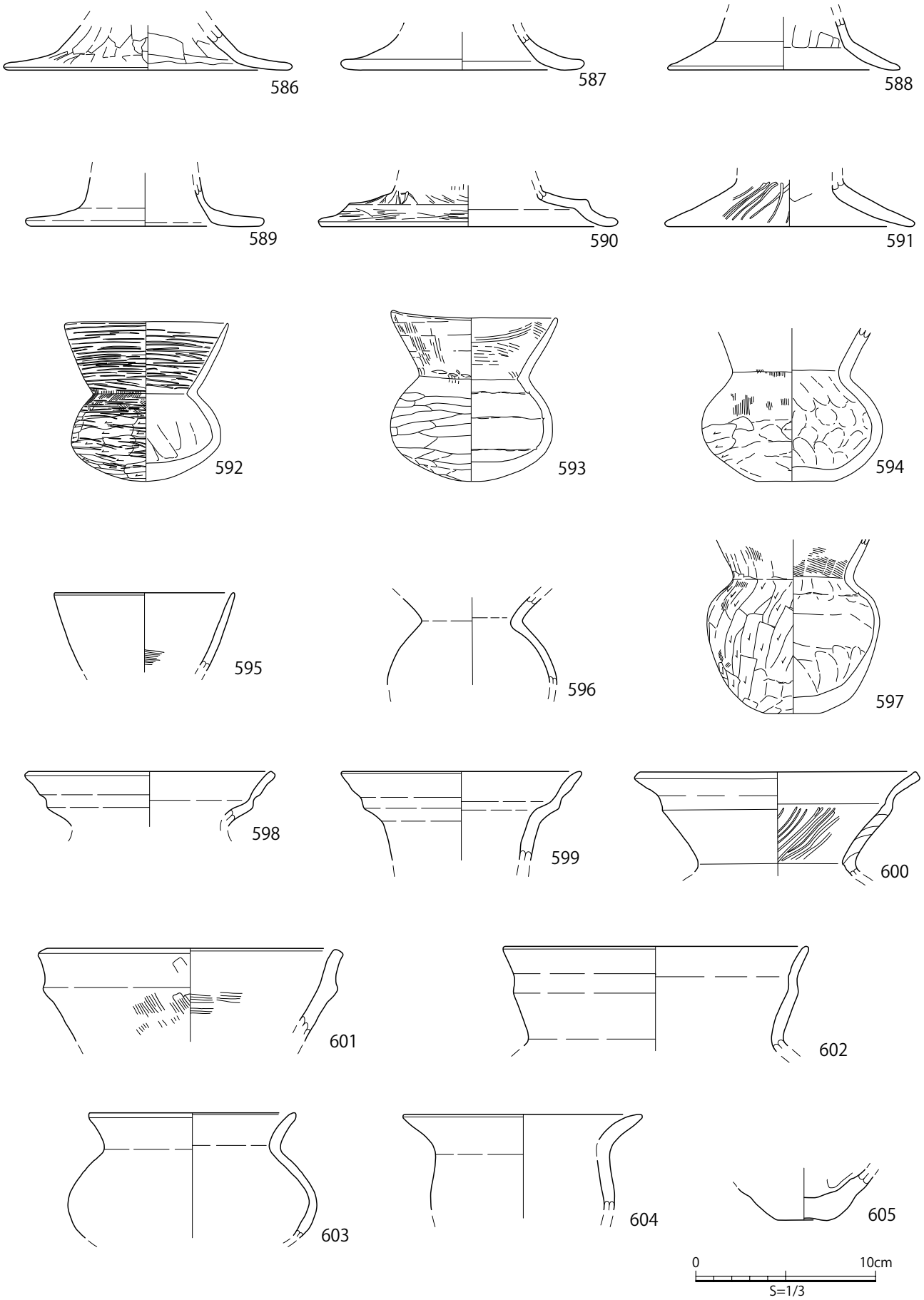
第 76 図　8 号竪穴建物跡出土遺物（1）



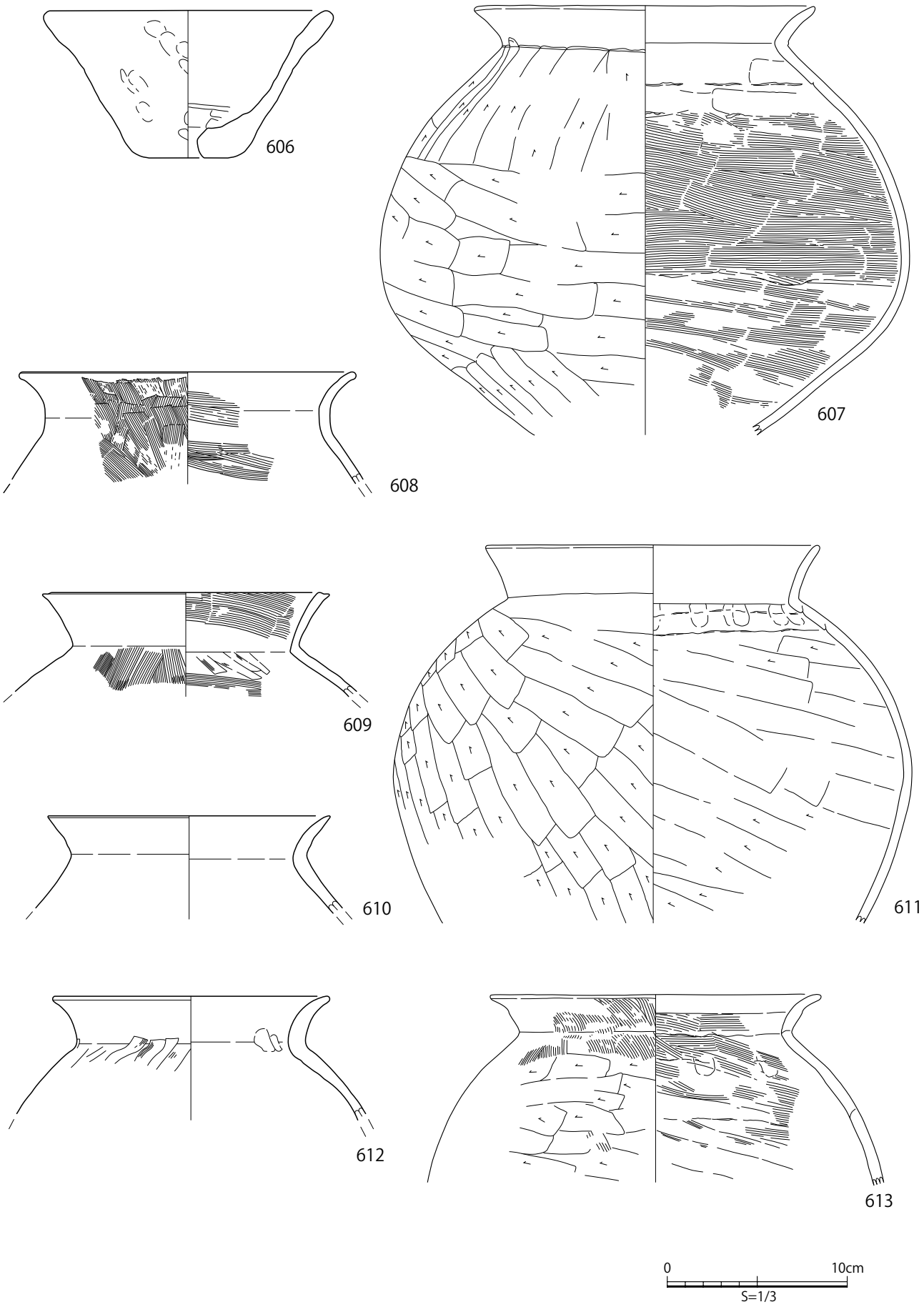
第 77 図　8 号竪穴建物跡出土遺物（2）



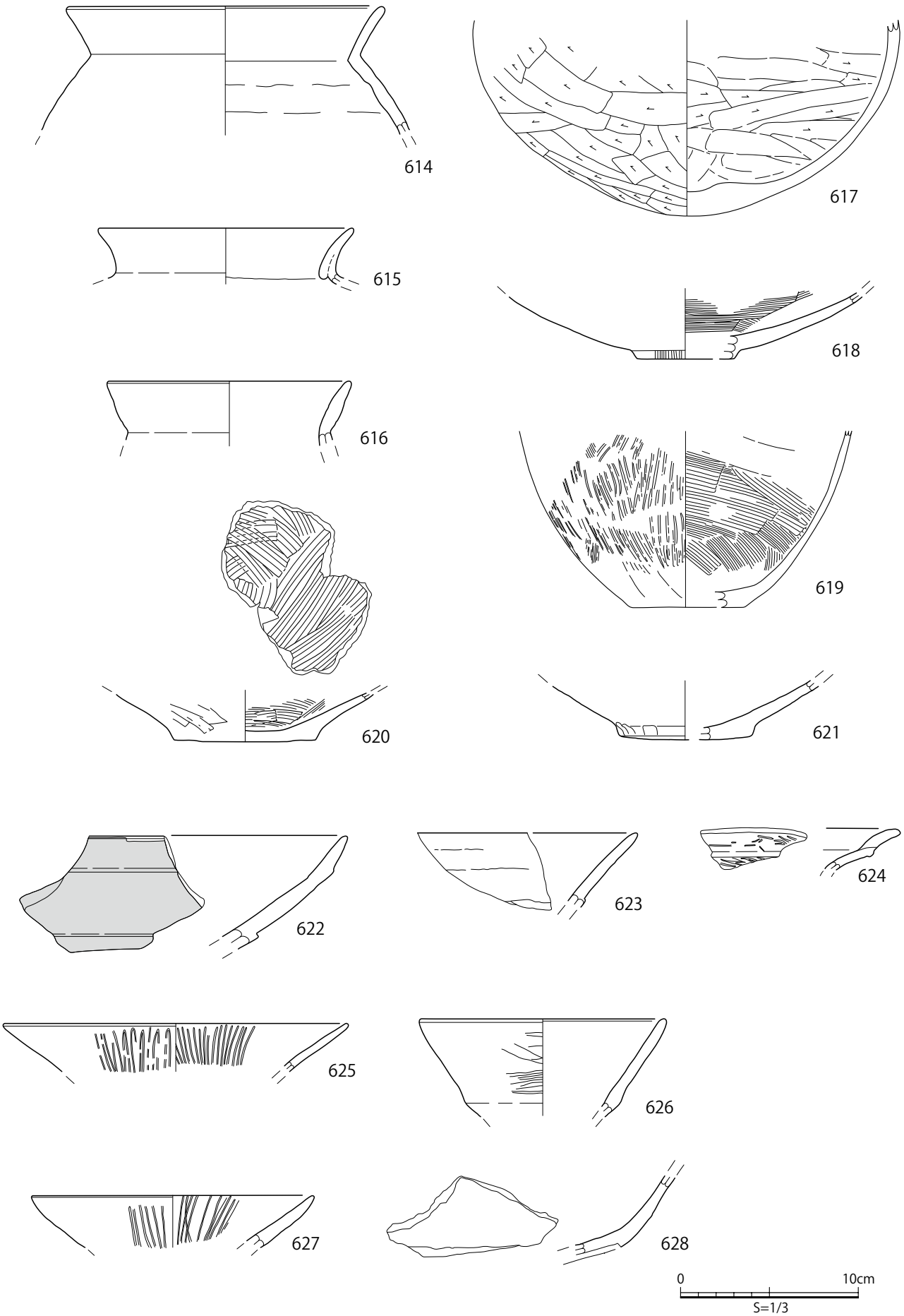
第 78 図　8 号竪穴建物跡出土遺物（3）



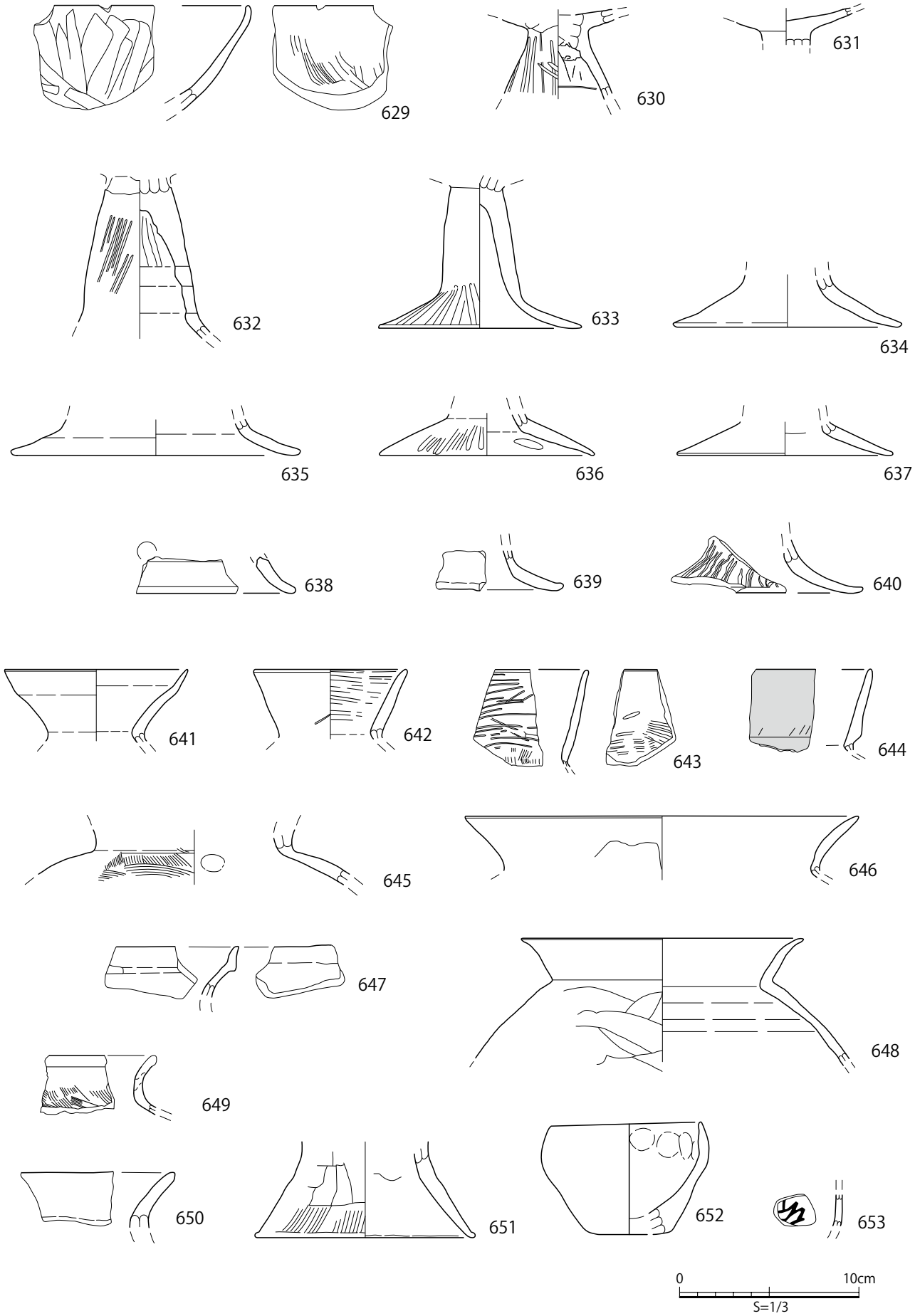
第 79 図　8 号竪穴建物跡出土遺物（4）



第 80 図　8 号竪穴建物跡出土遺物（5）

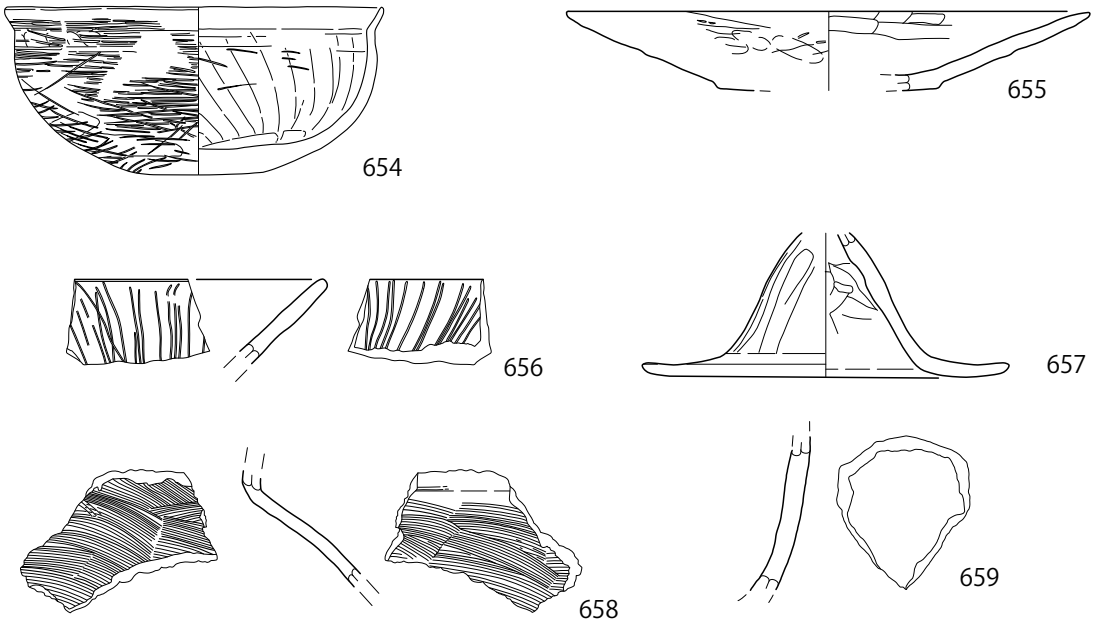


第 81 図　8 号竪穴建物跡出土遺物（6）

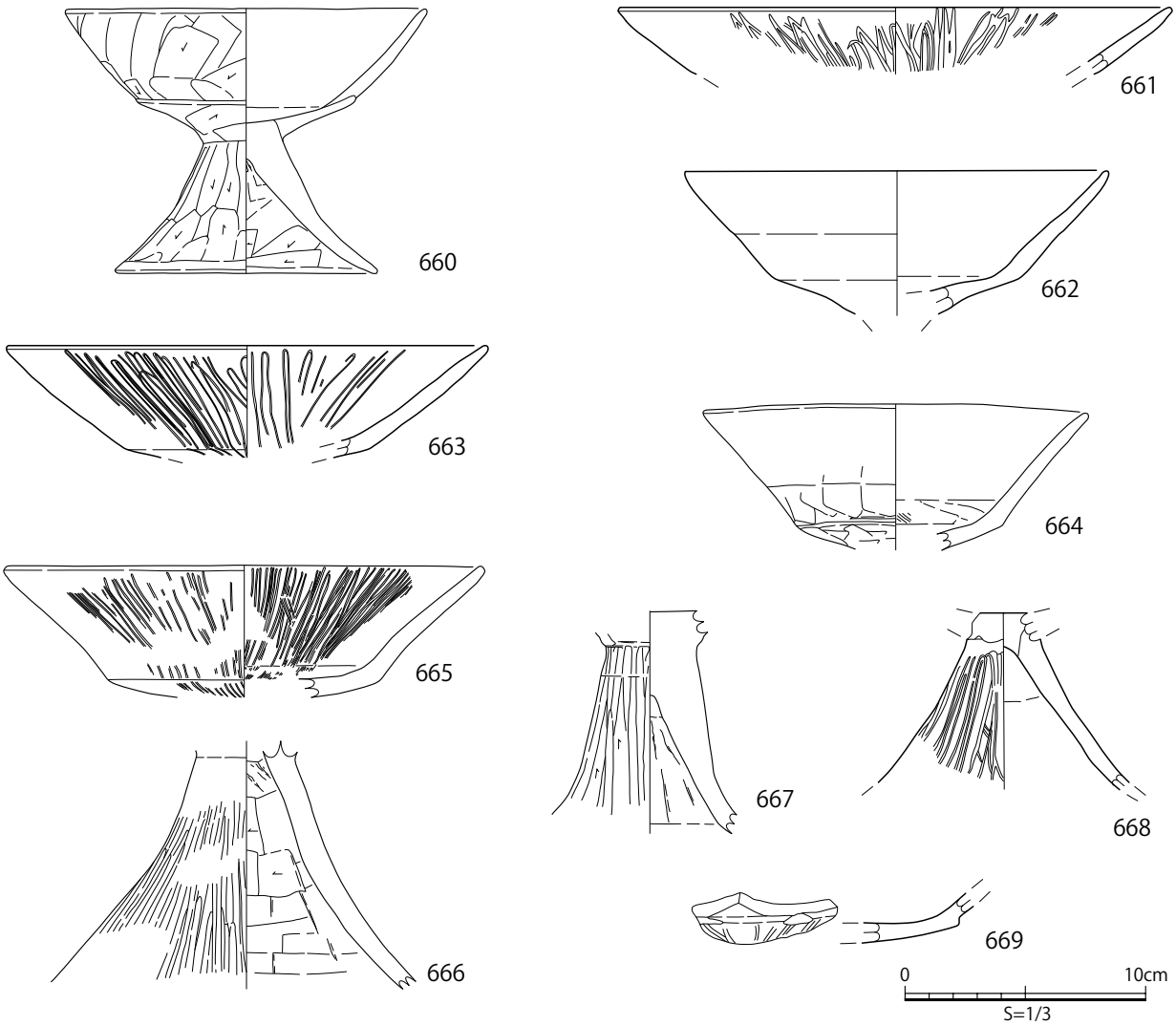


第 82 図　8 号竪穴建物跡出土遺物（7）

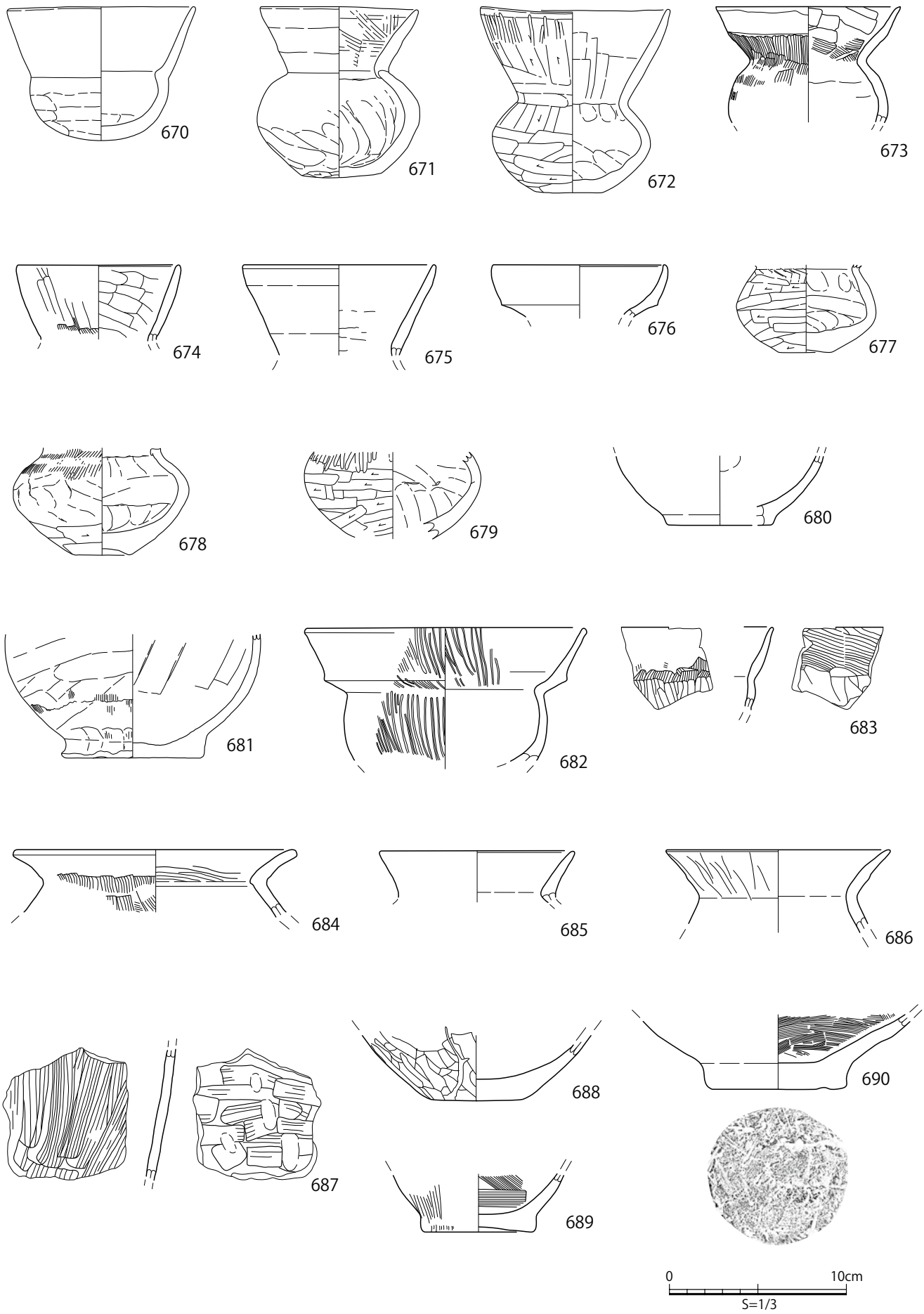
15 号溝状遺構



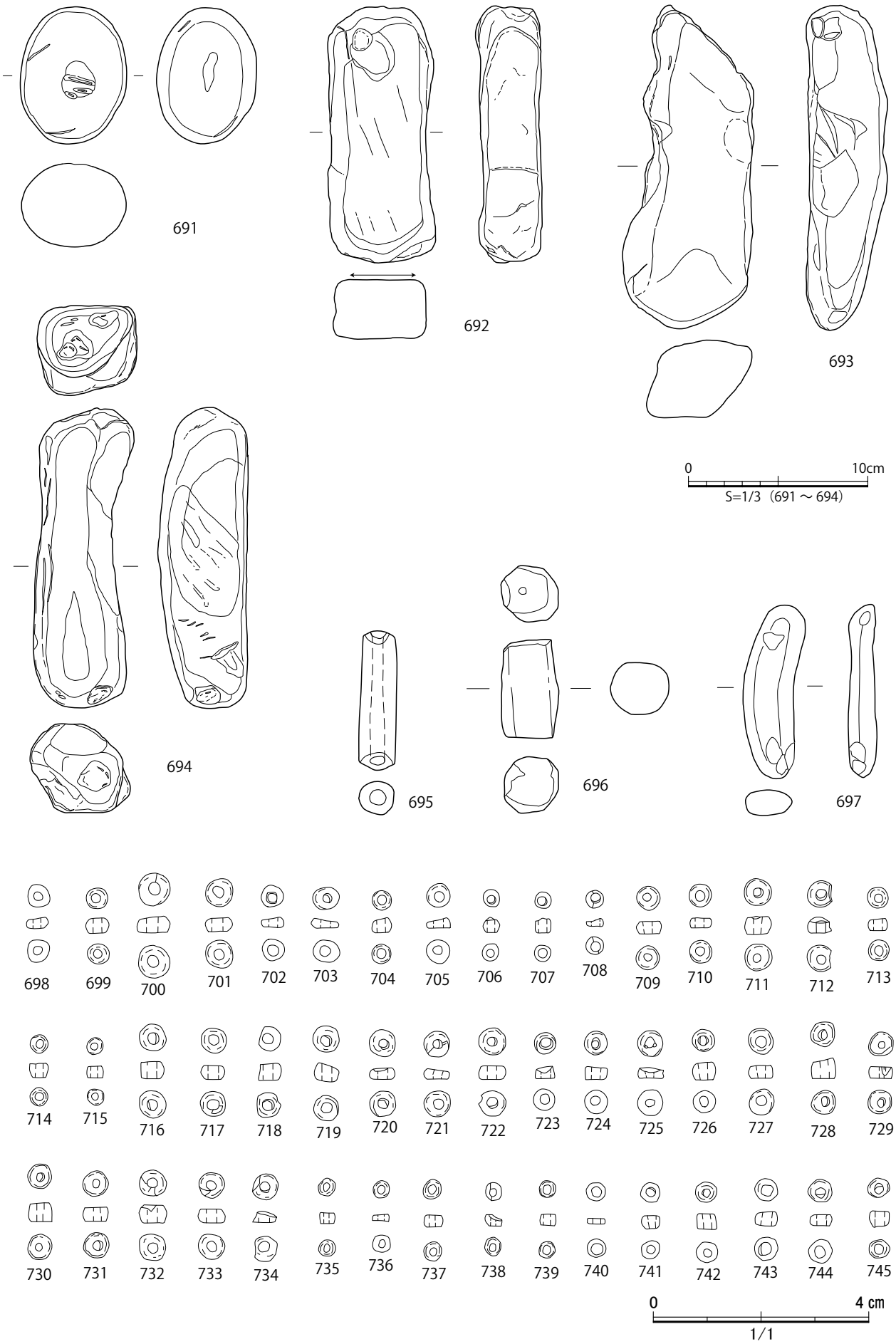
遺構外



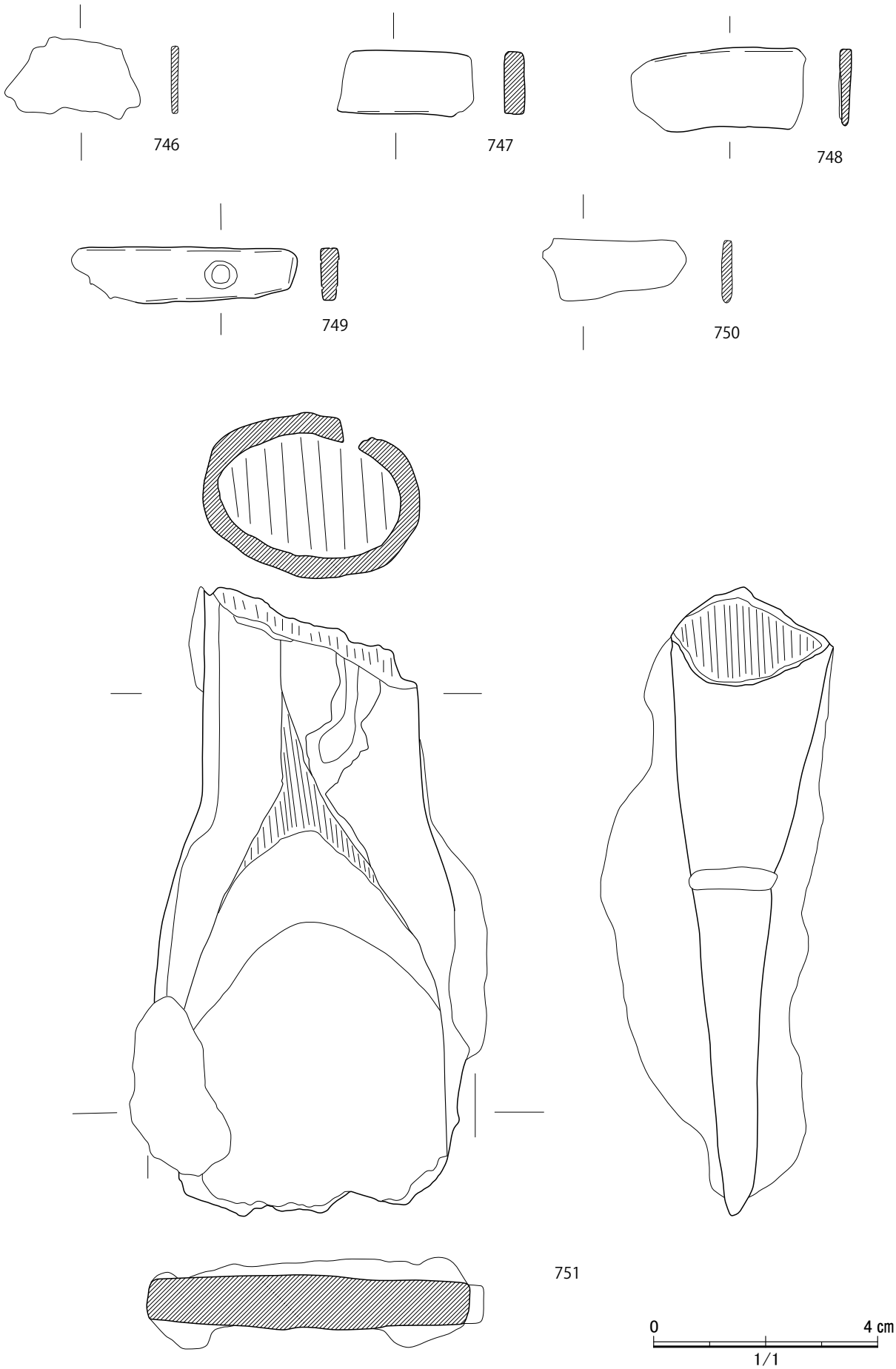
第 83 図　15 号溝状遺構・遺構外出土遺物（1）



第 84 図　遺構外出土遺物（2）



第 85 図　古墳時代遺構面出土遺物（石製品）



第 86 図　古墳時代遺構面出土遺物（金属製品）

第２表　古墳時代前期～中期　土器観察表

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第32図	1	1号竪穴建物跡	土師器	鉢	10.0/4.2/3.9	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代前期後半	外面に黒斑、底部円盤充填法
第32図	2	1号竪穴建物跡	土師器	鉢	9.6/4.2/4.2	良好	外面5YR5/3にぶい赤褐色、内面5YR5/3にぶい赤褐色	密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代前期後半	底部円盤充填法
第32図	3	1号竪穴建物跡	土師器	鉢	(9.8)/4.1/4.1	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・長石・雲母・白色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代前期後半	底部円盤充填法
第32図	4	1号竪穴建物跡	土師器	鉢	10.5/5.1/5.4	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・石英・長石・雲母	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代前期後半	底部円盤充填法
第32図	5	1号竪穴建物跡	土師器	鉢	(13.4)/5.3/(6.0)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子		古墳時代前期後半	
第32図	6	1号竪穴建物跡	土師器	高杯か	11.7/-/(5.1)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代前期後半	内外面部分的に炭化物付着、内面に黒斑
第32図	7	1号竪穴建物跡	土師器	鉢か	18.2/-/(7.9)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・角閃石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ、内面ヘラナデ	古墳時代前期後半	口縁部歪み有、内面に黒斑
第32図	8	1号竪穴建物跡	土師器	高坏	(17.4)/-/(4.1)	良好	5YR5/6 明赤褐色	雲母・Φ1mm大の小石	内面外面ハケ	古墳時代中期前半	
第32図	9	1号竪穴建物跡	土師器	高坏	(23.8)/-/(8.6)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代前期後半	
第32図	10	1号竪穴建物跡	土師器	高坏	(16.0)/-/(4.3)	良好	5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・白色粒子・雲母	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	内面に黒斑
第32図	11	1号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(6.3)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・橙色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第32図	12	1号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/14.0/(6.6)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代前期後半	透孔（４ヶ所）有
第32図	13	1号竪穴建物跡	土師器	高坏	20.5/10.8/17.8	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・チャート	外面ハケメ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代前期後半	外面に黒斑、透孔（４ヶ所）有
第32図	14	1号竪穴建物跡	土師器	高 坏	17.5/(10.7)/14.8	良好	外面2.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代前期後半	透孔（3 ヶ所）有、外面に黒斑
第32図	15	1号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(12.0)/(5.6)	良好	7.5YR7/3 にぶい橙色	赤色粒子	内面外面工具による調整痕	古墳時代前期後半	
第33図	16	1号竪穴建物跡	土師器	小型壺	(11.9)/(4.5)/(7.1)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	白色粒子・赤色粒子・銀雲母	内面ナデ、見込み部ヘラケズリ、外面ヘラナデ、指ナデ	古墳時代前～中期	
第33図	17	1号竪穴建物跡	土師器	甕か	(9.6)/-/(5.7)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子・金雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	内面外面に煤付着
第33図	18	1号竪穴建物跡	土師器	小型壺	9.8/-/(3.7)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・チャート・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代前～中期	外面に黒斑、有段口縁
第33図	19	1号竪穴建物跡	土師器	壺	-/-/(5.4)	良好	10YR6/ 4 にぶい黄橙色	白色粒子・石英	内面ヨコハケ、外面ハケ	古墳時代前～中期	
第33図	20	1号竪穴建物跡	土師器	壺	14.5/6.2/27.3	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・凝灰岩・チャート	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代前～中期	底部円盤充填法
第33図	21	1号竪穴建物跡	土師器	S 字状口縁台付甕	15.0/-/(21.5)	良好	外面7.5YR5/2灰褐色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代前期中葉	外面にスス付着
第33図	22	1号竪穴建物跡	土師器	S 字状口縁台付甕	(16.0)/-/(25.1)	良好	外面7.5YR3/1黒褐色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代前期後半	３辺を合成して器形復元、外面にスス付着
第34図	23	1号竪穴建物跡	土師器	台付甕	(15.7)/(8.4)/(24.3)	良好	外面10YR4/3にぶい黄褐色、内面10YR4/3にぶい黄褐色	やや密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代前期後半	外面に炭化物付着
第34図	24	1号竪穴建物跡	土師器	S 字状口縁台付甕	(14.9)/-/(5.5)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面7.5YR5/3にぶい褐色	密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代前期中葉	内外面に炭化物付着
第34図	25	1号竪穴建物跡	土師器	S 字状口縁台付甕	(13.15)/-/(6.0)	良好	10YR5/2 灰黄褐色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面指ナデ、外面ハケ	古墳時代前期後半	
第34図	26	1号竪穴建物跡	土師器	S 字状口縁台付甕	(12.3)/-/(5.8)	良好	外面10YR5/2灰黄褐色、内面10YR6/3にぶい黄橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代前期後半	外面に炭化物付着
第34図	27	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(17.9)/-/(19.7)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR7/6橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代前期後半	外面に炭化物付着
第34図	28	1号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/-/(22.8)	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色、内面10YR7/4にぶい黄橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート・黒色粒子	外面ハケメ、内面ナデ・ハケメ・ヘラケズリ	古墳時代前期後半	内外面にスス付着
第34図	29	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(21.9)/-/(7.1)	良好	外面5YR7/6橙色、内面5YR7/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・角閃石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代前期後半	
第34図	30	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.0)/-/(3.2)	良好	7.5YR2/2 黒褐色	白色粒子	内面口縁部ヨコハケ、頸部継ぎたし、外面口縁部斜ハケ、頸部タテハケ	古墳時代前期後半	
第34図	31	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(20.2)/-/(4.4)	良好	10YR3/3 暗褐色	白色粒子	内面ケズリ、外面指頭押圧痕・ヨコナデ、指抑え	古墳時代前～中期	内面一部に煤付着、全体に煤付着
第35図	32	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(19.2)/-/(7.5)	良好	7.5YR3/1 黒褐色	白色粒子・黒色粒子	外面ハケ後ヘラナデ	古墳時代前～中期	外面に煤付着
第35図	33	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(20.0)/-/(4.0)	良好	7.5YR3/2 黒褐色	金雲母	内面外面口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ	古墳時代前～中期	内面に輪積み痕、黒斑、外面に煤付着
第35図	34	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.0)/-/(3.8)	良好	10YR7/4 にぶい黄橙色	白色粒子・黒色粒子	内面ヨコハケ、外面ナナメハケ	古墳時代前～中期	
第35図	35	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(17.0)/-/(3.9)	良好	5YR2/1 黒褐色	白色粒子・金雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第35図	36	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(15.1)/-/(4.1)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ハケ	古墳時代前～中期	外面に黒斑
第35図	37	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(19.2)/-/(5.5)	良好	7.5YR4/1 褐灰色	白色粒子・雲母	外面ナデ	古墳時代前～中期	
第35図	38	1号竪穴建物跡	土師器	甕	(15.2)/-/(4.1)	良好	7.5YR6/3 にぶい褐色	金雲母・白色粒子・黒色粒子・石英	内面ヨコハケ、外面ナナメハケ	古墳時代前～中期	
第35図	39	1号竪穴建物跡	土師器	S 字状口縁台付甕	-/-/(3.5)	良好	7.5YR5/2 灰褐色	石英・雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面ハケ	古墳時代前期後半	内面に指頭押圧痕
第35図	40	1号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/(10.8)/(6.6)	良好	外面5YR6/6明赤褐色、内面5YR6/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ・ハケメ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代前期後半	
第35図	41	1号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/-/(16.0)	良好	7.5YR7/6 橙色	白色粒子・金雲母	外面ハケ	古墳時代前期後半	内面外面一部に煤付着　分析資料
第35図	42	1号竪穴建物跡	土師器	壺	-/10.9/(4.5)	良好	外面10YR7/3にぶい黄橙色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母	外面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヘラナデ	古墳時代前期後半	外面底部に植物痕有
第35図	43	1号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(11.2)	良	外10YR3/1黒褐色 内7.5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子　白・黒色砂粒	外面　ハケ後ヘラ成形　内面ヨコナデ　指頭痕	古墳時代前期後半	

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第36図	44	1号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(5.0)	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコハケ、外面ナナメハケ	古墳時代前～中期	外面に煤付着
第36図	45	1号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.6)	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	白色粒子・Φ1㎜大の小石	外面ナナメハケ	古墳時代前～中期	外面に指頭押圧痕
第36図	46	1号竪穴建物跡	土師器	S 字状口縁台付甕	-/-/(5.8)	良好	7.5YR2/1 黒色	白色粒子	外面ハケ	古墳時代前期後半	外面全体に煤付着
第36図	47	1号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.3)	良好	7.5YR7/6 橙色	石英・黒雲母・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコハケ、外面タテハケ	古墳時代前～中期	
第36図	48	1号竪穴建物跡	土師器	S 字状口縁台付甕	-/-/(4.05)	良好	10YR1.7/1 黒色	金雲母・白色粒子・黒色粒子	内面指ナデ、外面ハケ	古墳時代前期後半	内面に指頭押圧痕
第36図	49	1号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.95)	良好	2.5YR4/8 赤褐色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第36図	50	1号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.2)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	外面ミガキ	古墳時代前～中期	外面に種実圧痕
第36図	51	2号竪穴建物跡	土師器	坏	(14.9)/-/(4.2)	良好	5YR3/6 暗赤褐色	石英・白雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヘラナデ	古墳時代中期前～中	
第36図	52	2号竪穴建物跡	土師器	坏	-/-/(4.8)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前～中	
第36図	53	2号竪穴建物跡	土師器	高坏	(22.0)/-/(7.0)	良好	外面5YR5/8明赤褐色、内面5YR5/8明赤褐色	密・細砂・微細石英・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第36図	54	2号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(9.4)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第36図	55	2号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(8.1)/(5.8)	良好	外面10YR6/2灰黄褐色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前～中	内外面に黒斑
第36図	56	2号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.3)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第36図	57	2号竪穴建物跡	土師器	小型壺	10.0/-/(5.0)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第36図	58	2号竪穴建物跡	土師器	小型壺	-/-/(3.6)	良好	7.5YR3/1 黒褐色	赤色粒子・金雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	内面一部、外面全体に煤付着
第36図	59	2号竪穴建物跡	土師器	小型壺	-/-/(4.4)	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子	外面ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第37図	60	2号竪穴建物跡	土師器	壺	(14.4)/-/(7.8)	良好	外面10YR6/3にぶい黄橙色、内面10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第37図	61	2号竪穴建物跡	土師器	壺	-/-/(10.8)	良好	外面10YR4/2灰黄褐色、内面10YR3/2黒褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面にスス付着
第37図	62	2号竪穴建物跡	土師器	台の付く甕 or 鉢	-/(11.8)/(5.9)	良好	外面10YR5/3にぶい黄褐色、内面10YR5/3にぶい黄褐色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・チャート・火成岩・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・指押さえ、内面ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面に炭火物付着
第37図	63	2号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.9)	良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ、ミガキ、外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	外面一部に黒斑
第37図	64	2号竪穴建物跡	土師器	鉢	(25.7)/-/(6.4)	良好	外面7.5YR5/4にぶい褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第37図	65	3号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.9)/-/(4.8)	良好	外面7.5YR7/3にぶい橙色、内面10YR7/2にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第37図	66	3号竪穴建物跡	土師器	高坏	(20.7)/-/(5.1)	良好	外面2.5YR4/6赤褐色、内面2.5YR4/6赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・雲母	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面に部分剝離有
第37図	67	3号竪穴建物跡	土師器	高坏	(18.8)/-/(4.3)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第37図	68	3号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.9)	良好	外面10YR7/3にぶい黄橙色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ	古墳時代中期前半	
第37図	69	3号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.6)	良好	外面7.5YR7/3にぶい橙色、内面7.5YR7/3にぶい橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・橙色粒子	外面ヘラミガキ、内面ナデ	古墳時代中期前半	内面摩滅有
第37図	70	3号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.9)	良好	外面10YR7/3にぶい黄橙色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・チャート・白色粒子・黒色粒子	外面ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	剝離部分にハケメ有
第37図	71	3号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(9.8)	良好	外面10YR6/3にぶい黄橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内面にしぼり痕有
第37図	72	3号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(8.3)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第38図	73	3号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	9.8/-/(7.7)	良好	外面2.5YR5/4にぶい赤褐色、内面2.5YR5/4にぶい赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	内外面に赤彩有
第38図	74	3号竪穴建物跡	土師器	壺	(9.6)/-/(2.7)	良好	外面5YR7/6橙色、内面5YR7/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	古墳時代中期前～中	有段口縁
第38図	75	3号竪穴建物跡	土師器	甕	(14.6)/-/(3.75)	粗	10YR2/1 黒色	白色粒子・黒色粒子	内面口縁部ヨコナデ、頸部ハケ、外面頸部ヨコナデ	古墳時代中期前半	外面一部に煤付着、外側口縁部剝離
第38図	76	3号竪穴建物跡	土師器	ミニチュア土器	-/(1.8)（2.4）	良	外7.5YR5/3にぶい褐色 内7.5YR4/1褐灰色	密・赤色粒子、白色砂粒	外面わずかにミガキ　一部黒変　内面ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第38図	77	3号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	9.7/-/12.3	良好	外面10YR6/4にぶい黄橙色、内面2.5Y6/3にぶい黄色	密・細砂・微細石英・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	77，78は入れ子状土器
第38図	78	3号竪穴建物跡	土師器	甕	15.6/-/(23.6)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面にスス付着、内面成形時の凸凹残
第38図	79	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	18.8/13.7/14.3	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑、内面しぼり痕有
第38図	80	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	17.5/14.3/13.7	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第38図	81	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	19.4/(13.9)/14.5	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑、内外面摩滅有
第38図	82	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	23.3/-/(14.4)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第39図	83	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	18.4/-/(8.3)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面工具痕有
第39図	84	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	(24.7)/-/(7.8)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面沈線有、内面に黒斑、内面剝落有

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第39図	85	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	(20.0)/-/(4.2)	良好	外面5YR7/6橙色、内面5YR7/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第39図	86	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	20.0/-/(6.9)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第39図	87	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	18.5/-/(4.8)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑、内面摩滅有
第39図	88	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.8)/-/(5.4)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR7/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第39図	89	3・4号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺 (平底)	11.5/4.8/12.0	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第39図	90	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.1)	良好	外面2.5YR4/6赤褐色、内面2.5YR4/6赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・赤褐色粒子	外面ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第39図	91	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.7)	良好	外面7.5YR4/4褐色、内面7.5YR4/4褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・指押さえ、内面ナデ	古墳時代中期前半	
第39図	92	3・4号竪穴建物跡	土師器	鉢	(12.0)/-/(4.2)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・長石・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第39図	93	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	16.2/-/(5.6)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第39図	94	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	(18.9)/-/(6.3)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第39図	95	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	(13.85)/-/(2.0)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	石英・白雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ、外面ケズリ	古墳時代中期前半	
第39図	96	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(5.4)	良好	外面7.5YR4/2灰褐色、内面7.5YR5/3にぶい褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第39図	97	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(6.8)	良好	外面10YR6/6明黄褐色、内面10YR6/3にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第39図	98	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(5.8)	良好	外面10YR3/2黒褐色、内面10YR3/2黒褐色	密・細砂・白色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ	古墳時代中期前半	外面に工具痕有、内面しぼり痕有
第39図	99	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	(17.3)/-/(4.1)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑
第39図	100	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(10.8)/(1.7)	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑
第40図	101	3・4号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	8.6/-/(7.8)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第40図	102	3・4号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/4.8/(1.9)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ・指押さえ、内面ナデ	古墳時代中期前半	
第40図	103	3・4号竪穴建物跡	土師器	壺	(19.8)/-/(4.4)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第40図	104	3・4号竪穴建物跡	土師器	甕	(15.0)/-/(5.9)	良好	外面7.5YR4/2灰褐色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・角閃石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	内外面スス付着
第40図	105	3・4号竪穴建物跡	土師器	壺	(22.0)/-/(3.2)	良好	5YR5/6 明赤褐色	白色粒子・金雲母	内面ヨコナデ、外面ミガキ	古墳時代中期前半	外面一部に黒斑
第40図	106	3・4号竪穴建物跡	土師器	甕	(17.7)/7.4/25.4	良好	外面7.5YR4/2灰褐色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・板ナデ・ハケメ・指押さえ、内面ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第40図	107	3・4号竪穴建物跡	土師器	甕	14.4/6.4/20.3	良好	外面7.5YR3/1黒褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ・指押さえ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面全体にスス付着、内面にうすいスス付着
第40図	108	3・4号竪穴建物跡	土師器	甕	-/6.8/(3.5)	良好	外面10YR4/2灰黄褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・角閃石・雲母・チャート	外面ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第40図	109	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.45)	良好	5YR6/6 橙色	金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第40図	110	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.0)	良好	7.5YR7/3 にぶい橙色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ、外面ハケ	古墳時代中期前半	
第40図	111	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(5.0)	良好	7.5YR7/3 にぶい橙色	赤色粒子・金雲母	内面外面ヘラナデ後ミガキ	古墳時代中期前半	
第40図	112	3・4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.0)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ、外面ヨコミガキ	古墳時代中期前半	
第40図	113	3・4号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.2)	良好	10YR7/2 にぶい黄橙色	白色粒子・金雲母	内面外面口縁部ヨコナデ、頸部ケズリ	古墳時代中期前半	内面外面一部に黒斑
第41図	114	4号竪穴建物跡	土師器	高坏	(15.8)/-/(3.7)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子	内面外面暗文	古墳時代前～中期	
第41図	115	4号竪穴建物跡	土師器	高坏	(20.0)/-/(2.7)	良好	7.5YR4/2 灰褐色	赤色粒子・金雲母	内面暗文、外面ミガキ、暗文	古墳時代中期前半	外面に線刻
第41図	116	4号竪穴建物跡	土師器	高坏	(18.0)-/(4.3)	良	7.5YR6/4にぶい橙色	密　赤色粒子、白・黒砂粒	外面横位ヘラナデ　内？	古墳時代中期前半	
第41図	117	4号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(5.2)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第41図	118	4号竪穴建物跡	土師器	小型壺	(10.0)/-/(4.3)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヘラナデ	古墳時代中期前半	内外面スス付着
第41図	119	4号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.5)	良好	10YR6/ 4 にぶい黄橙色	赤色粒子・黒色粒子	内面口縁下部ナナメハケ、外面頸部ハケ	古墳時代前～中期	
第41図	120	4号竪穴建物跡	土師器	壺	9.0/7.0/15.6	やや良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・長石・チャート・白色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代前期後半	
第41図	121	4号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.45)	良好	5YR7/4 にぶい橙色	石英・金雲母・白色粒子・黒色粒子	内面外面口縁部ヨコナデ、内面頸部ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第41図	122	4号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.2)/-/(5.8)	良好	外面2.5Y3/1黒褐色、内面2.5Y3/1黒褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・チャート	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・指押さえ	古墳時代前～中期	内外面スス付着
第41図	123	4号竪穴建物跡	土師器	甕	(20.0)/-/(4.8)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	白色粒子・黒色粒子	内面外面ハケ	古墳時代前～中期	
第41図	124	4号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.9)/-/(2.45)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ハケ	古墳時代前～中期	
第41図	125	4号竪穴建物跡	土師器	甕	(17.5)/-/(20.2)	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色、内面10YR6/3にぶい黄橙色	やや密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代前期後半	外面にスス付着
第41図	126	4号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/9.5/(6.7)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・角閃石・雲母・チャート	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ヘラナデ	古墳時代前期後半	

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第41図	127	4号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/9.0/5.9	良好	外面7.5YR5/3にぶい褐色、内面10YR5/3にぶい黄褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ・ハケメ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代前期後半	
第41図	128	4号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/-/(4.9)	良好	外面10YR7/3にぶい橙色、内面10YR7/3にぶい橙色	やや粗・細砂・小礫・微細石英・長石・チャート・火成岩	外面ナデ・ハケメ、内面ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代前期後半	外面にスス付着
第41図	129	4号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(7.5)	良好	10YR3/4 暗褐色	白色粒子	内面外面ハケ	古墳時代前～中期	内面に黒斑
第42図	130	5号竪穴建物跡	土師器	鉢	(11.7)/4.8/(5.5)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第42図	131	5号竪穴建物跡	土師器	坏	(10.3)/-/(3.2)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ、外面ヨコハケ後ヘラケズリ	古墳時代中期前～中	
第42図	132	5号竪穴建物跡	土師器	坏	-/-/(4.1)	良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	石英・白雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面斜ヘラナデ、外面ヨコヘラケズリ	古墳時代中期前～中	外面に黒斑
第42図	133	5号竪穴建物跡	土師器	坏	-/-/(4.7)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子・黒色粒子・白色粒子	内面ハケ、外面口縁部ナデ、頸部ハケ、胴部ヘラケズリ後ナデ	古墳時代中期前～中	
第42図	134	5号竪穴建物跡	土師器	鉢	-/-/(4.3)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	黒色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第42図	135	5号竪穴建物跡	土師器	鉢（甑）	-/4.8/(6.6)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ナデ・板ナデ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	底面に単孔
第42図	136	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	19.5/11.9/14.0	良好	外面2.5YR5/8明赤褐色、内面2.5YR6/8橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第42図	137	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	18.9/12.4/12.9	やや良	外面5YR6/8橙色、内面7.5YR6/8橙色	密・細砂・微細石英・長石・白色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第42図	138	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	16.9/12.2/14.9	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内面にしぼり痕有
第42図	139	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	(15.9)/-/(6.6)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑
第42図	140	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	17.6/-/(6.5)	良好	外面5YR4/6赤褐色、内面5YR4/6赤褐色	密・細砂・微細石英・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面剥落の為調整不明
第42図	141	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	(20.0)/-/(4.3)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・角閃石・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第42図	142	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	(17.1)/-/(3.45)	良好	5YR4/4 にぶい赤褐色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第42図	143	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.1)/-/(6.45)	良好	7.5YR6/6 橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第42図	144	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(6.2)	良好	外面5YR7/6橙色、内面5YR7/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ	古墳時代中期前半	
第42図	145	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	(10.0)/-/(4.6)	良好	5YR5/8 明赤褐色	赤色粒子・白色粒子・金雲母	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第42図	146	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.4)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・長石・雲母・白色粒子・黒色粒子	外面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に赤彩有
第42図	147	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	(13.8)/-/(3.8)	良好	2.5YR6/6 橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第42図	148	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.7)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第43図	149	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.6)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・雲母・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に工具痕有
第43図	150	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.5)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第43図	151	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.4)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子	内面ミガキ、外面上部ナデ、外面下部ヘラケズリ、ナデ	古墳時代中期前半	
第43図	152	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.5)	良好	5YR5/3 にぶい赤褐色	石英・雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第43図	153	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.4)	良好	5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	内面外面ハケ、ナデ	古墳時代中期前半	
第37図	154	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.9)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ、ヘラ調整、外面ヨコナデ後タテナデ	古墳時代中期前半	
第43図	155	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(9.7)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第43図	156	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(5.9)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ・指押さえ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第43図	157	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(7.3)	良好	外面2.5YR6/6橙色、内面2.5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第43図	158	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.3)/(5.7)	良好	外面5YR7/4にぶい橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第43図	159	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/11.0/(9.6)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第43図	160	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/12.0/(10.4)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第43図	161	5号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/-/(8.9)	良好	外面2.5YR4/6赤褐色、内面2.5YR4/6赤褐色	密・細砂・微細石英・長石・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第43図	162	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(7.6)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代前～中期	外面に黒斑、内面しぼり痕有
第43図	163	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/12.0/(10.4)	良	内外5YR5/4にぶい赤褐色	密　赤色粒子・白色砂粒	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第43図	164	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(12.5)/(6.6)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第43図	165	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(9.0)	良好	外面2.5YR6/6橙色、内面2.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヘラケズリ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第43図	166	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.8)/(7.8)	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	金雲母・石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ハケ、外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第44図	167	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺（平底）	10.0/3.0/10.2	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に炭火物付着、底部凹む
第44図	168	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	9.1/-/7.0	良好	外面2.5YR5/8明赤褐色、内面2.5YR5/8明赤褐色	密・細砂・微細石英・長石・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第44図	169	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺（平底）	-/4.3/(7.7)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面2.5YR6/8橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第44図	170	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺（平底）	-/3.7/(6.2)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラナデ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、部分的に布目痕有
第44図	171	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.8)/-/(5.0)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・黒色粒子	内面ナデ、頸部ヨコハケ、外面ヨコミガキ、頸部タテハケ	古墳時代中期前半	
第44図	172	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.8)/-/(5.2)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面外面ナデ	古墳時代中期前半	
第44図	173	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.5)/-/(3.3)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	金雲母・赤色粒子	内面外面ナデ	古墳時代中期前半	
第44図	174	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(10.0)/-/(3.5)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・金雲母	内面ハケ	古墳時代中期前半	
第44図	175	5号竪穴建物跡	土師器	壺	(14.9)/-/19.5	良好	外面5YR6/8橙色、内面5YR6/8橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内外面にスス付着
第44図	176	5号竪穴建物跡	土師器	壺	9.7/-/(6.8)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第44図	177	5号竪穴建物跡	土師器	壺	-/5.2/(7.5)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	密・細砂・微細石英・白色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ	古墳時代中期前半	外面にスス付着
第44図	178	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺（平底）	-/4.5/(5.8)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	内面ナデ、外面ヘラケズリ、ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第44図	179	5号竪穴建物跡	土師器	壺	-/(4.3)/(1.5)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面暗文、見込み一部暗文、底部糸切り後ヘラ調整、一部暗文	古墳時代中期前半	
第44図	180	5号竪穴建物跡	土師器	壺	-/3.5/(1.3)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・金雲母	内面ミガキ、外面ミガキ、ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第44図	181	5号竪穴建物跡	土師器	壺	17.4/6.5/31.6	良好	外面7.5YR7/6橙色、内面7.5YR7/6橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面にスス付着、内面にスス・コゲ付着
第45図	182	5号竪穴建物跡	土師器	S字状口縁台付甕	14.0/9.5/28.8	良好	外面5YR6/3にぶい橙色、内面5YR6/3にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・指押さえ	古墳時代中期初頭	外面工具痕有、外面全体にスス付着、内面にスス・コゲ付着
第45図	183	5号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/9.8/(27.3)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第45図	184	5号竪穴建物跡	土師器	甕	(21.5)/-/(27.3)	良好	外面10YR6/2灰黄褐色、内面10YR6/2灰黄褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面にスス付着、外面に被熱の為部分ハクリ有
第45図	185	5号竪穴建物跡	土師器	甕	21.0/(9.0)/30.2	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面10YR6/4にぶい黄橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面底部欠損部多
第46図	186	5号竪穴建物跡	土師器	甕	18.0/-/(8.4)	良好	外面10YR5/3にぶい黄褐色、内面10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗・細砂・微細石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ヘラナデ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面にスス付着
第46図	187	5号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(19.5)	良好	外面10YR6/3にぶい黄橙色、内面10YR6/3にぶい黄橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面にスス付着、内面にスス・コゲ付着
第46図	188	5号竪穴建物跡	土師器	甕	17.6/5.8/24.4	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面全体にスス付着、内面にスス付着
第46図	189	5号竪穴建物跡	土師器	甕	(19.6)/-/(25.1)	良好	外面10YR5/4にぶい黄褐色、内面10YR5/4にぶい黄褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に工具痕有、内外面にうすいスス付着
第46図	190	5号竪穴建物跡	土師器	甕	15.5/-/(18.6)	良好	外面10YR3/1黒褐色、内面10YR3/1黒褐色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面板ナデ・ハケメ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	—
第46図	190	5号竪穴建物跡	土師器	甕	-/5.4/(10.7)	良好	外面2.5Y3/1黒褐色、内面2.5Y3/1黒褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ・ヘラケズリ・タタキ痕、内面ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面にうすいスス付着、内面にスス付着
第47図	191	5号竪穴建物跡	土師器	甕	16.4/-/(11.3)	良好	外面10YR4/2灰黄褐色、内面10YR6/2灰黄褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・雲母・白色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に工具痕有
第47図	192	5号竪穴建物跡	土師器	甕	-/6.8/(13.0)	良好	外面7.5YR2/2黒褐色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ・板ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着
第47図	193	5号竪穴建物跡	土師器	小型甕	11.6/5.5/12.5	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR5/3にぶい褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ・指押さえ、内面ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	—
第47図	194	5号竪穴建物跡	土師器	壺	-/7.3/(34.5)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑・スス付着
第47図	195	5号竪穴建物跡	土師器	甕	(15.4)/7.6/(23.9)	良好	外面10YR3/2黒褐色、内面10YR3/2黒褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面スス付着、内面スス・コゲ付着
第47図	196	5号竪穴建物跡	土師器	小型甕	12.1/(6.9)/12.6	良好	外面2.5YR4/6赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	やや粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に炭火物付着、内面うすいスス付着
第48図	197	5号竪穴建物跡	土師器	甕	17.4/8.6/21.6	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第48図	198	5号竪穴建物跡	土師器	小型甕	12.7/4.9/14.5	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面にスス付着
第48図	199	5号竪穴建物跡	土師器	小型甕	-/-/(7.0)	良好	外面7.5YR5/3にぶい褐色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・角閃石・雲母・チャート	外面ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面スス付着、内面うすいスス付着
第48図	200	5号竪穴建物跡	土師器	甕	22.0/11.0/32.0	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	粗・細砂・微細石英・長石・凝灰岩・角閃石	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第48図	201	5号竪穴建物跡	土師器	甕	14.8/6.0/18.3	良好	外面7.5YR4/2灰褐色、内面7.5YR4/2灰褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面にスス付着、内面にうすいスス付着、口縁部歪み有、内底に植物遺体が集積
第49図	202	5号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.6)/-/(2.6)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	金雲母・黒雲母・白色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ、ケズリ、外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	外面に煤付着

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第49図	203	5号竪穴建物跡	土師器	甕	(16.5)/-/(3.5)	良好	外面7.5YR4/3褐色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・板ナデ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代前～中期	内外面うすいススス付着
第49図	204	5号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.5)/-/(2.9)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ、内面ヨコナデ・ハケメ	古墳時代前～中期	外面に黒斑、内外面うすいススス付着
第49図	205	5号竪穴建物跡	土師器	甕	(14.0)/-/(3.6)	良好	5YR5/6 明赤褐色	白色粒子・赤色粒子・金雲母	内面外面ハケ	古墳時代前～中期	内面に輪積み痕、外面一部に煤付着
第49図	206	5号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(6.1)	良好	外面2.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR7/3にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代前～中期	
第49図	207	5号竪穴建物跡	土師器	壺	-/-/(4.1)	良好	外面2.5YR4/6赤褐色、内面2.5YR4/6赤褐色	密・細砂・微細石英・赤褐色粒子	外面ナデ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代前～中期	
第49図	208	5号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.9)	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・板ナデ・ハケメ	古墳時代前～中期	外面に工具痕有
第49図	209	5号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/10.0/(6.4)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ、内面ナデ・指押さえ	古墳時代前～中期	内外面に黒斑
第49図	210	5号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/11.3/(8.0)	良好	外面5YR6/3にぶい橙色、内面5YR5/8明赤褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母	外面板ナデ・ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代前～中期	内面に炭火物付着
第49図	211	5号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.75)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	石英・金雲母・白色粒子・黒色粒子	内面ヘラナデ、外面ハケ	古墳時代前～中期	
第49図	212	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.5)	良好	7.5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ、外面ミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第49図	213	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.2)	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面外面ヨコナデ後外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第49図	214	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.6)	良好	5YR6/6 橙色	黒色粒子	内面ヨコナデ、外面ヨコナデ後ミガキ	古墳時代前～中期	
第49図	215	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.2)	良好	5YR6/6 橙色	黒色粒子	内面ヨコナデ、口縁部及び外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第49図	216	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.8)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	黒色粒子・赤色粒子	内面ミガキ、外面ヘラケズリ後ミガキ	古墳時代前～中期	
第49図	217	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.4)	良好	7.5YR5/2 灰褐色	雲母	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第49図	218	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.9)	良好	7.5YR2/1 黒色	白色粒子・雲母		古墳時代前～中期	外全面に黒斑
第49図	219	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.8)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面指頭押圧痕、内面外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第49図	220	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.3)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面ハケ、外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第49図	221	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.7)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	雲母	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第37図	222	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.0)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面ミガキ、外面ヘラケズリ後ナデ	古墳時代前～中期	内面ミガキ不鮮明、摩耗
第49図	223	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.6)	良好	5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・雲母	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第49図	224	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.8)	良好	5YR6/4 にぶい橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第50図	225	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.7)	良好	5YR5/6 明赤褐色	雲母	内面ヨコナデ、外面ヨコナデ、ミガキ	古墳時代中期前半	
第50図	226	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(5.1)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	黒色粒子・白色粒子	内面ヨコハケ、外面ナデ	古墳時代中期前半	
第50図	227	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.9)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第50図	228	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.5)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子	内面ヨコナデ、外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第50図	229	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.2)	良好	7.5YR6/6 橙色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第50図	230	5号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.45)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ナデ	古墳時代前～中期	
第50図	231	5号竪穴建物跡	土師器	小型壺か	(10.1)/-/(2.2)	良好	7.5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ、外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第50図	232	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.45)	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面内面ハケ	古墳時代中期前半	
第50図	233	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.5)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子・褐色粒子	内面外面ナデ	古墳時代中期前半	外面に指頭押圧痕
第50図	234	5号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.5)	良好	5YR6/6 橙色	黒色粒子・赤色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	外面に指頭押圧痕
第50図	235	5号竪穴建物跡	土師器	壺か	-/-/(2.95)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面ミガキ	古墳時代前～中期	内面に輪積み痕
第50図	236	5号竪穴建物跡	土師器	壺か	-/-/(4.3)	良好	5YR5/6 明赤褐色	雲母・白色粒子	内面ナデ	古墳時代前～中期	
第50図	237	5号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	-/-/(2.65)	良好	10YR4/1 褐灰色	石英・黒雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面頸部ケズリ、口縁部及び外面ナデ	古墳時代前～中期	
第50図	238	5号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	-/-/(3.5)	良好	10YR6/ 4 にぶい黄橙色	白色粒子・雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第50図	239	5号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	-/-/(2.1)	良好	10YR6/ 4 にぶい黄橙色	白色粒子・金雲母	内面外面ナデ	古墳時代前～中期	
第50図	240	5号竪穴建物跡	土師器	甕か	-/-/(3.5)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	白色粒子・赤色粒子	内面ヘラケズリ、外面ナデ	古墳時代前～中期	
第50図	241	5号竪穴建物跡	土師器	壺	-/-/(5.8)	良好	7.5YR3/1 黒褐色	白色粒子・金雲母	内面指抑え、外面ケズリ	古墳時代前～中期	内面に輪積み痕
第51図	242	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(22.5)/-/(4.0)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第51図	243	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(21.9)/-/(2.7)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第51図	244	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(24.1)/-/(6.5)	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	外面ナデ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第51図	245	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(21.7)/-/(5.0)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第51図	246	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(21.6)/-/(6.8)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第51図	247	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(17.9)/-/(4.3)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第51図	248	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(17.6)/-/(5.6)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内外面にスス付着、内面に熱ハゼ有剥落
第51図	249	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.2)/-/(6.1)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第51図	250	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(17.9)/-/(4.3)	良好	10YR7/4 にぶい黄橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ、外面ヘラケズリ後ヨコナデ、ミガキ	古墳時代中期前半	
第51図	251	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(17.9)/-/(4.2)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英・金雲母	内面ミガキ、外面ハケ、ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第51図	252	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(14.4)/-/(6.2)	良好	5YR6/8 橙色	金雲母・赤色粒子・白色粒子		古墳時代中期前半	

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第51図	253	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(7.3)	やや良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面一部に黒色、内面しぼり痕有
第51図	254	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(6.7)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	透孔（2ヶ所）残存有（推定4ヶ所）
第51図	255	6号竪穴建物跡	土師器	高坏か	-/(12.2)/(6.3)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に工具痕有、内面に黒斑
第51図	256	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(14.9)/(5.5)	良好	5YR5/6 明赤褐色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英・金雲母	内面ヘラケズリ、外面ヘラケズリ後ミガキ	古墳時代中期前半	
第51図	257	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(15.2)/(5.0)	良好	外面5YR4/6赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	内面にしぼり痕有
第52図	258	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/12.4/(8.2)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面にしぼり痕有、内面剝離か？
第52図	259	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(12.9)/(6.0)	良好	外面5YR4/6赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第52図	260	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.0)/(2.1)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第52図	261	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.0)/(2.3)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR4/3にぶい赤褐色	密・細砂・微細石英・長石・雲母・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ	古墳時代中期前半	透孔（１ヶ所）残存有、有段の脚
第52図	262	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(17.6)/(2.2)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR4/6赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・白色粒子	外面ヨコナデ、内面ヨコナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第52図	263	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(15.8)/(2.3)	やや不良	外面10YR6/2灰黄褐色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	やや密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面摩滅有、内面しぼり痕有
第52図	264	6号竪穴建物跡	土師器	鉢	19.0/-/(8.2)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・指押さえ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第52図	265	6号竪穴建物跡	土師器	鉢	(16.5)/-/(7.0)	やや良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面10YR6/3にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・雲母・黒色粒子・褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第52図	266	6号竪穴建物跡	土師器	鉢	(10.9)/-/(6.2)	やや不良	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第52図	267	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺（平底）	8.2/(6.2)/11.1	良好	外面7.5YR7/8黄橙色、内面7.5YR7/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・黒色粒子・橙色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第52図	268	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(13.5)/-/(7.5)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/8明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	有段口縁
第52図	269	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(10.7)/-/(8.3)	良好	外面5YR6/6橙色、内面10YR7/4にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・指押さえ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第52図	270	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	12.6/-/(5.2)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	内面外面の一部に煤付着
第52図	271	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(12.0)/-/(6.9)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ナデ	古墳時代中期前半	
第52図	272	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(11.8)/-/(5.8)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・長石・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	有段口縁
第52図	273	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(14.0)/-/(4.7)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第52図	274	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(10.8)/-/(5.3)	良好	5YR6/6 橙色	黒色粒子	内面ナデ、外面ヨコミガキ	古墳時代中期前半	
第52図	275	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(12.0)/-/(2.4)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第53図	276	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(8.6)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第53図	277	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺（平底）	-/3.8/(7.8)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第53図	278	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺（平底）	-/4.0/(3.5)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ、内面ヘラナデ	古墳時代前～中期	外面に黒斑
第53図	279	6号竪穴建物跡	土師器	壺	-/3.5/(4.7)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面10YR3/1黒褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代前～中期	内面に黒色有
第53図	280	6号竪穴建物跡	土師器	壺	14.7/-/(13.2)	良好	外面10YR4/2灰黄褐色、内面10YR5/3にぶい黄褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ・指押さえ	古墳時代前～中期	内外面うすいスス付着
第53図	281	6号竪穴建物跡	土師器	壺	(20.8)/-/(9.6)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・チャート・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代前～中期	外面沈線有
第53図	282	6号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	(15.7)/-/(5.2)	良好	外面7.5YR4/3褐色、内面7.5YR4/4褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代前～中期	
第53図	283	6号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	(14.4)/-/(7.3)	良好	外面7.5YR4/2灰褐色、内面7.5YR5/3にぶい褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・白色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代前～中期	外面に工具痕有
第53図	284	6号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	14.1/-/(5.7)	良好	外面7.5YR5/4にぶい褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラナデ・指押さえ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代前～中期	
第53図	285	6号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	(20.6)/-/(4.6)	良好	外面7.5YR3/2黒褐色、内面7.5YR5/3にぶい褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ヘラケズリ	古墳時代前～中期	外面にスス付着
第53図	286	6号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	(14.0)/-/(4.2)	良好	外面7.5YR5/6明褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代前～中期	
第53図	287	6号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	(20.0)/-/(4.9)	良好	外面10YR3/1黒褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ハケメ	古墳時代前～中期	
第53図	288	6号竪穴建物跡	土師器	甕	(14.7)/-/(3.3)	良好	10YR2/1 黒色	白色粒子	内面外面ナデ	古墳時代前～中期	
第53図	289	6号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/8.6/(6.4)	良好	外面7.5YR6/3にぶい褐色、内面7.5YR6/3にぶい褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ・ハケメ、内面ナデ	古墳時代前～中期	砂質粘土、折り返し
第53図	290	6号竪穴建物跡	土師器	壺か	-/(7.0)/(5.25)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子・黒色粒子・石英・金雲母	内面外面ハケ、底面外周は貼り付け	古墳時代前～中期	
第53図	291	6号竪穴建物跡	土師器	壺か	-/(7.7)/(7.6)	良好	2.5YR6/6 橙色	白色粒子	内面見込み部ヘラ調整、外面ヨコヘラナデ	古墳時代前～中期	内面に輪積み痕
第54図	292	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.7)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	白色粒子	内面外面ヨコミガキ	古墳時代中期前半	

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第54図	293	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(17.6)/-/(2.4)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ナデ	古墳時代中期前半	
第54図	294	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(12.0)/-/(5.2)	良好	7.5YR7/8 黄橙色	赤色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	内面外面に輪積み痕
第54図	295	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(20.0)/-/(2.9)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	外面一部に煤付着
第54図	296	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(20.0)/-/(3.3)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第54図	297	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	(20.1)/-/(4.5)	良好	5YR6/6 橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ハケ後ミガキ、外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第54図	298	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.9)	良好	5YR5/6 明赤褐色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ	古墳時代前～中期	外面に指頭押圧痕
第54図	299	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.0)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ、一部ヘラケズリ、外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第54図	300	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.7)	良好	5YR2/1 黒褐色	雲母	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	外全面に黒斑
第54図	301	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.9)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子	内面外面ヘラ	古墳時代前～中期	
第54図	302	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.3)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	雲母	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第54図	303	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.0)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子	内面ヨコハケ、外面ナナメハケ	古墳時代前～中期	
第54図	304	6号竪穴建物跡	土師器	高坏か壺	-/-/(4.7)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面外面暗文	古墳時代前～中期	
第54図	305	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.9)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面ナデ、外面ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第54図	306	6号竪穴建物跡	土師器	高坏か壺	-/-/(4.3)	良好	5YR6/6 橙色	黒色粒子	内面外面ヨコミガキ	古墳時代前～中期	
第54図	307	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.8)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	赤色粒子	内面ミガキ、ヨコナデ、外面ヨコナデ、指抑え、ミガキ	古墳時代前～中期	
第54図	308	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.3)	良好	5YR6/8 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第54図	309	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.0)	良好	7.5YR6/3 にぶい褐色	白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	内面一部剥離
第54図	310	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.5)	良好	5YR4/1 褐灰色	雲母	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	外面に黒斑
第54図	311	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.4)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・黒色粒子	内面外面暗文	古墳時代前～中期	
第54図	312	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(5.4)	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第54図	313	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(16.0)/(8.9)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子・金雲母	内面ナデ、ヘラ調整、外面ミガキ、指押え	古墳時代中期前半	
第55図	314	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(14.0)/(4.0)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子・黒色粒子	内面ナデ、外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第55図	315	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.6)/(2.45)	良好	5YR6/6 橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヘラケズリ、外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第55図	316	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(14.3)/(1.45)	良好	5YR5/6 明赤褐色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第55図	317	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(12.0)/(2.9)	良好	5YR6/8 橙色	赤色粒子	内面ハケ、ヘラ調整	古墳時代前～中期	外面に指頭押圧痕
第55図	318	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(10.4)/(1.4)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	赤色粒子	内面外面ナデ	古墳時代前～中期	
第55図	319	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.8)/(1.55)	粗	5Y8/2 灰白色	小石・白色粒子・黒色粒子	外面ミガキ	古墳時代前～中期	内面に指頭押圧痕
第55図	320	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(14.0)/(2.5)	良好	5YR5/6 明赤褐色	白色粒子・赤色粒子	内面ヘラ調整、外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第55図	321	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(12.8)/(2.1)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	赤色粒子	内面外面ヘラ調整後ナデ	古墳時代前～中期	
第55図	322	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(11.6)/(2.6)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	外面ヘラ調整後ナデ	古墳時代前～中期	
第55図	323	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.7)	良好	2.5Y4/1 黄灰色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ、外面ミガキ	古墳時代前～中期	脚部にすかし穴
第55図	324	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.9)	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	脚部にすかし穴
第55図	325	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.1)	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	赤色粒子・黒色粒子	内面外面ナデ	古墳時代前～中期	
第55図	326	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.4)	良好	5YR6/6 橙色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第55図	327	6号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(1.9)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・黒色粒子	内面ナデ、外面暗文	古墳時代前～中期	
第55図	328	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(14.8)/-/(8.7)	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第55図	329	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(13.8)/-/(7.3)	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第55図	330	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(13.0)/-/(3.9)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ後ヘラナデ、外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第55図	331	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(12.2)/-/(5.6)	良好	5YR6/6 橙色	石英・白色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第55図	332	6号竪穴建物跡	土師器	小型壺か甕	(13.0)/-/(4.5)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第55図	333	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.8)/-/(4.9)	良好	5YR6/6 橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第55図	334	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(12.0)/-/(5.0)	良好	5YR6/8 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面ミガキ、外面ヘラ調整	古墳時代中期前半	
第55図	335	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(3.1)	良好	5YR5/1 褐灰色	白雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ハケ	古墳時代中期前半	外面に指頭押圧痕
第55図	336	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.75)/-/(3.6)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	黒雲母・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ナナメハケ、外面タテハケ	古墳時代前～中期	
第55図	337	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.0)/-/(2.5)	良好	7.5YR6/3 にぶい褐色	赤色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第55図	338	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(8.0)/-/(3.4)	良好	7.5YR5/6 明褐色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第55図	339	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(8.8)/-/(3.7)	良好	5YR6/4 にぶい橙色	Φ１mm位の小石・白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第56図	340	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.0)	良好	5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・金雲母	内面ナデ、外面暗文	古墳時代前～中期	
第56図	341	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.2)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・金雲母	外面ハケ	古墳時代前～中期	
第56図	342	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(3.8)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・黒色粒子	内面暗文、外面ヨコミガキ後タテミガキ	古墳時代中期前半	外面に輪積み痕
第56図	343	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(7.8)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子	内面外面ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第56図	344	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(5.2)	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子	外面ハケ	古墳時代中期前半	内面に指頭押圧痕
第56図	345	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(5.6)	良好	10YR6/ 4 にぶい黄橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコハケ、外面タテハケ、ナナメハケ	古墳時代中期前半	内面に輪積み痕
第56図	346	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(6.1)	良好	7.5YR6/6 橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面指ナデ、外面ヘラケズリ	古墳時代中期前半	輪積み痕、外面に黒斑
第56図	347	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(3.4)	良好	7.5YR6/6 橙色	金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面指ナデ、外面ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第56図	348	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(5.1)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	白色粒子・金雲母	内面指抑え、ヨコナデ、外面ミガキ	古墳時代中期前半	内面底部に指頭押圧痕
第56図	349	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(2.3)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子・黒色粒子	外面頸部ハケ、胴部ヘラケズリ	古墳時代前～中期	内面に指頭押圧痕
第56図	350	6号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(2.7)	良好	5YR4/3 にぶい赤褐色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	内面に輪積み痕

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第56図	351	6号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.2)	良好	5YR5/6 明赤褐色	雲母・Φ1mm位の小石	内面外面ヨコナデ、指抑え	古墳時代前～中期	
第56図	352	6号竪穴建物跡	土師器	甕	(14.0)/-/(2.7)	良好	5YR6/8 橙色	赤色粒子・黒色粒子・金雲母	内面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第56図	353	6号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(2.4)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	白色粒子・金雲母	内面口縁付近ナデ、ヨコハケ、外面タテハケ	古墳時代前～中期	
第56図	354	6号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	-/-/(3.4)	良好	10YR7/2 にぶい黄橙色	白色粒子・金雲母	内面指抑え、ヨコナデ、外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第56図	355	6号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(7.45)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	石英・金雲母・黒雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヘラナデ、外面ハケ	古墳時代前～中期	内面に指頭押圧痕
第56図	356	6号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(7.5)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	石英・金雲母・小石・白色粒子・黒色粒子	外面ハケ	古墳時代前～中期	
第56図	357	6号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(4.5)	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	金雲母・白色粒子	外面タテハケ	古墳時代前～中期	内面に指頭押圧痕
第56図	358	6号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(4.2)	粗	10YR8/1 灰白色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	指抑え	古墳時代前～中期	
第56図	359	6号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(7.1)	良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	白色粒子・金雲母	内面ハケ後ヘラ調整、外面ハケ	古墳時代前～中期	
第57図	360	祭祀遺構	土師器	小型高坏	9.0/8.0/8.2	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第57図	361	祭祀遺構	土師器	高杯	18.5/13.6/13.8	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・雲母・黒褐色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面にしぼり痕有
第57図	362	祭祀遺構	土師器	高杯	16.7/11.3/14.3	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面にしぼり痕
第57図	363	祭祀遺構	土師器	高杯	19.6/13.9/14.5	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・雲母・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第57図	364	祭祀遺構	土師器	高杯	20.0/11.8/14.5	良好	外面5YR7/8橙色、内面5YR7/8橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面にしぼり痕有
第57図	365	祭祀遺構	土師器	高杯	18.3/12.7/13.7	良好	外面5YR7/8橙色、内面5YR7/8橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に工具痕有、外面にヘラ描き（×Ⅰ）有、内外面にしぼり痕有、内面ハクリ器壁部分に焼き痕有
第57図	366	祭祀遺構	土師器	高坏	17.8/15.0/14.4	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/8明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面にしぼり痕
第57図	367	祭祀遺構	土師器	高杯	22.0/13.8/15.4	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面に黒斑、内面しぼり痕有、杯底面中央部焼成前に剝離か
第57図	368	祭祀遺構	土師器	高杯	18.1/15.5/16.0	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・チャート・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第58図	369	祭祀遺構	土師器	高坏	22.1/16.0/15.8	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・チャート	外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ・板ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第58図	370	祭祀遺構	土師器	高坏	(19.9)/(14.8)/(15.5)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第58図	371	祭祀遺構	土師器	高坏	18.6/13.0/15.5	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色、内面10YR7/4にぶい黄橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面にしぼり痕有
第58図	372	祭祀遺構	土師器	高坏	20.5/14.4/16.1	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第58図	373	祭祀遺構	土師器	高坏	20.8/-/(5.6)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・凝灰岩・雲母・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第58図	374	祭祀遺構	土師器	高杯	-/20.0/(12.5)	良好	外面5YR5/8明赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・骨針・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内面に黒斑
第58図	375	祭祀遺構	土師器	高坏	-/14.2/(8.6)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第58図	376	祭祀遺構	土師器	高坏	-/14.5/(9.7)	良好	外面5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面にしぼり痕有
第58図	377	祭祀遺構	土師器	高坏	-/(20.5)/(3.1)	良好	外面2.5YR5/8明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第59図	378	祭祀遺構	土師器	高坏	26.0/-/(6.3)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑
第59図	379	祭祀遺構	土師器	高坏	(20.8)/-/(7.3)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・チャート・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面剝離の為調整不明
第59図	380	祭祀遺構	土師器	高坏	(18.4)/-/(5.0)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第59図	381	祭祀遺構	土師器	高坏	19.8/-/(6.4)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ハケメ・ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第59図	382	祭祀遺構	土師器	高坏	(14.8)/-/(3.8)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面剥落有
第59図	383	祭祀遺構	土師器	高坏	(19.0)/-/(4.6)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第59図	384	祭祀遺構	土師器	高坏	-/-/(4.2)	良好	5YR5/6 明赤褐色	黒色粒子	内面ナデ、外面ヨコミガキ	古墳時代中期前半	
第59図	385	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺（平底）	7.2/3.5/7.7	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第59図	386	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	8.0/-/8.6	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	有段口縁
第59図	387	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	7.3/-/8.4	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・長石・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第59図	388	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺（平底）	8.3/4.0/8.2	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・チャート・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第59図	389	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	9.0/-/9.9	良好	外面5YR7/8橙色、内面5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・白色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第59図	390	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺（平底）	9.3/4.6/9.5	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・雲母・チャート・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第59図	391	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	9.2/3.5/9.8	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、外面に細かい布目痕？
第59図	392	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	9.2/4.3/9.3	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第60図	393	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	9.8/-/8.8	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第60図	394	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	9.4/3.0/9.3	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第60図	395	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	8.0/-/9.2	良好	外面7.5YR7/6橙色、内面7.5YR7/8黄橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑・わずかに赤彩有
第60図	396	祭祀遺構	土師器	小型甕	9.9/3.9/9.5	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第60図	397	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	9.7/-/9.2	良好	外面5YR7/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・石英・赤褐色粒子・黒褐色粒子	外面ヨコナデ・板ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に工具痕有、外面に黒斑
第60図	398	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	9.3/3.0/9.4	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面10YR4/2灰黄褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第60図	399	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	8.2/-/9.9	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第60図	400	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	8.4/-/9.5	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	内面に粘土接合痕有
第60図	401	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	8.6/-/10.1	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑
第60図	402	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	10.0/2.2/10.5	やや良	外面5Y6/8橙色、内面5Y6/8橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・チャート・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・指押さえ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	底部一部未調整
第60図	403	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	9.6/-/10.4	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内面に黒斑
第60図	404	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	(10.1)/3.9/10.0	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・白色粒子・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第60図	405	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	9.7/4.3/10.2	良好	外面7.5YR5/4にぶい褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第60図	406	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	10.1/3.0/9.7	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面5YR5/6明赤褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	上げ底
第60図	407	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	9.5/3.1/9.7	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・雲母・赤色粒子	外面ナデ・ハケメ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	底部未調整
第60図	408	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	9.4/-/9.3	良好	外面7.5YR7/6橙色、内面7.5YR3/1黒褐色 (大半)・7.5YR7/8黄橙色 (口縁部一部)	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	内面に黒色
第61図	409	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	8.1/2.8/11.0	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第61図	410	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	9.5/3.4/10.3	良好	外面2.5YR5/4にぶい赤褐色、内面7.5YR5/3にぶい褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内外面に赤彩有
第61図	411	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	8.5/3.7/10.6	良好	外面7.5YR7/8黄橙色、内面5YR7/8橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・チャート・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第61図	412	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	10.9/2.0/10.2	良好	外面5YR7/8橙色、内面5YR7/8橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第61図	413	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	8.7/3.5/11.2	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第61図	414	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	(9.3)/-/11.3	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・赤褐色粒子・黒褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第61図	415	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	11.0/3.2/10.7	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第61図	416	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	9.3/-/11.4	良好	外面7.5YR6/8橙色、内面7.5YR6/8橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第61図	417	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	10.3/(4.0)/12.5	良好	外面2.5YR5/4にぶい赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・雲母・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面にしぼり痕有
第61図	418	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	10.0/-/12.1	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・片岩・雲母・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第61図	419	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	10.0/4.1/12.7	良好	外面5YR6/8橙色、内面5YR6/8橙色	やや密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・凝灰岩・雲母・チャート・白色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第61図	420	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	8.4/-/13.0	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒褐色粒子・橙色粒子	外面ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第61図	421	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	10.4/-/12.8	良好	外面2.5YR6/8橙色、内面2.5YR6/8橙色	密・細砂・微細石英・雲母・白色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	内面に一部分布目痕か？
第61図	422	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	10.5/3.6/14.2	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・雲母	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第61図	423	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	9.5/4.3/12.6	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・板ナデ・ハケメ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第62図	424	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	10.9/-/14.7	良好	外面5YR7/6橙色、内面5YR7/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・板ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑
第62図	425	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	11.3/3.6/14.2	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	やや粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・凝灰岩・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第62図	426	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	11.4/3.0/13.2	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・チャート・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	有段口縁、外面に黒斑

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第62図	427	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	10.3/4.3/13.2	良好	外面5YR7/6橙色、内面5YR7/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	有段口縁
第62図	428	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	12.4/4.5/14.4	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色、内面10YR7/4にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・橙色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	有段口縁、外面に黒斑
第62図	429	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	13.0/-/13.9	良好	外面5YR6/6橙色、内面7.5YR7/3にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	有段口縁
第62図	430	祭祀遺構	土師器	壺	12.3/3.3/18.5	やや良好	外面5YR6/6橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・板ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・板ナデ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、底部サビ付着 (内面側のみ)
第62図	431	祭祀遺構	土師器	壺	11.9/5.5/16.5	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・板ナデ	古墳時代中期前半	内面に工具痕有
第62図	432	祭祀遺構	土師器	壺	13.0/4.6/18.9	良好	外面7.5YR7/8黄橙色、内面7.5YR7/8黄橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第62図	433	祭祀遺構	土師器	壺	(15.0)/(5.2)/20.8	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR7/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	燃成後穿孔有
第63図	434	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	(10.0)/-/(4.0)	良好	7.5YR7/6 橙色	赤色粒子	内面ハケ後ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第63図	435	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	(9.0)/-/(4.2)	良好	7.5YR6/8 橙色	赤色粒子・白色粒子・金雲母	内面ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第63図	436	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	9.2/-/(4.3)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・チャート・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ナデ	古墳時代中期前半	
第63図	437	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	11.6/-/(5.7)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第63図	438	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	9.3/-/(4.3)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・赤褐色粒子・黒褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第63図	439	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	11.4/-/(4.3)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ヘラミガキ	古墳時代中期前半	有段口縁
第63図	440	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	(8.8)/-/(3.4)	良好	外面5YR7/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第63図	441	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	(11.2)/-/(4.3)	良好	外面7.5YR4/4褐色、内面7.5YR4/4褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	有段口縁
第63図	442	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	9.55/-/(5.9)	良好	5YR4/6 赤褐色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヘラ押え、外面指頭押圧痕、ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第63図	443	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	-/-/(7.0)	良好	外面7.5YR5/6明褐色、内面7.5YR4/3褐色	密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・チャート・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・指押さえ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面摩滅有
第63図	444	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	-/(4.5)/(3.5)	良好	5YR6/6 橙色	雲母	内面指ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第63図	445	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	-/4.75/(3.9)	良好	5YR4/4 にぶい赤褐色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヘラナデ、外面ヘラケズリ、底面糸切り後ヘラ調整	古墳時代中期前半	
第63図	446	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	-/-/(8.6)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第63図	447	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	-/(4.2)/(10.0)	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面10YR6/4にぶい黄橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第63図	448	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	-/3.2/(10.1)	良好	外面5YR6/6橙色、内面7.5YR4/1灰褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・骨針・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面黒色
第64図	449	祭祀遺構	土師器	壺	21.0/8.8/35.4	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色 内面7.5YR7/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ・木葉痕、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	有段口縁、外面に【|||】のヘラ記号有、外面に黒斑、外面底部輪台状 (高台状) 有
第64図	450	祭祀遺構	土師器	壺	23.4/6.1/(21.2)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・雲母・白色粒子・黒色粒子・暗赤褐色粒子	外面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヘラナデ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	体部に燃成後穿孔 1孔有、外面に黒斑
第64図	451	祭祀遺構	土師器	壺	13.4/5.1/20.4	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ・指押さえ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑
第64図	452	祭祀遺構	土師器	壺	19.2/6.7/34.0	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色 内面10YR5/3にぶい黄褐色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・板ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	有段口縁、外面に黒斑、外面部分に剥落有、外面底部輪台状 (高台状) 有
第65図	453	祭祀遺構	土師器	壺	20.0/8.0/36.1	良好	外面7.5YR5/6明褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	有段口縁、外面に黒斑
第65図	454	祭祀遺構	土師器	壺	-/8.3/(35.5)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・角閃石・チャート・白色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・板ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、外面に二条のヘラ描き (II) 有
第66図	455	祭祀遺構	土師器	甕	17.5/-/(23.9)	良好	外面10YR3/1黒褐色、内面7.5YR5/3にぶい褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面工具痕有
第66図	456	祭祀遺構	土師器	甕	16.1/-/19.9	良好	外面10YR5/3にぶい黄褐色、内面10YR5/3にぶい黄褐色	やや粗・細砂・粗砂・微細石英・石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・板ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第66図	457	祭祀遺構	土師器	甕	19.0/8.2/28.5	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色、内面10YR7/4にぶい黄橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面にスス付着
第66図	458	祭祀遺構	土師器	甕	15.5/-/(20.5)	良好	外面5YR6/3にぶい橙色、内面5YR5/3にぶい赤褐色	やや粗・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面にスス付着
第67図	459	祭祀遺構	土師器	小型甕	10.0/5.3/11.0	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面に黒色有
第67図	460	祭祀遺構	土師器	甕	(20.3)/-/(7.9)	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラナデ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第67図	461	祭祀遺構	土師器	甕	(12.9)/(2.9)/(18.0)	良好	外面7.5YR5/3にぶい褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ・指押さえ、内面ナデ・ヘラケズリ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第67図	462	祭祀遺構	土師器	甕	14.8/-/21.7	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内面底部に黒斑
第67図	463	祭祀遺構	土師器	甕	14.4/5.4/22.4	良好	外面2.5Y6/4にぶい黄色、内面10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面底部に植物痕有、内部より袋状鉄斧（751）出土

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第67図	464	祭祀遺構	土師器	手づくね土器	(6.5)/-/(4.2)	良好	5YR7/4 にぶい橙色	赤色粒子・白色粒子	外面に折り返し口縁	古墳時代中期前半	輪積み痕、内面外面に指頭押圧痕
第67図	465	祭祀遺構	土師器	手づくね土器	(7.8)(3.4)(6.2)	良	7.5YR6/3 (にぶい褐色)	赤色粒子・白色粒子　5㎜大の小石混入	ナナメにヘラナデ　指頭によるナデ（ナデつけ）	古墳時代中期前半	内部より鉄片（750）出土
第68図	466	祭祀遺構	土師器	高坏	18.3/13.9/14.1	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・橙色粒子	外面ナデ・ハケメ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑、内面に細い剝落
第68図	467	祭祀遺構	土師器	高坏	-/(14.4)/(9.7)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子	外面ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面しぼり痕有
第68図	468	祭祀遺構	土師器	壺	(11.9)/-/16.0	良好	外面2.5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面にスス付着、内面にしぼり痕
第68図	469	祭祀遺構	土師器	壺	11.3/7.0/17.4	良好	外面7.5Y5/4にぶい褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第68図	470	祭祀遺構	土師器	小型甕	(11.6)/-/(6.1)	やや不良	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第68図	471	祭祀遺構	土師器	壺	14.9/6.5/24.9	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色、内面10YR7/4にぶい黄橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着
第68図	472	祭祀遺構	土師器	壺	-/7.5/(20.6)	良好	外面10YR5/4にぶい黄褐色、内面10YR5/4にぶい黄褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第69図	473	祭祀遺構	土師器	甕	17.4/8.2/25.7	良好	外面5YR6/4橙色、内面5YR7/6橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着、内面に粘土紐接合痕有
第69図	474	祭祀遺構	土師器	台付甕	17.8/10.6/33.7	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	やや粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面にスス付着、内面に黒色・コゲ付着
第69図	475	祭祀遺構	土師器	甕	17.3/-/(22.0)	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第69図	476	祭祀遺構	土師器	甕	15.9/6.8/25.0	良好	外面10YR8/1灰白色、内面10YR8/4浅黄橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着
第70図	477	祭祀遺構	土師器	鉢	8.2/-/4.7	良好	外面5YR6/6橙色、内面10YR6/4にぶい黄橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑
第70図	478	祭祀遺構	土師器	鉢	8.4/-/5.3	良好	外面5YR7/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・雲母・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第70図	479	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	9.9/3.4/9.5	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・指押さえ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第70図	480	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	-/4.5/(6.9)	良好	外面10YR5/4にぶい黄褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・チャート	外面ナデ・ヘラケズリ・指押さえ、内面ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第70図	481	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺	8.6/-/9.7	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・チャート・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第70図	482	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	11.1/4.0/10.5	良好	外面10YR6/3にぶい黄橙色、内面5YR6/6橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第70図	483	祭祀遺構	土師器	小型丸底壺 (平底)	(9.1)/3.0/9.5	良好	外面7.5YR6/3にぶい褐色、内面7.5YR6/3にぶい褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・チャート・赤色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・板ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第70図	484	祭祀遺構	土師器	高坏	17.8/(12.2)/14.3	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・板ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面に黒斑、内面にしぼり痕有
第70図	485	祭祀遺構	土師器	高杯	19.3/(13.2)/15.1	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第70図	486	祭祀遺構	土師器	高坏	19.2/12.9/15.7	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面にしぼり痕有、内外面に黒斑
第70図	487	祭祀遺構	土師器	高杯	15.7/10.4/12.7	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	透孔 (2 ヶ所) 有、内面にしぼり痕有
第70図	488	祭祀遺構	土師器	高坏	19.6/14.0/15.9	良好	外面10YR7/4にぶい黄橙色、内面10YR7/4にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・石英・凝灰岩・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑・剝落有、内面にしぼり痕有
第71図	489	祭祀遺構	土師器	高坏	19.5/13.7/15.1	良好	外面7.5YR6/8橙色、内面7.5YR6/8橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内面にしぼり痕有
第71図	490	祭祀遺構	土師器	高坏	24.4/18.3/16.5	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	透孔 (3 ヶ所) 有、内面にしぼり痕有
第71図	491	祭祀遺構	土師器	高坏	20.0/-/(5.1)	良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第71図	492	祭祀遺構	土師器	高坏	12.8/-/(5.2)	良好	外面5YR6/8橙色、内面5YR6/8橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・白色粒子・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ナデ	古墳時代中期前半	
第71図	493	祭祀遺構	土師器	高坏	-/-/(6.0)	良好	7.5YR6/6 橙色	白色粒子・石英・金雲母・Φ２～３㎜の小石	外面ミガキ	古墳時代中期前半	内面ほとんど剝離
第71図	494	祭祀遺構	土師器	高坏	-/(13.9)/(9.6)	良好	外面7.5YR6/3にぶい褐色、内面7.5YR6/3にぶい褐色	密・細砂・微細石英・凝灰岩・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第71図	495	祭祀遺構	土師器	壺	13.6/-/26.8	良好	外面7.5YR5/3にぶい褐色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ・指押さえ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着、内面底部に成型時の押圧痕有
第71図	496	祭祀遺構	土師器	壺	14.0/5.0/20.3	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	—
第72図	497	祭祀遺構	土師器	壺か	(19.2)/-/(2.8)	良好	外面10YR6/3にぶい黄橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ、内面ヨコナデ	古墳時代中期前半	—
第72図	498	祭祀遺構	土師器	甕	(17.5)/-/(7.7)	良好	外面5YR5/3にぶい赤褐色、内面5YR4/1褐灰色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	—
第72図	499	祭祀遺構	土師器	甕	12.5/5.8/20.7	良好	外面7.5YR5/3にぶい褐色、内面5YR6/6橙色	やや粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・木葉痕、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒色・ススか、内面に黒色有、外面底部輪台状 (高台状) 有
第72図	500	祭祀遺構	土師器	壺	-/6.1/(23.0)	良好	外面7.5YR4/2褐色、内面7.5YR4/2褐色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・指押さえ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	有段口縁、外面に輪積痕有・工具痕有、内外面黒色

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第72図	S01	祭祀遺構	土師器	小型甕	10.7/-/16.3	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面にスス付着
第73図	S02	祭祀遺構	土師器	甕	15.8/7.5/24.6	良好	外面10YR7/3にぶい黄橙色、内面10YR7/2にぶい黄橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着
第73図	S03	祭祀遺構	土師器	台付甕	22.2/-/(27.7)	良好	外面10YR6/3にぶい黄橙色、内面5YR6/6にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面にスス付着
第73図	S04	祭祀遺構	土師器	甕	18.3/6.2/28.0	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR8/6浅黄橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着
第73図	S05	祭祀遺構	土師器	甕	15.2/(6.0)/22.8	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・角閃石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第74図	S06	7号竪穴建物跡	土師器	坏	(13.8)/(3.3)/5.6	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子・黒色粒子・雲母	内面ケズリ後ミガキ、外面ケズリ	古墳時代中期前～中	
第74図	S07	7号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.8)/-/(3.1)	良好	5YR7/6 橙色	赤色粒子・黒色粒子・石英	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第74図	S08	7号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(14.6)/(3.0)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	雲母・白色粒子	内面ケズリ、外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第74図	S09	7号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.8)/(9.1)	良好	外面5YR7/4にぶい橙色、内面5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑、内面しぼり痕有
第74図	S10	7号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/-/(9.0)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR4/3褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・火成岩・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第74図	S11	7号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.4)/-/(4.85)	良好	5YR7/4 にぶい橙色	蜜・赤色粒子・黒色粒子	内面ケズリ、外面口縁付近ヨコナデ、頸部付近タテハケ、ケズリ、ハケ	古墳時代中期前半	
第74図	S12	7号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.3)/-/(5.3)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第74図	S13	7号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.2)/-/(3.15)	良好	5YR5/6 明赤褐色	蜜・赤色粒子・石英	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第74図	S14	7号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(3.1)	良好	5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・白色粒子・Φ１～３㎜の小石	内面指オサエ、ナデ、外面ハケ	古墳時代中期前半	内面に指頭圧痕、外面一部に黒斑
第74図	S15	7号竪穴建物跡	土師器	甕	15.1/-/(9.3)	良好	外面10YR4/1褐灰色、内面10YR4/4褐色	やや粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・雲母・火成岩	口唇部キザミ、外面ヨコナデ・ハケメ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代前期	外面に黒斑・スス付着、内外面部分的に赤色化赤彩か
第74図	S16	7号竪穴建物跡	土師器	甕	16.6/-/(10.9)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ハケメ	古墳時代前期	内外面にスス付着、北陸系「千種甕」
第74図	S17	7号竪穴建物跡	土師器	壺	(12.3)/7.4/22.5	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・凝灰岩・チャート・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	外面にスス付着、内面にうすいスス付着
第74図	S18	7号竪穴建物跡	土師器	甕	(13.6)/-/(10.3)	良好	外面7.5YR5/3にぶい褐色、内面7.5YR5/4にぶい褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代前～中期	外面にスス付着、内面にうすいスス付着
第74図	S19	7号竪穴建物跡	土師器	甕	(16.2)/-/(7.1)	良好	7.5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英・雲母	外面頸部ヨコナデ、胴部ハケ	古墳時代前期	外面に黒斑、北陸系「千種甕」
第75図	S20	7号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.9)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ヨコナデ、ミガキ	古墳時代中期前半	
第75図	S21	7号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.5)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・金雲母	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第75図	S22	7号竪穴建物跡	土師器	壺	(8.4)/-/(3.5)	良好	10YR3/2 黒褐色	白色粒子	内面ミガキ	古墳時代中期前半	内面外面に黒斑
第75図	S23	7号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.3)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	全面ナデ	古墳時代中期前半	
第75図	S24	7号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(12.6)/-/(2.5)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子	内面ミガキ、外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第75図	S25	7号竪穴建物跡	土師器	甕	(17.0)/-/(3.5)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・金雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代前期	北陸系「千種甕」
第75図	S26	7号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	-/-/(5.3)	良好	7.5YR6/6 橙色	石英・金雲母・小石・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ハケ	古墳時代前～中期	
第75図	S27	7号竪穴建物跡	土師器	甕	(17.2)/-/(3.2)	良好	7.5YR4/2 灰褐色	白色粒子・雲母	内面ハケ、外面ナデ後ハケ	古墳時代前～中期	
第75図	S28	7号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(4.2)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	白色粒子	内面細かいハケ、外面タテハケ	古墳時代前～中期	外面のハケ不明瞭
第75図	S29	7号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.0)/-/(6.0)	良好	7.5YR8/6 浅黄橙色	白色粒子・金雲母	内面外面口縁～頸部ヨコナデ、外面胴部ヨコナデ後ハケ	古墳時代前期	頸部に輪積み痕、北陸系「千種甕」
第75図	S30	7号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	-/-/(3.0)	良好	7.5YR4/2 灰褐色	白色粒子・雲母	内面外面ナデ	古墳時代前～中期	
第75図	S31	7号竪穴建物跡	土師器	鉢か	-/-/(3.9)	良好	10YR5/1 褐灰色	黒色粒子	内面外面ナデ	古墳時代前～中期	
第75図	S32	7号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(9.8)	良好	7.5YR3/1 黒褐色	白色粒子・金雲母	外面荒いハケ後ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第75図	S33	7号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	-/-/(3.05)	良好	7.5YR1/2 黒色	粗・石英・白色粒子・赤色粒子・黒雲母	内面ケズリ	古墳時代前～中期	
第76図	S34	8号竪穴建物跡	土師器	鉢	(10.6)/(5.3)/4.85	良好	2.5YR4/6 赤褐色	石英・雲母・1㎜位の赤色粒・白色粒子・赤色粒子	内面ナデ、外面ケズリ後ナデ	古墳時代前～中期	甲斐型坏に近い器形だが、ロクロ成形ではなく、胎土などから古墳時代のものと判断
第76図	S35	8号竪穴建物跡	土師器	鉢	15.7/5.6/8.0	良好	外面10R5/6赤色、内面5YR7/3浅黄色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヘラナデ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着、口縁部歪みあり
第76図	S36	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	15.2/(12.8)/13.0	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に黒斑・線刻有、内面にしぼり痕有
第76図	S37	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	(16.3)/-/(12.5)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ・指押さえ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第76図	S38	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	(15.9)/-/(12.0)	良好	外面5YR5/8明赤褐色、内面5YR5/8明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第76図	S39	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	22.5/-/(7.7)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第76図	S40	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(22.4)/-/(5.2)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第76図	S41	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	20.6/-/(5.5)	良好	外面5YR6/8明赤褐色、内面5YR6/8明赤褐色	密・細砂・微細石英・長石・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	内外面剥落有
第76図	S42	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(20.0)/-/(4.0)	良好	5YR4/2 灰褐色	赤色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	外面全体に黒斑

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第76図	S43	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(22.0)/-/(6.6)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	赤色粒子	内面ヨコヘラナデ、外面タテヘラナデ	古墳時代中期前半	内面一部に煤付着
第76図	S44	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	16.6/-/(5.1)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	内面に粘土瘤有
第76図	S45	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.6)/-/(6.7)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・雲母	内面ミガキ、外面ヨコナデ、ミガキ	古墳時代中期前半	
第76図	S46	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(18.5)/-/(5.0)	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	
第76図	S47	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(22.0)/-/(7.1)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・雲母	内面ヨコナデ、ミガキ、外面摩耗	古墳時代中期前半	
第76図	S48	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	18.4/-/(5.6)	良好	外面5YR5/8明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	外面にスス付着
第77図	S49	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(21.6)/-/(4.25)	良好	7.5YR7/3 にぶい橙色	金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ、外面ハケ後ミガキ	古墳時代中期前半	
第77図	S50	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.0)/-/(3.75)	良好	7.5YR7/3 にぶい橙色	雲母・赤色粒子・黒色粒子・石英	内面ミガキ、外面ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第77図	S51	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(18.0)/-/(3.7)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ、外面ミガキ、ヘラ調整、見込みミガキ	古墳時代中期前半	
第77図	S52	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.2)/-/(3.9)	良好	7.5YR5/6 明褐色	白色粒子・Φ1.5mm大の小石	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第77図	S53	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(18.5)/-/(4.35)	良好	5YR6/6 橙色	石英・雲母・2mm位の長丸赤粒・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ヘラケズリ後ミガキ	古墳時代中期前半	
第77図	S54	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(17.0)/-/(6.0)	良好	7.5YR7/8 黄橙色	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・Φ１～２mm大の小石	内面ナデ、指押え、外面ケズリ	古墳時代中期前半	
第77図	S55	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(15.0)/-/(3.7)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第77図	S56	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.8)/-/(3.4)	良好	5YR5/8 明赤褐色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ	古墳時代中期前半	
第77図	S57	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(20.0)/-/(3.4)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期	
第77図	S58	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(13.2)/-/(4.1)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第77図	S59	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	（23.0）/-/（3.6）	良	5YR6/6橙	赤色粒子・白色粒子、金雲母	外面ヘラケズリ　ススあり　内面ヨコナデ　輪積み痕あり	古墳時代中期前半	
第77図	S60	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.5)	良好	5YR7/6 橙色	赤色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第77図	S61	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(5.5)	良好	5YR5/6 明赤褐色	雲母・白色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第77図	S62	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(3.6)	良好	10YR8/3 浅黄橙色	白色粒子	外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第77図	S63	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.9)	良好	5YR6/8 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面指ナデ	古墳時代中期前半	
第77図	S64	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/-/(7.6)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ	古墳時代中期前半	透孔（3 ヶ所）有、外面に黒斑、内面しぼり痕有
第77図	S65	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/-/(8.1)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・凝灰岩・赤褐色粒子	外面ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	—
第78図	S66	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/-/(9.1)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内面に工具痕有
第78図	S67	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/-/(8.5)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR4/6赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有、接合時の工具痕有
第78図	S68	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/-/(8.7)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第78図	S69	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/-/(7.5)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第78図	S70	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(8.6)	良好	外面7.5YR5/4にぶい褐色、内面7.5YR5/3にぶい褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子	外面ナデ・ヘラミガキ、内面ヘラケズリ	古墳時代中期前半	外面部分的に黒色（スス？）有、内面しぼり痕有
第78図	S71	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(7.5)	良好	2.5YR6/4 にぶい橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面タテヘラナデ	古墳時代中期前半	古墳中期
第78図	S72	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/-/(9.7)	良好	外面2.5YR5/6明赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	透孔（1 ヶ所）有、外面工具痕有、内面しぼり痕有
第78図	S73	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(7.9)	良好	5YR6/6 橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面指ナデ、外面タテミガキ	古墳時代中期前半	透孔（1 ヶ所）有
第78図	S74	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(10.4)/(11.2)	良好	外面7.5YR7/6橙色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	やや密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・雲母・チャート・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内外面に黒斑、内面しぼり痕有
第78図	S75	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/(12.8)/(8.3)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR6/4にぶい橙色	やや密・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・チャート・火成岩・白色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ	古墳時代中期前半	内面に黒斑、内面しぼり痕有
第78図	S76	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(14.5)/(10.6)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内面にしぼり痕
第78図	S77	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/(13.4)/(7.9)	良好	外面5YR5/6明赤褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヘラナデ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第78図	S78	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.8)/(8.1)	良好	外面5YR5/2灰褐色、内面5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第78図	S79	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/(14.0)/(6.0)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・白色粒子・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヘラナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代中期前半	内面布目痕有
第78図	S80	8号竪穴建物跡	土師器	高杯	-/(12.7)/(10.0)	良好	外面5YR6/8橙色、内面5YR6/8橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ、内面ヨコナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有
第78図	S81	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/13.6/(8.9)	良好	外面10YR6/4にぶい黄橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・火成岩・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	内面しぼり痕有、内面布圧痕有
第78図	S82	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.9)/(3.0)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	石英・雲母・1mm位の赤色粒・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ヘラケズリ、底部付近はナデ	古墳時代前～中期	透孔（1 ヶ所）有
第78図	S83	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(15.4)/(5.8)	良好	2.5YR6/6 橙色	金雲母	内面ヘラケズリ、外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第78図	S84	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.7)/(2.1)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・黒色粒子・雲母	内面ヘラケズリ、底部付近はナデ、外面ナデ	古墳時代中期前半	
第78図	S85	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.1)/(3.7)	良好	5YR6/6 橙色	2mm位の赤粒・雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ、ケズリ、外面ヨコナデ、ケズリ	古墳時代中期前半	
第79図	S86	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(15.7)-/(2.5)	良好	7.5YR7/3 にぶい橙色	雲母・1mm位の赤色粒・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ヘラケズリ、底部付近はナデ	古墳時代前～中期	
第79図	S87	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.6)/(2.1)	良好	7.5YR6/3 にぶい褐色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ヨコヘラナデ	古墳時代前～中期	
第79図	S88	8号竪穴建物跡	土師器	高坏		良好	2.5YR6/6 橙色	赤色粒子・金雲母	内面ヨコナデ、ケズリ、外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第79図	S89	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(13.2)/(2.6)	良好	5YR5/6 明赤褐色	金雲母・白色粒子	内面ヨコナデ、ケズリ、外面ヨコナデ、ミガキ、	古墳時代前～中期	

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第79図	590	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(16.15)/(2.25)	良好	5YR6/6 橙色	雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第79図	591	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(14.0)/(2.7)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・白色粒子	内面ヘラケズリ、ヨコヘラナデ、外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第79図	592	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	9.0/-/8.9	良好	外面2.5YR6/6橙色、内面2.5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・火成岩・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ハケメ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	
第79図	593	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(9.1)/-/9.5	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面に工具痕有
第79図	594	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺 (平底)	-/4.5/(8.5)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・チャート・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第79図	595	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(10.0)/-/(4.3)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・金雲母	内面ハケ	古墳時代中期前半	
第79図	596	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.9)	良好	5YR6/6 橙色	1.5mm位の赤粒・雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第79図	597	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(9.7)	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面7.5YR7/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・黒色粒子・褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第79図	598	8号竪穴建物跡	土師器	壺	(13.6)/-/(3.0)	良好	7.5YR4/2 灰褐色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第79図	599	8号竪穴建物跡	土師器	壺	(13.4)/-/(4.7)	良好	7.5YR6/6 橙色	白色粒子・雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第79図	600	8号竪穴建物跡	土師器	壺	(16.0)/-/(5.8)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・黒色粒子・白色粒子・金雲母	外面ナデ	古墳時代中期前半	輪積み痕
第79図	601	8号竪穴建物跡	土師器	壺	(17.0)/-/(5.2)	良好	5YR7/4 にぶい橙色	赤色粒子・白色粒子・黒色粒子・金雲母	内面ハケ、外面ハケ、ヘラ調整	古墳時代中期前半	
第79図	602	8号竪穴建物跡	土師器	壺	(17.0)/-/(5.7)	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	白色粒子・雲母・Φ 1 mm大の小石	内面外面摩耗	古墳時代中期前半	
第79図	603	8号竪穴建物跡	土師器	小型甕	11.5/-/(6.9)	良好	5YR1.7/1 黒色	Φ 1 mm大の小石・雲母	内面ヨコナデ、指ナデ、指抑え、外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	内面一部、外面全体に煤付着
第79図	604	8号竪穴建物跡	土師器	鉢か	(13.2)/-/(5.3)	良好	5YR3/2 暗赤褐色	白色粒子	外面ケズリ後口縁～頸部はナデ	古墳時代中期前半	
第79図	605	8号竪穴建物跡	土師器	手づくね土器	-/3.0/(2.8)	良好	10YR6/ 4 にぶい黄橙色	雲母	内面指抑え、外面摩耗	古墳時代中期前半	内面に指頭押圧痕
第80図	606	8号竪穴建物跡	土師器	有孔鉢	(16.0)/(4.5)/(8.0)	やや不良	10YR7/4 にぶい黄橙色	白色粒子・赤色粒子・金雲母	内面ヘラケズリ、外面指ナデ	古墳時代中期前半	指頭押圧痕、内面一部剥離
第80図	607	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.8)/-/(23.8)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/4にぶい橙色	粗・細砂・砂粒・微細石英・石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	外面全体にスス付着、内面にスス・コゲ付着
第80図	608	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.4)/-/(6.2)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	雲母・白色粒子・黒色粒子	内面ヨコハケ、外面タテハケ	古墳時代中期前半	
第80図	609	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(15.0)/-/(5.8)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英	内面ハケ、頸部付近ヘラナデ、外面ハケ	古墳時代中期前半	
第80図	610	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(15.6)/-/(5.5)	良好	7.5YR3/3 暗褐色	白色粒子	内面ヨコナデ、ケズリ、外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第80図	611	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.4)/-/(21.0)	良好	外面7.5YR7/4にぶい 橙色、内面10YR7/3にぶい黄橙色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・指押さえ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着
第80図	612	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(15.3)/-/(6.9)	良好	7.5YR3/2 黒褐色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面口縁部から頸部ナデ、内面外面胴部ヘラケズリ	古墳時代中期前半	内面に指頭押圧痕
第80図	613	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.3)/-/(10.6)	良好	外面10YR4/2灰黄褐色、内面10YR4/2灰黄褐色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第81図	614	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(18.0)/-/(7.2)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	Φ 1 ～ 2mm大の小石・金雲母	内面ヨコナデ、指抑え、外面ヨコナデ、ケズリ	古墳時代中期前半	輪積み痕、外面一部に煤付着
第81図	615	8号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	(14.3)/-/(3.15)	良好	5YR3/2 暗赤褐色	蜜・白色粒子・黒色粒子・石英・金雲母	内面外面ナデ	古墳時代中期前半	内面口縁部に接合痕
第81図	616	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(13.5)/-/(3.6)	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	石英・金雲母・小石・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ナデ、外面ケズリ後ナデ	古墳時代中期前半	外面一部に煤付着
第81図	617	8号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	-/-/(11.0)	良好	外面7.5YR5/4にぶい褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・石英・長石・雲母・チャート・火成岩	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第81図	618	8号竪穴建物跡	土師器	壺か	-/(5.6)/(3.8)	良好	7.5YR3/1 黒褐色	金雲母	内面ハケ、外面ケズリ	古墳時代中期前半	
第81図	619	8号竪穴建物跡	土師器	甕	-/6.5/(9.9)	良好	外面7.5YR3/4暗褐色、内面7.5YR4/6褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母	外面ナデ・ハケメ・ヘラケズリ、内面ナデ・ヘラナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	内外面にスス付着
第81図	620	8号竪穴建物跡	土師器	甕	-/(8.0)/(2.75)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	雲母・黒色粒子・石英	内面見込みハケ、外面ケズリ	古墳時代中期前半	
第81図	621	8号竪穴建物跡	土師器	甕か壺	-/(7.5)/(3.4)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	白色粒子・金雲母	外面ヘラ調整	古墳時代中期前半	内面一部に煤付着
第81図	622	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(6.4)	良好	5YR5/6 明赤褐色	雲母・白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	内面に黒斑
第81図	623	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.1)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ヨコナデ、ミガキ、	古墳時代中期前半	外面に輪積み痕
第81図	624	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(18.0)/-/(2.3)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子	内面ナデ、外面ミガキ	古墳時代中期前半	輪積み痕
第81図	625	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(19.3)/-/(2.7)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第81図	626	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(14.0)/-/(5.4)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・黒色粒子	外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第81図	627	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	(16.0)/-/(2.9)	良好	5YR7/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第81図	628	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(4.4)	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	白色粒子・赤色粒子・金雲母	内面外面摩耗	古墳時代中期前半	外面の一部剥離
第82図	629	8号竪穴建物跡	土師器	高坏か鉢	-/-/(5.8)	良好	10YR6/ 4 にぶい黄橙色	黒色粒子・赤色粒子	内面ヘラ、外面ヘラケズリ	古墳時代中期前半	
第82図	630	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(5.0)	良好	5YR5/1 褐灰色	赤色粒子	内面しぼり、ナデ、外面ケズリ、ミガキ	古墳時代前～中期	
第82図	631	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.1)	良好	7.5YR4/1 褐灰色	白色粒子	内面見込みミガキ、外面ヘラ調整	古墳時代前～中期	
第82図	632	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(9.0)	良好	5YR6/3 にぶい橙色	金雲母	内面しぼり、外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第82図	633	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(11.3)/(8.0)	良好	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子	外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第82図	634	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(12.8)/(2.9)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	白色粒子・雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第82図	635	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(16.2)/(2.0)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子	内面ヨコナデ、ケズリ、外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第82図	636	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(12.0)/(2.3)	良好	5YR5/3 にぶい赤褐色	雲母	外面ミガキ	古墳時代中期前半	内面に指頭押圧痕
第82図	637	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(11.8)/(1.85)	良好	10YR6/ 4 にぶい黄橙色	石英・金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	外面一部に煤付着
第82図	638	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/(14.0)/(2.0)	良好	5YR4/3 にぶい赤褐色	赤色粒子・白色粒子	内面ヨコナデ、外面ヨコナデ、ミガキ	古墳時代前～中期	透孔 (1 ヶ所) 有
第82図	639	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.2)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	蜜・赤色砂	内面ケズリ、外面摩耗	古墳時代前～中期	
第82図	640	8号竪穴建物跡	土師器	高坏	-/-/(2.9)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子	内面ナデ、外面暗文	古墳時代前～中期	

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　　考
第82図	641	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(10.4)/-/(4.0)	良好	5YR6/6 橙色	雲母	内面外面ヨコナデ、ミガキ	古墳時代中期前半	
第82図	642	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	(8.4)/-/(3.9)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヘラケズリ、外面ヨコナデ	古墳時代中期前半	
第82図	643	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(5.4)	良好	7.5YR4/1 褐灰色	赤色粒子	内面ハケ、外面ミガキ、ハケ	古墳時代中期前半	
第82図	644	8号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.6)	良好	10YR4/8 赤色	白色粒子・黒色粒子	内面外面ナデ	古墳時代中期前半	内面外面赤彩、外面剥離
第82図	645	8号竪穴建物跡	土師器	壺	-/-/(3.05)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	外面ハケ	古墳時代前～中期	内面に指頭押圧痕
第82図	646	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(22.0)/-/(3.4)	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	白色粒子・雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	外面に黒斑
第82図	647	8号竪穴建物跡	土師器	壺か	-/-/(2.8)	良好	5YR3/1 黒褐色	金雲母・白色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	外面に煤付着
第82図	648	8号竪穴建物跡	土師器	甕	(15.6)/-/(6.9)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	白色粒子	内面ナデ、外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第82図	649	8号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.3)	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	白色粒子・黒色粒子・石英	外面ハケ	古墳時代前～中期	
第82図	650	8号竪穴建物跡	土師器	壺	-/-/(3.0)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	白色粒子・金雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第82図	651	8号竪穴建物跡	土師器	台付甕	-/(12.1)/(5.3)	良好	5YR6/3 にぶい橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヘラケズリ、外面ハケ、ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第82図	652	8号竪穴建物跡	土師器	手づくね土器	(8.4)/(4.7)/(6.25)	良好	5YR2/1 黒褐色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	内面指頭圧痕	古墳時代前～中期	てづくね整形
第82図	653	8号竪穴建物跡	土師器	坏	-/-/(1.7)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	雲母		平安時代前期	甲斐型坏。外面に墨書。
第83図	654	15号溝状遺構	土師器	杯	14.8/5.2/6.7	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・橙色粒子・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ・指押さえ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期中葉	外面に黒斑、内面部分的に黒色に変色、2次被熱？
第83図	655	15号溝状遺構	土師器	高坏	(21.0)/-/(5.0)	良好	5YR6/8 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面ヘラナデ、外面ミガキ	古墳時代中期	
第83図	656	15号溝状遺構	土師器	高坏	-/-/(3.35)	良好	5YR6/4 にぶい橙色	石英・白色粒子・赤色粒子	内面外面タテミガキ	古墳時代前～中期	
第83図	657	15号溝状遺構	土師器	高坏	-/(14.6)/(5.7)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面ケズリ、ヨコナデ、外面タテケズリ、ヨコナデ	古墳時代中期	
第83図	658	15号溝状遺構	土師器	甕か壺	-/-/(4.6)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	石英・金雲母・黒雲母・白色粒子・黒色粒子	内面ヨコハケ、外面ナナメハケ	古墳時代前～中期	
第83図	659	15号溝状遺構	土師器	甕か壺	-/-/(6.1)	良好	7.5YR4/6 褐色	白色粒子		古墳時代前～中期	内面全体に煤付着　分析資料
第83図	660	遺構外	土師器	高坏	(14.8)/(10.6)/11.0	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR6/6橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・凝灰岩・雲母・チャート・火成岩・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代中期中葉	内面にしぼり痕有
第83図	661	遺構外	土師器	高坏	(22.8)/-/(2.8)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	外面ヘラケズリ後ミガキ、内面外面暗文	古墳時代前～中期	
第83図	662	遺構外	土師器	高坏	(17.4)/-/(6.0)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・黒色粒子	内面外面ナデ	古墳時代中期	
第83図	663	遺構外	土師器	高坏	(19.8)/-/(4.2)	良好	5YR6/6 橙色	雲母・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期	
第83図	664	遺構外	土師器	高坏	15.7/-/(6.1)	良好	外面5YR5/8明赤褐色、内面5YR5/8明赤褐色	やや密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期	
第83図	665	遺構外	土師器	高坏	(19.6)/-/(5.5)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	外面ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期	内面に黒斑
第83図	666	遺構外	土師器	高杯	-/-/(10.3)	良好	外面5YR5/4にぶい赤褐色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヘラミガキ、内面ヘラナデ・ヘラケズリ	古墳時代前～中期	内面しぼり痕有
第83図	667	遺構外	土師器	高坏	-/-/(9.3)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・石英・白色粒子・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ	古墳時代前～中期	内面にしぼり痕
第83図	668	遺構外	土師器	高坏	-/-/(7.3)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子・白色粒子・金雲母	脚部内面上部ケズリ、シボリ、下部ヨコナデ、外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第83図	669	遺構外	土師器	高坏	-/-/(2.2)	良好	5YR6/4 にぶい橙色	雲母	内面外面ミガキ	古墳時代中期	
第84図	670	遺構外	土師器	小型丸底鉢	10.6/-/7.6	やや良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・黒色粒子	外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ・ナデ	古墳時代前期後半	外面に黒斑
第84図	671	遺構外	土師器	小型丸底壺（平底）	8.9/4.5/9.7	良好	外面10YR5/4にぶい黄褐色、内面5YR5/6明赤褐色	やや密・細砂・微細石英・長石・凝灰岩・雲母	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ	古墳時代中期前半	
第84図	672	遺構外	土師器	小型丸底壺（平底）	10.7/3.8/10.6	良好	外面7.5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ナデ・ヘラナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第84図	673	遺構外	土師器	小型丸底壺	(10.4)/-/(6.5)	良好	7.5YR7/6 橙色	赤色粒子	内面ヨコハケ、外面口縁部タテハケ後ヨコナデ、頸部～胴部タテハケ	古墳時代中期前半	内面に輪積み痕
第84図	674	遺構外	土師器	小型丸底壺	(9.0)/-/(4.2)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・白色粒子	内面ヘラナデ、外面ハケ、ヘラナデ	古墳時代中期前半	
第84図	675	遺構外	土師器	小型丸底壺	(10.8)/-/(5.1)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	雲母・白色粒子・黒色粒子	外面ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第84図	676	遺構外	土師器	小型丸底壺	(10.0)/-/(2.7)	良好	2.5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	内面外面ナデ	古墳時代中期前半	
第84図	677	遺構外	土師器	小型丸底壺（平底）	-/3.0/(4.9)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面7.5YR7/3にぶい橙色	密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・黒色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラナデ・ヘラケズリ、内面ヨコナデ・ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	
第84図	678	遺構外	土師器	小型丸底壺（平底）	-/3.2/(6.1)	良好	外面5YR6/4にぶい橙色、内面5YR7/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・黒褐色粒子・赤褐色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・ヘラケズリ・指押さえ、内面ナデ	古墳時代中期前半	外面に黒斑・上げ底
第84図	679	遺構外	土師器	小型丸底壺	-/-/(4.9)	良好	外面5YR4/2灰褐色、内面5YR5/6明赤褐色	密・細砂・砂粒・微細石英・白色粒子・赤褐色粒子	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ	古墳時代中期前半	
第84図	680	遺構外	土師器	壺	-/(6.0)-/(3.9)	良好	5YR6/3 にぶい橙色	白色粒子	内面ヨコナデ	古墳時代前～中期	内部に指頭押圧痕、底部～胴部に火を受けている
第84図	681	遺構外	土師器	鉢か壺	-/7.8/(7.0)	良好	外面10YR6/3にぶい黄橙色、内面10YR6/3にぶい黄橙色	やや粗・細砂・砂粒・小礫・微細石英・長石・凝灰岩・チャート	外面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ、内面ナデ・ヘラナデ	古墳時代前～中期	
第84図	682	遺構外	土師器	鉢	(16.0)/-/(7.5)	良好	5YR7/6 橙色	白色粒子・金雲母	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第84図	683	遺構外	土師器	鉢	-/-/(4.6)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	白色粒子・金雲母	内面外面ナデ、ハケ、ケズリ	古墳時代前～中期	
第84図	684	遺構外	土師器	甕	(15.6)/-/(3.8)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	赤色粒子・白色粒子	内面口縁部ヨコハケ、胴部ナデ、外面タテハケ	古墳時代前～中期	
第84図	685	遺構外	土師器	甕	(11.0)/-/(2.9)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・白色粒子・金雲母	内面外面摩耗	古墳時代前～中期	内面外面一部に煤付着
第84図	686	遺構外	土師器	甕	(12.4)/-/(4.7)	良好	5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・金雲母	内面ナデ、外面ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第84図	687	遺構外	土師器	甕	-/-/(7.3)	良好	2.5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子・金雲母	内面ヘラナデ、外面タテハケ	古墳時代前～中期	内面に指頭押圧痕、一部煤付着
第84図	688	遺構外	土師器	甕	-/(5.2)/(3.7)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子	内面ヘラ調整後ナデ、外面ヘラケズリ	古墳時代前～中期	
第84図	689	遺構外	土師器	甕か壺	-/(6.5)-/(3.2)	良好	5YR5/6 明赤褐色	白色粒子	内面ハケ、外面摩耗	古墳時代前～中期	底部に黒斑
第84図	690	遺構外	土師器	甕	-/(7.85)/(4.25)	良好	10YR2/1 黒色	石英・金雲母・白色粒子・黒色粒子	内面ヨコハケ	古墳時代前～中期	外面に焼け跡一部煤付着、底部に種子痕

第３表　古墳時代前期～中期　石製品観察表

図版番号	遺物番号	取上番号	出土地点	器　種	石　　材	所　　見	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量（g）
第85図	691	S-004	5号竪穴建物跡	磨石	安山岩	クリーム色の円礫。中央に凹み痕	76	59	56	246
第85図	692	S-008	3・4号竪穴建物跡	砥石	ホルンフェルス	暗灰色。上面に弱い砥面をもつ。	144	59	36	592
第85図	693	S-008	3・4号竪穴建物跡	編物石	砂岩	棒状の亜円礫	181	70	44	706
第85図	694	S-19	4号竪穴建物跡	敲き石か	砂岩	棒状の亜円礫。上面と下面に弱い敲打痕。	178	50.1	50	630
第85図	695	S-28	8号竪穴建物跡	管玉	緑色岩	淡緑色。円柱とはならず八角形上に面取りされる。孔は図上上面が狭く（1.8mm）下面が広い（2.5mm）	26	6.5	6.5	1.77
第85図	696	S-016	6号竪穴建物跡焼土	管玉未成品	緑色岩	濃緑色。角柱状に面取り後、角部を円く整形する。上面に径1mm の刺突状の痕跡（深さ0.1mm 程度）	17.9	10.2	9.7	3.14
第85図	697	S-27	1号竪穴建物跡	不明石製品	砂岩（黒色）	表面が赤く塗布されている。表面はなめらか。	32	9	4.4	2.53
第85図	698	高坏371脚部内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.8mm。	3.9	3.7	1.7	0.04
第85図	699	小型壺405内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	4.0	3.8	2.5	0.06
第85図	700	壺425内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.7mm。	5.8	5.7	3.0	0.13
第85図	701	小型壺406内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	4.9	4.8	2.5	0.07
第85図	702	壺424内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	4.0	4.0	1.5	0.03
第85図	703	甕462内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.2mm。	5.0	4.5	1.5	0.05
第85図	704	壺433内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.2mm。	3.5	3.5	2.5	0.04
第85図	705	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.6mm。	4.5	4.0	1.5	0.04
第85図	706	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.7mm。	3.0	3.0	2.0	0.02
第85図	707	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	3.0	3.0	2.5	0.02
第85図	708	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.2mm。	3.5	3.5	1.5	0.01
第85図	709	小型壺390内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	4.2	4.5	2.5	0.05
第85図	710	小型壺390内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	4.1	4.0	1.8	0.03
第85図	711	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	5.0	5.0	3.1	0.13
第85図	712	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.7mm。	5.0	4.5	3.0	0.08
第85図	713	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.2mm。	4.0	4.0	2.2	0.06
第85図	714	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.7mm。	3.3	3.3	2.5	0.03
第85図	715	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.0mm。	3.2	3.0	2.0	0.04
第85図	716	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	4.6	4.6	2.8	0.11
第85図	717	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	4.5	4.4	2.4	0.08
第85図	718	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.6mm。	4.6	4.4	2.9	0.10
第85図	719	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.7mm。	4.5	4.3	3.0	0.09
第85図	720	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	4.7	4.6	2.0	0.06
第85図	721	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	4.6	4.5	1.7	0.06
第85図	722	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.6mm。	4.7	4.5	1.8	0.06
第85図	723	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.3mm。	4.2	4.1	2.0	0.06
第85図	724	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	4.7	4.7	2.6	0.09
第85図	725	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.3mm。	4.9	4.9	1.7	0.06
第85図	726	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	4.6	4.4	3.2	0.10
第85図	727	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	5.3	5.0	2.8	0.10
第85図	728	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.7mm。	4.5	4.5	3.5	0.12
第85図	729	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	4.5	4.5	2.0	0.08
第85図	730	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.6mm。	4.5	4.5	3.2	0.12
第85図	731	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	4.5	4.5	2.5	0.09
第85図	732	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	5.0	5.0	3.0	0.11
第85図	733	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	4.7	4.7	2.5	0.09
第85図	734	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.6mm。	4.5	4.2	2.0	0.05
第85図	735	小型壺388内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.2mm。	3.0	3.0	2.0	0.02
第85図	736	小型壺388内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	3.1	3.0	1.5	0.02
第85図	737	小型壺388内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.3mm。	3.5	3.5	2.1	0.04
第85図	738	小型壺388内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.4mm。	3.5	3.0	2.0	0.02
第85図	739	小型壺388内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.1mm。	3.0	3.0	2.0	0.05
第85図	740	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.6mm。	3.5	3.5	1.0	0.02
第85図	741	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	3.5	3.5	2.5	0.06
第85図	742	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.5mm。	4.0	4.0	3.0	0.05
第85図	743	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.8mm。	4.5	4.0	2.5	0.06
第85図	744	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.6mm。	4.7	4.5	3.0	0.08
第85図	745	土器集積覆土内	祭祀遺構ユニット１	臼玉	滑石	側面中央にわずかに張りがあり擦痕がある。孔径約1.2mm。	3.7	3.6	3.0	0.04

第４表　古墳時代前期～中期　金属製品観察表

図版番号	図内番号	取上番号	出土地点	器　種	器種補足	所　　見	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量（g）
第86図	746	F-3	3号竪穴建物跡	鉄製品	鉄片	小鉄片　表裏面ともに剥離	25	12	3	1.67
第86図	747	F-4	7号竪穴建物跡	鉄製品	刀子	刀子の柄部か　残存状態悪い	23	11	3	2.69
第86図	748	F-5	祭祀遺構ユニット1	鉄製品	刀子	刀子刃部　残存状態悪い	29	14	2	2.87
第86図	749	F-6	8号竪穴建物跡	鉄製品	刀子	刀子の柄部　表裏面に径5mm 程度の円形文様あり	41	10	3	1.88
第86図	750	土器465内	祭祀遺構ユニット1	鉄製品	鉄片	小鉄片　表裏面ともに剥離	25	11	2	1.33
第86図	751	土器463内	祭祀遺構ユニット1	鉄製品	袋状鉄斧	刃部の残存状態は悪い。肩部はなだらか。ソケット部に木質が遺存している。	114	56	28	192

第２節　古墳時代中期後半～平安時代の遺構と遺物

第１面から第２面にかけての間層から、古墳時代中期後半～平安時代の遺物包含層と、平安時代の遺構が確認されている（第87図）。

⑴ 竪穴建物跡

●９号竪穴建物跡　（第88図　遺物：第91 ～ 93図）

＜位置＞　Ｂ７グリッド

＜形態・規模＞　遺構の壁面を捉えられておらず、規模は不明。図上では、カマド跡の位置から遺構の範囲を想定した。大半は調査区外に位置する。

＜重複関係＞　特になし。

＜壁・床＞　しまりの強いオリーブ灰色シルト層が床面として機能していた可能性がある。

＜柱穴＞　検出されず。

＜覆土＞　平安期の建物跡の検出を想定しておらず、覆土の上層は重機及び人力により除去してしまった。遺物の出土とカマド跡の検出により建物跡の存在が示唆されたため、覆土はほとんど残存していない。

＜火処＞　馬蹄形状に焼土塊が広がる箇所があり、カマド跡と想定した。

＜その他の施設＞　特になし。

＜遺物及び出土状況＞　752 ～ 760は平安時代の坏で、いわゆる甲斐型坏である。完形の752 ～ 754は作り方が類似しており、外面は回転ナデののちに下半部を斜め方向にヘラケズリ、内面は暗文状のミガキを施す。753は外面に漢字二文字の墨書が認められる。「孫侶」と釈読できる。755も完形だが外面のヘラケズリ範囲が底部付近に限られ、内面の暗文も省略される。一方外面には上下方向の３本の線刻が口縁から底部にかけて刻まれる。752はカマド跡の焚口付近に伏せた状態で出土しており、カマドの廃絶行為に伴う可能性が示唆される。759は高台をもつ。761は鉢形土器。762 ～ 764は皿形土器で、762や763はやや器高をもつものの、764は低く盤状を呈する。765、766は甕で、外面を斜めハケ、内面を横ハケで調整する。765の口縁は強く外側に開く。767は羽釜の把手部分か。768、769は須恵器の甕。770は円筒型土製品で口縁部を除き全体の4/5は形を復元できているか。底はもたず胴部はやや膨らむ。771 ～ 787は一括土器及び遺構内あるいは建物跡床面以下から出土した古墳時代の土器。

＜時期＞　９世紀第２四半期。

⑵ その他の遺構

●３号土坑・17号溝状遺構（第89図　遺物：第94図）

１号竪穴建物跡を掘り込むように検出されたもので、３号土坑の南辺に17号溝がとりつく形となる。３号土坑は１ｍ×0.8ｍ程度の長方形で、深さは50㎝程度。遺物は遺構上層の炭化物や焼土を多く含む覆土内に集中する。17号溝は幅50㎝程度で長さ3.2ｍまでは検出できている。溝底面の標高値を測りだしているが、北から南へ低くなっている。このことから、水が流れる機能を想定した場合、３号土坑に集水するのではなく、３号土坑からの水を南方向へ流す役割を想定でき、３号土坑が素掘りの井戸である可能性を指摘できる。

遺物は３号土坑より788が鉢、789 ～ 792が甲斐型坏、793は小型の甕である。17号溝の795は古墳時代の甕口縁か。796、797は須恵器の甕破片。いずれも９号竪穴建物跡と同様の９世紀第２四半期頃の所産か。

●自然流路（第87図）

平安時代以前の遺物包含層上面を精査した際、調査区の東端に粗砂層の広がりが確認された。自然流路として捉えたが、粗砂の広がる範囲はやや入り組んでおり、東側の立ち上がりは捉えられていない。一部で断面を確認したが、西側の立ち上がりは緩やかであるものの、深さは湧水等により確認することができなかった。古墳時代中期以降に形成されたとみてよい。

⑶ 遺物包含層（第90図　遺物：第95図）

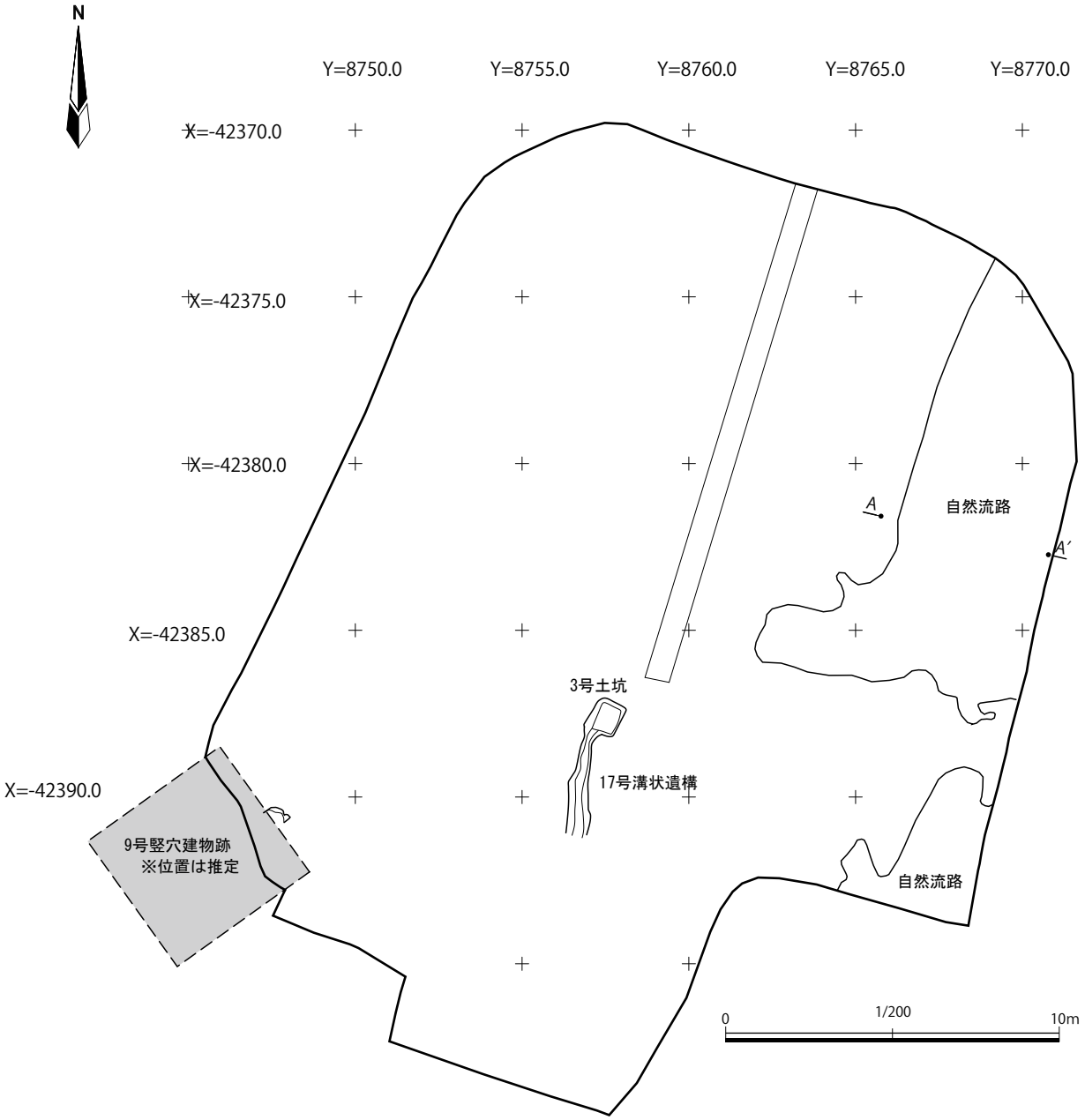
人力で掘削を行った調査区東側の包含層調査のうち、ここではとくに光波で測量したものを取り上げる。

798、799はいわゆる須恵器模倣坏で５世紀末～６世紀前葉のもの。800、801は内斜口縁の坏で５世紀中葉か。802は半球型の坏で詳細な時期は不明。803は土師器蓋の一部と思われ、墨書が記される。804は須恵器の高台付坏で奈良～平安時代前半の所産。805、807は古墳時代中期初頭の高坏。806は高坏あるいは口縁の形状的には器台ともなりうるか。注目されるのが初期須恵器である。808は甕の上半部で、接点が判断しにくいため実測図では少し離した表現としている。口縁部にのみ櫛描波状文が横位に施されている。口唇部は外側に開くようにつまみ出される。陶邑編年でＴＫ216型式期（５世紀第２四半期頃）相当とみてよいだろう。このほか、811は把手付き椀の把手部分、812は甕の胴部片である。811もＴＫ216～208型式期頃でよいか。このほか土師器は、810、813～815は甕の口縁、809は須恵器模倣の土師器甕か。810はやや肥厚する甲斐型甕で、10世紀代のものか。

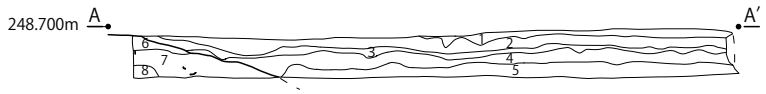
また、ウシの歯が１点出土しており、第５章で同定結果が報告されている。自然地形の起伏や潜り込みなどを一切考慮せずに周辺の包含層から出土した土器の垂直分布を見比べると、５世紀末～６世紀前葉の798や、土師器蓋の墨書土器破片である803（平安時代か）のほうがウシ歯よりも下位で出土している。なお、ウシ歯が248.65m前後で出土したのに対し、３号土坑は248.6m程度で遺構が検出されている。掘り込み面はもう少し上層であったと思われるため、９世紀代にはウシ歯は埋没していたと捉えられるが、明確な時期の特定は困難である。

⑷ そのほか調査区内出土遺物（第96図）

816、817は土師器の蓋で奈良時代以降のもの。818は平安時代の墨書土器（土師器坏）の破片。819、820は甲斐型坏で、９世紀代のもの。821は半球型坏か。823～825は９世紀代と思われる土師器皿。819と823～825は、調査区を南側に拡大した際の重機掘削中に出土したもので、時期的にも17号溝や９号竪穴建物跡に近い。826は灰釉陶器の椀の破片か。836は大きめの初期須恵器把手付き椀の破片か。839は摩耗の激しい縄文土器。840は包含層の一括出土遺物で、やや不規則な斜格子状の線刻がある。器種も含めて見慣れない土器である。



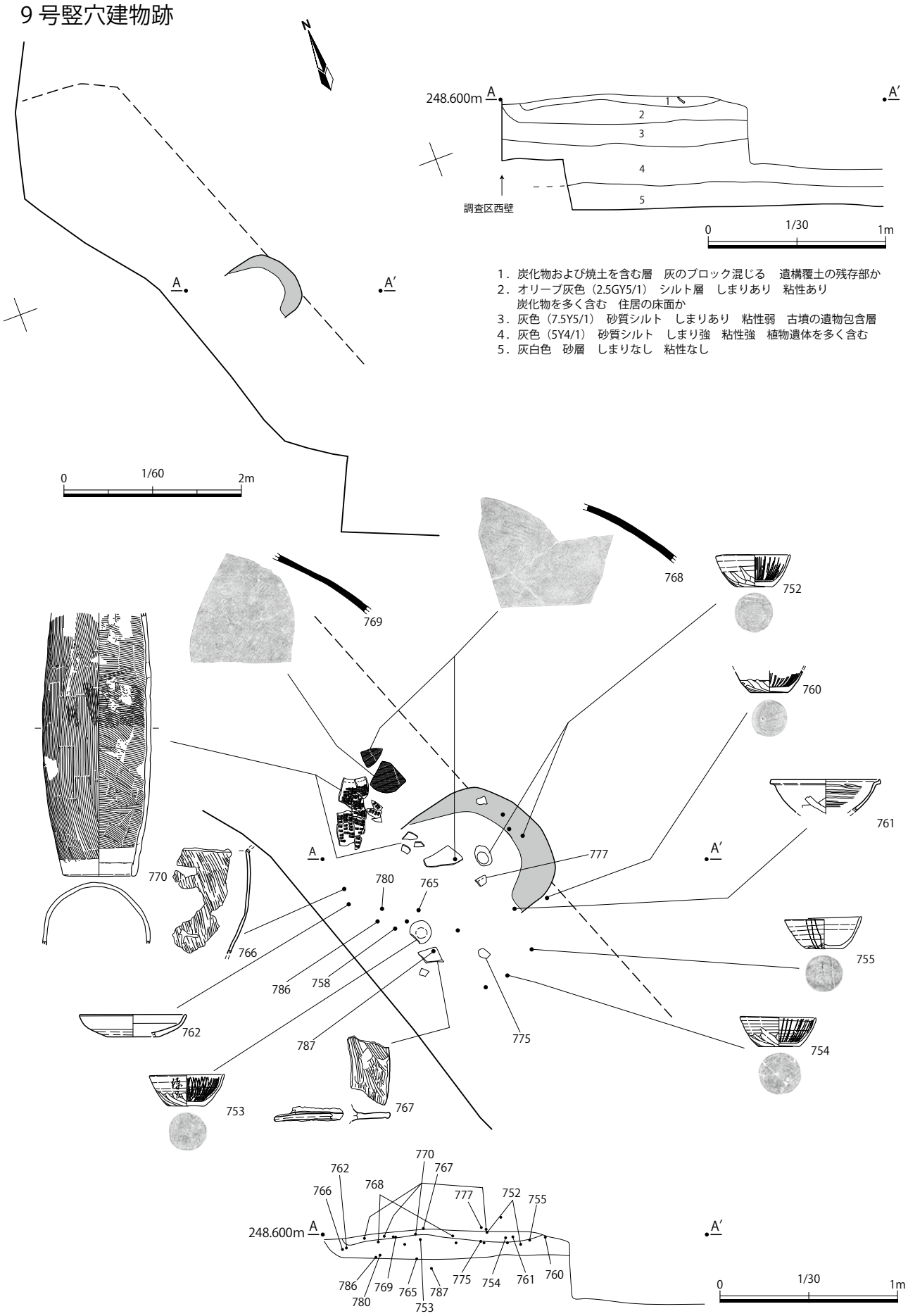
自然流路　土層堆積状況



1．暗オリーブ灰色（5GY7/1）　粗砂層　ラミナが見られる
2．暗緑灰色（7.5GY4/1）　シルト層　ややしまる　わずかに細砂混じる
3．黒色（10Y2/1）　シルト層　わずかに細砂混じる　ややしまる
4．灰色（7.5Y5/1）　細砂層　ラミナが見られる　ややしまる
5．灰色（10Y6/1）　粗砂層　以下は湧水のため精査できず
6．灰色（7.5Y4/1）　シルト層　わずかに細砂混じる　しまりあり
7．オリーブ黒色（7.5Y3/2）　シルト層　わずかに細砂混じる
　しまりあり　炭化物をわずかに含む　遺物含む
8．オリーブ黒色（10Y3/1）　シルト層　しまりあり

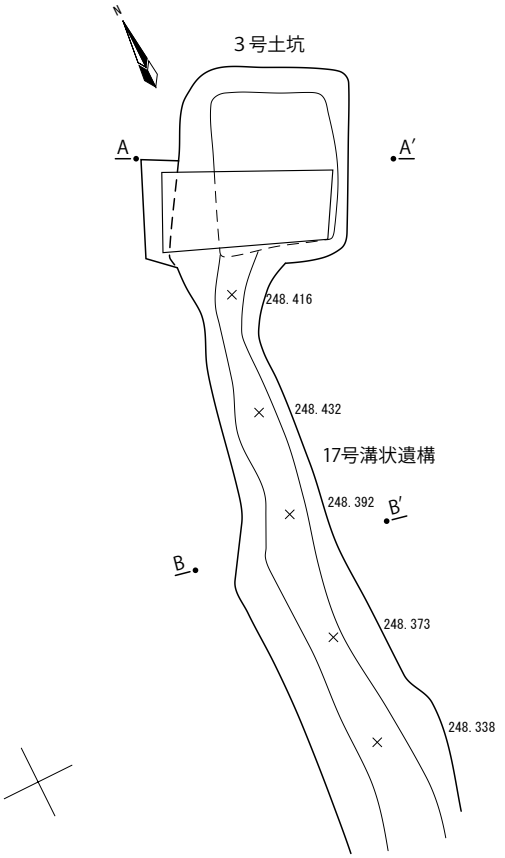
0　1/60　2m

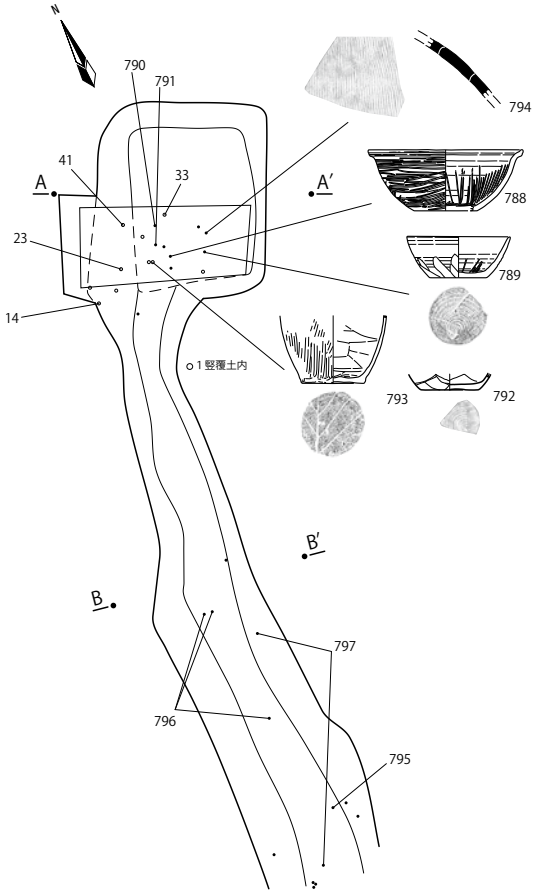
第 87 図　古墳時代中期後半～平安時代遺構分布図

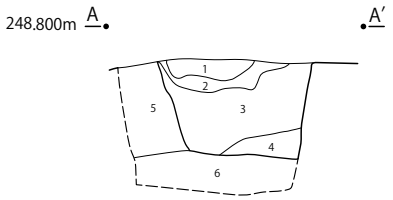


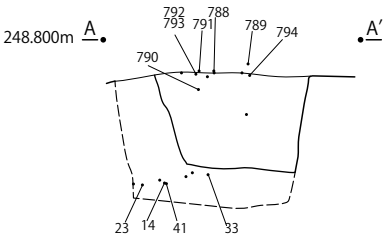
第88図　9号竪穴建物跡　平・断面図　遺物分布図

3 号土坑・17 号溝状遺構

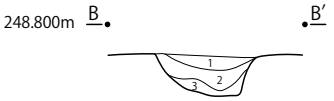




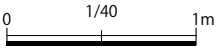




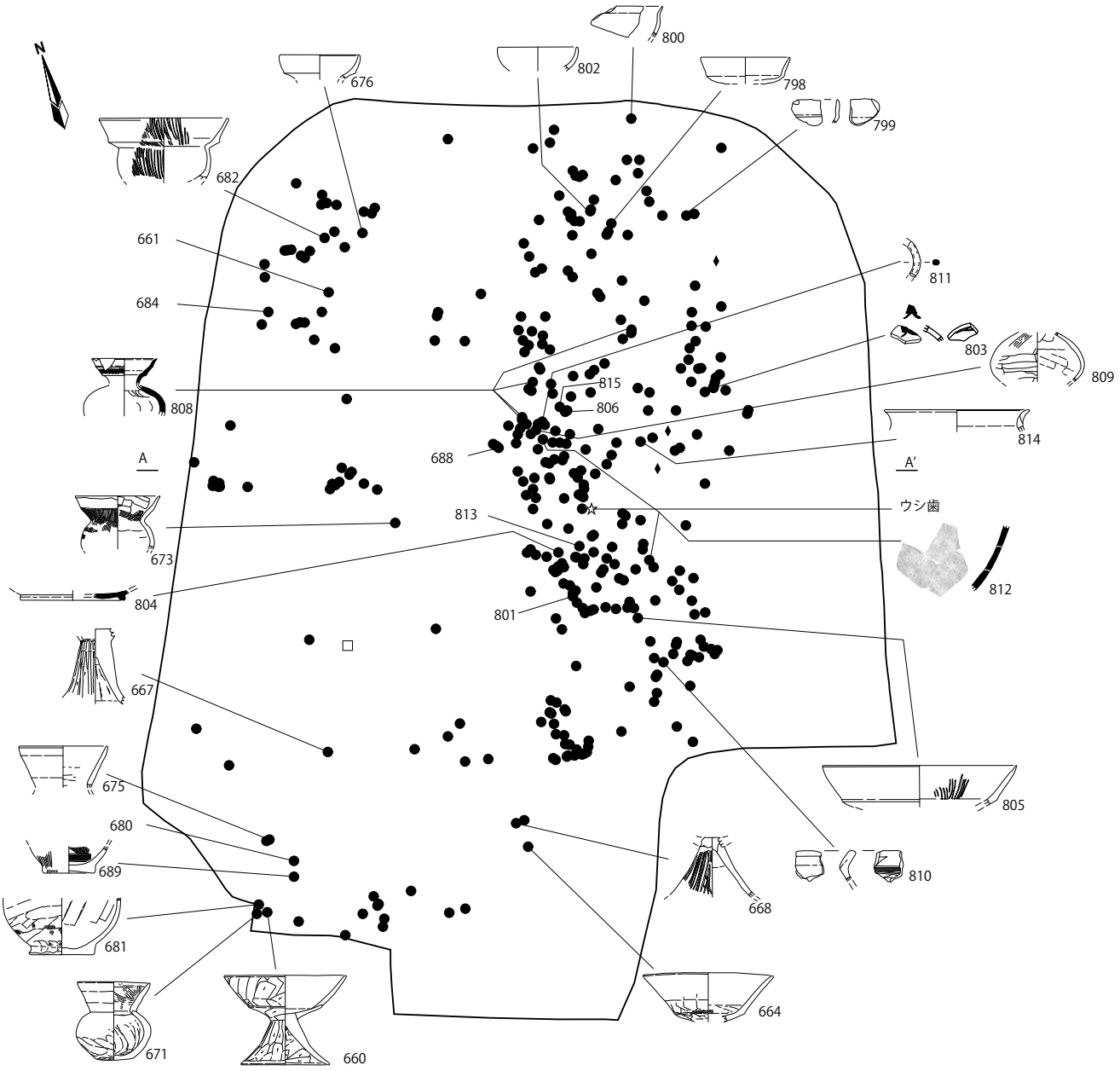
1．黒褐色（10YR3/1）　シルト層　粘性強　しまり良　炭化物・焼土・遺物を多量に含む
2．黒褐色（10YR3/1）　シルト層　粘性やや強　しまり良　炭化物・焼土・遺物を微量に含む
3．黒褐色（10YR3/1）　シルト層　粘性やや強　しまり良
　黄色砂・白色砂混じり、炭化物・焼土・遺物を微量に含む
4．黒褐色（10YR3/2）　シルト層　粘性強　しまり良　黄色砂混じり
5．黒褐色（10YR3/1）　砂層　粘性やや強　しまり良
6．褐灰色（10YR4/1）　砂層　粘性やや弱　しまり良　遺物を含む　1竪の覆土か

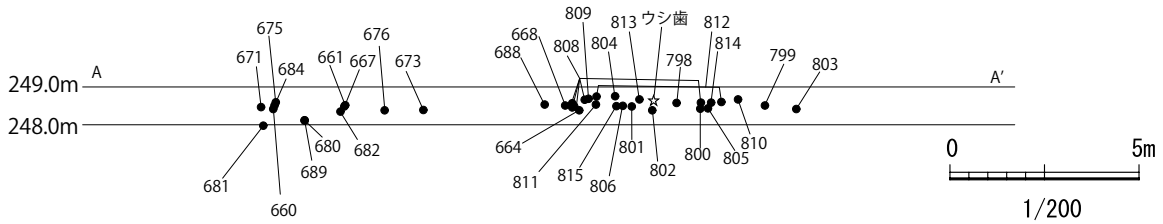


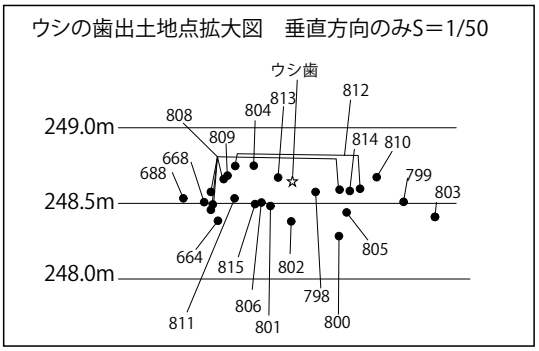
1．黒褐色（10YR3/1）　シルト層　粘性強　しまり良　炭化物・遺物含む
2．黒褐色（10YR3/1）　シルト層　粘性やや強　しまり良　炭化物微量に含む　砂混じり遺物含む
3．褐灰色（10YR4/1）　砂層　粘性やや弱　しまり良　炭化物微量に含む　遺物含む



第89図　3号土坑・17号溝状遺構

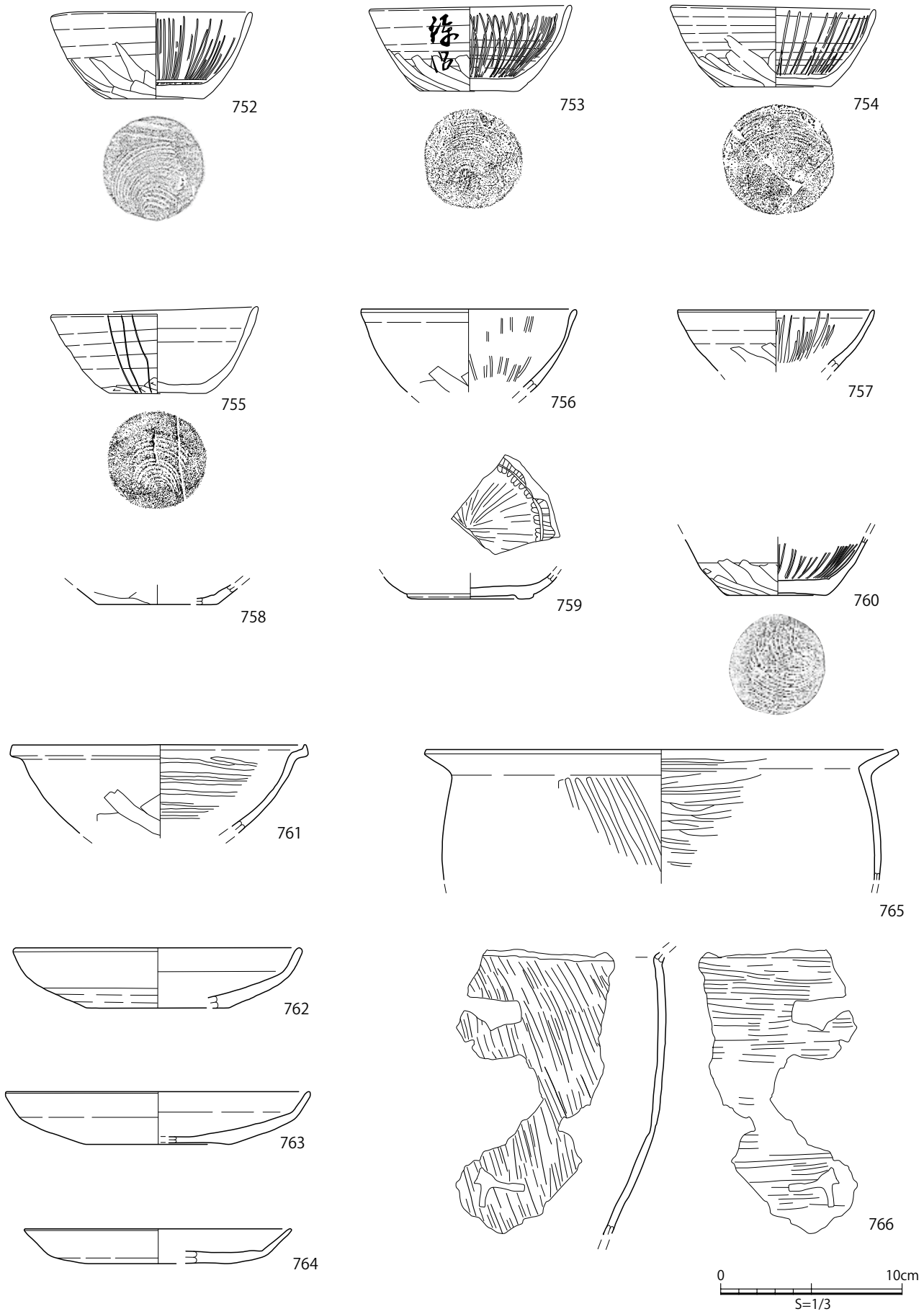




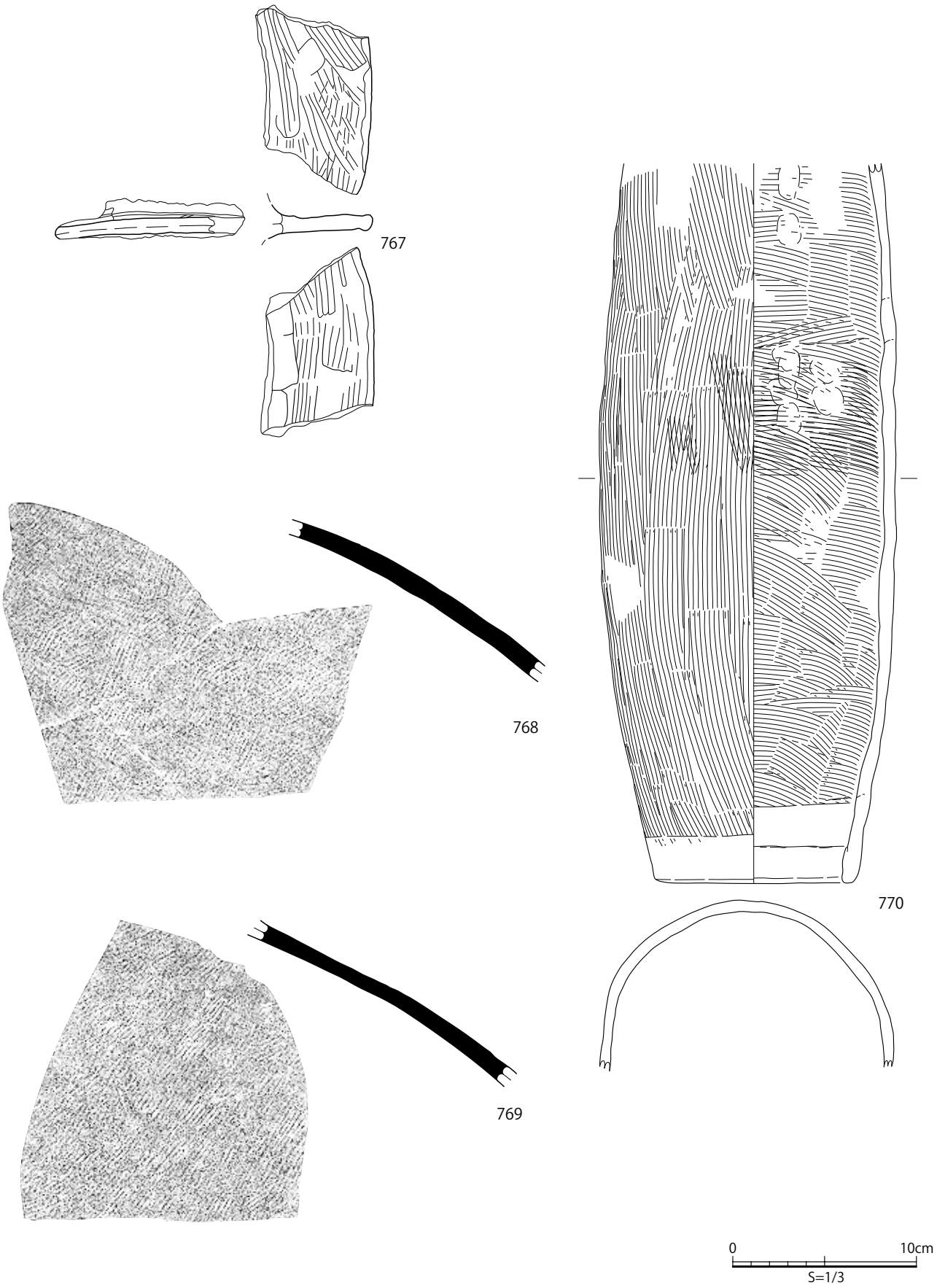


第 90 図　古墳時代～平安時代　包含層・遺構外遺物分布図

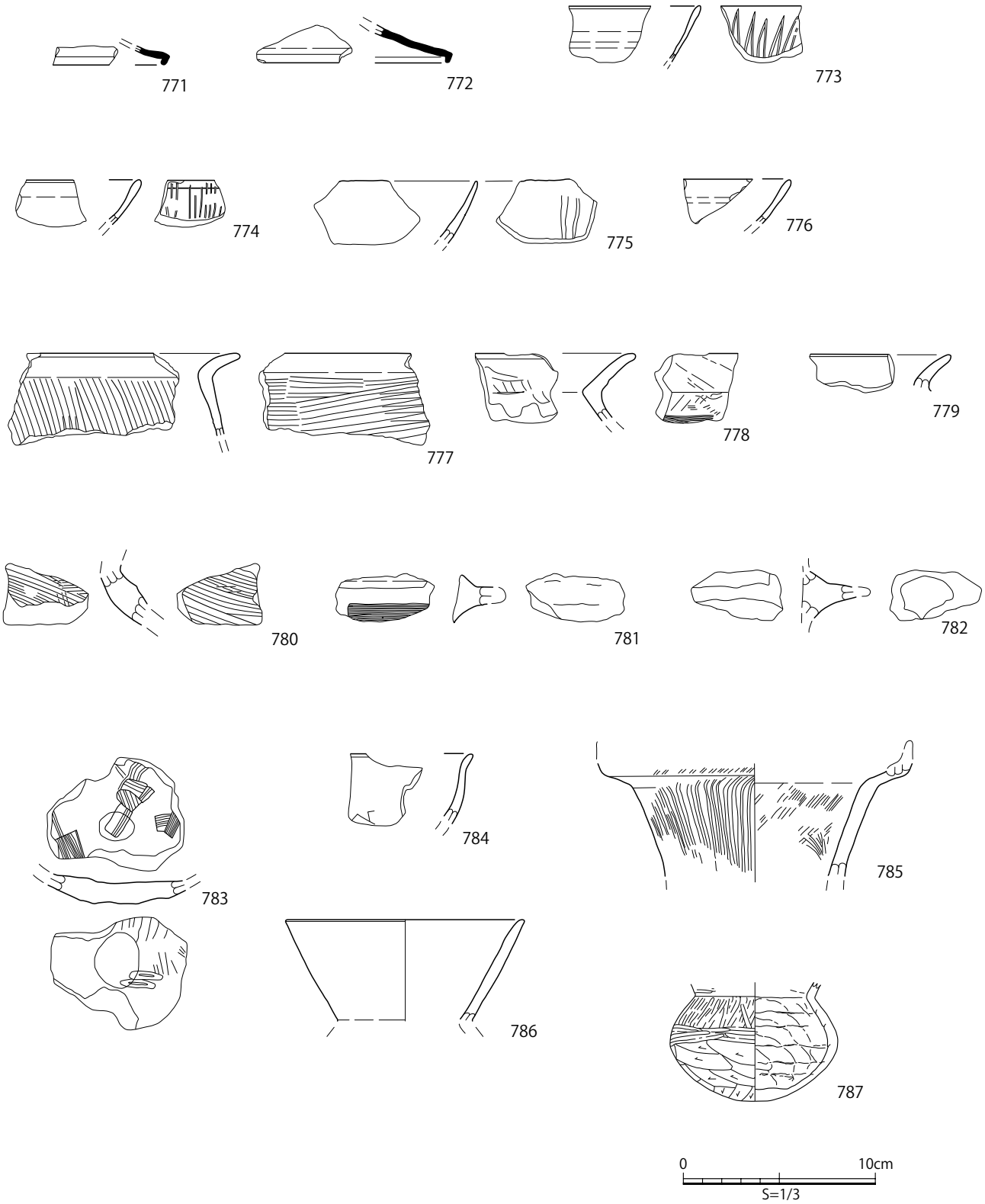
9 号竪穴建物跡



第 91 図　9 号竪穴建物跡出土遺物（1）

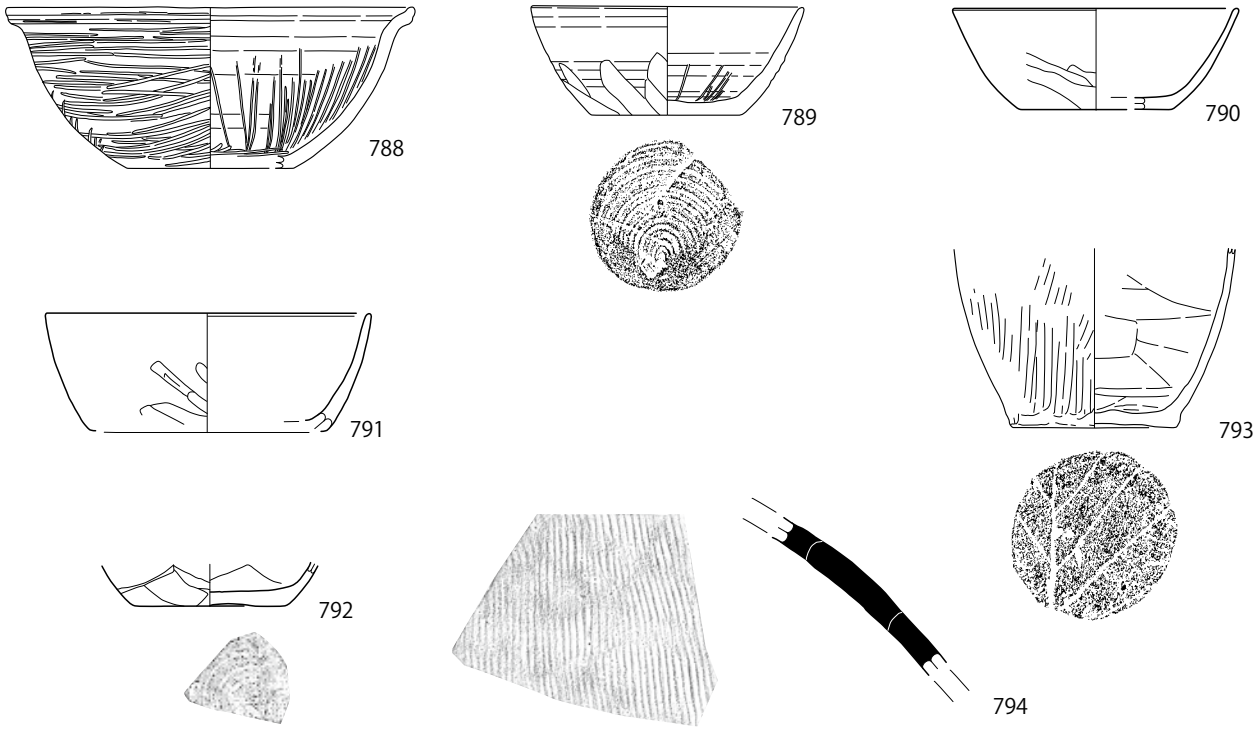


第 92 図　9 号竪穴建物跡出土遺物（2）

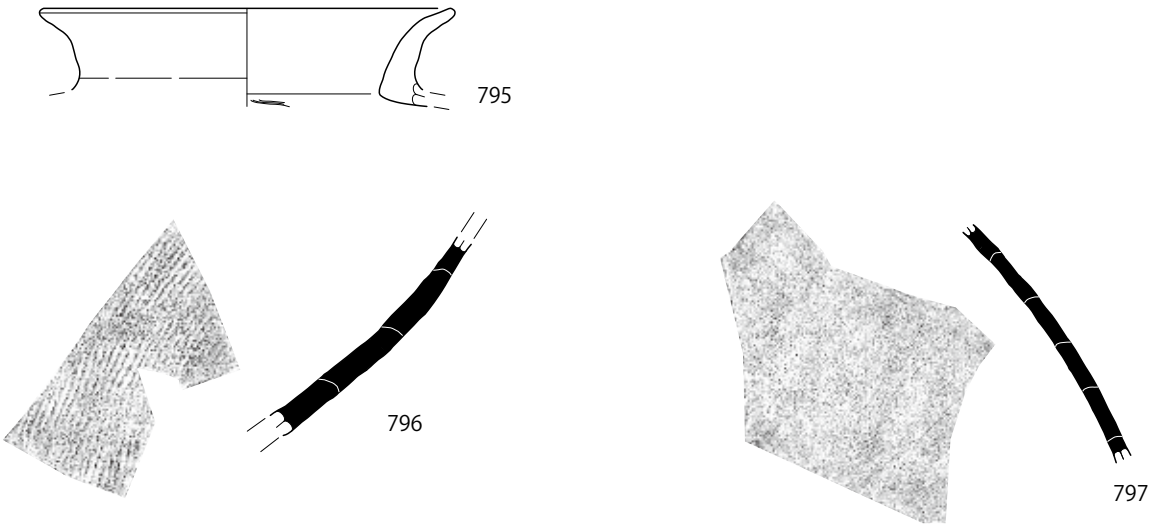


第 93 図　9 号竪穴建物跡出土遺物（3）

3 号土坑



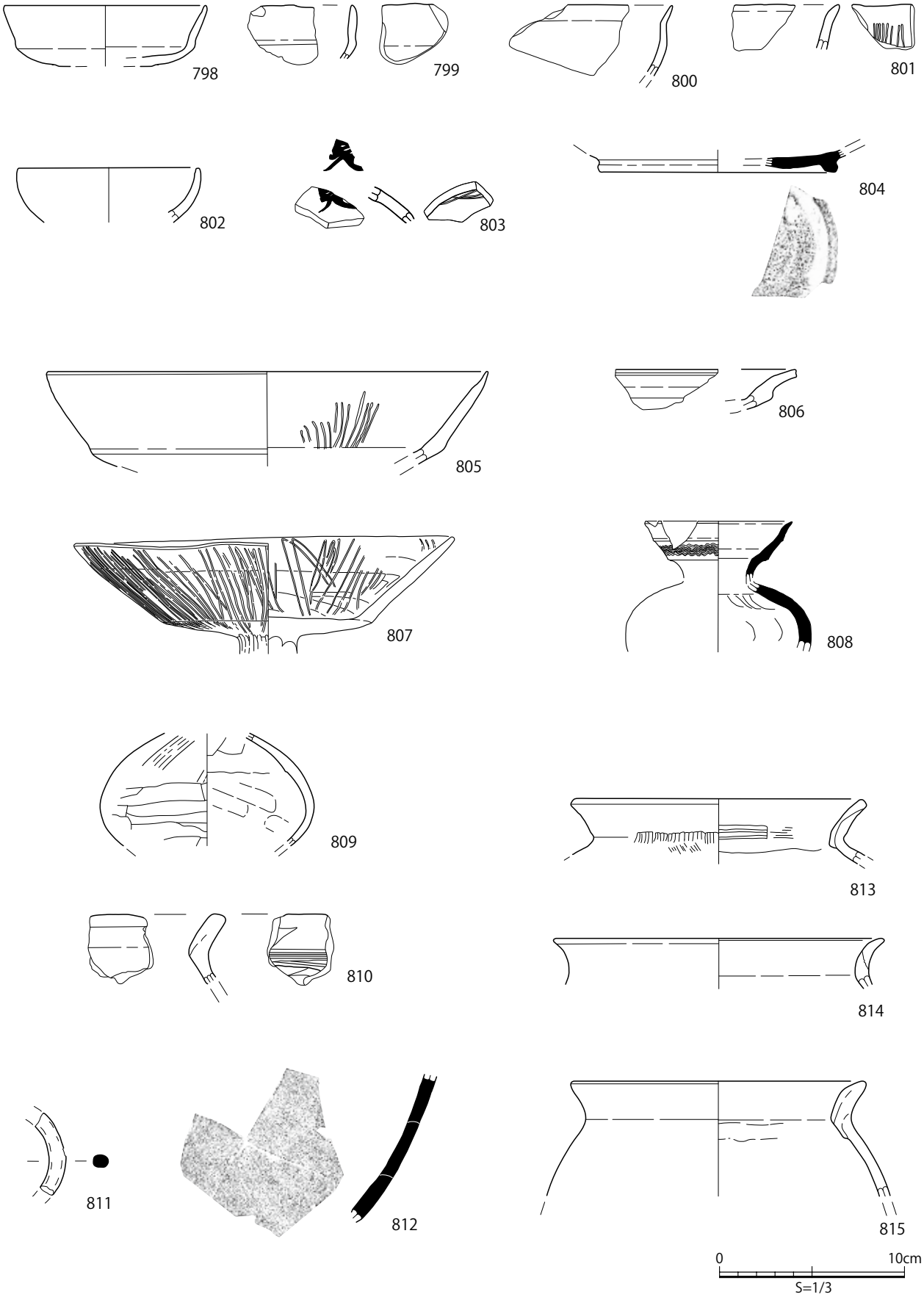
17 号溝状遺構



0 10cm
S=1/3

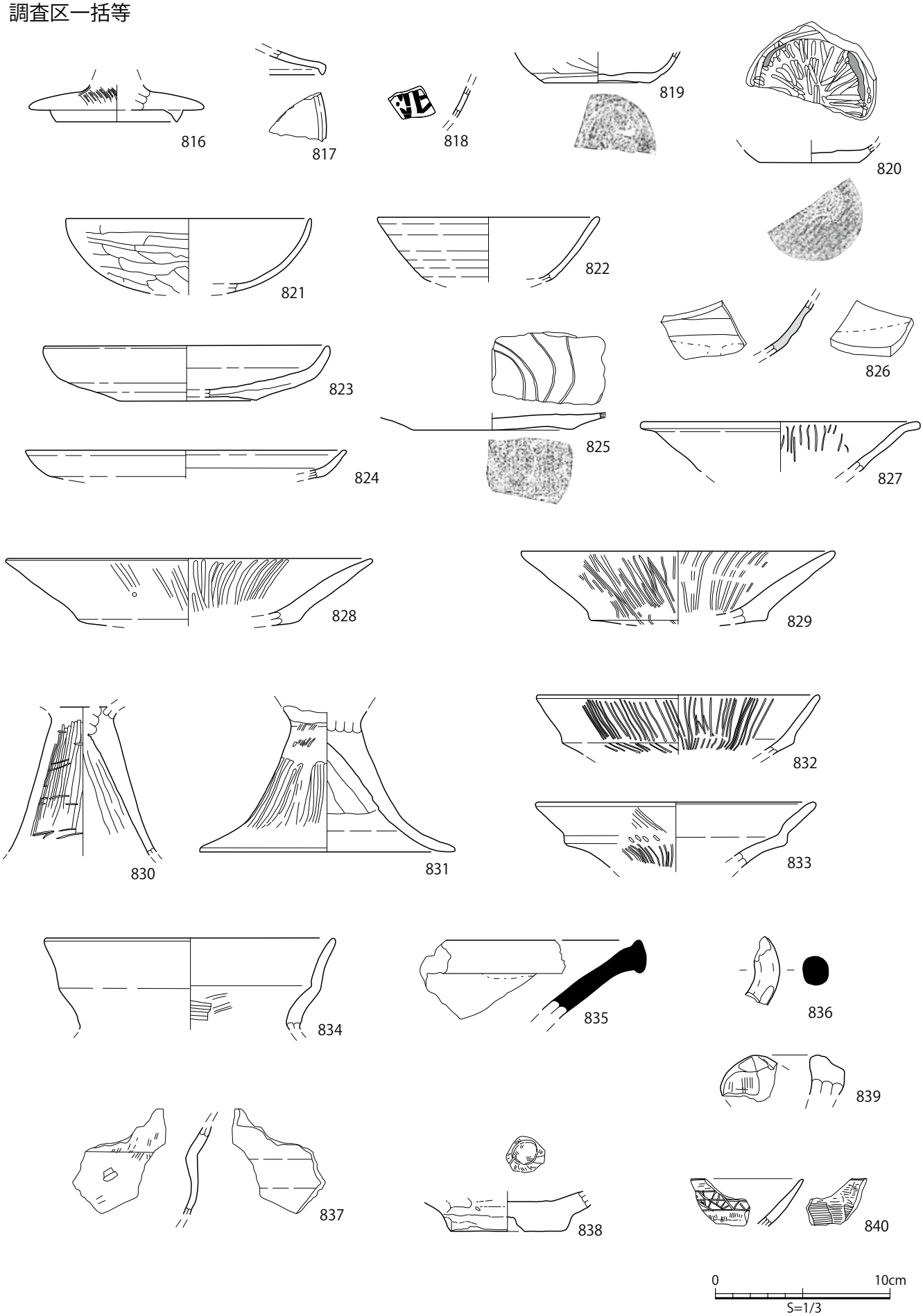
第 94 図　3 号土坑・17 号溝状遺構出土遺物

古墳～平安包含層（特に位置情報がわかるもの）



第 95 図　古墳時代～平安時代遺物包含層出土遺物

調査区一括等



第 96 図　調査区一括等出土遺物

第５表　古墳時代～平安時代　土器観察表

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　　期	備　　考
第91図	752	9号竪穴建物跡	土師器	杯	(11.0)/5.5/4.8	良好	外面5YR6/6橙色、内面7.5YR6/4にぶい橙色	密・細砂・微細石英・長石・黒色粒子・赤褐色粒子	ロクロ成型(右回転)、外面ロクロナデ・手持ちヘラケズリ・底部糸切(右回転)、内面ロクロナデ・暗文放射状ヘラミガキ・横位ヘラミガキ又は強いナデ	9世紀第2四半期	甲斐型、内底径5.3㎝
第91図	753	9号竪穴建物跡	土師器	杯	11.0/5.4/4.7	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	ロクロ成型(右回転)、外面ロクロナデ・手持ちヘラケズリ・底部糸切(右回転)1/2程度手持ちヘラケズリ、内面ロクロナデ・暗文放射状ヘラミガキ	9世紀第2四半期	甲斐型、外面体部に黒書「孫侶」有、内底径4.9㎝
第91図	754	9号竪穴建物跡	土師器	杯	11.1/6.1/4.5	良好	外面7.5YR6/6橙色、内面7.5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	ロクロ成型 (右回転)、外面ロクロナデ・手持ちヘラケズリ・底部糸切手持ちヘラケズリ、内面ロクロナデ・ヘラミガキ	9世紀第2四半期	甲斐型、内底径5.2㎝
第91図	755	9号竪穴建物跡	土師器	杯	(11.3)/5.4/4.8	良好	外面7.5YR7/4にぶい橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	ロクロ成型(右回転)、外面ロクロナデ・手持ちヘラケズリ・底部糸切(右回転)手持ちヘラケズリ、内面ロクロナデ	9世紀第2四半期	甲斐型、外面に油煙・スス付着、外面に口縁から底部かけて線刻？内底径4.8㎝
第91図	756	9号竪穴建物跡	土師器	坏	(11.8)/-/(4.5)	良好	7.5YR7/6 橙色	赤色粒子	内面暗文、外面ヨコナデ、底部付近ヘラケズリ	9世紀第2四半期	
第91図	757	9号竪穴建物跡	土師器	坏	(10.8)/-/(3.4)	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面ミガキ、外面ヨコナデ	9世紀第2四半期	
第91図	758	9号竪穴建物跡	土師器	坏	-/(6.6)/(1.05)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子	外面ヘラケズリ、底面糸切り後ヘラ調整	9世紀第2四半期	
第91図	759	9号竪穴建物跡	土師器	坏	-/(6.6)/(1.4)	良好	7.5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面暗文、ヨコミガキ、外面ヘラナデ、底部回転糸切り後ヘラケズリ	9世紀第2四半期	
第91図	760	9号竪穴建物跡	土師器	坏	-/(5.35)/(3.25)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ミガキ、外面ヘラケズリ、底部回転糸切り、ヘラ調整	9世紀第2四半期	
第91図	761	9号竪穴建物跡	土師器	鉢	(16.4)/-/(4.8)	良好	7.5YR6/6 橙色	雲母	内面ミガキ、外面ナデ後ケズリ	9世紀第2四半期	
第91図	762	9号竪穴建物跡	土師器	皿	(16.0)/(8.0)/(3.3)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子・白色粒子	内面外面ヨコナデ、外面底部付近回転ヘラケズリ	9世紀第2四半期	内面口縁一部と外面一部に煤付着
第91図	763	9号竪穴建物跡	土師器	皿	(16.8)/(4.0)/(2.9)	良好	5YR5/3 にぶい赤褐色	雲母	内面回転ナデ、外面回転ヘラケズリ	9世紀第2四半期	
第91図	764	9号竪穴建物跡	土師器	皿	(14.8)/(8.0)/(1.9)	良好	5YR6/6 橙色	雲母	内面外面ヨコナデ、見込み渦文状の暗文、底部回転ヘラケズリ	9世紀第2四半期	
第91図	765	9号竪穴建物跡	土師器	甕	(26.0)/-/(7.0)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	金雲母・白色粒子	内面外面口縁部から頸部ヨコナデ、胴部ハケ	平安時代前期	
第91図	766	9号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(15.6)	良好	5YR4/6 赤褐色	白色粒子・金雲母	内面ヨコハケ、外面ナナメハケ	平安時代前期	
第92図	767	9号竪穴建物跡	土師器	羽釜	-/-/(1.9)	良好	7.5YR4/6 褐色	白色粒子・金雲母	内面外面ハケ	平安時代前期	
第92図	768	9号竪穴建物跡	須恵器	甕	-/-/(8.8)	良好	N5/ 灰色	白色粒子・黒色粒子	外面タタキ	平安時代前期	
第92図	769	9号竪穴建物跡	須恵器	甕	-/-/(9.0)	良好	N5/ 灰色	白色粒子・黒色粒子	外面タタキ	平安時代前期	内面に指頭押圧痕
第92図	770	9号竪穴建物跡	土師器	円筒土製品	-/(10.7)/(39.2)	良好	外面5YR4/2灰褐色、内面2.5YR4/6赤褐色	粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ヨコナデ・ハケメ、内面ヨコナデ・ナデ・ハケメ・指押さえ	平安時代前期	
第93図	771	9号竪穴建物跡	須恵器	蓋	-/-/(1.0)	良好	N5/ 灰色	白色粒子		平安時代前期	
第93図	772	9号竪穴建物跡	須恵器	蓋	-/-/(2.0)	良好	N5/ 灰色	白色粒子・黒色粒子	内面外面ナデ	平安時代前期	
第93図	773	9号竪穴建物跡	土師器	坏	-/-/(2.9)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面タテミガキ、外面ヨコナデ	平安時代前期	
第93図	774	9号竪穴建物跡	土師器	坏	-/-/(2.4)	良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	黒色粒子	内面ミガキ、外面ヨコナデ	平安時代前期	
第93図	775	9号竪穴建物跡	土師器	坏	-/-/(3.1)	良好	5YR5/6 明赤褐色	雲母	内面外面ナデ、内面暗文	平安時代前期	
第93図	776	9号竪穴建物跡	土師器	坏	-/-/(2.3)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子	内面外面ナデ	平安時代前期	
第93図	777	9号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(4.35)	良好	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	金雲母・白色粒子・石英	内面外面口縁部から頸部ナデ、胴部ハケ	平安時代前期	
第93図	778	9号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.5)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	白色粒子・金雲母	内面ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヨコナデ	平安時代前期	
第93図	779	9号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(1.9)	良好	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	白色粒子・雲母・Φ１㎜大の石英	内面外面摩耗	古墳時代か平安時代	
第93図	780	9号竪穴建物跡	土師器	甕	-/-/(3.1)	良好	5YR6/4 にぶい橙色	石英・白色粒子・黒色粒子	内面ヨコハケ、外面ナナメハケ	平安時代前期	
第93図	781	9号竪穴建物跡	土師器	羽釜	-/-/(2.5)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	金雲母・白色粒子・黒色粒子	外面ヨコハケ	平安時代前期	
第93図	782	9号竪穴建物跡	土師器	羽釜	-/-/(2.4)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子・金雲母	内面ナナメハケ、外面ナデ	平安時代前期	
第93図	783	9号竪穴建物跡	土師器	壺	-/(4.0)/(1.5)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	白色粒子・金雲母	内面外面ハケ	古墳時代前～中期	
第93図	784	9号竪穴建物跡	土師器	鉢	-/-/(3.6)	良好	7.5YR5/2 灰褐色	金雲母	内面外面ナデ	古墳時代か平安時代	
第93図	785	9号竪穴建物跡	土師器	壺	-/-/(5.9)	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	赤色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期	
第93図	786	9号竪穴建物跡	土師器	壺	(12.3)/-/(5.3)	良好	5YR6/6 橙色	金雲母・黒雲母・白色粒子・黒色粒子	内面外面ナデ	古墳時代中期前半	
第93図	787	9号竪穴建物跡	土師器	小型丸底壺	-/-/(6.2)	良好	外面10YR6/4にぶい黄橙色、内面10YR6/4にぶい黄橙色	やや粗・細砂・砂粒・微細石英・長石・雲母・チャート	外面ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・指押さえ	古墳時代中期前半	外面に黒斑
第94図	788	3号土坑	土師器	鉢	(16.1)/(6.6)/(6.4)	良好	外面5YR6/6橙色、内面5YR6/6橙色	密・細砂・微細石英・橙色粒子	外面ヨコナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ヨコナデ・ヘラミガキ	9世紀第2四半期	口縁部歪み有、内外面にスス付着
第94図	789	3号土坑	土師器	杯	(10.7)/6.0/4.3	良好	外面2.5YR4/6赤褐色、内面2.5YR5/6明赤褐色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・赤褐色粒子	ロクロ成型(右回転)、外面ロクロナデ・手持ちヘラケズリ・底部糸切(右回転)手持ちヘラケズリ、内面ロクロナデ・暗文放射状ヘラミガキ一部分残	9世紀第2四半期	甲斐型、内外面うすいスス付着、内底径5.6㎝
第94図	790	3号土坑	土師器	杯	(11.2)/-/(4.0)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・白雲母	内面ヨコナデ、外面ケズリ後ヨコナデ、底部ケズリ	9世紀第2四半期	
第94図	791	3号土坑	土師器	杯	(13.0)/-/(4.8)	良好	2.5YR5/6 明赤褐色	赤色粒子・黒色粒子・金雲母	内面ヘラケズリ後ヨコナデ、外面ヘラケズリ後ヘラナデ	9世紀第2四半期	
第94図	792	3号土坑	土師器	杯	-/(6.0)/(1.7)	良	5YR4/8赤褐	赤色粒子	回転糸切痕後ヘラケズリ　底部一部くぼみあり	9世紀第2四半期	
第94図	793	3号土坑	土師器	甕	-/6.5/(7.1)	良好	外面5YR4/2灰褐色、内面5YR5/4にぶい赤褐色	やや密・細砂・砂粒・微細石英・雲母・チャート	外面板ナデ・木葉痕、内面ナデ・ヘラナデ	平安時代前期	内外面にうすいスス付着
第94図	794	3号土坑	須恵器	甕	-/-/-	良	N41(灰色)	白色粒	外面平行タタキ　内面当て具痕なし	平安時代前期	
第94図	795	17号溝状遺構	土師器	壺	(16.2)/-/(3.9)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ナデ、頸部にわずかにハケ	古墳時代前～中期か	
第94図	796	17号溝状遺構	須恵器	甕	-/-/-	良	N5/0	白色粒子、0.5 ～ 1.0㎜大の小し	外面平行タタキ　内面当て具痕なし	平安時代前期	
第94図	797	17号溝状遺構	須恵器	甕	-/-/-	良	10YR5/1(褐灰色)	白色小　0.5 ～ 2㎜大）	外面平行タタキ　内面当て具痕なし	平安時代前期	
第95図	798	2面包含層	土師器	坏	(10.8)/-/(3.3)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	黒色粒子	内面外面ヨコナデ	古墳時代後期	いわゆる須恵器模倣坏
第95図	799	2面包含層	土師器	坏	-/-/（3.0)	良	7.5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子・金雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代後期	いわゆる須恵器模倣坏
第95図	800	2面包含層	土師器	坏	-/-/(3.8)	良好	5YR4/6 赤褐色	雲母	内面外面ヨコナデ	古墳時代中期	
第95図	801	2面包含層	土師器	坏	-/-/(2.5)	良	10YR7/4にぶい黄橙	金雲母	内面みがきあり	古墳時代中期	
第95図	802	2面包含層	土師器	坏	(10.0)/-/(3.0)	良	7.5YR5/6明褐	赤色粒子・金雲母	外面表面にくぼみあり　内面線状の模様あり	古墳時代中期～後期	
第95図	803	2面包含層	土師器	蓋	-/-/(2.5)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子	外面に墨書　内面暗文	平安時代前期	
第95図	804	2面包含層	須恵器	高台坏	-/(12.2)/(1.2)	良	7.5YR7/1灰白	白色粒子		平安時代前期	
第95図	805	2面包含層	土師器	高坏	(23.8)/-/(5.0)	良	7.5YR6/6橙	赤色粒子	内面ヘラミガキ	古墳時代中期前半	

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼成	色　　調	胎　　土	調　　整	時　期	備　考
第95図	806	2面包含層	土師器	高坏か	-/-/(2.1)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	金雲母・白色粒		古墳時代前～中期	
第95図	807	2面包含層	土師器	高坏	20.3/-/(6.5)	良好	外面5YR6/6橙色、内面10YR6/3にぶい黄橙色	密・細砂・微細石英・黒色粒子・橙色粒子	外面ヨコナデ・ナデ・ヘラケズリ・ヘラミガキ、内面ナデ・ヘラミガキ	古墳時代中期前半	口縁部歪み有
第95図	808	2面包含層	須恵器	ハソウ	(8.0)/-/(3.5)	良好	5PB6/1 青灰色	黒色粒子	頸部外面櫛描波状文、内面指抑え	古墳時代中期中葉	TK216型式期　自然釉あり
第95図	809	2面包含層	土師器	模倣ハソウ	-/-/(6.1)	良好	7.5YR6/6 橙色	黒色粒子・1㎜位の黒粒	内面ヘラケズリ、外面胴部上ハケ後ヨコナデ、胴部下ケズリ	古墳時代中期	古墳
第95図	810	2面包含層	土師器	甕	-/-/（3.8）	良	5YR3/6暗褐色	金雲母	外面ヘラナデ　内面ナデ　ヨコハケ	平安時代中期	
第95図	811	2面包含層	須恵器	把手付埦	-/-/(4.5)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子		古墳時代中期中葉	土師質な焼成
第95図	812	2面包含層	須恵器	甕	-/-/(7.0)	良	5YS/1(灰色)	白色粒子、1.0 ～ 3.0㎜大の小しキ混入	外面平行タタキ　内面当て具痕なし	古墳時代中期か	
第95図	813	2面包含層	土師器	甕	(16.0)/-/(3.5)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子・金雲母	内面ヨコナデ、外面口縁部ヨコナデ、頸部タテハケ	古墳時代前～中期	
第95図	814	2面包含層	土師器	甕	(18.0)/-/(2.8)	良	2.5Y3/2黒褐	黒色粒子・金雲母	内面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第95図	815	2面包含層	土師器	甕	(15.8)/-/(6.2)	良好	10YR3/1 黒褐色	石英・黒雲母・小石・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面ヨコナデ	古墳時代前～中期	外面全体に煤付着
第96図	816	遺構外	土師器	蓋	-/-/(2.1)	良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・2㎜位の赤粒	外面ナデ	平安時代前期	
第96図	817	遺構外一括	土師器	蓋	-/-/(1.35)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英・白雲母	内面外面摩耗	平安時代前期	
第96図	818	E6グリッド	土師器	坏	-/-/(1.8)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	白色粒子	内面外面ヨコナデ	平安時代前期	内黒土器　外面に墨書
第96図	819	南西側拡張範囲	土師器	坏	-/（6.2）/（1.8）	良	5YR5/6明赤褐	赤色粒子	底部回転糸切痕のちヘラケズリ　内面暗文	平安時代前期	
第96図	820	遺構外一括	土師器	坏	-/(6.0)/(1.3)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面見込みミガキ、底部回転糸切り	平安時代前期	
第96図	821	遺構外一括	土師器	坏	(14.0)/-/(4.25)	良好	5YR6/6 橙色	金雲母・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面上部ヨコナデ、下部ナデ、外面ケズリ	古墳時代中期～	
第96図	822	遺構外一括	土師器	高坏か	(12.7)/-/(3.7)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子	内面ヨコナデ、外面口縁部ナデ、胴部回転ヘラケズリ	古墳時代中期	
第96図	823	2面包含層	土師器	皿	(16.2)/(8.0)/3.1	良	5YR6/6橙	赤色粒子・黒色粒子	内外面ロクロナデ　内面にキズあり　輪積み痕	平安時代前期	
第96図	824	南西側拡張範囲	土師器	皿	(18.2)/-/(1.6)	良	7.5YR6/4にぶい橙	赤色粒子		平安時代前期	
第96図	825	南西側拡張範囲	土師器	皿	-/(9.2)/(1.0)	良	7.5YR6/6橙	赤色粒子	底部回転糸切痕あり　内面暗文	平安時代前期	
第96図	826	遺構外一括	灰釉陶器	埦	-/-/(3.2)	良好	5Y8/1 灰白色		外面回転ヘラケズリ	平安時代	
第96図	827	D6グリッド	土師器	高坏か	(15.6)/-/(2.9)	良好	5YR5/4 にぶい赤褐色	白色粒子・赤色粒子	内面ナデ後ミガキ、外面ナデ	古墳時代	
第96図	828	C5グリッド	土師器	高坏	(21.0)/-/(5.1)	良好	7.5YR5/4 にぶい褐色	白色粒子・雲母	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第96図	829	C5グリッド	土師器	高坏	(17.8)/-/(4.2)	良好	5YR5/6 明赤褐色	白色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第96図	830	遺構外一括	土師器	高坏	-/-/(8.5)	良好	10YR6/3 にぶい黄橙色	白色粒子	内面ヘラ調整、外面タテミガキ後ヨコミガキ	古墳時代中期前半	
第96図	831	遺構外一括	土師器	高坏	-/(14.6)/(8.1)	良好	10YR7/4 にぶい黄橙色	黒色粒子	内面ヘラケズリ、ナデ、外面ミガキ	古墳時代中期前半	
第96図	832	排土内	土師器	壺	(16.0)/-/(3.4)	良好	5YR6/6 橙色	石英・赤色粒子・黒色粒子	内面外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第96図	833	排土内	土師器	壺	(16.0)/-/(4.0)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子・黒色粒子	外面ミガキ	古墳時代前～中期	
第96図	834	C5グリッド	土師器	壺	(17.6)/-/(5.2)	良好	5YR6/6 橙色	白色粒子・黒色粒子・金雲母	内面ハケ、頸部ヨコナデ、外面ヨコナデ	古墳時代前～中期	
第96図	835	遺構外一括	須恵器	甕	-/-/(4.5)	良好	7.5Y4/1 灰色	白色粒子・黒色粒子	釉薬あり	古墳時代～平安時代	
第96図	836	遺構外一括	須恵器	把手付埦	-/-/(3.9)	良好	N3/ 暗灰色	白色粒子		古墳時代中期	把手部
第96図	837	遺構外一括	土師器	鉢か	-/-/(5.0)	良好	7.5YR7/6 橙色	白色粒子・赤色粒子	内面ヨコナデ、外面頸部上ヨコナデ、中ハケ、下ケズリ	古墳時代中期前半	
第96図	838	2面包含層	土師器	甕	-/(6.4)/(2.2)	良	(内)10YR5/3(にぶい黄褐色) (外)5YR5/4(にぶい赤褐色)	金雲母・白色粒子・黒色粒子		古墳時代中期前半	
第96図	839	2号竪穴建物跡覆土	縄文土器	深鉢	-/-/(2.8)	良好	5YR6/6 橙色	赤色粒子・白色粒子	内面ナデ、外面ヨコハケ	縄文時代中期	摩耗
第96図	840	C・D7グリッド	土師器	小型壺か	-/-/(2.8)	良	5YR4/2(灰褐色)	金雲母・赤色粒子・黒色粒子	外面タテハケ後ヨコミガキ、斜格子状の線刻、内面ヨコハケ	古墳時代	

第３節　中世の遺構と遺物

第１面で確認された遺構と遺物について報告する（第97図）。

⑴　溝状遺構（第98 ～ 100図、遺物：第102図）

調査区内からは14条の溝状遺構が出土している。調査区の中心から西側・南側に展開する１・２・６・13号溝状遺構は、それぞれ主軸が並行しており、有意な関係性をもつものと想定できる。このうち２号溝と並行する１号溝は２か所でクランクする。南北方向へはいずれも消失してしまうが、14号溝は消失した１号溝の復活箇所かもしれない。なお、１号溝の東西方向は10.0mとなる。１号溝と２号溝の間は約3.4m、２号溝と６号溝の間は約4.0mであり、６号溝と13号溝間は約2.4m、13号溝と14号溝の間は約2.8mとなる。溝と溝の間は硬化面とはなっていなかったが、例えば１号溝（＋14号溝）と６号溝を両脇の溝と想定すると、南北方向に対して幅5.2m、東西方向に対して幅7.4mの道状の区画を復元することができる。

７号溝～ 11号溝、13号溝も６号溝の南北方向の主軸とほぼ並行する。７号溝、９号溝は南側調査区外まで及んでいた。また、８号溝の西側を中心に、小規模の円形プランが多数検出された。人畜の足跡あるいはなんらかの作業痕の可能性がある。

調査区東側で検出された３・４・５号溝のうち、４・５号溝は調査区の北から南まで伸びるもので、断面も箱型を呈しやや深い。ただし溝の主軸は同じ方向ではなく、南側に向かって両者は少しずつ開いていく。５号溝は途中で二又に分岐しているが、西側のものは５mほどで消失する。

遺構内の出土遺物は少ない。４号溝からは青磁の碗の破片（841）が出土している。貿易陶磁で龍泉窯産とみられる。５号溝からはかわらけ（842、843）、火鉢あるいは鍋の破片（844）の出土がある。

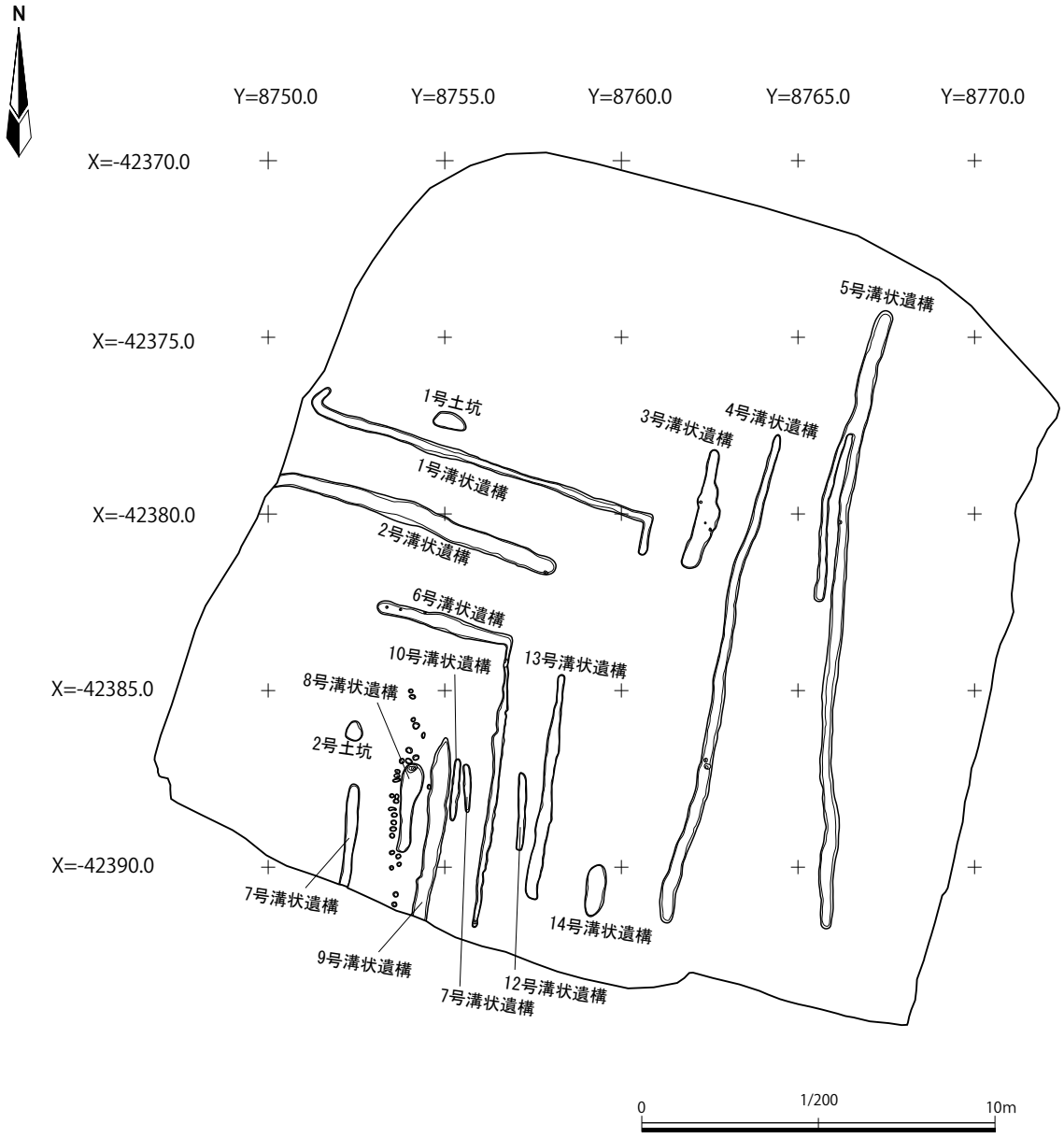
⑵　土坑（第98・100図）

１号土坑（90㎝×42㎝の楕円形）、２号土坑（80㎝×65㎝の円形）が検出されている。いずれもごく浅く、自然の落ち込みの可能性もある。

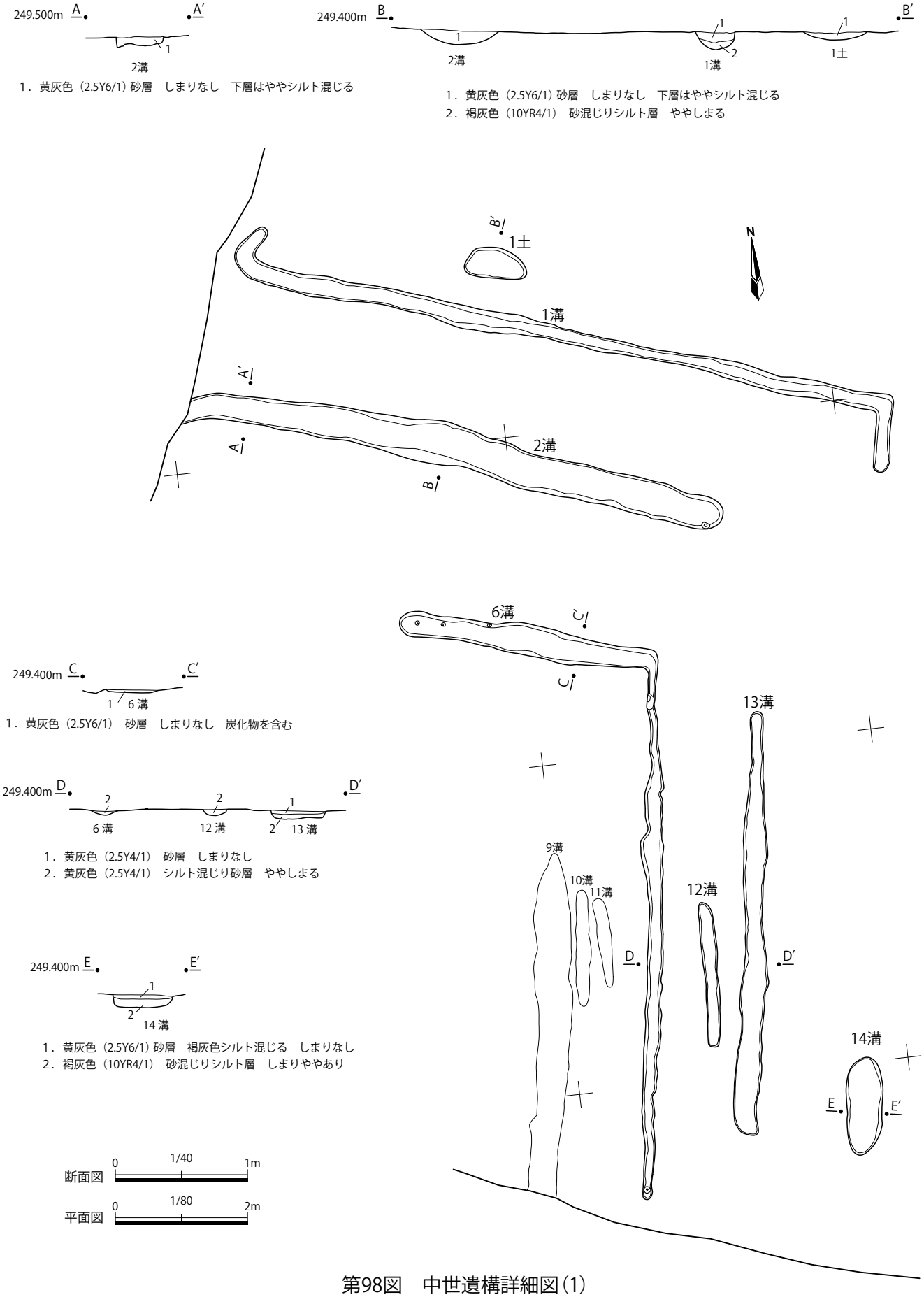
⑶ 遺構外出土土器（第101図、遺物：102図）

845 ～ 851はかわらけである。口径から底径まで復元できるものに845と846があり、いずれも口径９㎝程度の小型品である。845は口縁部及び内面底にタールの付着があり、口縁に敲打痕状の欠損部がある。灯明皿として使用されたと考えられる。851は底径が５㎝ほどのさらに小型のものである。852は陶器碗、853は陶器皿。854は陶器の碗あるいは鉢か。855は片口を有する陶器の鉢。856､857は鍋か。858 ～ 860はすり鉢の破片で、859、860は擦り目をもつ。861は常滑産の甕の底部。862は古墳時代の甕の口縁である。これら土器群は862を除きいずれも15世紀頃の年代観を与えられる。

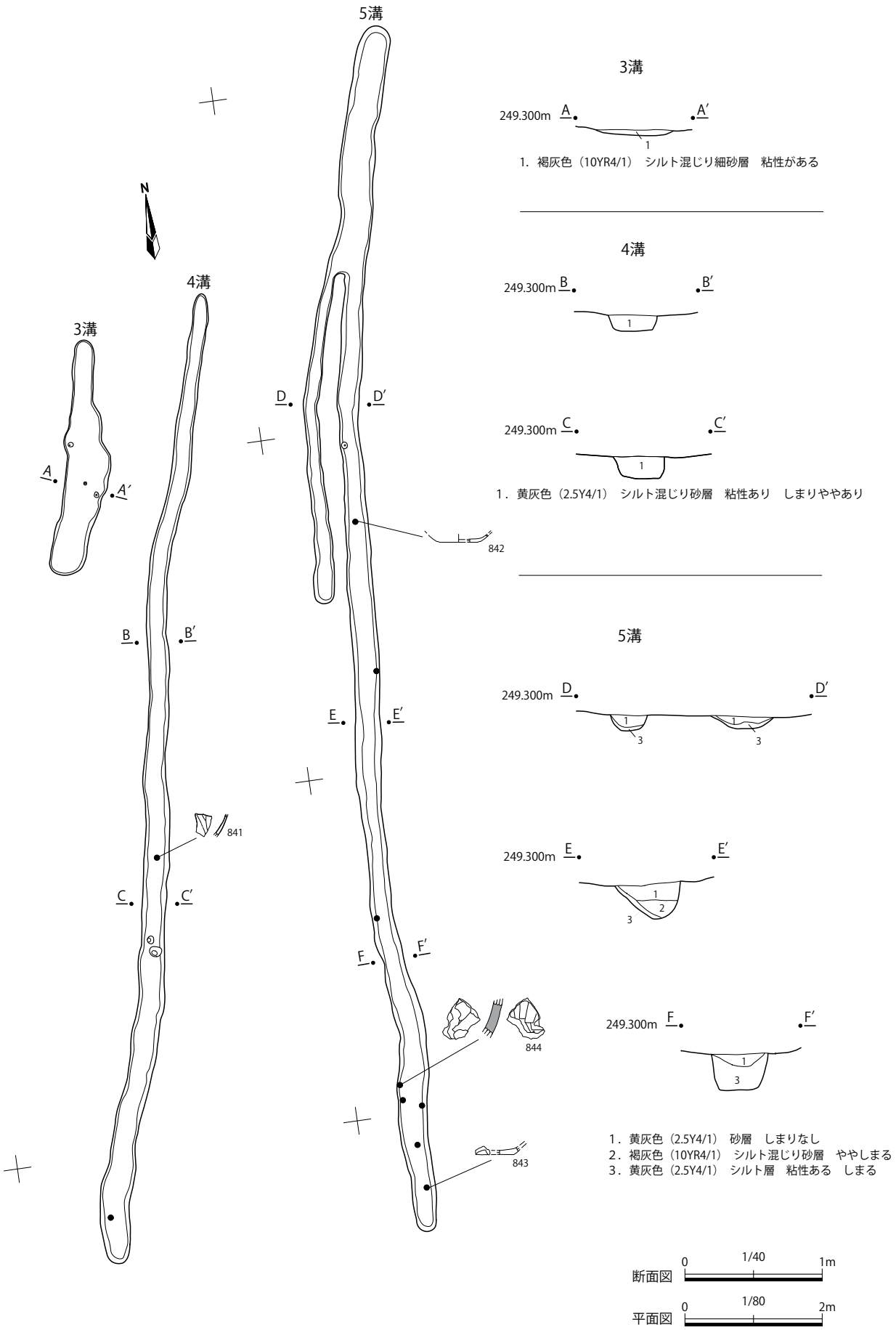
このほか、863は渡来銭「皇宋通寶」（初鋳1039年）で、表土掘削時に地表下３～ 3.5mから出土している。木製品の出土もある。864は漆椀の一部で、内面に赤漆で模様がつけられる。865は端部が炭化した棒で、いわゆる「燃えさし」。



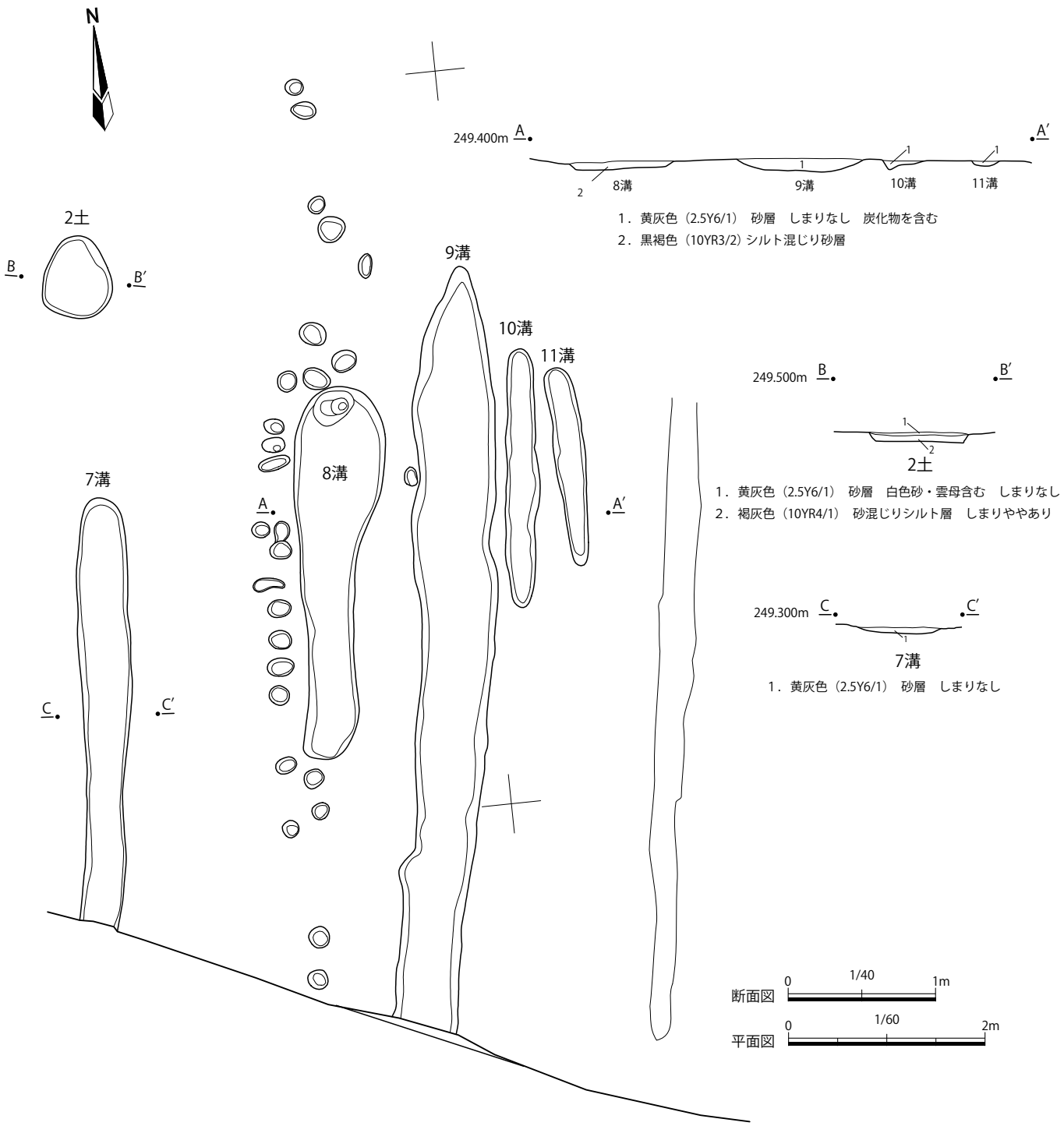
第 97 図　中世遺構分布図



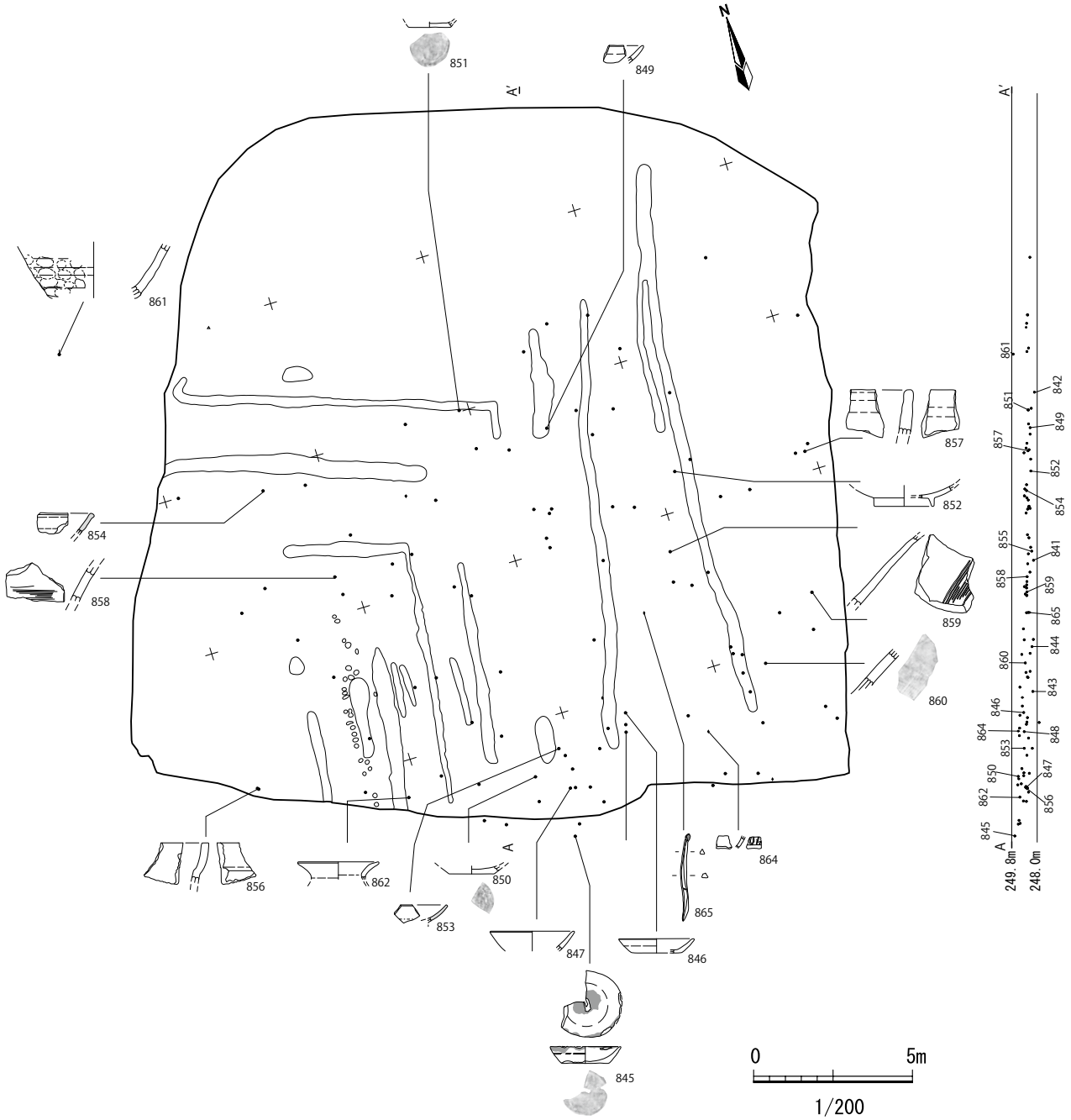
第98図　中世遺構詳細図（1）



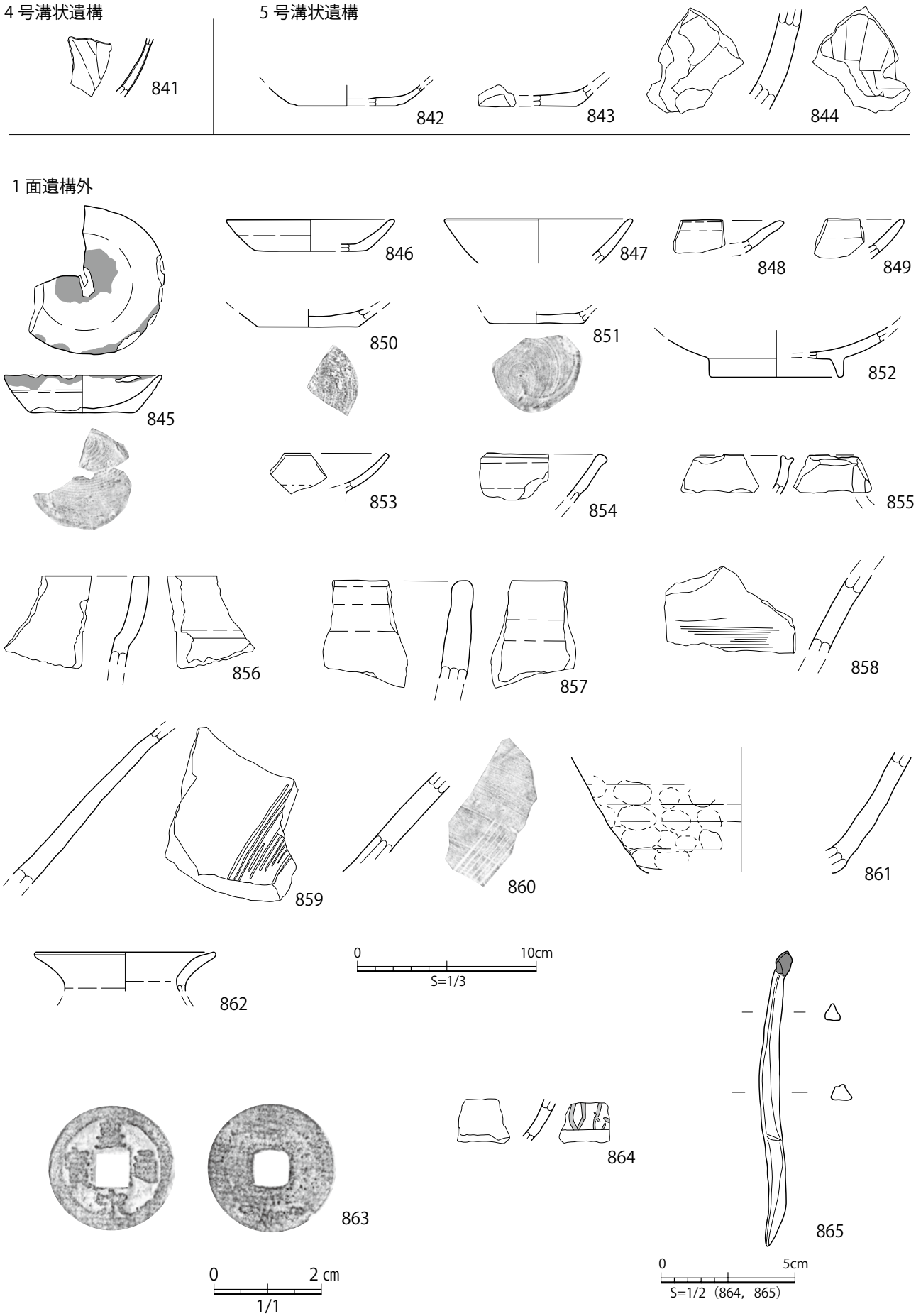
第99図 中世遺構詳細図(2)



第100図　中世遺構詳細図(3)



第 101 図　中世　遺構外遺物分布図



第 102 図　中世遺構面出土遺物

第６表　中世　土器観察表

図版番号	遺物番号	出土地点	種別	器　種	口径・底径（脚径・台径）・器高	焼　　成	色　　調	胎　　土	調　　整	時期	備考
第102図	841	４号溝状遺構	青磁	碗	-/-/(3.6)	良好	5GY6/1 オリーブ灰色	密	外面鎬連弁文	中世	龍泉窯産か
第102図	842	５号溝状遺構	土師質土器	かわらけ	-/-/(1.2)	良好	内外面7.5YR6/3にぶい褐色	密　赤色粒子、白色砂粒	底部回転糸切痕	中世	
第102図	843	５号溝状遺構	土師質土器	かわらけ	-/-/(1.2)	良好	内外7.5YR6/4にぶい橙色	密・赤・白・黒色砂粒、雲母、石英	底部回転糸切痕	中世	
第102図	844	５号溝状遺構	瓦質土器	鉢 or 鍋	-/-/(5.2)	良好	5Y4/1(灰色)	白色粒子		中世	
第102図	845	１面遺構外	土師質土器	かわらけ（灯明皿）	(8.7)(5.8)(2.1)	良好	内外面7.5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子・白色粒子・雲母	底部回転糸切痕	中世	スス・タールの付着
第102図	846	１面遺構外	土師質土器	かわらけ	(9.2)/(6.2)/(1.8)	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	赤色粒子・黒色粒子	底部回転糸切リ	中世	
第102図	847	１面遺構外	土師質土器	かわらけ	(10.3)/-/(2.5)	良好	10YR7/4 にぶい黄橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子		中世	
第102図	848	１面遺構外	土師質土器	かわらけ	-/(1.8)-/	良好	内外面5YR6/4にぶい橙色	赤色粒子・白・黒・赤色砂粒雲母	内外面ロクロナデ	中世	
第102図	849	１面遺構外	土師質土器	かわらけ	-/-/(2.2)	良好	内外7.5YR7/3にぶい橙色	赤色粒子、白・黒・赤色砂粒	内外面ロクロナデ	中世	
第102図	850	１面遺構外	土師質土器	かわらけ	-/(5.6)/(1.0)	良好	7.5YR7/3 にぶい橙色	白色粒子・赤色粒子	底部糸切り後ヘラ調整	中世	
第102図	851	１面遺構外	土師質土器	かわらけ	-/(5.2)(0.7)	良好	内外面2.5Y3/1黒褐色	白色砂粒・雲母	底部回転糸切痕	中世	
第102図	852	１面遺構外	灰釉陶器	碗	-/(7.4)/(2.6)	良好	2.5Y7/1 灰白色	黒色粒子		平安？	摩耗する
第102図	853	１面遺構外	陶器	皿	-/-/(2.25)	良好	10Y8/1 灰白色	白色胎土	透明釉がかかる	中世	
第102図	854	１面遺構外	陶器	碗か鉢	-/-/(2.5)	良好	5Y6/4 オリーブ黄色			中世	
第102図	855	１面遺構外	陶器	鉢	-/-/(2.1)	良好	7.5YR8/2灰白色	緻密　白色砂粒		中世	
第102図	856	１面遺構外	瓦質土器	鍋	-/-/(5.2)	良好	N4/ 灰色	黒雲母・白色粒子・黒色粒子		中世	
第102図	857	１面遺構外	土師質土器	鍋	-/-/(6.0)	良好	内外面7.5YR5/3にぶい褐色	白・黒・赤色砂粒雲母	内外面施釉	中世	外面全体にスス付着
第102図	858	１面遺構外	土師質土器	すり鉢か	-/-/(4.5)	良好	外7.5YR2/6灰褐色内7.5YR5/1褐灰	赤・白砂粒・雲母	外面横位ヘラナデ、内面ヨコナデ	中世	
第102図	859	１面遺構外	瓦質土器	すり鉢	-/-/(8.7)	良好	5PB6/1 青灰色	黒色粒子	内面ハケ	中世	
第102図	860	１面遺構外	土師質土器	すり鉢	-/-/(7.0)	良好	内外7.5YR7/4にぶい橙色	赤色粒子、白・黒色砂粒雲母	内面ロクロナデ	中世	
第102図	861	１面遺構外	陶器	甕	-/-/(6.8)	良好	外7.5YR6/3にぶい褐色 内2.5YR4/3灰赤色	密・赤色粒子、白色砂粒	外面ヨコナデ、内面横位ヘラナデ	中世	
第102図	862	１面遺構外	土師器	甕	(10.0)/-/(2.15)	良好	7.5YR7/6 橙色	石英・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	内面口縁部ヨコナデ、頸部ハケ、外面ヨコナデ	古墳	

第７表　中世　古銭観察表

図版番号	図内番号	取上番号	出土地点	器種	器種補足	時期	外径（mm）	孔径（mm）	厚さ（mm）	重量（g）
第102図	863	一括	地表下3 ～ 3.5m	銭貨	皇宋通寶	中世	24.2	6.5	1.1	2.64

第８表　中世　木製品観察表

図版番号	図内番号	取上番号	出土地点	器　　種	残存状態	時期	長さ（mm）	幅（mm）	厚さ（mm）	備　　考
第102図	864	w3	1面包含層	漆椀	胴部破片	中世	(21)	(20)	4	黒漆を下地に内面に赤漆で文様を描く
第102図	865	w5	1面包含層	灯火具（燃えさし）	完形	中世	110	8	6	先端が炭化。断面三角形。

第５章　自然科学分析

第１節　土壌分析等

パリノ・サーヴェイ株式会社

１．遺跡周辺の古環境について

はじめに

北畑南遺跡は、笛吹市石和町東油川地内に所在する。今回、土壌中に含まれる微細な炭化物・動植物遺体と考古資料等を得るために土壌微細物分析、樹種同定および種実遺体同定を、土器に付着した炭化物から食物利用を推定するために炭素・窒素同位体比分析を、遺跡周辺の古環境を復元するために珪藻分析および花粉分析をそれぞれ実施する。

①試料

分析の対象とした試料一覧を第９表に示す。

②分析方法

⑴ 微細物分析・種実遺体同定

土壌微細物分析試料は、常温乾燥後、水を満たした容器内に投入し、容器を傾けて浮いた炭化物を粒径0.5mmの篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す（約20回）。残土を0.5mm 篩で水洗する。水洗後、水に浮いた試料（炭化物主体）と水に沈んだ試料（砂礫主体）を、4mm 篩、2mm 篩、1mm 篩に通して常温乾燥させる。

水洗乾燥後の2mm 篩試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、同定が可能な種実遺体の他、炭化材、土器片などの遺物をピンセットで抽出する。抽出量が全く無い試料は1mm 篩試料の追加調査を実施する。

種実遺体の同定は、現生標本や中山ほか（2010）、鈴木ほか（2018）等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数分類群間は、ハイフォンで結んで表示する。また、各分類群の写真を添付して同定根拠とし、状態良好な炭化米の長さ、幅、厚さをデジタルノギスで計測した結果を一覧表で示す。土器片は個数と重量と最大径、炭化材は重量と最大径、炭化材主体、岩片・土粒主体、植物片は重量を一覧表に併記する。

分析後は、種実遺体を分類群別に容器に入れて保管する。その他の抽出物等は容器に入れて保管する。

⑵ 安定同位体分析

土器付着炭化物に付着したコート剤を除去する。適量をスズカプセルにいれて、機器にセットする。スズカプセルは自動的に加熱された燃焼管に投入され、試料は燃焼によってガス化される。キャリアガス（He）とともに還元管を通ることによって、最終的に試料中の炭素は二酸化炭素（CO_2）に、窒素は窒素ガス（N_2）にそれぞれ変化する。これをカラムに通すことで両者を分離し、検出器に導入することで元素含有率（全炭素、全窒素）を求める。その後質量分析計に導入される。質量分析計では、試料をイオン化して加速させ、強い磁力の中を通して進路を曲げることで、わずかに重さの違う同位体を分離する。ここで、窒素安定同位体比（$^{15}N/^{14}N$）、炭素安定同位体比（$^{13}C/^{12}C$）を測定する。

第９表　分析試料一覧

試料番号	採取遺構	微細物分析	種実同定	樹種同定	珪藻・花粉分析	安定同位体分析
1	甕503	○				
2	甕504	○				
3	壺453	○				
4	壺454	○				
5	壺472	○				
6	甕476	○				
7	甕474	○				
8	壺469	○				
9	壺120	○				
11	壺267	○				
12	壺678	○				
13	壺672	○				
14	壺671	○				
15	壺593	○				
16	鉢477	○				
17	壺481	○				
18	壺482	○				
19	壺483	○				
23	4号竪穴建物跡　C-13			○		
25	9号竪穴建物跡カマド跡			○		
28	第11図 A － A′　1層				○	
29	第11図 A － A′　2層				○	
30	第11図 A － A′　5層				○	
31	第11図 A － A′　9層				○	
32	第11図 A － A′　10層				○	
33	第11図 A － A′　13層				○	
34	4号竪穴建物跡　覆土			○		
36	5号竪穴建物跡　炉跡焼土	○		○		
37	5号竪穴建物跡　覆土			○		
40	6号竪穴建物跡　覆土①			○		
42	6号竪穴建物跡　覆土②	○				
43	祭祀遺構ユニット３①			○		
44	6号竪穴建物跡　25層			○		
45	祭祀遺構ユニット３②			○		
46	6号竪穴建物跡床面下　1層				○	
47	6号竪穴建物跡床面下　2層				○	
48	6号竪穴建物跡床面下　3層				○	
49	6号竪穴建物跡床面下　4層				○	
51	8号竪穴建物跡　C-18			○		
67	8号竪穴建物跡　C-25			○		
70	8号竪穴建物跡　焼土	○				
72	1面9号溝　南壁　1層				○	
73	1面9号溝　南壁　4層				○	
74	1面9号溝　南壁　2層				○	
75	1面9号溝　南壁　5層				○	
1A	甕189			○		
1B	壺89			○		
1C	壺397			○		
1D	高坏371			○		
1E	甕505			○		
1F	壺454			○		
1G	壺468			○		
1H	祭祀遺構ユニット1覆土 -1			○		
1I	壺472			○		
1J	祭祀遺構ユニット1覆土 -2			○		
1K	祭祀遺構ユニット1覆土 -3			○		
1L	祭祀遺構ユニット1覆土 -4		○	○		
1M	祭祀遺構ユニット1覆土 -5			○		
1N	甕41					○
1O	土器659					○
計		21	1	24	14	2

⑶ 樹種同定

剃刀を用いて木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３割断面を作成し、走査型電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識

別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler 他（1998）、Richter 他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

⑷ 珪藻分析

湿重約５ｇをビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を４～５回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸600倍または1000倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が200個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200個体が産出した後は、示準種等の重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot et al.（2000）、Hustedt（1930-1966）、Krammer and Lange-Bertalot（1985 ～ 1991）、Desikachary（1987）などを参考にする。群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の３適応性についても生態分類し表に示した。

堆積環境の変遷を考察するために珪藻化石が100個体以上産出した試料について珪藻化石群集変遷図（第103図）を作成した。出現率は化石総数を基数とした百分率で表し、基本的に１％以上（産出種数により変更）の産出率を示す分類群についてのみ表示した（図中の●印は、総数が100個体以上産出した試料うち１％未満の種を示し、＋印は総数100個体未満の場合の産出を示す）。表示する分類群は、分析試料全体で産出率の合計が１％以上の分類群である。また、図中には、海水生・汽水生・淡水生種の相対頻度と淡水生種を基数とした塩分・pH・流水の相対頻度について図示した。

塩分に対する適応性とは、淡水中の塩類濃度の違いにより区分したもので、ある程度の塩分が含まれた方がよく生育する種類は好塩性種とし、少量の塩分が含まれていても生育できるものを不定性種、塩分が存在する水中では生育できないものを嫌塩性種として区分している。これは、主に水域の化学的な特性を知る手がかりとなるが、単に塩類濃度が高いか低いかといったことが分かるだけでなく、塩類濃度が高い水域というのは概して閉鎖水域である場合が多いことから、景観を推定する上でも重要な要素である。

pH に対する適応性とは、アルカリ性の水域に特徴的に認められる種群を好アルカリ性種、逆に酸性水域に生育する種群を好酸性種、中性の水域に生育する種を不定性種としている。これも、単に水の酸性・アルカリ性のいずれかがわかるだけでなく、酸性の場合は湿地であることが多いなど、間接的には水域の状況を考察する上で必要不可欠である。

流水に対する適応性とは、流れのある水域の基物（岩石・大型の藻類・水生植物など）に付着生育する種群であり、特に常時、流れのあるような水域でなければ生育出来ない種群を好流水性種、逆に流れのない水域に生育する種群を好止水性種として区分している。流水不定は、どちらにでも生育できる可能性もあるが、それらの大半は止水域に多い種群である。なお、好流水性種と流水不定性種の多くは付着性種であるが、好止水性種には水塊中を浮遊生活する浮遊性種も存在する。浮遊性種は、池沼あるいは湖沼の環境を指標する。

なお、淡水生種の中には、水中から出て陸域の乾いた環境下でも生育する種群が存在し、これらを陸生珪藻と呼んで、水中で生育する種群と区分している。陸生珪藻は、陸域の乾いた環境を指標することから、古環境を推定する上で極めて重要な種群である。

⑸ 花粉分析

試料約10g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛, 比重2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９：濃硫酸１の混合液）処理による植物遺体中のセルロー

スの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定･計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980）、三好ほか（2011）等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。

③結果

⑴ 微細物分析・種実遺体同定

結果を第10表に示す。また、種実遺体各分類群の写真を第105図に示して同定根拠とする。

第 10 表　土壌微細物分析・種実同定結果

			通番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	28	31	41	57	
			試料 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	11	12	13	14	15	16	17	18	19	36	42	70	1L	
分類群・部位・状態・粒径			採取遺構	褒503	褒504	壺453	壺454	壺472	褒476	褒474	壺469	壺120	壺267	壺678	壺672	壺671	壺593	鉢477	壺481	壺482	壺483	5竪炉	6竪覆土	8竪焼土	祭祀遺構	備考
木本種実																										
カジノキ	核	完形		−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	（個）
フサザクラ	種子	完形		−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	（個）
草本種実																										（個）
イネ	籾（内外穎）	破片	灰化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	5	−	−	−	（個）
	籾	破片	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	21	−	−	−	（個）
	籾（基部）	破片	炭化	−	−	2	−	−	−	15	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	20	>100	−	−	−	（個）
	籾（頂部）	破片	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	-	−	−	−	（個）
	籾・穎果	完形	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	3	−	−	−	（個）,0.02g
	穎果（玄米）	完形	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	57	−	−	−	（個）,0.37g
		完形未満	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	33	−	−	−	（個）,0.05g
		破片(>1mm)	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	410	−	−	−	（個）,0.37g
		破片	炭化	−	−	4	−	1	4	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	（個）
	穎果（細身小型）	完形	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	18	−	−	−	（個）,0.02g
		完形未満	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	18	−	−	−	（個）,0.01g
イネ？	穎果	破片	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	2	−	−	（個）
イネ科	果実	破片	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	（個）
タデ属（イシミカワ？）	果実	破片		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	4	（個）
アカザ属	種子	完形		−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	（個）
アカザ属	種子	破片	炭化	3	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	（個）
シソ属 - イヌコウジュ属	果実	破片		−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	（個）
オナモミ属	総苞	破片	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	（個）
炭化物（イネ）主体	1-0.5mm	破片	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.73	−	−	−	乾重（g）
不明種実		破片		−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	（個）
不明堅果類		破片	炭化	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	2	−	−	（個）
不明炭化物		破片	炭化	−	−	−	−	−	−	−	2	5	−	−	1	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	（個）
種実合計（不明を除く）				3	1	6	0	3	4	15	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	24	665	3	0	5	（個）
植物片				−	−	−	−	−	−	−	0.01	0.03	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	乾重（g）
炭化材				7.45	5.66	12.31	5.39	8.94	−	8.85	3.85	4.75	−	−	−	−	−	−	7.49	6.01	−	6.56	6.10	4.25	5.31	最大径(mm)
	>4mm			0.01	−	−	−	0.10	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.11	−	−	−	−	−	−	乾重（g）
	4-2mm			−	0.03	0.22	0.02	0.14	−	0.04	0.01	0.01	−	−	−	−	−	−	0.13	0.01	−	0.01	0.03	0.004	0.01	乾重（g）
炭化材主体	2-1mm			0.004	0.02	0.09	0.02	0.17	0.02	0.05	0.01	−	−	−	−	−	−	−	0.20	0.02	0.03	0.02	0.02	0.04	−	乾重（g）
	1-0.5mm			0.003	0.07	0.01	0.01	0.10	0.01	0.07	0.004	<0.001	−	−	<0.001	−	<0.001	0.07	0.23	0.02	0.04	−	0.02	0.10	−	乾重（g）
岩片・土粒主体	>4mm			−	−	−	−	−	−	−	−	−	0.71	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	乾重（g）
	4-2mm			−	0.21	0.15	−	0.47	−	−	1.02	−	0.16	−	−	−	−	−	−	−	−	0.17	0.58	−	−	乾重（g）
	2-1mm			0.07	0.04	0.08	−	0.19	−	0.13	0.40	−	0.05	−	0.02	−	−	−	−	−	−	0.24	0.17	−	−	乾重（g）
	1-0.5mm			0.09	0.06	0.14	0.09	0.07	−	0.09	0.44	0.28	0.02	0.02	0.02	0.03	0.01	−	−	0.02	−	0.32	0.04	0.06	−	乾重（g）
土器片				2	−	6	1	3	−	2	10	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	（個）
				0.29	−	2.66	1.56	7.06	−	0.21	1.39	−	−	−	0.42	−	−	−	−	−	−	−	0.84	−	−	乾重（g）
				11.17	−	22.15	22.56	31.16	−	14.14	12.32	−	−	−	14.55	−	−	−	−	−	−	−	16.17	−	−	最大径(mm)
分析量				1000	1000	1000	1000	1000	1000	850	700	500	200	70	50	50	25	80	70	80	70	500	1000	200	−	湿重（g）
分析に使用した篩の粒径				0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	−	*(mm)*

１）土壌微細物分析

試料21点（計10.45kg）を洗い出した結果、２mm 篩では、５竪炉（試料 No.36）を除く20点で種実遺体等が全く検出されなかった。次に１mm 篩での追加調査を実施したが、同様の結果であった。そこで、仕様書とは異なるものの、全21点を対象として、0.5mm 篩での追加調査まで実施し、５竪炉のみイネ籾（基部）を上限100個、イネ穎果（炭化米）破片を１mm 篩までの抽出としている。

土壌微細物分析の結果、種実遺体は、栽培植物のイネ籾（内外穎）166個、籾・穎果３個、穎果（玄米）509個、イネ？穎果４個、草本のイネ科果実１個、アカザ属種子５個、シソ属 - イヌコウジュ属果実１個、オナモミ属総苞１個、木本のカジノキ核１個、フサザクラ種子１個の、計728個が同定され、圧倒的なイネ主体の組成を示す。12個は同定ができず、うち２個は不明種実、２個は不明堅果類、８個は不明炭化物としている。その他、炭化

物（イネ）主体微細片0.73g、植物片0.04g、炭化材0.64g、炭化材主体1.46g、岩片・土粒主体6.64g、土器片28個14.4g が検出された。なお、骨片や貝類などの動物遺体は検出されなかった。炭化材は壺472と壺481が最多で0.24g を量る。次いで壺453が0.22g、最大1.2cm を測る。土器片は、甕503が２個、壺453が６個、壺454が１個、壺472が３個、甕474が２個、壺469が10個、壺672が３個、６竪が１個検出され、壺472で最大3.1cm を測る。

種実遺体（不明を除く）の出土個数は、甕503（試料1kg）が３個（アカザ属）、甕504（試料１kg）が１個（アカザ属）、壺453（試料１kg）が６個（イネ籾・米）、壺472（試料１kg）が３個（カジノキ、イネ、アカザ属）、甕476（試料１kg）が4個（イネ）、甕474（試料850g）が15個（イネ籾）、壺469（試料700g）が２個（イネ籾、シソ属 - イヌコウジュ属）、壺120（試料500g）が２個（フサザクラ、オナモミ属）、壺483（試料70g）が24個（イネ籾、米？）、５竪炉（試料500g）が665個（イネ籾・米）、６竪（試料１kg）が３個（イネ米？、イネ科）であり、５竪炉が極めて多い。一方、壺454（試料１kg）、壺267（試料200g）、壺678（試料70g）、壺672（試料50g）、壺671（試料50g）、壺593（試料25g）、鉢477（試料80g）、壺481（試料70g）、壺482（試料80g）、８竪焼土（試料200g）の、10点からは検出されなかった。

種実遺体の保存状態は概ね不良であり、イネ、イネ科、アカザ属の一部、オナモミ属は炭化、イネ籾の一部は灰化している。イネ（炭化米）は一部表面に籾片の残存も確認された。一方、壺472のアカザ属、カジノキ、壺469のシソ属 - イヌコウジュ属、壺120のフサザクラは炭化していない。

最も多く検出された５竪炉は、イネ籾26個、籾（基部）100個（上限）、完形籾・穎果3個0.02g、穎果の完形57個0.37g、完形未満33個0.05g、１mm 以上の破片410個0.37g、１～0.5mm の炭化物（イネ）主体0.73g、穎果（細身小型）の完形18個0.02g、完形未満18個0.01g から成り、全て炭化（籾５個は灰化）している。

２）種実遺体同定

遺物集中⑤は、炭化した栽培植物のイネ穎果（玄米）の破片１個と、草本のタデ属（イシミカワ？）果実の破片４個の、計５個に同定された。タデ属（イシミカワ？）は、合計約１個体分である。

３）イネの形態的特徴

以下、本分析で最も多く検出されたイネの形態的特徴を記す。

・イネ（*Oryza sativa* L.）　イネ科イネ属

籾（内外穎）・穎果（玄米）は炭化しており黒色、一部の籾は灰化しており灰白色。籾は長さ６～7.5mm、幅３～４mm、厚さ２～３mm 程度の偏平な長楕円体。基部に大きさ１mm 程度の斜切状円柱形の果実序柄（小穂軸）と１対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は５脈、内穎は３脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲籾を構成する。頂部は尖り、先端部に針状の芒がみられる。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が縦列する。出土籾166個

第 11 表　５竪炉出土炭化米の計測値

番号	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考
1	4.53	2.74	1.83	籾片残存
2	4.42	2.87	2.18	籾片残存
3	4.19	2.66	2.07	籾片残存
4	4.46	2.84	1.40	
5	4.00	2.65	1.64	
6	4.32	2.86	1.83	
7	4.55	2.83	1.89	
8	4.51	3.19	2.38	
9	4.84	3.54	2.40	
10	3.67	2.59	2.01	
11	4.29	2.59	2.10	
12	4.14	2.80	1.87	
13	4.91	2.82	1.95	
14	4.17	3.10	1.73	
15	4.43	3.28	1.97	
16	4.12	2.81	1.94	
17	4.26	3.02	1.71	
18	4.26	2.89	1.80	
19	4.44	2.15	1.88	
20	4.64	2.25	1.76	
21	4.16	2.17	1.32	
22	4.42	2.31	1.67	
23	4.55	3.06	1.92	
24	4.18	2.86	1.74	
25	4.14	2.86	1.71	
26	3.69	2.24	1.66	
27	3.57	2.38	1.74	
28	3.94	2.33	1.49	
29	4.47	2.32	1.81	
30	4.16	2.91	1.68	
31	3.80	2.43	1.58	
32	4.53	2.29	2.22	
33	4.48	2.60	2.13	
34	4.35	2.52	2.28	
35	3.71	1.93	1.41	
36	3.93	2.27	1.70	
37	3.20	2.01	1.39	
38	3.94	2.13	1.76	
39	3.97	2.20	1.49	
40	4.93	3.30	2.35	
41	4.50	2.43	2.37	
42	4.55	2.75	2.47	
43	3.96	2.49	2.17	
44	3.71	2.21	1.23	
45	4.02	2.31	1.93	
46	3.97	2.93	2.24	
47	3.58	2.48	1.59	
48	4.03	1.92	1.71	
49	3.77	2.01	1.61	
50	3.57	2.20	1.84	
51	3.18	1.51	0.57	細身小型
52	3.94	1.81	1.13	細身小型
53	3.86	1.72	0.91	細身小型
54	3.82	1.78	1.09	細身小型
55	3.58	1.61	1.03	細身小型
56	3.44	1.76	0.99	細身小型
57	2.92	1.52	0.87	細身小型
58	4.09	1.33	0.97	細身小型
59	3.29	1.41	0.97	細身小型
60	2.98	1.01	0.93	細身小型
最小	2.92	1.01	0.57	
最大	4.93	3.54	2.47	
平均	4.07	2.41	1.70	
標準偏差	0.45	0.53	0.44	
標本数	60	60	60	

注）計測はデジタルノギスを使用した。

中138個が基部の小穂軸、２個が頂部である。

穎果（炭化米）はやや偏平な長楕円体、基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で内外穎の縫合部痕の縦隆条がある。表面の発泡等保存状態が不良な破片は、縦隆条が確認される点を同定根拠とし、根拠が不十分な破片には疑問符を付している。なお､炭化米の部位が果皮の一部や種皮が残る「玄米」であるか、これらを取り除いた「精白米」であるかを厳密に区別することは困難であるため､本分析では可食部を「穎果（玄米)」としている。

保存状態の良好な50個と、しいな（発育不十分）や未熟個体と考えられる細身小型10個の、計60個の炭化米の大きさを計測した結果､長さは､最小2.9 ～最大4.9（平均4.07±標準偏差0.45）mm､幅は1.0 ～ 3.5（平均2.41±0.53）mm、厚さは0.6 ～ 2.5（平均1.70±0.44）mm であった（第11表)。また、計測値をもとに、粒形（長さ / 幅)･粒大（長さ×幅）（佐藤 ,1988）を求めた結果、50個は、円粒で極小型が１個、小型が２個、短粒で極々小型が４個、極小型が26個、小型が12個、中型が１個、長粒で極々小型が１個、極小型が２個と、短粒が大部分を占める一方、細身小型10個は全て極々小型、８個は長粒、２個は短粒であった（第12表)。

第 12 表　5 竪炉出土炭化米の粒大・粒形

	標本数 (n)	円粒					短粒					長粒				
		極々小	極小	小型	中型	大型	極々小	極小	小型	中型	大型	極々小	極小	小型	中型	大型
炭化米	50	0	1	2	1	0	4	26	12	1	0	1	2	0	0	0
炭化米（細身小型）	10	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	8	0	0	0	0
合計	60	0	1	2	1	0	6	26	12	1	0	9	2	0	0	0
		4					45					11				
割合 (%)	100.0%	6.7%					75.0%					18.3%				

注）粒大（長さ×幅)、粒形（長さ / 幅）は、佐藤（1988）の定義に従う。

第 13 表　安定同位体分析結果

No.	δ^{13}C (‰)	δ^{15}N (‰)	Total-N (%)	Total-C (%)	C/N (mol)
1N	-26.56	4.10	2.52	37.34	16.7
1O	-27.30	4.05	0.57	9.19	18.1

⑵　安定同位体分析

結果を第13表に示す。No.1N は δ^{13}C が -26.56‰、 δ^{15}N が 4.10 ‰、Total-N が2.52%、Total-C が37.34%、C/N（mol） が 16.7で ある。No.1O は δ^{13}C が -27.30 ‰、 δ^{15}N が4.05 ‰、Total-N が0.57%、Total-C が9.19%、C/N（mol）が18.1である。

⑶　樹種同定

結果を第14表に示す。同定の結果､針葉樹１種類（スギ)､広葉樹10種類（クマシデ属､コナラ亜属コナラ節､コナラ亜属クヌギ節、ケヤキ属、クワ属、サクラ属、コクサギ属、ウルシ属、トチノキ属、モクレン属）であった。２点（試料 No.23、No.36）は同定できる炭化材は無かった。No.36は炭化米を３粒程度含んでいた。以下に検出された種類の木材解剖学的特徴等を述べる。

・スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、１分野に２ 4 -4個。放射組織は単列、１-15細胞高。

・クマシデ属（*Carpinus sect. Distegocarpus*）　　カバノキ科

散孔材で、管孔は放射方向に２～４（時に10以上）個が複合する。横断面では楕円形、管壁は薄い。単穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型、１～３細胞幅、１～ 40細胞高のものと集合組織よりなる。柔組織は短接線状およびターミナル状。年輪界は明瞭。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus subgen. Quercus sect. Prinus*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１- ３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus subgen. Quercus sect. Cerris*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１～３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、単独で放射方向に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～ 20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は１- ２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、塊状に複合して接線・斜方向に紋様状あるいは帯状に配列し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、１- ６細胞幅、１-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

・クワ属（*Morus*）　クワ科

環孔材で、孔圏部は３～５列、緩やかに移行し、晩材部は単独または２～４個が複合、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔、壁孔は交互状。放射組織は異性、１～６細胞幅、１～50細胞高。

・サクラ属（*Prunus*）　バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または２- ６個が複合、年輪界に向かって管径を漸減させながら散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、１- ３細胞幅、１-30細胞高。

・コクサギ（*Oryxa japonica* Thunberg）　ミカン科コクサギ属

紋様孔材で道管は複合し、Ｘ状、Ｙ状、火炎状などの紋様をつくるように配列、年輪界付近では管径をやや急激に減じる。道管壁は薄く、横断面では多角形となる。道管は、単穿孔を有し、壁孔は交互状～対列状に配列、放射組織との間では荒い網目状となる。放射組織は異性Ⅱ型、単（～２）列、１～20細胞高。柔組織はターミナル状。年輪界は明瞭。

・ウルシ（*Rhus verniciflua* Stockes）　　ウルシ科ウルシ属

環孔材で、孔圏部は３～４列、孔圏外への移行は緩やかで、小道管は年輪界に向かって漸減しながら単独または２～４個が放射方向に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型、１～３細胞幅、１～20細胞高で、時に上下に連結する。

・トチノキ（*Aesculus turbinata* Blume）　　トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は厚く、横断面では角張った楕円形、単独または２～３個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、単列、１～15細胞高で階層状に配列する。

・モクレン属（*Magnolia*）　　モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および２～４個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、１～２細胞幅、１～40細胞高。

第 14 表　樹種同定結果

試料 No.	採取遺構	分　類	分析内容	樹　　種
23	4号竪穴建物跡　C-13	炭化物	樹種同定 (炭化材)	同定不可、ほぼ土
25	9号竪穴建物跡カマド跡	炭化物	樹種同定 (炭化材)	コナラ亜属コナラ節
34	4号竪穴建物跡　覆土	炭化物	樹種同定 (炭化材)	クワ属
36	5号竪穴建物跡　炉跡	焼土、炭化物	微細物分析1、2、樹種同定 (炭化材)	同定不可、炭化米あり
37	5号竪穴建物跡　覆土	炭化物	樹種同定 (炭化材)	モクレン属
40	6号竪穴建物跡　覆土	炭化物	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ
43	祭祀遺構ユニット3①	炭化物	樹種同定 (炭化材)	コクサギ
44	6号竪穴建物跡　25層	炭化物	樹種同定 (炭化材)	クワ属
45	祭祀遺構ユニット3②	炭化物	樹種同定 (炭化材)	クヌギ節
51	8号竪穴建物跡　C-18	炭化物	樹種同定 (炭化材)	スギ
67	8号竪穴建物跡　C-25	炭化物	樹種同定 (炭化材)	クマシデ属
1A	甕189	炭化材	樹種同定 (炭化材)	ウルシ属
1B	壺89	炭化材	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ
1C	壺397	炭化材	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ
1D	高坏371	炭化材	樹種同定 (炭化材)	トチノキ
1E	甕505	炭化材、米？	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ
1F	壺454	炭化材	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ
1G	壺468	炭化材	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ
1H	祭祀遺構ユニット1覆土 -1	炭化材、米？	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ
1I	壺472	炭化材	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ
1J	祭祀遺構ユニット1覆土 -2	炭化材	樹種同定 (炭化材)	サクラ属
1K	祭祀遺構ユニット1覆土 -3	炭化材	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ
1L	祭祀遺構ユニット1覆土 -4	炭化材、種子	樹種同定 (炭化材)、種実同定	ケヤキ
1M	祭祀遺構ユニット1覆土 -5	炭化材	樹種同定 (炭化材)	ケヤキ

⑷ 珪藻分析

結果を第15表、第103図に示す。分析の結果、第11図Ａ－Ａ´各層・６号竪穴建物跡床面下層１～４層および１面９号溝南壁の１層からは、ほとんど珪藻化石が産出しなかった。一方、１面９号溝南壁２層・４層・５層からは、100個体以上産出した。全体的に、保存状態は壊れた殻が多いため、不良である。

以下試料ごとに結果の詳細を記す。

・第11図Ａ－Ａ´各層・６号竪穴建物跡床面下層１～４層

本10試料からは、無化石であるか、産出数が３個体以下と非常に少なかった。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。

・１面９号溝南壁

１層は、無化石であった。

２層からは、108個体産出した。産出した分類群は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生種を低率に伴う種群で構成される。特徴的に産出した種は、淡水生種で流水不定性種の *Encyonema silesiacum*、*Eunotia pectinalis var. minor*、P*innularia viridis*、*Rhopalodia gibba* 等である。

４層からは、188個体産出した。産出した分類群は、淡水生種を主にして、淡水～汽水生種、汽水生種を低率に伴う種群で構成される。特徴的に産出した種は、淡水生種で流水不定性種の *Encyonema silesiacum*、*Eunotia pectinalis var. minor*、*Pinnularia viridis*、*Rhopalodia gibba*、止水性種の *Stauroneis phoenicenteron* 等である。

５層からは、102個体産出した。産出した分類群は、淡水生種のみで構成される。特徴的に産出した種は、淡水生種で流水不定性種の *Encyonema silesiacum*、*Eunotia pectinalis var. minor* 等である。

第 15 表　珪藻分析結果

種　　類	生態性			環境	第11図 A-A'						6竪床面下層				1面9溝南壁			
					1層	2層	5層	9層	10層	13層	1層	2層	3層	4層	1層	4層	2層	5層
	塩分	pH	流水	指標種	28	29	30	31	32	33	46	47	48	49	72	73	74	75
Nitzschia levidensis (W.Smith) Grunow	Meh			E1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Rhopalodia acuminata Krammer	Meh			B	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Nitzschia palea (Kuetz.) W.Smith	Ogh-Meh	ind	ind	S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–
Rhopalodia gibberula (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	8	3	–
Amphora ovalis var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	8	–	2
Caloneis aerophila Bock	Ogh-ind	al-il	ind	RA	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
Caloneis silicula (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	–
Caloneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Cymbella tumida (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	2
Cymbella spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	9	3
Diploneis ovalis (Hilse) Cleve	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Encyonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3
Encyonema silesiacum (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann	Ogh-ind	ind	ind	T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	23	25	21
Eunotia implicata Noepel & Lange-Bertalot	Ogh-hob	ac-il	ind	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	3
Eunotia pectinalis (Dillwyn) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O,T	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2
Eunotia pectinalis var. minor (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-hob	ac-il	ind	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	7	18
Eunotia tenella (Grun.) Hustedt	Ogh-hob	ac-il	ind	O,U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	3	4
Fragilaria ulna (Nitzsch) Lange-Bertalot	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	3	4
Fragilaria spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	1	–	–	–	1	–	–	5	3
Frustulia vulgaris (Thwaites) De Toni	Ogh-ind	al-il	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Frustulia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
Gomphonema gracile Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	l-ph	O,U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–
Gomphonema parvulum (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	2	–
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Gyrosigma acuminatum (Kuetz.) Rabenhorst	Ogh-ind	al-il	ind		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	5	–	–
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	–	–	1	–	–	–	–	–	1	1	–	18	8	–
Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Melosira varians C.Agardh	Ogh-hil	al-bi	r-ph	K,U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
Navicula confervacea (Kuetz.) Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	RB,S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Neidium ampliatum (Ehr.) Krammer	Ogh-ind	ind	l-ph	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
Neidium spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–
Nitzschia brevissima Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RB,U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Pinnularia acrosphaeria W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	N,O,U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–
Pinnularia microstauron (Ehr.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
Pinnularia rupestris Hantzsch	Ogh-hob	ac-il	ind	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2
Pinnularia stomatophora (Grun.) Cleve	Ogh-ind	ac-il	l-ph	O,P	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	10	–
Pinnularia subrupestris Krammer	Ogh-hob	ac-il	ind	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	10	–	–
Pinnularia viridiformis Krammer	Ogh-ind	ind	ind	N,O,U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3
Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	30	14	22
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	8	2	5
Rhopalodia gibba (Ehr.) Mueller	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	15	14	–
Rhopalodia quisumbirgiana Skvortzow	Ogh-hil	al-il	ind	O,U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
Sellaphora pupula (Kuetz.) Mereschkowsky	Ogh-ind	ind	ind	S,U	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
Stauroneis phoenicenteron (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	l-ph	N,O,U	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	19	–	–
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
海水生種					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
海水～汽水生種					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
汽水生種					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
淡水～汽水生種					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	3	0
淡水生種					0	0	1	0	0	2	0	0	2	3	0	175	105	102
珪藻化石総数					0	0	1	0	0	2	0	0	2	3	0	188	108	102

凡例

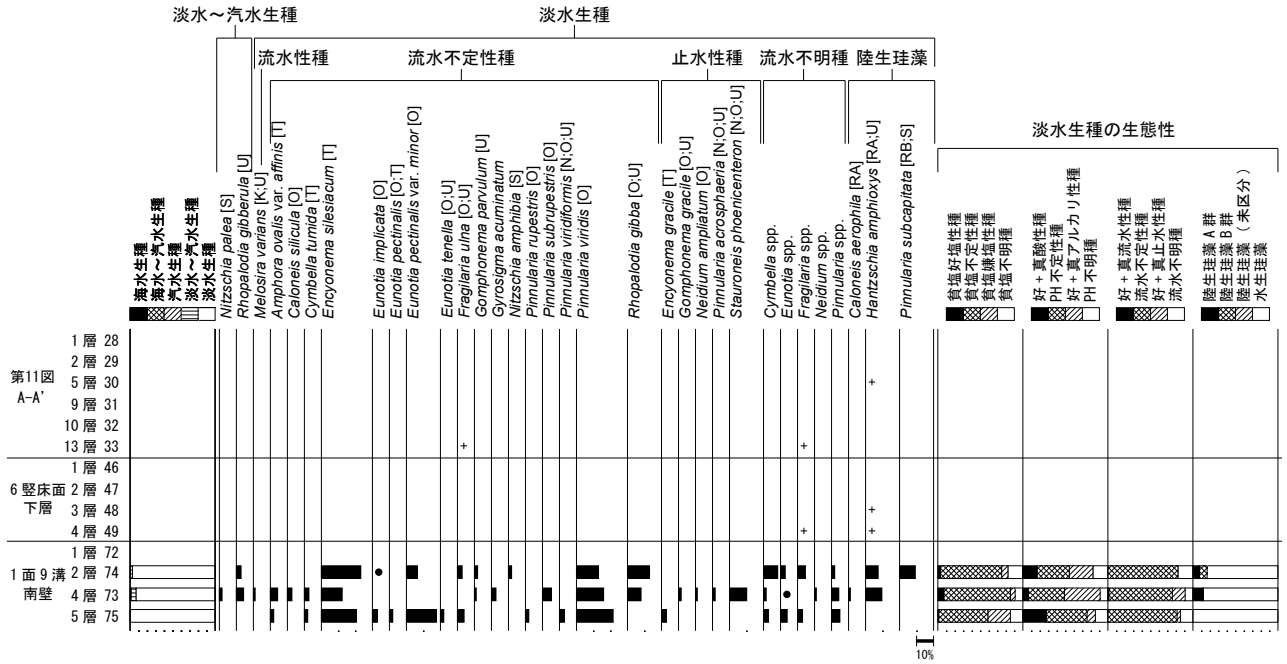
塩分 : 塩分濃度に対する適応性
- Euh　　: 海水生種
- Euh-Meh : 海水生種 - 汽水生種
- Meh　　: 汽水生種
- Ogh-Meh : 淡水生種 - 汽水生種
- Ogh-hil　: 貧塩好塩性種
- Ogh-ind　: 貧塩不定性種
- Ogh-hob : 貧塩嫌塩性種
- Ogh-unk : 貧塩不明種

pH : 水素イオン濃度に対する適応性
- al-bi : 真アルカリ性種
- al-il　: 好アルカリ性種
- ind　: pH 不定性種
- ac-il : 好酸性種
- ac-bi : 真酸性種
- unk　: pH 不明種

流水 : 流水に対する適応性
- I-bi: 真止水性種
  - I-ph : 好止水性種
  - ind : 流水不定性種
- r-ph : 好流水性種
- r-bi : 真流水性種
- unk : 流水不明種

環境指標種

A: 外洋指標種　B: 内湾指標種　C1: 海水藻場指標種　C2: 汽水藻場指標種
D1: 海水砂質干潟指標種　D2: 汽水砂質干潟指標種
E1: 海水泥質干潟指標種　E2: 汽水泥質干潟指標種　F: 淡水底生種群（以上は小杉 ,1988）
G: 淡水浮遊生種群　H: 河口浮遊性種群　J: 上流性河川指標種　K: 中～下流性河川指標種
L: 最下流性河川指標種群　M: 湖沼浮遊性種　N: 湖沼沼沢湿地指標種　O: 沼沢湿地付着生種
P: 高層湿原指標種群　Q: 陸域指標種群（以上は安藤 ,1990）
S: 好汚濁性種　U: 広適応性種　T: 好清水性種（以上は Asai and Watanabe,1995）
R: 陸生珪藻（RA:A 群，RB:B 群，RI: 未区分、伊藤・堀内 ,1991）



海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、＋は100個体未満の試料について検出した種類を示す。

環境指標種
A:外洋指標種 B:内湾指標種 C1:海洋藻場指標種 C2:汽水藻場指標種 D1:海水砂質干潟指標種 D2:汽水砂質干潟指標種 E1:海水泥質干潟指標種
E2:汽水泥質干潟指標種 F:淡水底生種群(以上は小杉,1988) G:淡水浮遊生種群 H:河口浮遊性種群 J:上流性河川指標種 K:中～下流性河川指標種
L:最下流性河川指標種群 M:湖沼浮遊性種 N:湖沼沼沢湿地指標種 O:沼沢湿地付着生種 P:高層湿原指標種群 Q:陸域指標種群(以上は安藤,1990)
S:好汚濁性種 T:好清水性種 U:広適応性種(以上はAsai & Watanabe,1995) RI:陸生珪藻 (RA:A群,RB:B群;伊藤・堀内,1991)

第 103 図　珪藻化石群集

⑸ 花粉分析

結果を第16表に示す。いずれの試料においても検出される花粉化石数は少なく、定量分析を行うだけの個体数は得られなかった。また、わずかに検出された花粉化石の保存状態は悪く、そのほとんどが、花粉外膜が壊れている状態で産出していた。

わずかに認められた花粉化石について見ると、第11図Ａ－Ａ´ではスギ属、カバノキ属、ハンノキ属、コナラ属アカガシ亜属などの木本花粉、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科などの草本花粉である。６号竪穴建物跡床面下層では、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属などの木本花粉、イネ科、ヨモギ属、キク亜科などの草本花粉が、１面９号溝南壁では、コナラ亜属、クリ属、シナノキ属などの木本花粉、イネ科、アカザ科、ナデシコ科、ヨモギ属などの草本花粉が、それぞれ検出される。

第 16 表　花粉分析結果

種　　類	第11図 A-A'						6竪床面下層				1面9溝南壁			
	1層	2層	5層	9層	10層	13層	1層	2層	3層	4層	1層	4層	2層	5層
	28	29	30	31	32	33	46	47	48	49	72	73	74	75
木本花粉														
モミ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
ツガ属	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
トウヒ属	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
マツ属	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
スギ属	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
イチイ科―イヌガヤ科―ヒノキ科	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クマシデ属―アサダ属	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
カバノキ属	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ハンノキ属	–	1	–	–	2	–	1	1	1	–	–	–	–	–
ブナ属	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
コナラ属コナラ亜属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1	–	1
コナラ属アカガシ亜属	3	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クリ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
ニレ属―ケヤキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
シナノキ属	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
草本花粉														
イネ科	–	–	–	–	1	1	–	1	2	–	2	–	1	–
カヤツリグサ科	1	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
アカザ科	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
ナデシコ科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
セリ科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
ヨモギ属	–	–	2	1	–	–	–	5	4	2	–	1	–	1
キク亜科	1	–	–	2	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–
タンポポ亜科	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–
不明花粉														
不明花粉	–	1	–	1	–	–	1	–	2	–	2	1	–	–
シダ類胞子														
ヒカゲノカズラ属	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
コケスギラン	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
イノモトソウ属	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
他のシダ類胞子	29	42	2	–	1	–	5	5	11	4	4	8	4	10
合　計														
木本花粉	5	9	0	0	2	0	1	2	2	3	0	1	2	2
草本花粉	3	2	2	3	1	1	0	6	9	2	4	1	2	3
不明花粉	0	1	0	1	0	0	1	0	2	0	2	1	0	0
シダ類胞子	31	42	2	0	1	0	5	5	11	4	4	8	4	10
合計（不明を除く）	39	53	4	3	4	1	6	13	22	9	8	10	8	15

④考察

⑴ 動物植物利用

１）微細物分析・種実遺体同定

土器内土壌や住居跡の焼土試料等を対象として、微細物分析・種実遺体同定を実施した結果、種実遺体、植物片、炭化材、炭化材、土器片などの遺物が検出された。

種実遺体は、栽培植物のイネの他、草本のイネ科、アカザ属、シソ属 - イヌコウジュ属、オナモミ属、木本のカジノキ、フサザクラが確認され、圧倒的なイネ主体の組成を示した。イネは、壺453、壺472、甕476、甕474、壺469、壺483、５竪炉、６竪、遺物集中⑤より、炭化（一部炭化）籾や炭化米が確認され、特に５竪炉で極めて多産した。また、５竪炉出土炭化米は短粒で極小、小型が多い他、しいなや未熟個体と考えられる長粒極々小型も確認された。明瞭な表面模様をとどめる炭化米が多いことから、調理前の生米の状態で火を受けたと推測される。

穀類のイネは近辺で栽培されたか、持ち込まれたかは不明であるが、当時利用された植物質食糧と考えられ、火を受けたとみなされる。ただし、土器内や住居跡焼土内で炭化したのか、別の場所で被熱したイネが持ち込まれたのかについては、現段階で判断することはできないため、発掘調査所見と併せて検討することが望まれる。栽培の可能性は、壺469より確認されたシソ属 - イヌコウジュ属が畑作物のシソやエゴマに由来する場合、周囲で栽培された可能性がある。

栽培植物と栽培の可能性を除いた分類群は、木本は、壺472よりカジノキ、壺120よりフサザクラが確認された。カジノキ、フサザクラは、河畔や林縁、崩壊地などの明るく開けた場所に生育する落葉高木である。当時の

北畑南遺跡周辺の平等川や笛吹川流域の落葉樹林や林縁に生育していたと考えられる。草本は、6竪よりイネ科、遺物集中⑤よりタデ属（イシミカワ？）、甕503、甕504、壺472よりアカザ属、壺120よりオナモミ属が確認された。当時の調査区周辺の明るく開けた草地に生育していたと考えられる。イネ科、甕503、甕504のアカザ属、オナモミ属は炭化していることから、火を受けたとみなされる。

２）安定同位体分析

安定同位体の結果と当時の食材との比較を第104図に示す。食材の結果は Yoshida et al.（2013）を参考にしている。炭素の安定同位体比を示す δ^{13}C は、食物連鎖の各系列において、最下位の植物から高位の動物まで大きな変化がないのが特徴である。陸上の植物は、δ^{13}C が -28 ～ -24‰程度の C3植物と、-11 ～ -9‰程度の C4植物に大きく分けられる。日本列島の大部分の植物質食料は C3植物で、C4植物は、ヒエ・アワ・キビなど雑穀類に限られる。栄養源として C3植物を摂取した動物の δ^{13}C は、C3植物とほぼ同程度の値となる。他方、C3植物と C4植物の双方を摂取した動物は、その摂取割合に応じて、δ^{13}C が C3植物寄りか C4植物寄りになる。このように、試料の δ^{13}C と、食物連鎖系一次生産者の δ^{13}C を比較することで、試料の由来物がどの食物連鎖の系列に属するものであるのか、また試料の由来物の栄養源がどこにあったのかを推定できる。

産業革命以後、δ^{13}C が小さい化石燃料の大量消費により現代の大気中の二酸化炭素の δ^{13}C は低下し続けている（C13-Suess 効果）。現代の大気中の二酸化炭素の δ^{13}C は -8.0‰程度であるが、産業革命以前は、-6.4‰程度と見積もられている（Friedli et al.,1986）。この差の分だけ、産業革命以前の陸上動植物の δ^{13}C は、現代に比べると大きくなる。

海水中の食物連鎖系一次生産者である、海産植物プランクトンや底生珪藻類の、産業革命以前の δ^{13}C は不明である。現代の温帯海域では -20‰程度で、C3植物と C4植物の中間的な値となっている。日本近海を含む北太平洋では、現代の表層海洋の δ^{13}C は、産業革命以前に比べて0.8 ～ 1.0‰程度小さくなっていると推算されている（Eide et al.,2017）。海洋における C13-Suess 効果は、陸上に比べるといくぶんか小さいようである。なお、第104図に示した食材の δ^{13}C は、C13-Suess 効果を踏まえた補正を行なっている。

窒素の安定同位体比を示す δ^{15}N は、食物連鎖の系列において、高位になるほど大きくなっていくのが特徴である。よって、δ^{15}N からは、試料の由来物の食物連鎖の栄養段階が推定できる。また、海洋中は陸上よりも食物連鎖の段階数が多いので、海洋生物の食物連鎖上位者は陸上の食物連鎖上位者よりも δ^{15}N が大きいという特徴もある。窒素はタンパク質に由来するので、総炭素原子数 / 総窒素原子数（C/N 比）も、試料の由来を推定する尺度となる。つまり、タンパク質を豊富に含んだ肉・魚類は窒素を多く含むので、C/N 比が比較的小さく、タンパク質が少ない堅果類や果実、海藻類などは、C/N 比が大きくなる。

今回の土器付着炭化物の結果を第104図に落としてみると、No.1O（甕41）および No.1N（土器片659）は C3植物由来の炭化物であると思われる。また、No.1O（甕41）および No.1N（土器片659）は、C/N 比が小さいことから、炭化物は、デンプン質が少ない食材（葉や茎などの植物）であると思われる。

３）樹種同定

県内での出土状況を木製品用材データベース（伊東・山田編 ,2012）でみると、スギ、クマシデ属、コナラ亜属コナラ節、コナラ亜属クヌギ節、ケヤキ属、クワ属、サクラ属、トチノキ属、モクレン属は炭化材としての出土が見られた。基本的には全て、燃料材としての利用と思われるが、スギ、クマシデ属、コナラ亜属コナラ節、コナラ亜属クヌギ節、サクラ属は建築材としての利用も見られる。

コナラ節やクヌギ節は、林縁、河川沿いなど明るい林地を好む種類で、人家近くにいわゆる「里山林」を構成する。里山林は、適度な伐採や粗朶の収奪などが行われることにより維持管理される森林で、萌芽による更新が容易な陽樹で構成される。ケヤキ属なども一緒に里山林を構成している。これらの樹木は用材としても有用である。おそらく、遺跡周辺には、このような明るい林地が存在し、そこから木材を得ていたと思われる。上記の植物も里山など開けた場所を好むことから、遺跡付近に生育し、容易に得ることができる樹種であったと思われる。さらに、コクサギ属、ウルシ属も開けた場所を好み、コナラ亜属やクヌギ節同様里山に多い。データベースを見ると、県内での出土はみられないが、周辺に生育していた可能性は十分にある。

⑵ 遺跡周辺の古植生復元

・第11図Ａ－Ａ´ 各層・６号竪穴建物跡床面下層１～４層

本10層からは、無化石であるか、産出数が３個体以下と非常に少なかった。そのため、珪藻化石の生態性や群集の生育特性による、直接的な堆積環境の推定は困難である。経験的には、堆積後に好気的環境下で大気に曝されると、短期間に分解消失することがわかっている。次に、珪藻化石を構成するシリカ鉱物は、温度が高いほど、流速が早いほど、水素イオン濃度指数が高いほど溶解度が大きくなり溶けやすいことが実験により推定されている（千木良 ,1995）。

本10層の場合も、取り込まれた珪藻化石も堆積後に、好気的な環境下等の要因で、分解・消失した可能性が高い。

・１面９号溝南壁

１層は、無化石であった。本試料も好気的な環境下等の要因で、分解・消失した可能性が高い。

２層・４層および5層は、産出した種に多少の差異はあるものの、ほぼ同様の傾向を示す。

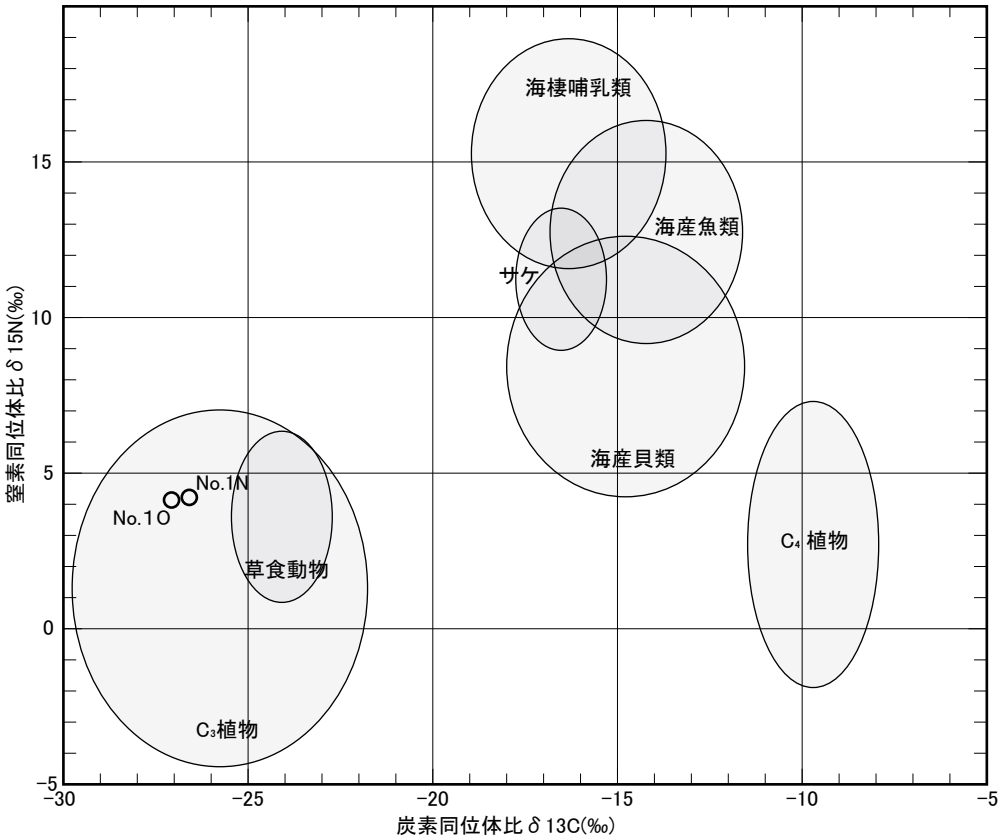
まず、本３層から産出した種の生態性について述べると、淡水生種で流水不定性種の *Encyonema silesiacum* は、沼沢地から湿地等の水域に広く生育する種である。流水不定性種の *Eunotia pectinalis var.minor* は、普通の水域にも認められるが湿地に多産する種とされる（埼玉県教育委員会 ,1962）。*Pinnularia viridis* は、好湿地性種とも呼ばれ泥炭性の湿源・沼に特徴的に認められるほか、*Pinnularia* 属の他の種に比べて鉱物成分の多い水域に認められるとされる（Patrick and Reimer,1966）。流水不定性種の *Rhopalodia gibba* は、貧塩不定、好アルカリ性、流水不定種であり、沼沢地から湿地等に比較的広範に認められる種である。止水性種の *Stauroneis phoenicenteron* は、比較的、広範に止水域に認められる種であるが、Cholnoky（1968）は最適ｐＨを6.8に持つ種類であるとしている。本種も湿地や池沼・湖沼の縁辺等の止水域に生育する種である。

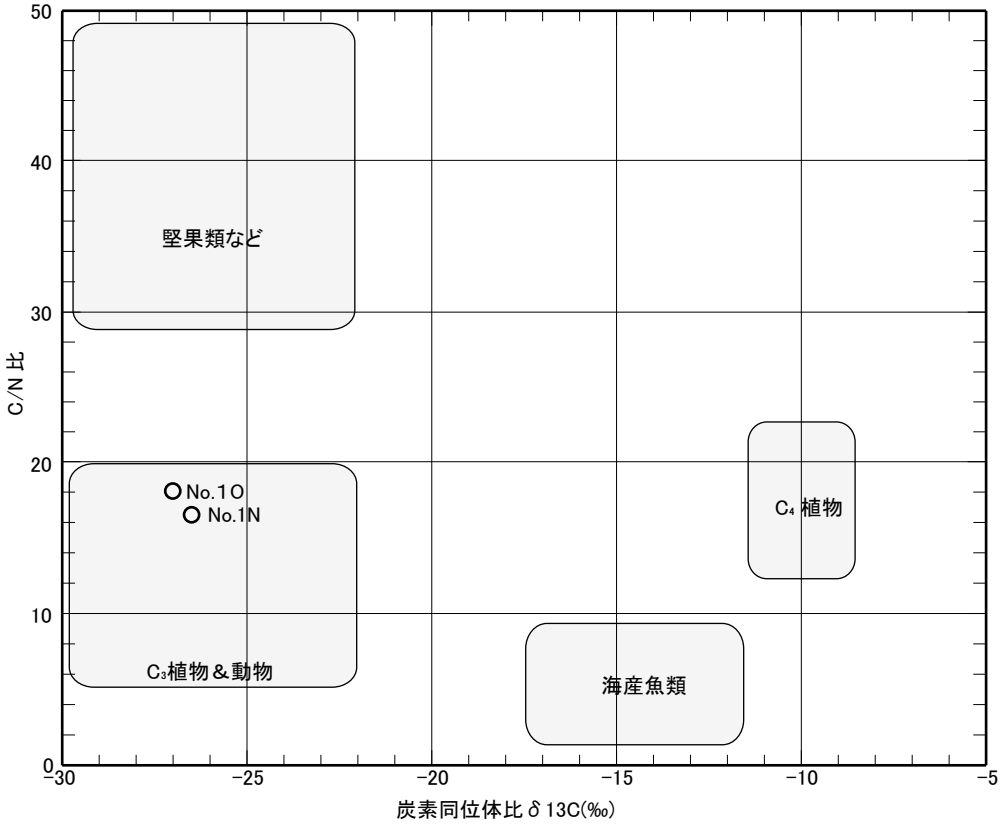
以上の産出種の生態性と群集の特徴から堆積時の環境を推定する。

本３層は、湿地性を示す種が復数種特徴的に産出していることから、概ね湿地環境であったと考えられる。また、２層および４層からは、塩濃度の高い水域に生息する種が産出したことから、本２層はやや塩濃度の高い水域であった可能性が高い。

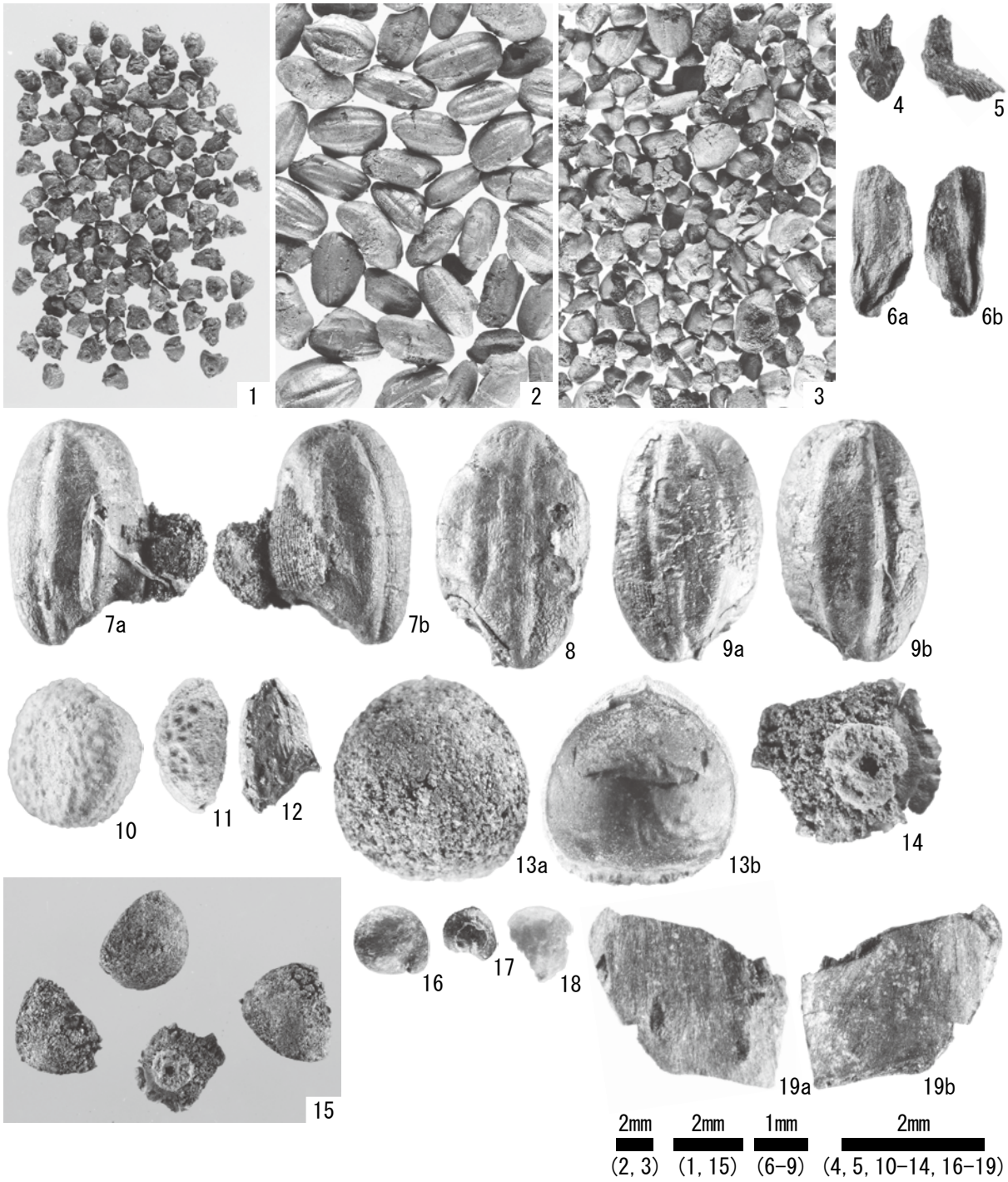
一方、各地点の試料について花粉分析を実施した結果、いずれの地点・試料においても花粉化石はほとんど検出されず、古植生推定のための定量解析を行うことができなかった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている（中村 ,1967; 徳永・山内 ,1971; 三宅・中越 ,1998など）。わずかに検出された花粉化石の保存状態が悪いことを踏まえると、各堆積層に取り込まれた花粉・シダ類胞子は、その後の経年変化により分解・消失した可能性が高い。

なお、わずかに認められた花粉化石から、スギ属などの針葉樹、カバノキ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、クリ属、シナノキ属などの落葉広葉樹、コナラ属アカガシ亜属などの常緑広葉樹の生育がうかがえる。また、草本類ではイネ科、カヤツリグサ科、アカザ科、ナデシコ科、ヨモギ属、キク亜科など、開けた明るい場所に生育する種群が確認されたことから、当時の調査区内や林縁などの草地植生に由来する可能性がある。



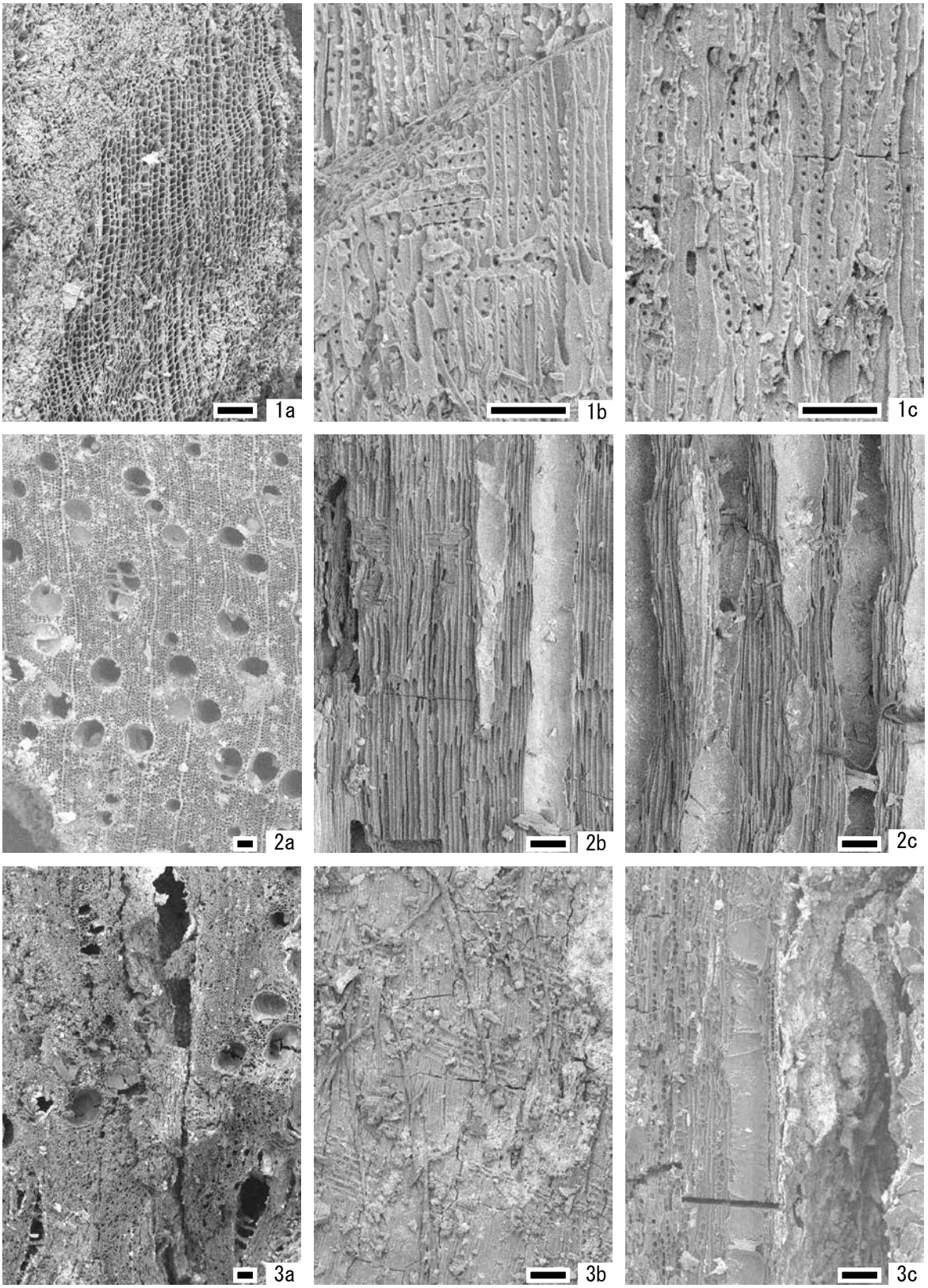


第104図　測定結果と食材の比較



1. イネ 籾(基部)(36;5竪炉)
2. イネ 穎果(36;5竪炉)
3. イネ 穎果(破片)(36;5竪炉)
4. イネ 籾(基部)(36;5竪炉)
5. イネ 籾(頂部)(19;土器483＜p2365＞)
6. イネ 穎果(36;5竪炉)
7. イネ 籾・穎果(36;5竪炉)
8. イネ 籾・穎果(36;5竪炉)
9. イネ 籾・穎果(36;5竪炉)
10. カジノキ 核(5;土器472＜p1883＞)
11. フサザクラ 種子(9;土器120＜p1987＞)
12. イネ科 果実(42;6竪)
13. タデ属(イシミカワ?) 果実(1L;祭祀遺構覆土)
14. タデ属(イシミカワ?) 果実(1L;祭祀遺構覆土)
15. タデ属(イシミカワ?) 果実(1L;祭祀遺構覆土)
16. アカザ属 種子(5;土器472)
17. アカザ属 種子(2;土器504＜p2377・p2378＞)
18. シソ属-イヌコウジュ属 果実(8;土器469)
19. オナモミ属 総苞(9;土器120)

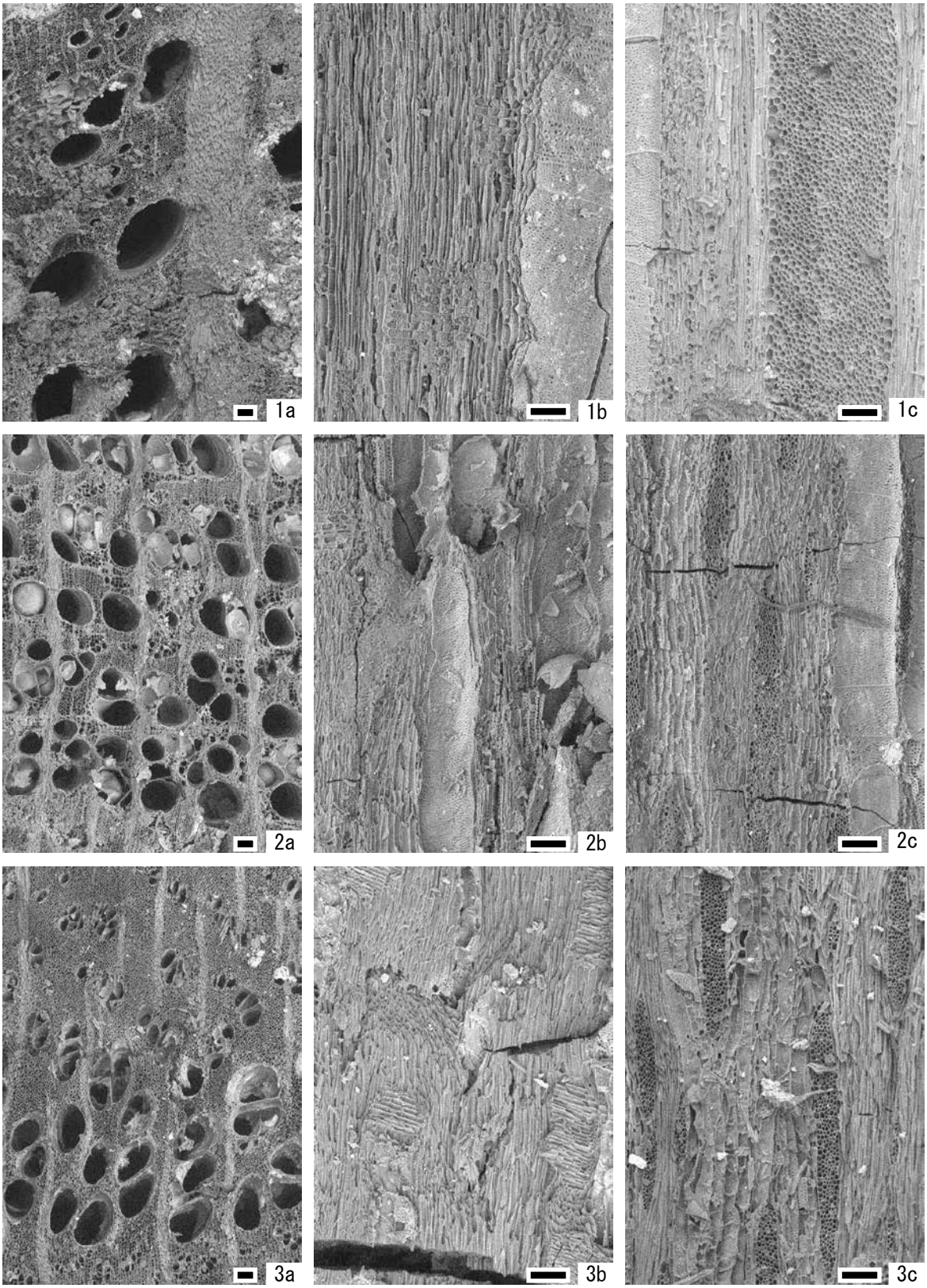
第105図　種実遺体



1. スギ(51)
2. クマシデ属(67)
3. コナラ属コナラ亜属コナラ節(25)

a:木口　b:柾目　c:板目
スケールは100μm

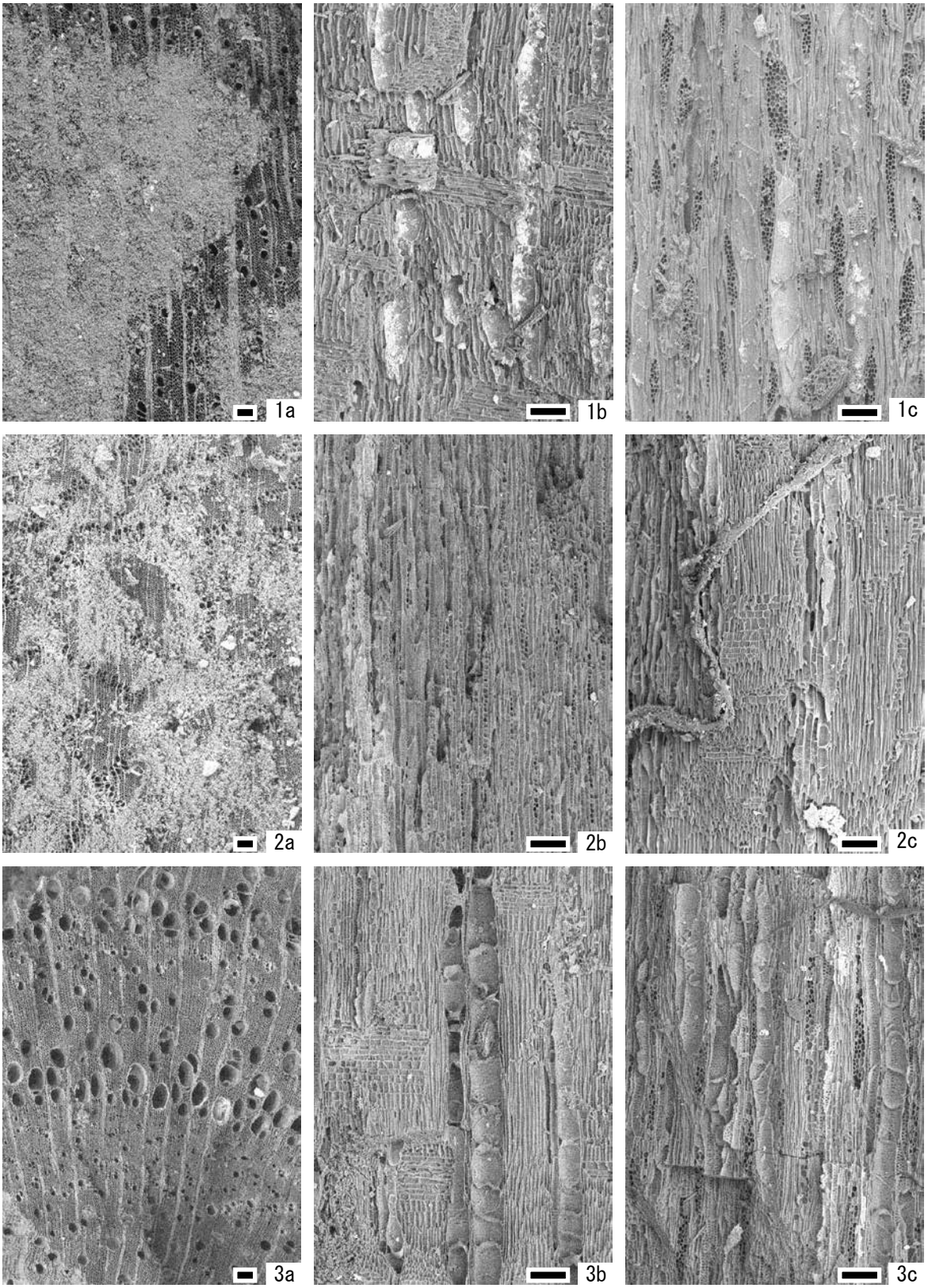
第106図　炭化材（1）



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節(45)
2. ケヤキ属(1E)
3. クワ属(34)

a:木口　b:柾目　c:板目
スケールは100μm

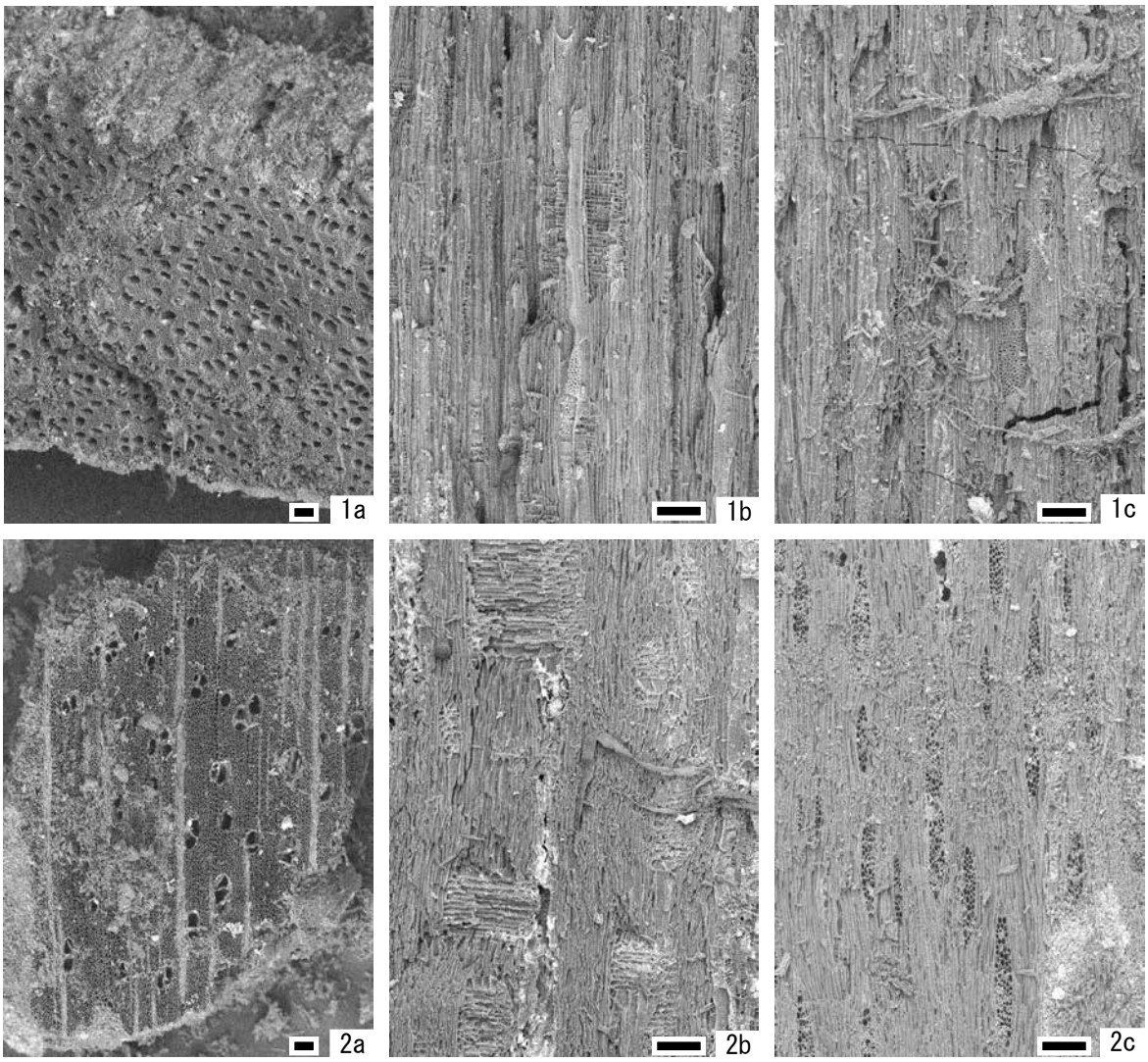
第107図　炭化材（2）



1. サクラ属(1J)
2. コクサギ属(43)
3. ウルシ属(1A)

a:木口　b:柾目　c:板目
スケールは100μm

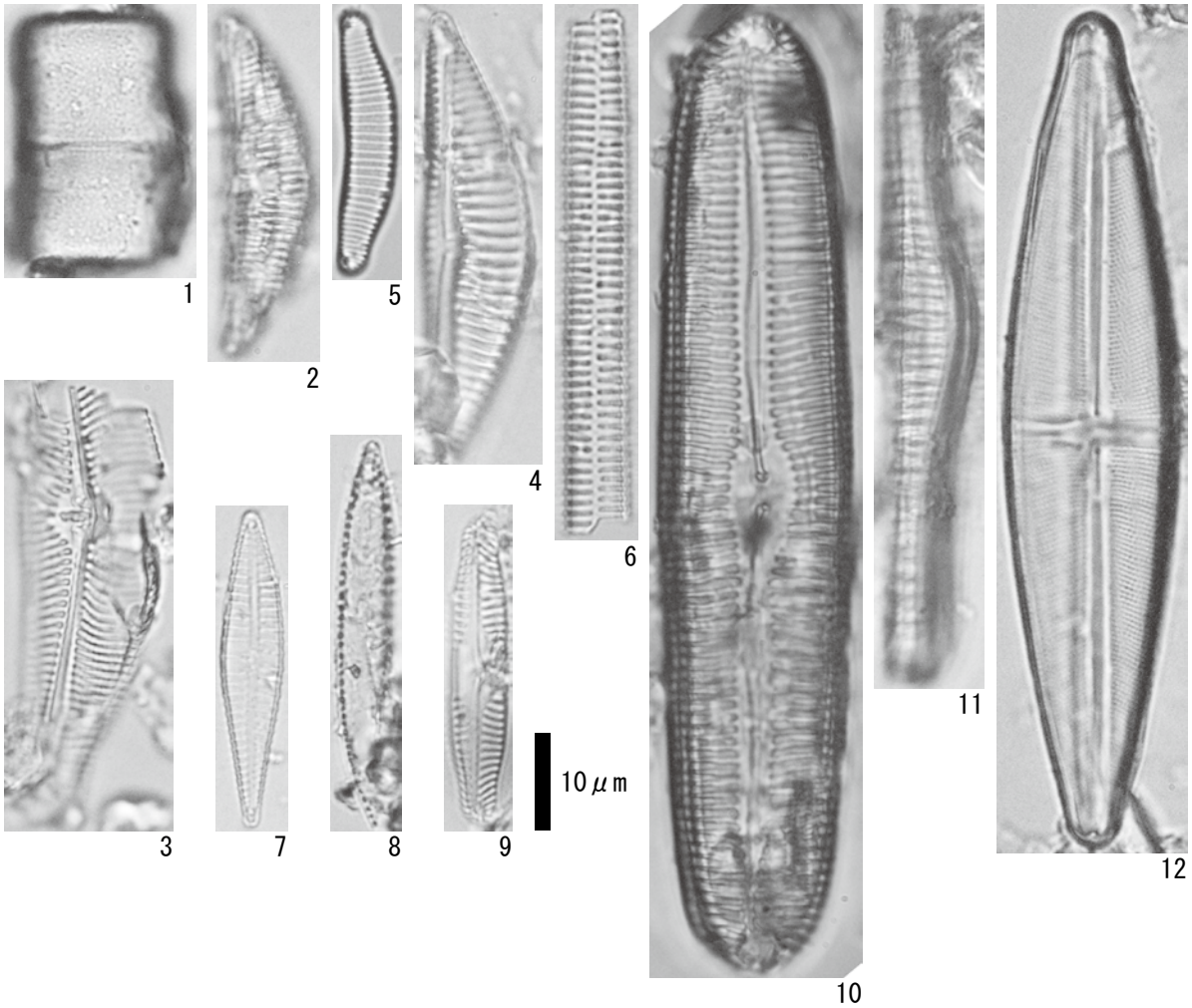
第108図　炭化材（3）



1. トチノキ属(1D)
2. モクレン属(37)

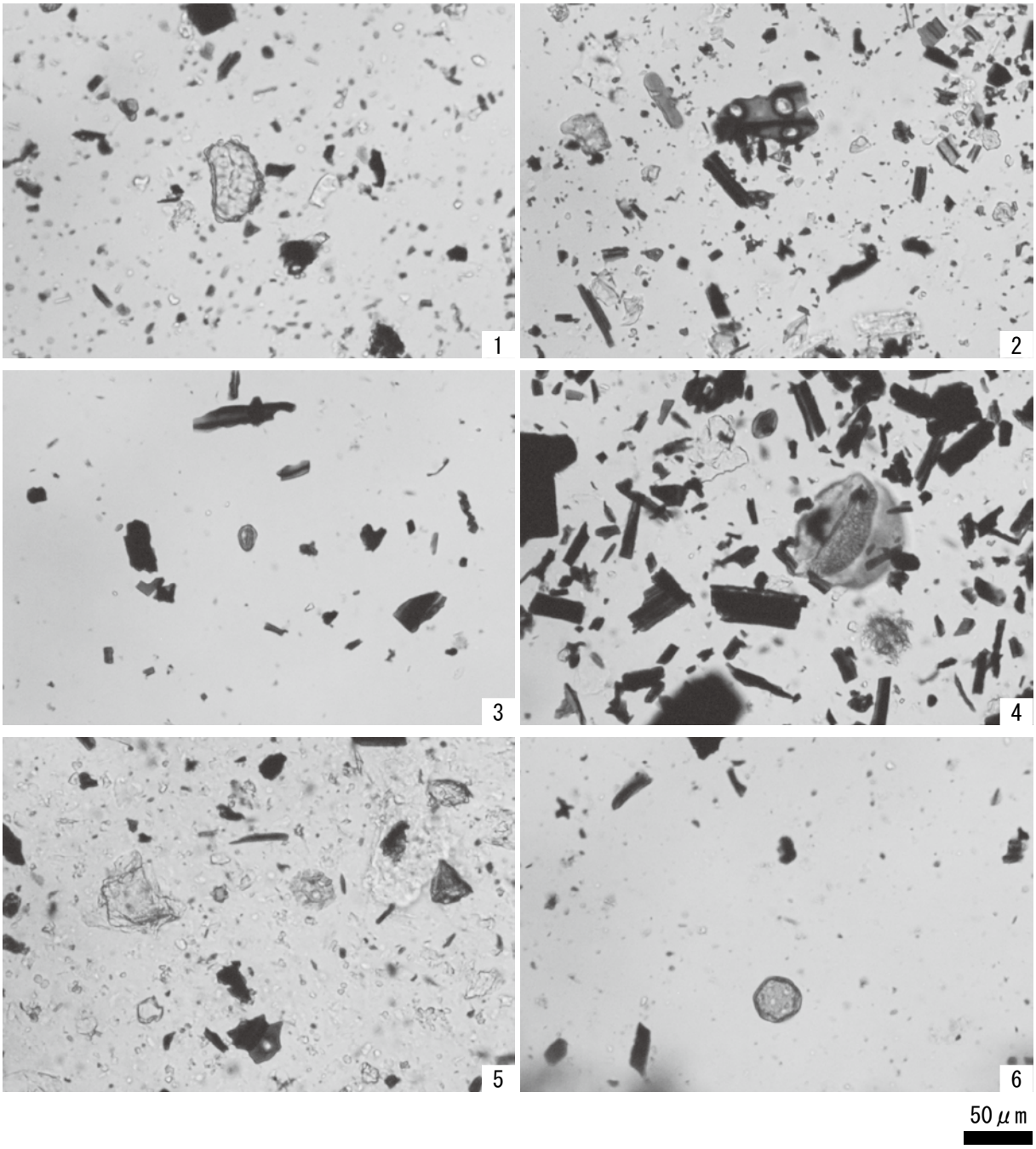
a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第109図　炭化材（4）



1. *Melosira varians* C.Agardh (1面9溝南壁 4層;73)
2. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck (1面9溝南壁 4層;73)
3. *Cymbella tumida* (Breb. ex Kuetz.) Van Heurck (1面9溝南壁 4層;73)
4. *Encyonema silesiacum* (Bleisch in Rabenh.) D.G.Mann (1面9溝南壁 4層;73)
5. *Eunotia pectinalis* var. *minor* (Kuetz.) Rabenhorst (1面9溝南壁 5層;75)
6. *Fragilaria ulna* (Nitzsch) Lange-Bertalot (1面9溝南壁 2層;74)
7. *Gomphonema gracile* Ehrenberg (1面9溝南壁 4層;73)
8. *Nitzschia palea* (Kuetz.) W.Smith (1面9溝南壁 4層;73)
9. *Pinnularia subcapitata* Gregory (1面9溝南壁 2層;74)
10. *Pinnularia viridis* (Nitz.) Ehrenberg (1面9溝南壁 4層;73)
11. *Rhopalodia gibba* (Ehr.) Mueller (1面9溝南壁 4層;73)
12. *Stauroneis phoenicenteron* (Nitz.) Ehrenberg (1面9溝南壁 4層;73)

第110図　珪藻化石



1.花粉分析プレパラートの状況(第11図A-A’1層;28)
2.花粉分析プレパラートの状況(第11図A-A’9層;31)
3.花粉分析プレパラートの状況(6竪床面下層 2層;47)
4.花粉分析プレパラートの状況(6竪床面下層 3層;48)
5.花粉分析プレパラートの状況(1面9溝南壁 1層;72)
6.花粉分析プレパラートの状況(1面9溝南壁 5層;75)

第 111 図　花粉分析プレパラートの状況

引用文献

安藤一男 ,1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用 . 東北地理 ,42,73-88.
Asai, K. and Watanabe, T.,1995,Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,35－47.
Cholnoky, B. J., 1968, Die Oekologie der Diatomeen in Binnengewassern. p. 699. Lehre(Cramer).
千木良雅弘 ,1995, 風化と崩壊 . 近未来社 ,204p.
Desikachary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation,1-13, Plates,401-621.
Eide M., Olsen A., Ninnemann U.S., Eldevik T.,2017,A global estimate of the full oceanic 13C Suess effect since the preindustrial: Full Oceanic 13C Suess Effect. Global Biogeochemical Cycles 31, 492-514.
Friedli H., Loetscher H., Oeschger H., Siegenthaler U., Stauffer B.,1986,Ice core record of the 13C/12C ratio of atmospheric CO2 in the past two centuries. Nature, 324, 237-238.
林　昭三 ,1991, 日本産木材顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .
Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.
Hustedt, F., 1937-1938, Systematische unt okologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. Ⅰ～Ⅲ. Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809p, 1-155p, 274-349p.
Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p.
Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.
伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.
伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.
伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.
伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.
伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.
伊東隆夫・山田昌久 (編),2012, 木の考古学　出土木製品用材データベース . 海青社 ,449p.
伊藤良永・堀内誠示 ,1989, 古環境解析からみた陸生珪藻の検討　－陸生珪藻の細分－ . 日本珪藻学会第10回大会講演要旨集 ,17.
伊藤良永・堀内誠示 ,1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用 . 日本珪藻学誌 ,6,23-44.
小杉正人 ,1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用 . 第四紀研究 ,27,1-20.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot,1985,Naviculaceae. Bibliothyca Diatomologica,9,250p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot,1986,Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(1): 876p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot,1988,Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(2): 596p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot,1990,Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(3): 576p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot,1991,Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa 2(4): 437p.
Lange-Bertalot, H., Witowski, A., and Metzeltin, D., 2000,ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA Annotated diatom micrographs. Diatom Flora of Marine Coasts ,1,925p.
三宅　尚・中越信和 ,1998, 森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態 . 植生史研究 ,6,15-30.
三好教夫・藤木利之・木村裕子 ,2011, 日本産花粉図鑑 . 北海道大学出版会 ,824p.
中村　純 ,1967, 花粉分析 . 古今書院 ,232p.
中村　純 ,1980, 日本産花粉の標徴　Ⅰ　Ⅱ (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録　第12,13集 ,91p.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志 ,2000, 日本植物種子図鑑 (2010年改訂版). 東北大学出版会 ,678p.
Patrick, R. and Reimer, C. W., 1966, The diatoms of the United States exclusive of Alaska and Hawaii. Vol. 1, 688p. Monographs of Acad. Nat. Sci. Philadelphia 13.
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘（日本語版監修）, 海青社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.
埼玉県教育委員会 ,1962, 埼玉県植物誌 . 埼玉県教育科学振興会 , 289-313.
佐藤敏也 ,1988, 弥生のイネ . 弥生文化の研究2生業 , 金関　恕・佐原　真編 , 雄山閣 ,97-111.
島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.
島倉巳三郎 ,1973, 日本植物の花粉形態 . 大阪市立自然科学博物館収蔵目録　第5集 ,60p.
鈴木庸夫・高橋　冬・安延尚文 ,2018, 草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる734種　増補改訂－ . ネイチャーウォッチングガイドブック , 誠文堂新光社 ,303p.
徳永重元・山内輝子 ,1971, 花粉・胞子 . 化石の研究法 , 共立出版株式会社 ,50-73.
Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.
Yoshida Kunio,Kunikita Dai, Miyazaki Yumiko, Nishida Yasutami, Miyao Toru,Matsuzaki Hiroyuki,2013,Dating and stable isotopeanalysis of charred residues on the Incipient Jomon pottery (Japan). Radiocarbon 55, 1322–1333.

２．入れ子状土器のＸ線ＣＴ画像分析について

はじめに

北畑南遺跡（山梨県笛吹市石和町東油川地内）は、笛吹川の右岸、濁川及び平等川と笛吹川との合流地点付近に位置する。本遺跡の発掘調査では、地表下約4.0m より中世の遺構確認面（第１面）、約4.7m 下層より平安時代および古墳時代の遺構確認面（第２面）が確認されている。このうち、第２面の調査では、古墳時代の甕形土器内に小形の坩が入れ子状に入っている資料が、甕形土器内土壌ごと取り上げられている（第38図77、78）。

本分析調査では、上記の入れ子状土器を対象として、X 線 CT 画像を作成し、内容物の検討を行うことを目的とする。

１．試料

試料は、北畑南遺跡で出土した入れ子状土器１点（遺物番号77、78）である。本試料は、甕形土器内に小形の坩が入れ子状となって出土した資料であり、現地調査の際に、遺物出土状況のまま土柱状に掘り残したものを、出土状態を保持したまま土柱ごと取り上げられている。外側となる甕形土器は胴下半の一部が欠損し、欠損部から甕形土器内の様子が伺え、土器内に小形の坩が確認される。外側の甕形土器、内部の小形坩ともに横倒しの状態で、外側の甕形土器は土圧により原型を保ったまま複数の破片状となっている。

２．X 線 CT 画像作成方法

試料を高精度マイクロフォーカス X 線 CT 装置（GE センシング＆インスペクション・テクノロジーズ株式会社製 v|tome|x L300）に設置し、連続断面画像を撮影して3次元 CT データを取得する。取得した3次元 CT データを基に、X 軸（横断面）、Y 軸（縦断面）、Z 軸（垂直断面）の3断面画像を、それぞれ0.1mm 間隔で作成する。作成した CT 画像は代表的な断面画像を選択し、第115 ～ 117図に示す。

３．結果

第115図に外形画像、第116図、117図に前、右、上の各方向からの代表的な断面画像を示す。前断面は X 線画像では、元素番号が大きいほど、密度が高いほど X 線を遮蔽しやすく、画像では白く写り、密度の低い部分や有機物などは X 線透過性が高く、黒く写る。X 線 CT 画像作成は、試料に X 線を照射して２次元画像を作成しつつ試料を回転させ、回転させた連続データから３次元 X 線データを作成する。本試料は、粘土等を素材とする土器およびシルト～粘土を基質とする土器内土壌で構成されることから材質に大きな差異はないものの、土器胎土と土器内土壌では、孔隙量や密度に違いがあると想定された。また、土器内に種子などの有機物塊や石製品や鉄製品などがあった場合にも、基質土壌との X 線透過性の違いから、画像情報が得られるものと想定され、土器と土器内部の情報を取得すべく X 線 CT 画像の作成を行った。

前断面および右断面は垂直方向の断面画像である。甕形土器下方はもっとも分厚い箇所となっているため、やや判別しにくくなっているものの、甕形土器の内面に小形坩が密着している様子が伺える。土器と土器の間に土壌を挟まないことから、横倒しの状態で土器内に土壌が堆積したものと想定される。

土器内容物について、３断面画像を3D オブジェクトデータのビューアソフトウェア MyVGL（Volume Graphics GmbH 社）で全面的に精査したところ、鉄製品や石製品などの特徴的に X 線透過性の低い、白く写る部分は確認されなかった。有機物や孔隙などの透過性が高い、黒く写る部分について確認したところ、複数箇所の黒色部分を確認した。この黒く写る部分が、土器内土壌の乾燥による収縮によって生じた孔隙なのか、有機物等の介在によるものなのかは判然としないが、ひび割れ様の黒色部分を除外し、塊状に見える黒色部分について孔隙１～４と仮称し第107図右に示した。孔隙１は小形坩内土壌の下方付近に黒色部分があり、長さ20mm 程度、幅７mm 程度、厚さ３mm 程度の棒状に認められる。孔隙２は孔隙１と同形のもので、孔隙１に近接して認められるが、孔隙１とは方位が異なる。孔隙３は小形坩内土壌の中位上方付近に黒色部分があり、径7-8mm の塊状に認められる。孔隙４は、孔隙１と前断面、上断面では近接するものの、右断面画像を精査していくと、孔隙１とした黒色部分とは連続せずに途切れているため、別の孔隙とした。形状は孔隙１と似る。孔隙１から連続するひび割れ状の孔隙の可能性もある。この他にも小規模な孔隙状の黒く写る部分が認められるものの、種子のよう

な径1-2mmの有機物の場合はＸ線CT画像から判別することが難しく、土器内土壌を対象とした微細物分析や微化石分析等によって確認する必要がある。

３．入れ子状土器の軟Ｘ線分析について

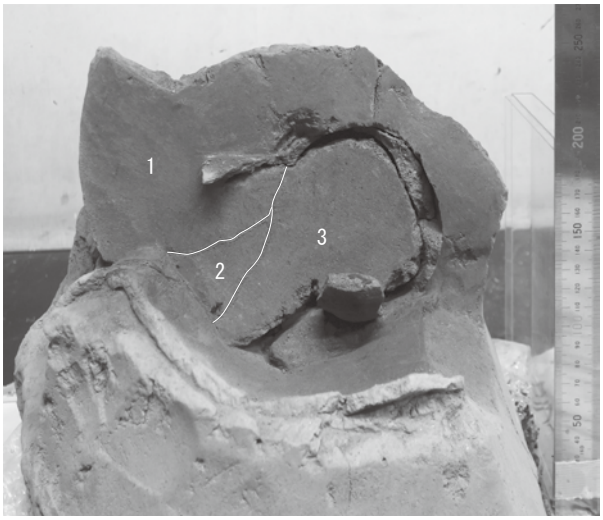
はじめに

本分析調査では、調査区より出土した入れ子状土器内土壌の堆積状況を検討するために、軟Ｘ線分析を実施する。

１．試料および観察結果

軟Ｘ線分析を実施する試料は、入れ子状土器の外側土器口縁部付近埋積土壌、および内側土器内埋積土壌の２点である。入れ子状土器は側位で出土し、土器内土壌および下位土壌ごと一括で取り上げられている。試料採取工程写真を第113図に、試料の土層断面写真を第112に示す。

土層断面では、明瞭な層理は認められないものの、混入物等から３層に細分した。全体に暗灰黄色細粒砂質シルトを基質とし、内側土器内の２層は少量のシルトブロックが、３層は腐植質なシルトが少量混入する。



10cm

土層説明

1層　暗灰黄色細粒砂質シルト層（2.5Y 5/2）
全体に比較的均質で、炭化物Φ0.5mm:<1%含む。

2層　暗灰黄色細粒砂質シルト層（2.5Y 5/2）
シルトブロックΦ2-3mm:5%、器面付近に炭化材Φ4mm:1点を含む。

3層　暗灰黄色細粒砂質シルト層（2.5Y 4/2）
1,2層と比べて色調が暗い。腐植質なシルトが少量混ざる。

第112図　入れ子状土器断面観察結果

２．分析方法

まず、分析前の状況を写真等で記録した後、土器を外す。その際、どのように外したかを記録しつつ作業をすすめる。

入れ子状土器の外側土器口縁部付近の埋積物、および内側土器内の埋積物を塊状で取り外す。塊状試料をプラケースに収め、厚さ１cmになるまで均等に削り、軟Ｘ線写真撮影用試料とする。

軟Ｘ線写真撮影は、東京都立産業技術研究センターの協力を得た。撮影は電圧が70KV、電流が6.0m A、照射時間が60秒間、照射距離が１mという条件で行った。

３．結果

試料の外観、軟Ｘ線写真を第114図に示す。以下、試料ごとに結果を示す。

・外側土器口縁部付近埋積物

埋積物は、暗灰黄色を呈するシルトからなり、炭化物？含む。試料外観および軟Ｘ線写真でも明瞭な堆積構造は認められない。

・内側土器内埋積物

埋積物は、暗灰黄色を呈するシルトからなり、外観では中～下部がやや暗色を呈するが、軟Ｘ線写真では特に構造に差は認められない。

また、軟Ｘ線写真では中部および下部に白色粒子が見られた。このような白色粒子は、砂分が多い場合によく認められることから、中部および下部に砂分が多く含まれていると推測される。

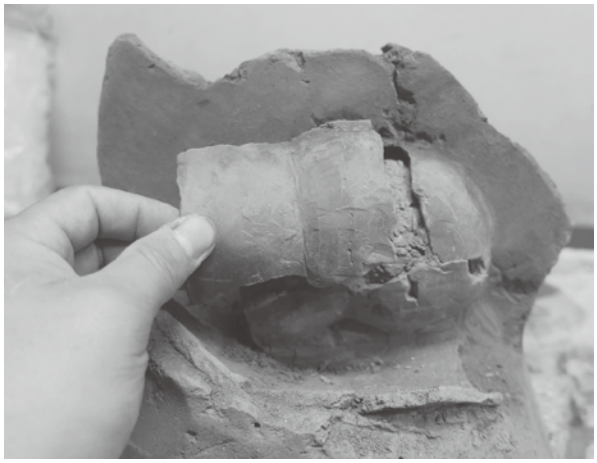
４．考察

入れ子状土器の内側土器内の埋積物では、上方の口縁部側～胴部付近に砂分が多く含まれる可能性が指摘された。これに対し、外側土器口縁部付近の埋積物は明瞭な堆積構造が認められず、均一な状況が確認された。土層断面（第112図）をみると、外側土器口縁部と内側土器内の埋積物で明瞭な差が認められず、比較的均一な状況を示すことから、これらの埋積物は比較的短時間で埋積した自然堆積の可能性が高い。

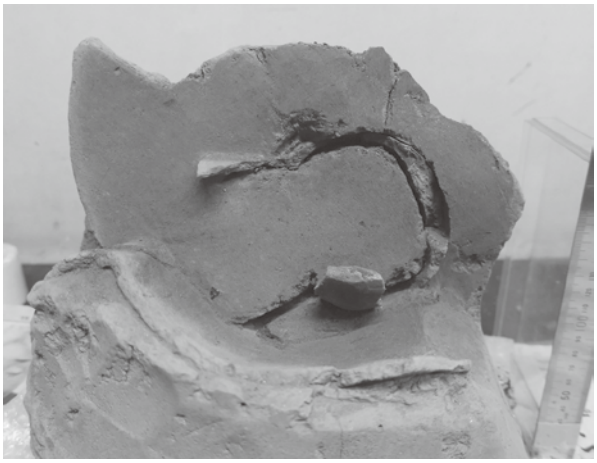
なお、側位で出土した内側土器内の上方に砂分が多く認められた点については、現時点で明言はできないが、明瞭な層理が認められない状況から、先に土器内に砂分が溜まっており、シルトが流入した際、何らかの理由により内側土器内で砂分が舞い上がったことなどが想定できる。

1. 分析前試料外観

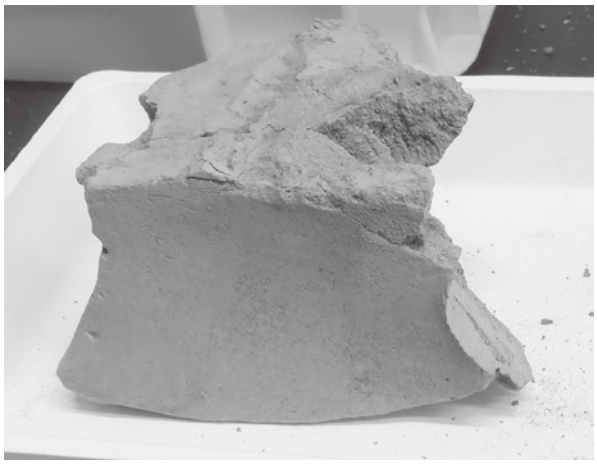
2. 外側の土器を外した状況



3. 内側の土器を外す状況



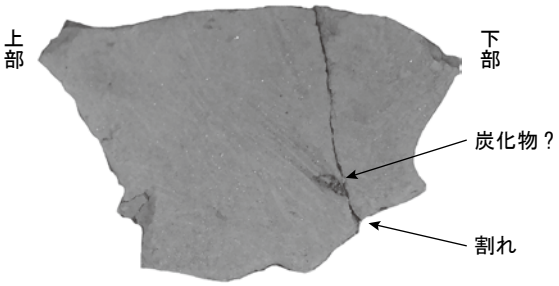
4. 断面作製完了



5. 軟X線撮影対象試料(外側土器口縁部付近埋積物)

6. 軟X線撮影対象試料(内側土器内埋積物)

第113図　軟X線撮影　作業工程

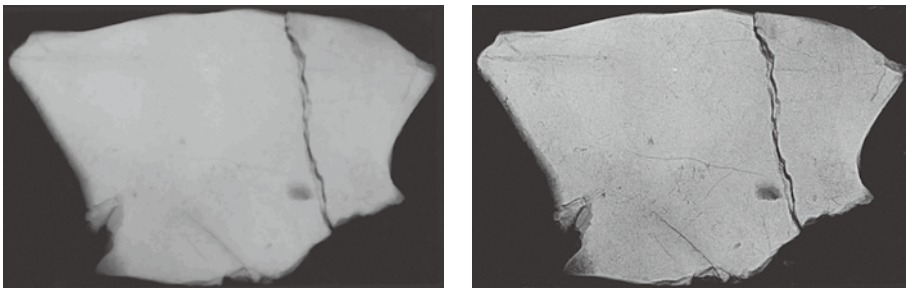


2.5Y 5/2　暗灰黄色シルト

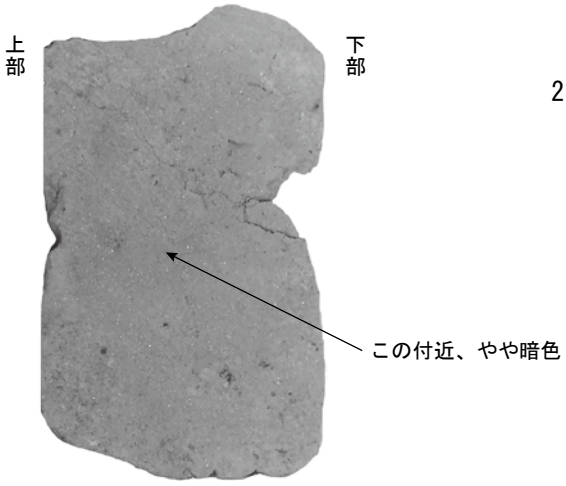
炭化物？含む。
明瞭な堆積構造は認められない。

※上部・下部は図版１写真４でみたときの上下

1. 外側土器口縁部付近埋積物 外観



2. 外側土器口縁部付近埋積物 軟X線写真(左:未補正、右:エッジ補正)



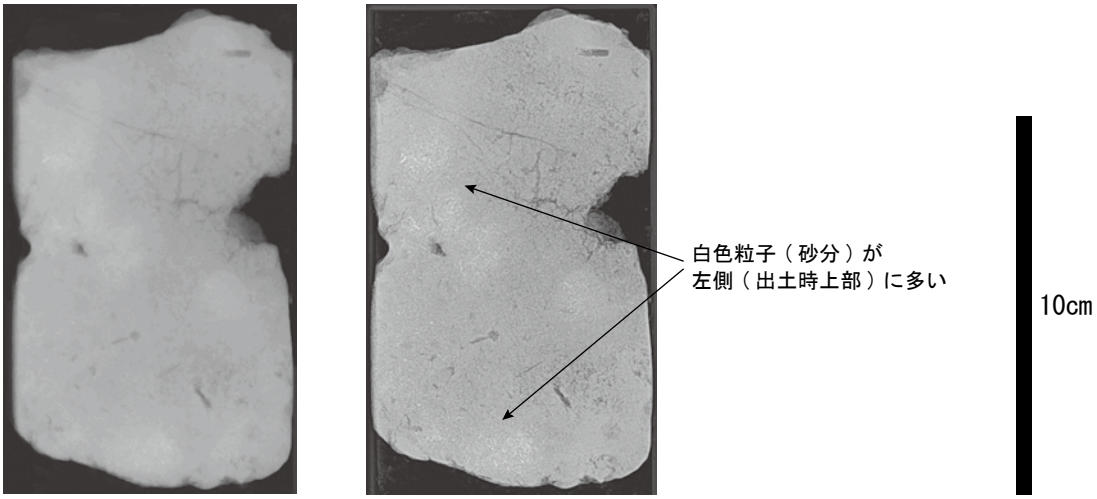
2.5Y 5/2　暗灰黄色シルト

外観では中～下部がやや暗色を呈するが、
軟Ｘ線では特に差は認められない。

軟Ｘ線写真では左側（出土時上部）の中部及び下部に白色粒子が見られ、砂分が多く含まれていると推測される。

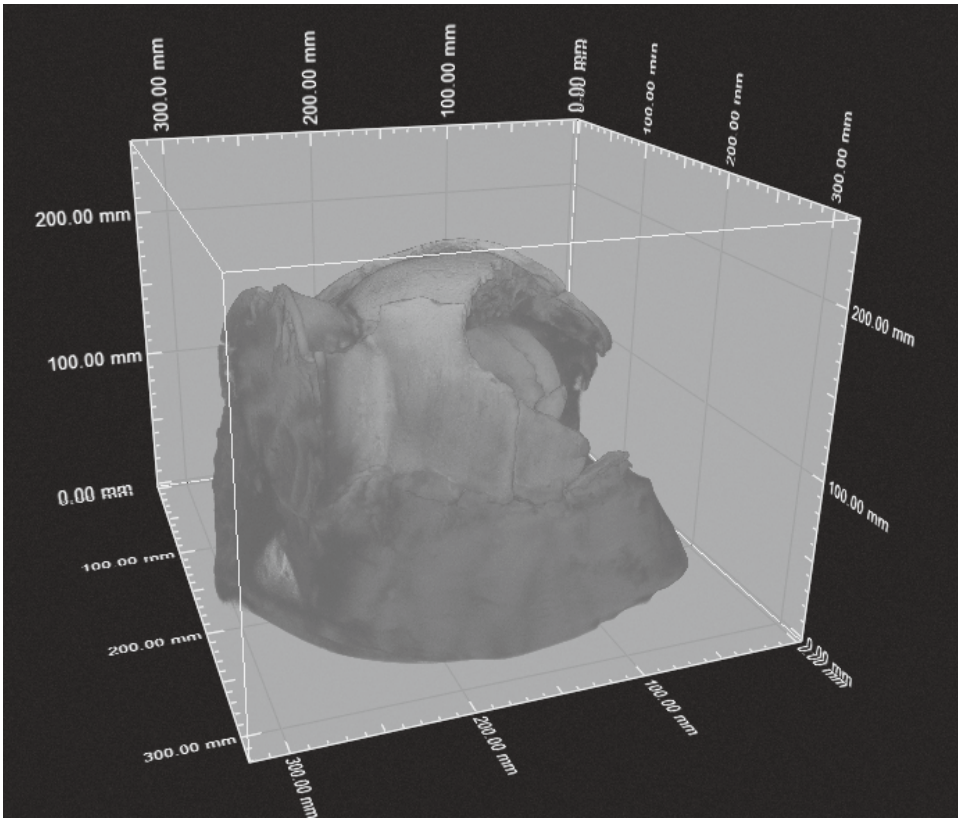
※上部・下部は図版１写真４でみたときの上下

3. 内側土器内埋積物 外観

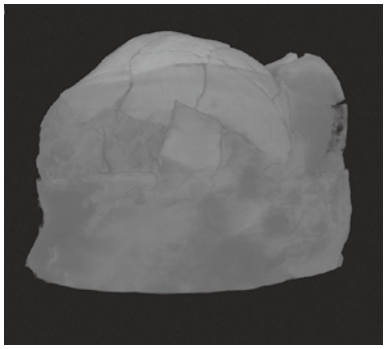


4. 内側土器内埋積物 軟X線写真(左:未補正、右:エッジ補正)

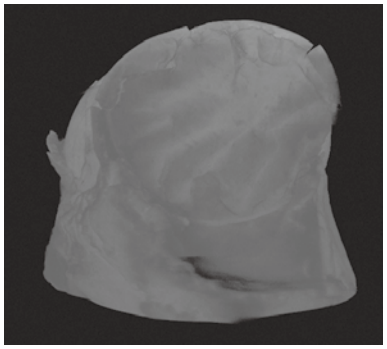
第114図　軟X線撮影　分析結果



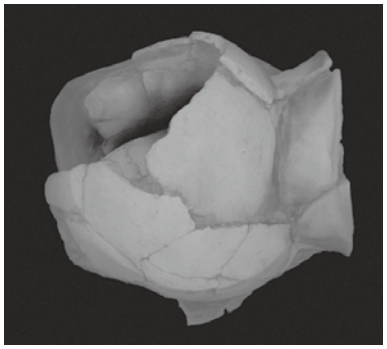
P-1214俯瞰画像



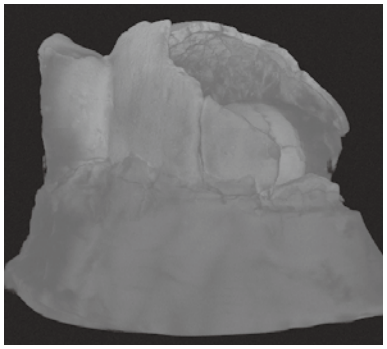
P-1214前画像



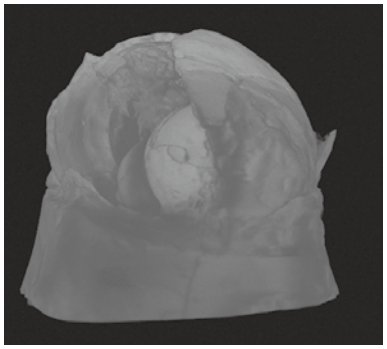
P-1214左画像



P-1214上画像

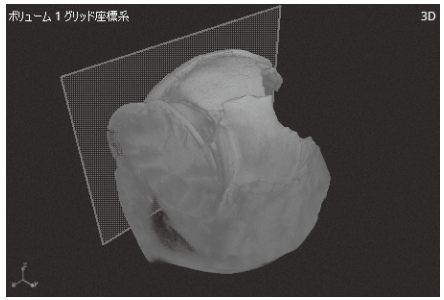


P-1214後ろ画像

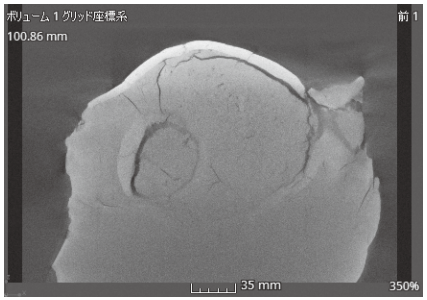


P-1214右画像

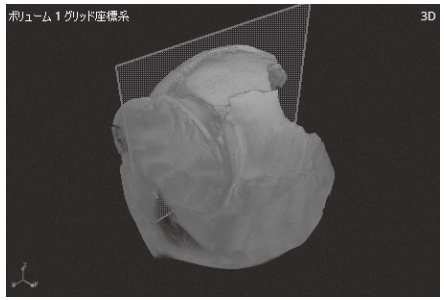
第 115 図　入れ子状土器 X 線 CT 画像（1）



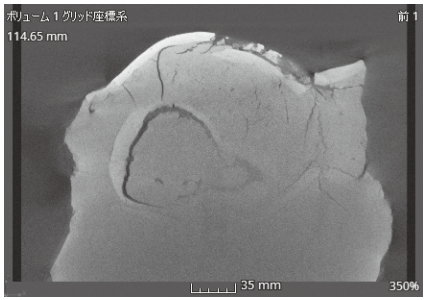
P-1214前画像 100.86mm位置



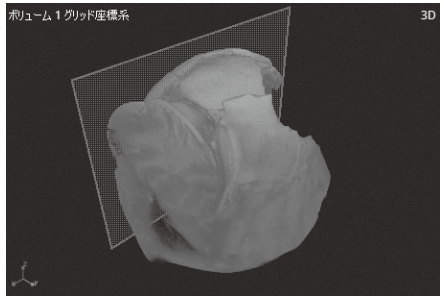
P-1214前画像 100.86mm地点



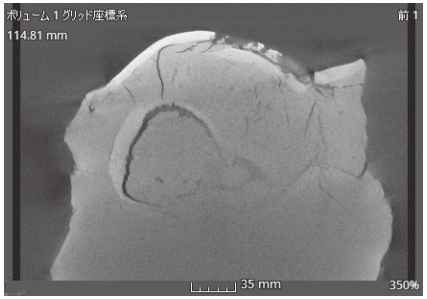
P-1214前画像 114.65mm位置



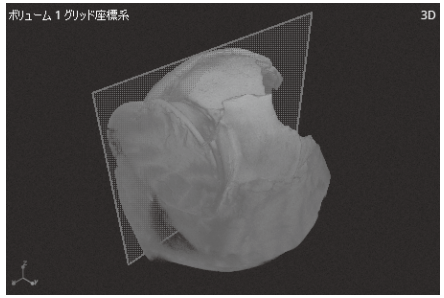
P-1214前画像 114.65mm地点



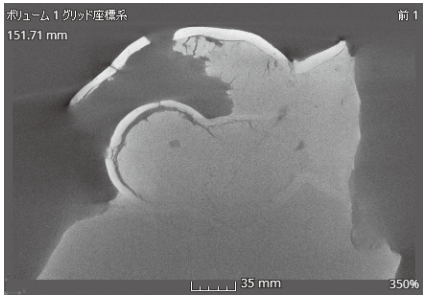
P-1214前画像 114.81mm位置



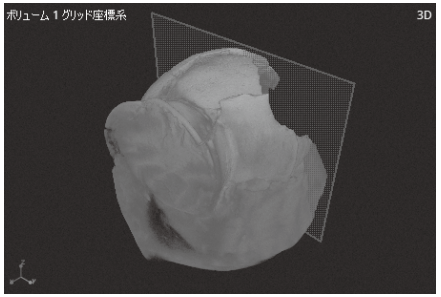
P-1214前画像 114.81mm地点



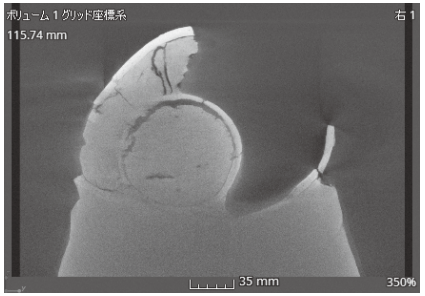
P-1214前画像 151.71mm位置



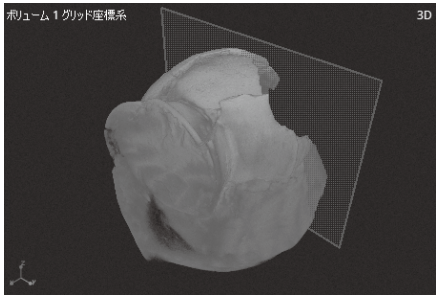
P-1214前画像 151.71mm地点



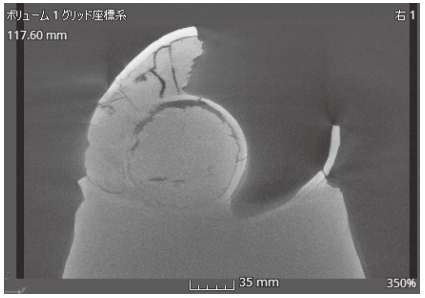
P-1214右画像 115.74mm位置



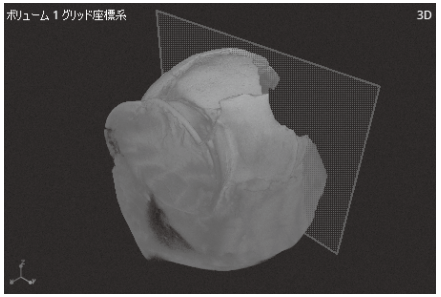
P-1214右画像 115.74mm地点



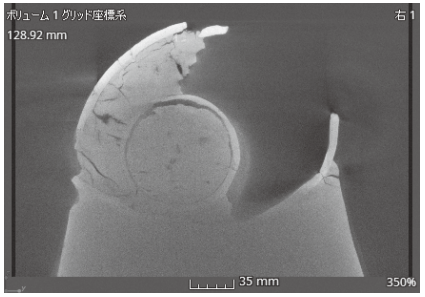
P-1214右画像 117.60mm位置



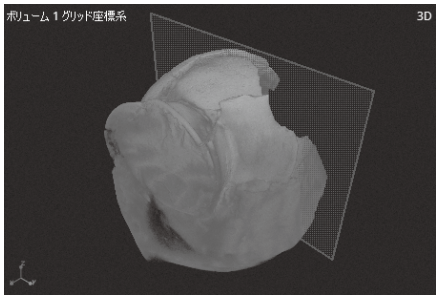
P-1214右画像 117.60mm地点



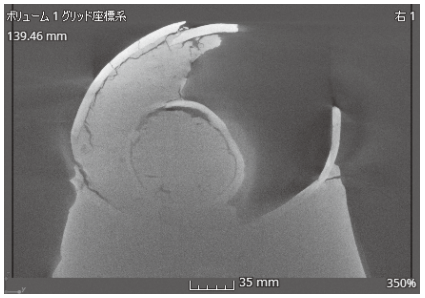
P-1214右画像 128.92mm位置



P-1214右画像 128.92mm地点

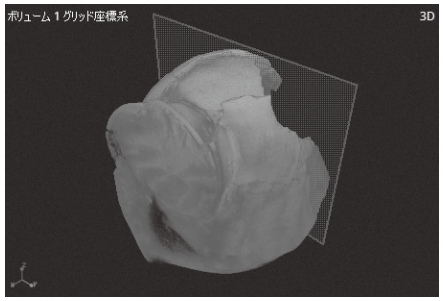


P-1214右画像 139.46mm位置

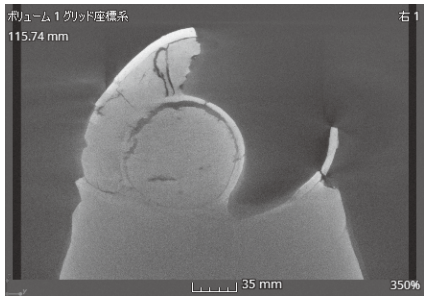


P-1214右画像 139.46mm地点

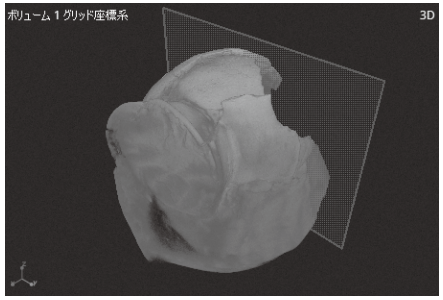
第 116 図　入れ子状土器 X 線 CT 画像（2）



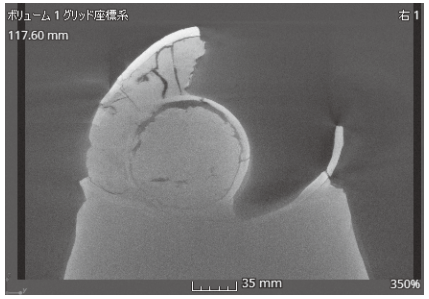
P-1214右画像 115.74mm位置



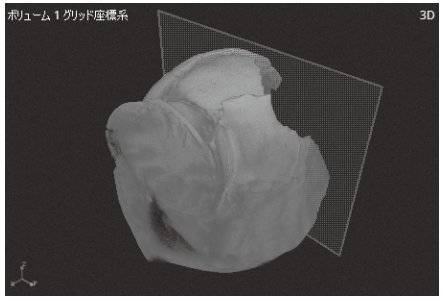
P-1214右画像 115.74mm地点



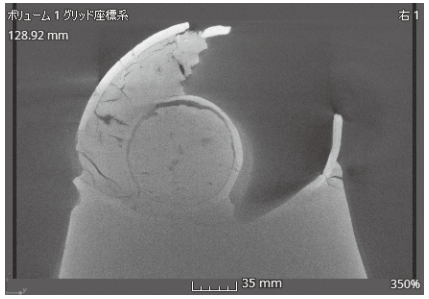
P-1214右画像 117.60mm位置



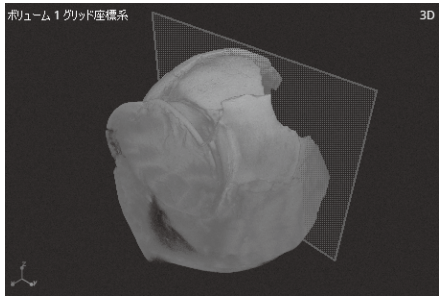
P-1214右画像 117.60mm地点



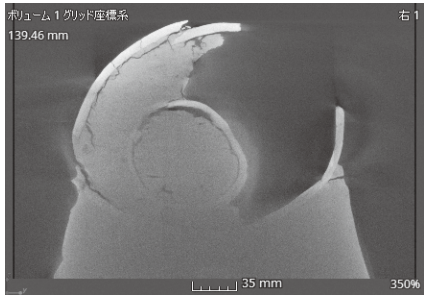
P-1214右画像 128.92mm位置



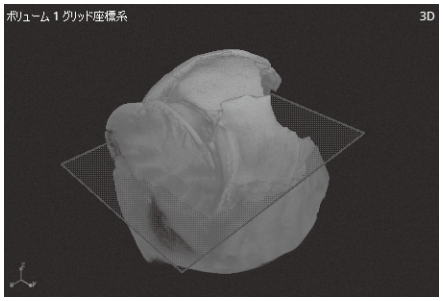
P-1214右画像 128.92mm地点



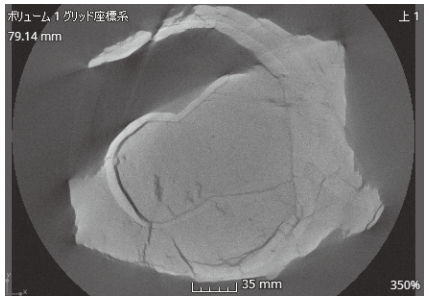
P-1214右画像 139.46mm位置



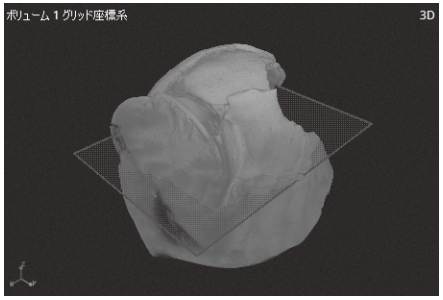
P-1214右画像 139.46mm地点



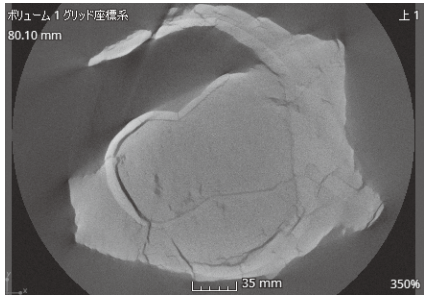
P-1214上画像 79.14mm位置



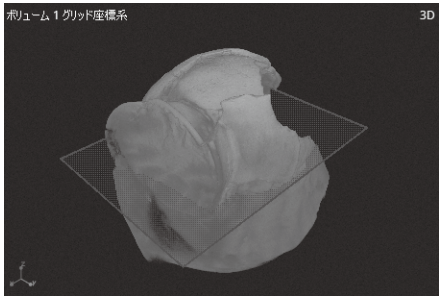
P-1214上画像 79.14mm地点



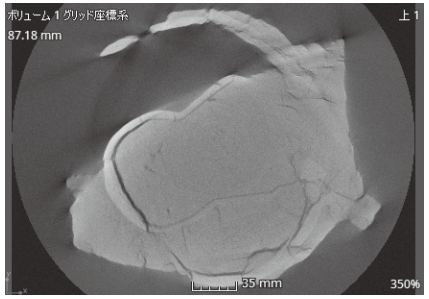
P-1214上画像 80.10m位置



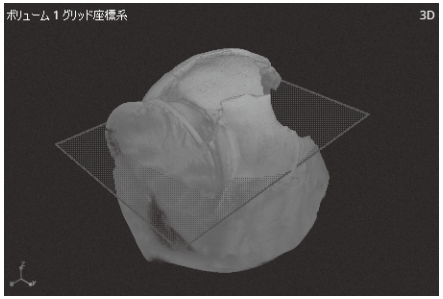
P-1214上画像 80.10mm地点



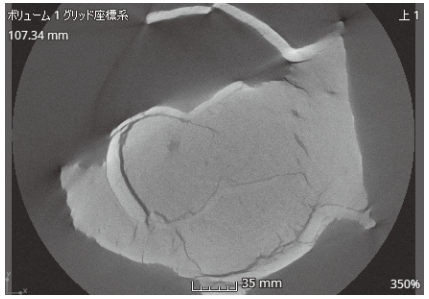
P-1214上画像 87.18mm位置



P-1214上画像 87.18mm地点



P-1214上画像 107.34mm位置



P-1214上画像 107.34mm地点

第 117 図　入れ子状土器 X 線 CT 画像（3）

第２節　動物遺存体

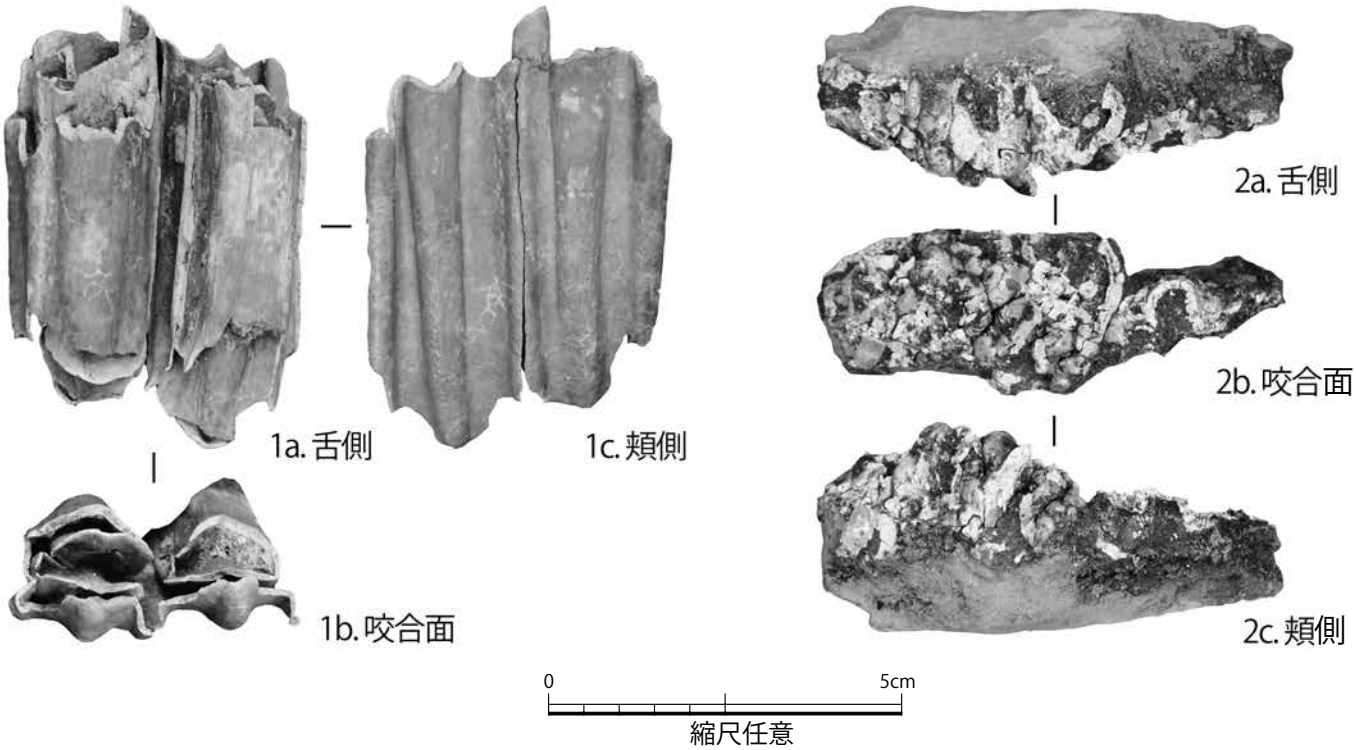
植月　学（帝京大学文化財研究所）

当遺跡から２点の動物遺体が出土した。いずれも哺乳類の歯である。

２面包含層出土のウシの歯は上顎の第２ないし第３後臼歯である。破損しているが咬耗がほとんど見られないので、若獣とみられる。２面は古墳時代～平安時代（９世紀）までの遺物包含層である。

８号竪穴建物跡出土のイノシシの歯は上顎後臼歯で、脆くなっていたため周囲の土と共にパラロイド B72で補強した。第２後臼歯は遠心から頬側の一部が残存するのみである。第３後臼歯の咬耗は弱く、象牙質の露出は見られないので、やはり若獣と見られる。８号竪穴建物跡は古墳時代中期前葉の遺構である。

No.	遺　構	遺物番号	日　付	種	部　位	計　測	備考
1	2面包含層	B-001	2020.2.10	ウシ	上顎第2/3後臼歯（左）	L:33.3±	咬耗弱
2	8号竪穴建物跡	b-002	2020.3.13	イノシシ	上顎第2/3後臼歯（右）	第3後臼歯 L:33.7± ,B:18.2±	咬耗弱



第 118 図　動物遺存体

第６章　総括

第１節　自然科学分析所見

①　土壌微細物分析

発掘調査において、据え置かれた可能性のある状態で出土した土器や、遺構の覆土等を中心に、内容物を知るための土壌分析を行った。その結果、５号竪穴建物跡の炉跡から多量のイネ（炭化米）を検出するに至った。５号竪穴建物跡は古墳時代中期初頭に比定される。このほか、炭化米は祭祀遺構内の土器や覆土に微量に含まれていたほか、壺469から栽培植物の可能性があるシソ属・イヌコウジュ属の出土もある。土器に混入していた炭化米は強いて言えば祭祀遺構の甕474が15個、壺483が24個とやや多めだが、474は逆位で出土している。祭祀遺構に限れば、土器に動植物を混入して祭祀行為をするあり方は、現状では積極的に評価できない。

②　樹種同定

祭祀遺構の覆土や土器内の樹木片（炭化材含む）については、ケヤキが多く同定された。燃料として使用された木片が混入したか。一方で焼失建物の可能性がある８号竪穴建物跡の炭化材樹種は、スギとクマシデ属であり、建築部材であった可能性が示唆される。

③　古植生復元

１面目（中世生活面）の基盤となる土層や覆土について珪藻分析をしたところ、基盤となる地山層で、沼地や湿地に生息する種が産出されている。中世の生活面で遺構が形成される以前は、湿地の環境にあったと考えられる。

④　入れ子状土器

３号竪穴建物跡において入れ子状に出土した土器（壺77、78）について検討するために、X 線 CT 画像撮影や、軟 X 線分析を行った。その結果、埋没の段階で土器はすでに横倒しになっていたことが想定される。入れ子状という特殊な出土事例ではあるが、外側の広口壺78は底部を欠損しており、その評価は難しい。祭祀的な意味を込めてあえて底部穿孔されたものを使用している場合もあるが、埋没後に底部を欠損したのであれば、単純に建物内における収納の在り方を示している可能性もある。同様の事例増加を待ちたい。

⑤　動物骨同定

古墳時代～平安時代の包含層で、ウシの歯の出土があった。古墳時代中期に遡るものであれば、列島規模でも古い事例になるが、包含層内の遺物の出土状況から積極的には評価できないため、古墳時代中期後半～平安時代前期のどこかの段階で堆積した土に混入したものと想定される。なお、８号竪穴建物跡からはイノシシの歯の出土があった。

⑥　使途不明石製品（第85図697）の分析

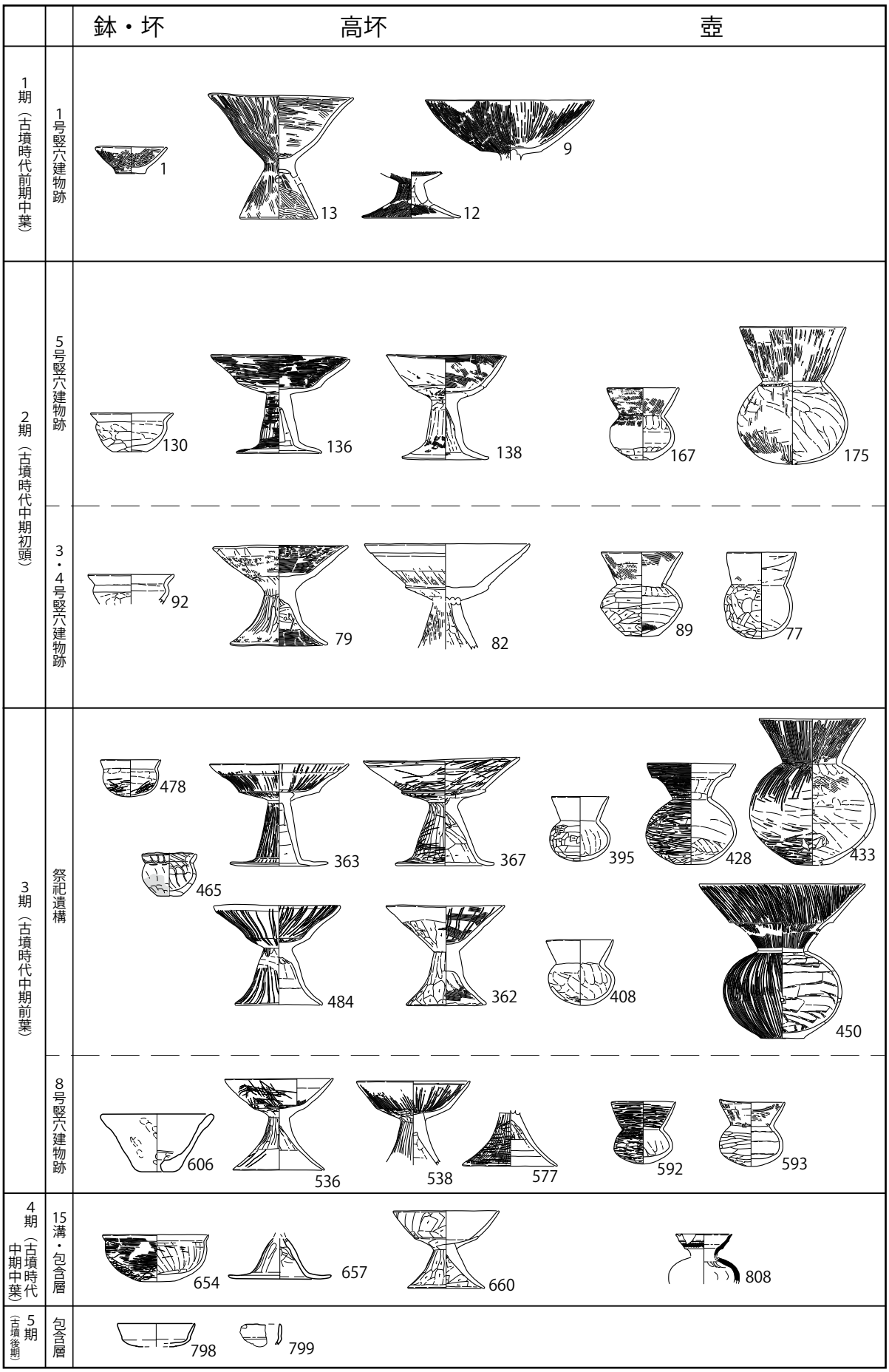
１号竪穴建物跡から出土している石製品697は長さ3.2㎝ほどの小礫であるが、表面が赤色化している様子が観察できた。これについて、帝京大学文化財研究所の金井拓人氏に蛍光Ｘ線で簡易分析をしていただいたところ、赤色顔料が塗布されている可能性があることが判明している（写真図版31）。当該遺物そのものが装飾品等であったか、赤色顔料を他の何かに塗るための道具であったか、こちらも類例の増加を待ちたい。

第２節　古墳時代の出土土器について

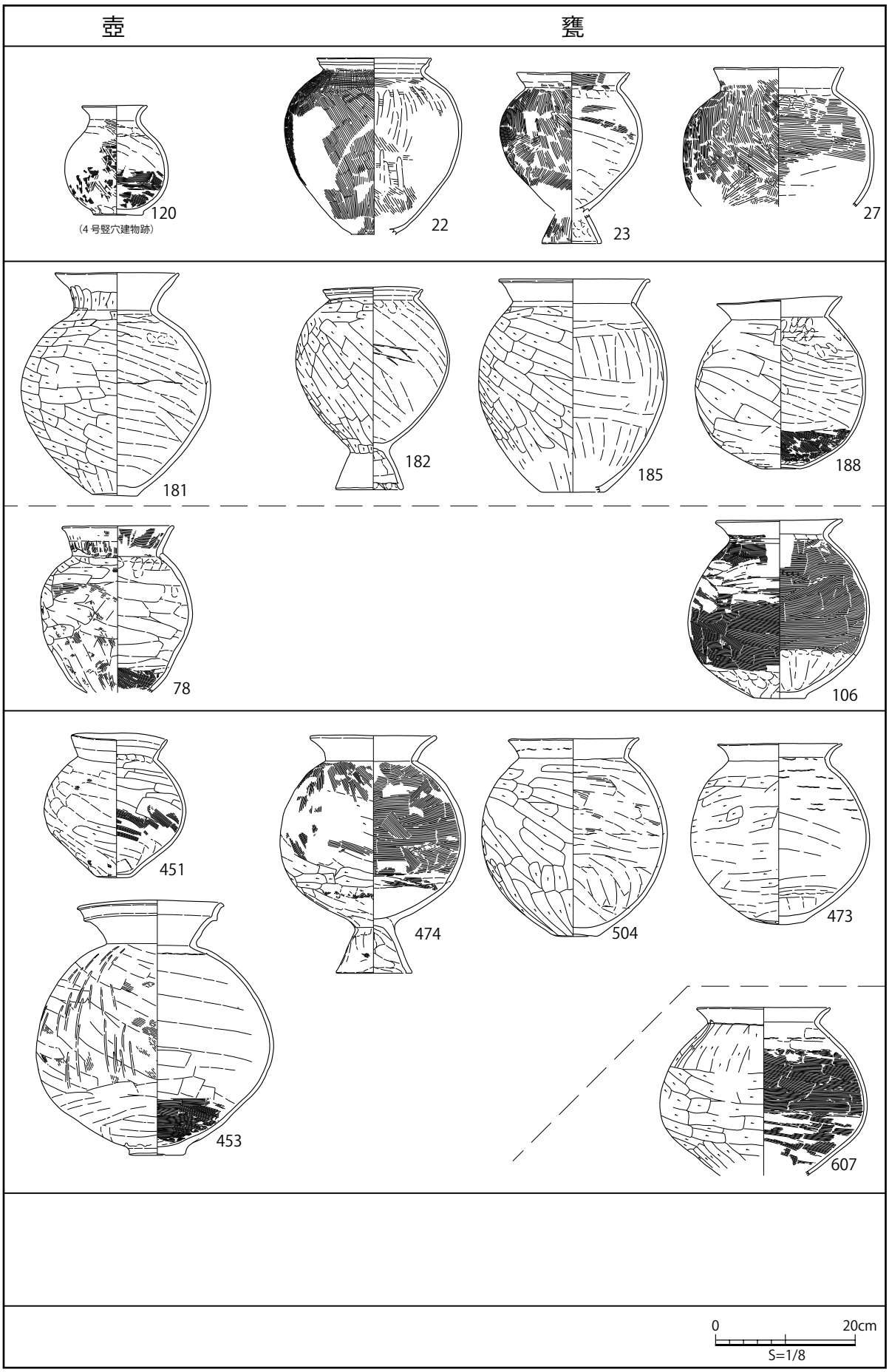
①　段階の設定

古墳時代の集落跡からは、土師器をはじめ多数の遺物が出土している。既存の研究成果（石神・笠原1999、小林1998、2010、2015、坂本1999）から、出土した土器群を次のように大きく５つの段階に分ける。

１期（古墳時代前期中葉）：１号竪穴建物跡下層群
２期（古墳時代中期初頭）：５号竪穴建物跡下層群、３・４号竪穴建物跡土器集積・入れ子状土器
３期（古墳時代中期前葉）：祭祀遺構（６号竪穴建物跡）、８号竪穴建物跡
４期（古墳時代中期中葉）：15号溝状遺構、遺物包含層
５期（古墳時代後期）：遺物包含層



第 119 図　古墳時代出土土器編年図（1）



第 120 図　古墳時代出土土器編年図（2）

① 各期の詳細

1期　1期 坏状の小型の鉢（1など）は、底部が高台状となり、口縁は直線的に開く。遺構外出土の小型丸底鉢670もこの時期の所産か。高坏は口縁に明瞭に段を有するもの（9）と、緩やかに稜をもって開くもの（13）がある。脚部も直線的に開くもの（13）と屈折脚（12）が認められる。壺は20が覆土中層からの出土で、形状もやや中期的であるため編年図には含めていない。4号竪穴建物跡に含めた壺120は1期に該当する。胴部最大径が下半部にくる広口壺である。甕類は、台付甕（S字状口縁・「く」字状口縁）が主体と思われる。S字甕はナナメハケ後肩部にヨコハケを施しており、胴部最大径は胴部上半に位置する。一部は頸部内面にハケメを施すもので、S字甕B類（赤塚1990）に相当する。

2期　小型の鉢（130）は平底で、口縁は外側に開く。92も同様か。高坏（136、138、79、82）はいくらかのバリエーションが認められるが、坏部に稜あるいは段をもち、脚部は柱状屈折脚あるいは外反しながらハの字に開くものが出現する。坏部の段があいまいであるもの（79）や、坏部が深くなるもの（138）もあり、定型化前の段階を示しているか。壺は小型丸底壺が出現する（167、89、77）。167は胴部に明確な調整がされず、89は分割成形と思われ、成形や調整技法がまだ確立していないのかもしれない。77や175は口縁がやや直立気味になる印象を受ける。大型の壺は口縁部が長く外反するもの（181）が出土している。甕類はハケ目が明瞭でないS字甕の出土があり、本県でみられる最終段階のものと位置づけられる。このほか長胴気味の甕（185）、球胴甕（188）がある。

3期　鉢は前段階より小型化し、口縁が直立気味になるものが出土している（478）。有孔鉢は厚手のつくりである（606）。手づくね土器（465）は埦型となる。高坏は前段階に続きバラエティに富むが、有段のものは段部がやや明瞭となり、タテミガキを施すものはその密度が濃くなる。8号竪穴建物跡からは脚部の短いグループもみられることから、3期に置いた。小型丸底壺は長胴のものも残るが扁平化して定型化する（395、408）。8号竪穴建物跡の一群は、胴部下半に最大径が周る（592、593）。中型の壺には丸底壺のほかに広口壺もあるが、広口壺は甕の形態と大差はない（451）。複合口縁で胴部に穿孔するもの（450）は大型の口縁部をもち、よく磨かれる。大型の壺は祭祀遺構より複合口縁となるものがいくつか出土している（453）。甕類はS字甕が消滅し台付甕が残るものの、球胴甕に脚部が付いただけのような形状である（474）。このほかの甕類は口縁部が強く外反する傾向にあるか。

4期　15号溝状遺構から、定型化した内斜口縁坏が出土している（654）。同遺構の高坏657も低い脚部である。このほか遺構外から出土した高坏660も口径が小さく脚部が低くなっており、この時期の所産であろう。包含層から出土した甕808はＴＫ216型式期の特徴を有している。

5期　遺物包含層より須恵器坏蓋模倣の土師器坏が出土している（798、799）。口縁は内湾せず直立ぎみである。

② 小結

甲府盆地の土器編年（特に前期～中期）や年代観については、小林2015が最新のものである。

本遺跡の古墳時代の諸段階を小林編年に当てはめると、

1期＝小林編年Ⅱ期～Ⅲ期　2期＝小林編年Ⅴ期　3期＝小林編年Ⅵ期　4期＝小林編年Ⅶ期

5期＝小林編年Ⅹ期前後

に比定することができる。小林編年Ⅴ期については、従前より「良好な資料に恵まれていない」と指摘されていたが、本遺跡の調査では、Ⅴ期～Ⅵ期の一括資料として多様な土器が出土しており、今後の編年研究に寄与することが期待される。

第3節　土地利用の変遷について

本遺跡の発掘調査において、大きく三段階の遺構面を捉え、土地利用の変遷を知ることができた。本報告のまとめにかえて論じていきたい。

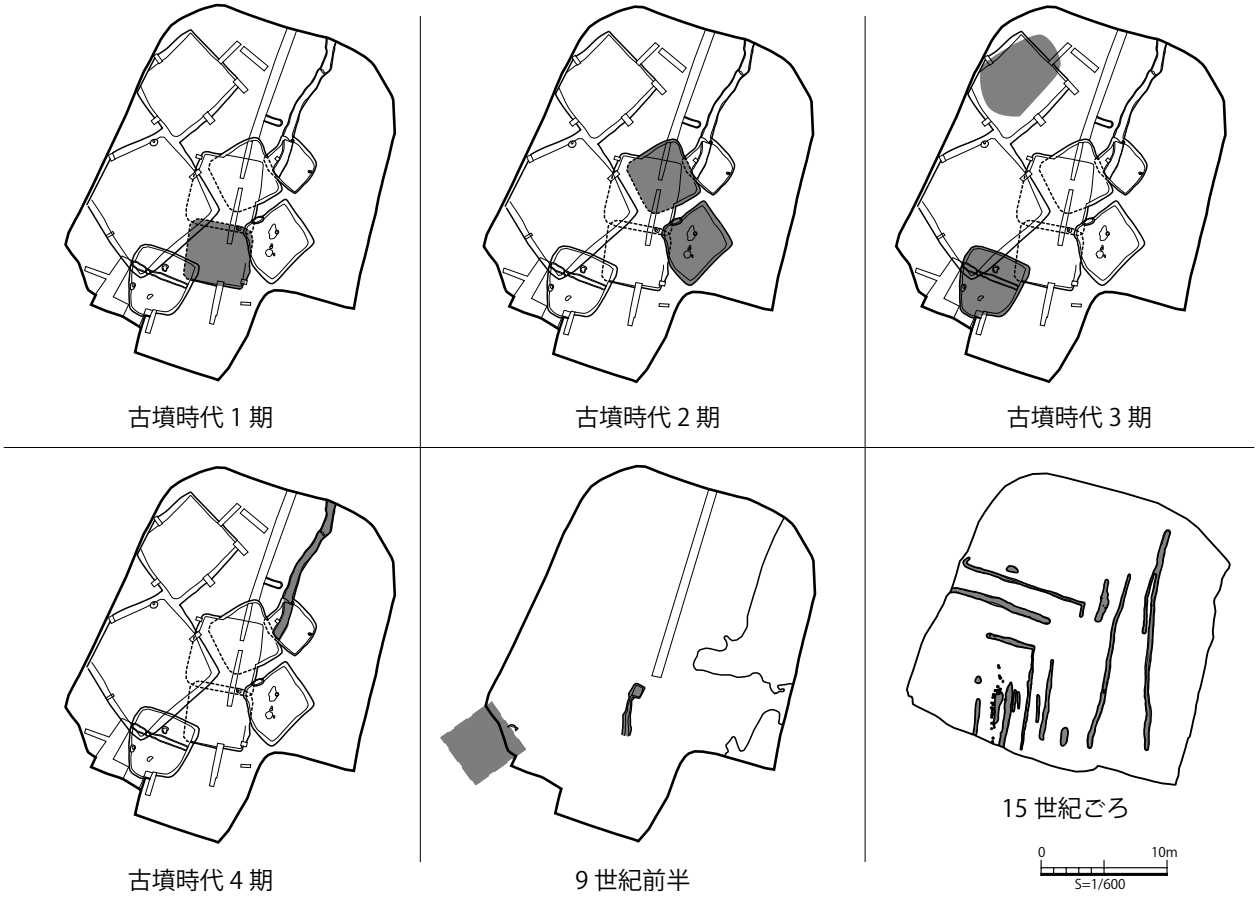
① 古墳時代前期後半～中期中葉

本調査区内において最も遡る遺構は、S字甕B～C類相当が出土した1号竪穴建物跡であった。古墳時代前期

中葉（３世紀後葉～４世紀初頭）にあたり、中道古墳群では天神山古墳が築造されていた頃である。次に出現するのは５号竪穴建物跡あるいは３・４号竪穴建物跡で、これらは古墳時代中期（４世紀後半～）の土器様式を備えており、その初頭と考えられる。３・４号竪穴建物跡の覆土からは、高坏を主体的に用いた小規模な土器集積が認められた。この後まもなく出現するのが、祭祀遺構（６号竪穴建物跡）である。土器集積による祭祀跡であり、土器には一部規則的な配置が認められ、土器内には金属製品や玉類が混入していた。祭祀遺構とほぼ同時期に８号竪穴建物跡が存在したと考えられるが、当該遺構は焼失を受けた可能性がある。なお、７号竪穴建物跡からは北陸系の甕型土器（千種甕）の破片が数点出土している。前期の所産と考えられるが、東海系であるＳ字甕とは共伴していないことは興味深い。

さて、ここで甲府盆地における古墳時代の祭祀遺構を概観してみると、古墳時代前期までは西田遺跡（甲州市）や足原田遺跡（山梨市）などにみられるように、溝（谷）への土器廃棄行為が主体であり、古墳時代中期中葉には大原遺跡や大蔵経寺前遺跡（共に笛吹市）にみられるように、多量の手づくね土器を主体として、石製模造品や祭祀用土器を集積する行為へと移ることが指摘されている（入江2008）。近年の調査では熊野八反田遺跡（甲州市）や食糧工場遺跡（甲府市）でも前期の溝から多量の土器が出土し、部分的に埋置あるいは集積した可能性が指摘される（入江2015、宮澤2022）。本遺跡の祭祀遺構の特徴をまとめると、①自然の谷地形の縁辺と想定される場所において、②小型丸底壺や高坏を中心に土器を集積し、③手づくね土器は数点に留まり、④臼玉や鉄製品などを用いて、⑤一部の土器は破砕されるも大半は原位置を保っていた、ことが挙げられる。古墳時代中期以降の祭祀の様相として、原初的なものに位置づけられるが、紙幅の都合上、再度別稿を用意し評価したい。

以上のように、本遺跡では古墳時代前期中葉～中期前半にかけて集落が営まれ、一時期には豊富な土器を用いた祭祀を執り行っていた場所であった。甲府盆地の低部、特に河川の氾濫平野にあたる本遺跡周辺では、白井河原橋下遺跡などからその存在は示唆されども、なかなか遺跡を捕捉できずにいた。しかし、本調査において地表下深くに集落跡の存在が確認できたことは、何よりの成果である。その後、中期中葉になると南北方向に走る15号溝状遺構が１条存在するのみで、調査区内では建物跡は造営されなくなる。



第 121 図　北畑南遺跡　遺構変遷図

② 古墳時代後期～平安時代

古墳時代前期～中期の遺構検出面の上層（いわゆる遺物包含層）からは、当該期の遺物に加えて、古墳時代後期や平安時代の遺物が散見された。本調査区の近隣（流れ込みとすると北側が有力か）に遺構が広がっている可能性も考えうる。この包含層の上面がおそらく掘り込み面となって、平安時代の遺構がいくつか確認された。９号竪穴建物跡は調査区の南東隅で一部分のみ検出され、甲斐型坏の年代から９世紀第２四半期頃と想定される。同時期の３号土坑＋17号溝状遺構は、形状から素掘りの井戸とそれに伴う導水の溝と想定される。平安時代の遺構は、調査区外西側にある程度展開している可能性が挙げられよう。当該地は古代の行政区割りの境界地のような場所であり、郡・郷の所属については今後の課題といえる。中世の生活面の間層までに、調査区東端では自然流路が形成されている。遺物包含層や遺構についても、この自然流路によって削平を受けている可能性もある。

③ 中世

遺物を含まない間層を経て、中世の遺構面が確認された。積極的に年代を評価できる遺物の出土は認められなかったが、強いて言えば15世紀代に求められるだろうか。第４章でも言及した通り、クランクする溝は道に伴う側溝になる可能性がある（ただし、いわゆる道の「硬化面」は確認できていない）ほか、畑の畝間溝であった可能性もある。

さて、甲府盆地東部には、「福泉寺城」という所在地未確定の城郭が数点の絵図に残され、その所在や城主・性格についてこれまで議論が行われていたところである（磯貝1992、萩原2002、武藤2006、内藤2021）。絵図は広島県立図書館所蔵の浅野文庫版『諸国古城図』中の「福泉寺」図や長崎県常盤歴史資料館蔵の「甲劦福泉寺城」図などであるが、いずれも堀に囲まれた城郭のまわりに笛吹市内や旧中道町に残る地名を集落として描き、さらに外側の上下それぞれに東西方向の川を描くものである。城内にはクランクする道路や建物跡が描かれる。「福泉寺城」についての伝聞は地元に残っていないばかりか、方位や集落の位置が現在のものと容易には整合しないため、各論者で意見が分かれている。すなわち、磯貝正義氏は笛吹市御坂町成田の旧福泉寺あるいは石和町東油川付近（泉龍寺）に、萩原三雄氏は甲府市西油川町の油川寺付近に、武藤敬氏は甲府市上曽根町の勝山城に、内藤和久氏は、石和町市部の県立笛吹高校付近にそれぞれ推定している。磯貝説や萩原説をとれば、「福泉寺城」は油川（武田）信恵に関するものとされ、本遺跡付近はその候補地となり、クランクする溝状遺構などはやや示唆的である。とはいえ建物跡の検出もなく、遺物の出土も貧弱であるため、ただちに本遺跡に比定することはできないが、いままで考古学的な評価が乏しかった油川氏について、その勢力基盤の範囲における活動時期の遺跡が確認できたことは重要な成果である。

以上のように、本遺跡からは主に３時期の遺構が発見された。河川氾濫の多い甲府盆地の低地において、わずかな微高地に集落を繰り返し営んだことが分かる好事例であった。本調査が始まってすぐ、遺跡に近接する地域住民にこんなことを言われた。「こんな川のそばに遺跡なんか出ちゃこんよ」。その言葉を見事に覆す調査成果となった。今後も丹念な遺跡の分布調査、成果の活用を行い、地域資源としての埋蔵文化財に対する機運の醸成が必要である。

＜参考文献＞

赤塚次郎編　1990 『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集　財団法人愛知県埋蔵文化財センター
石神孝子・笠原みゆき　1999 「甲斐における古墳時代中期の土器様相」『東国土器研究』第5号　東国土器研究会
磯貝正義　1992 「城館跡研究の現状と福泉寺城」『山梨県史だより』4号
入江俊行　2008 「山梨県内における土製模造品について」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会
入江俊行編　2015 『熊野八反田遺跡』甲州市文化財調査報告書第18集　甲州市教育委員会
小林健二　1998 「甲斐における古式土師器の成立―3・4世紀の土器編年と墳墓―」『専修考古学』第7号　専修大学考古学会
小林健二　2010 「古墳時代における甲斐の地域社会―土器編年と墳墓の変遷―」『山梨県考古学協会誌』第19号　山梨県考古学協会
小林健二　2015 「甲斐の古墳時代と土器―編年と移動を考える―」『山梨県考古学協会誌』第23号　山梨県考古学協会
坂本美夫　1999 「第2章　山梨県の考古学編年・4　古墳時代の編年」『山梨県史』資料編2　山梨県
内藤和久　2021 「武田信虎の福泉寺城略取と歴史的背景」『武田史研究』第64号　武田史研究会
萩原三雄　2002 「甲斐「福泉寺城」に関する一考察」羽中田壯雄先生喜寿記念論文集刊行会編『甲斐の美術・建造物・城郭』 岩田書店
宮澤公雄編　2022 『食糧工場遺跡（遠光寺東交差点改良工事地点）』甲府市文化財調査報告第124集　甲府市教育委員会
武藤敬　2006 「甲州城郭関係資料について―福泉寺城と要害―」『山梨県考古学協会誌』第16号　山梨県考古学協会

調査区正面垂直写真

中世遺構面正面垂直写真

写真図版２

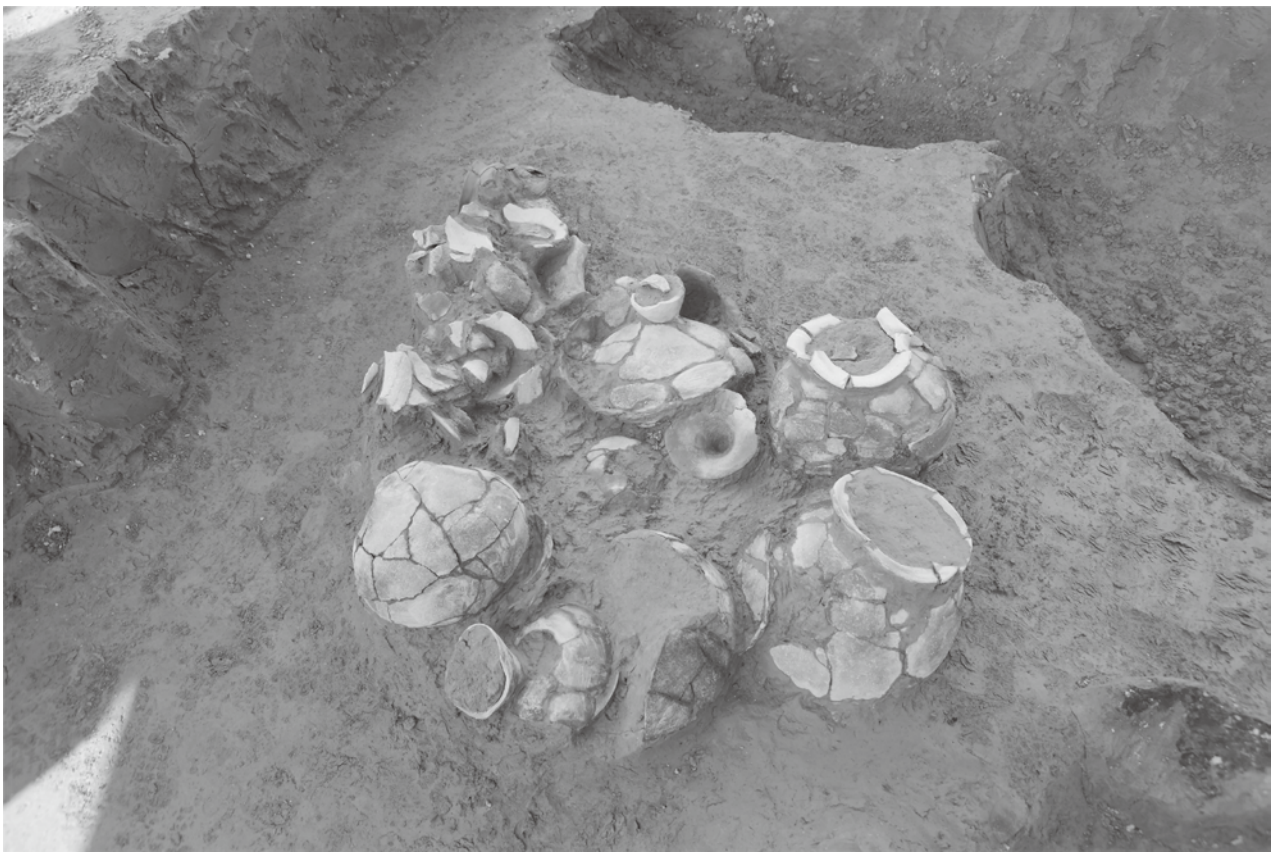
古墳時代遺構面完掘状況

７号竪穴建物跡周辺俯瞰

６号竪穴建物跡・祭祀遺構　ユニット１　検出状況（南から）

祭祀遺構　ユニット１　遺物出土状況

写真図版４



祭祀遺構　ユニット２　出土状況

祭祀遺構　ユニット３　出土状況

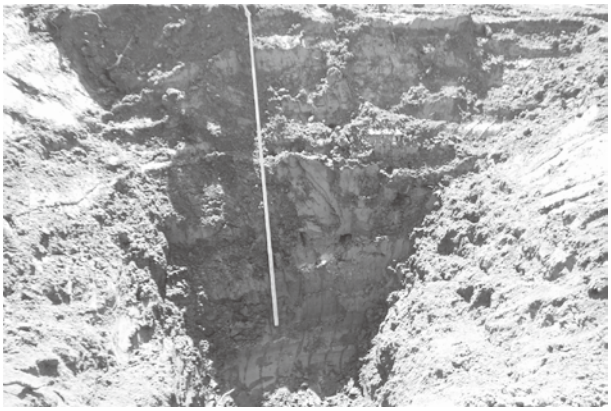
３・４号竪穴建物跡　遺物出土状況

３号竪穴建物跡　入れ子状土器出土状況

９号竪穴建物跡　カマド検出状況および遺物出土状況

中世溝状遺構完掘状況（西から）

範囲確認調査　掘削状況



範囲確認調査　土層確認状況

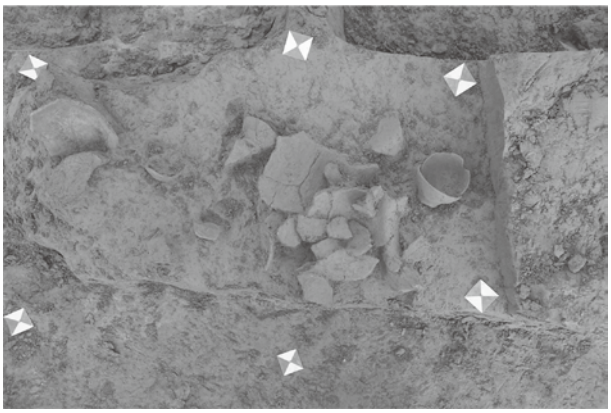
本調査　表土掘削状況（以下、本調査の写真）

表土掘削時　湧水・壁面崩落状況

人力掘削状況

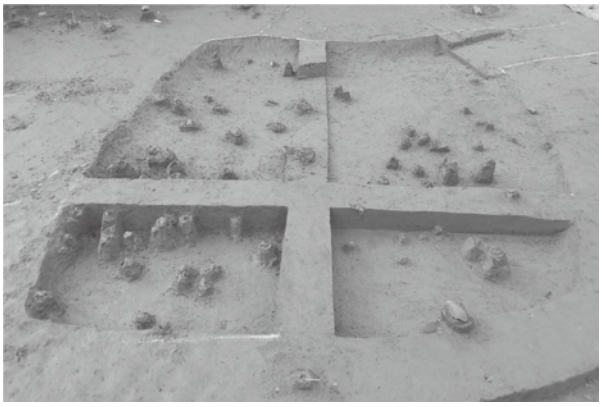
５号竪穴建物跡　検出状況

７号竪穴建物跡他検出状況



１号竪穴建物跡　遺物出土状況

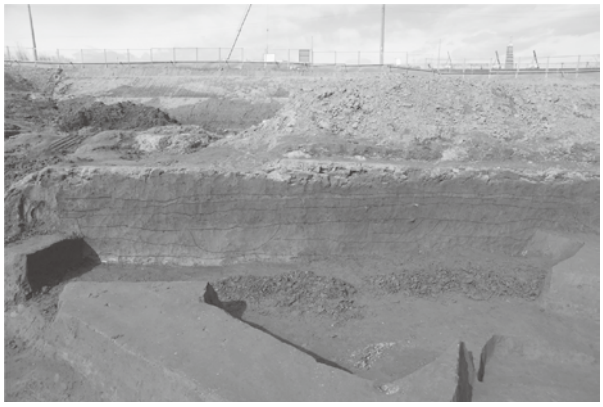
写真図版８



2 号竪穴建物跡　遺物出土状況

2 号竪穴建物跡　完掘状況

3・4 号竪穴建物跡　東西断面及び遺物出土状況



3・4 号竪穴建物跡　南北断面

3・4 号竪穴建物跡　遺物出土状況

3・4 号竪穴建物跡　完掘状況

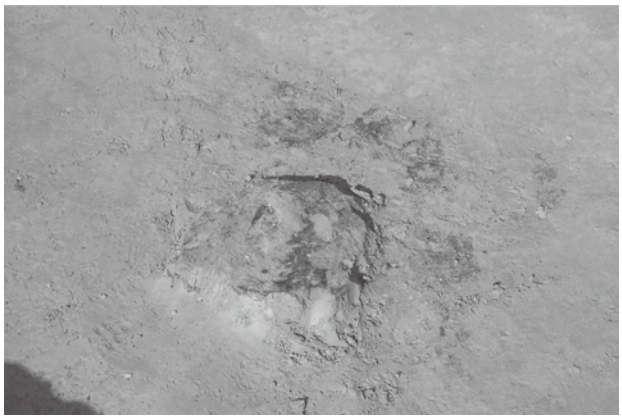
5 号竪穴建物跡　遺物出土状況

5 号竪穴建物跡　東西断面

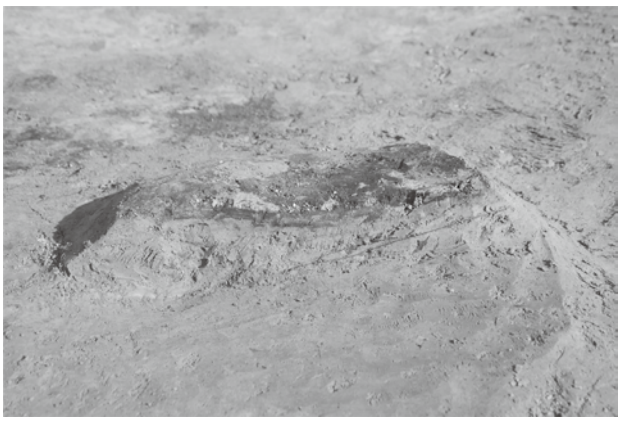
5 号竪穴建物跡　上層土器出土状況 1

5 号竪穴建物跡　上層土器出土状況 2

5 号竪穴建物跡　下層土器出土状況

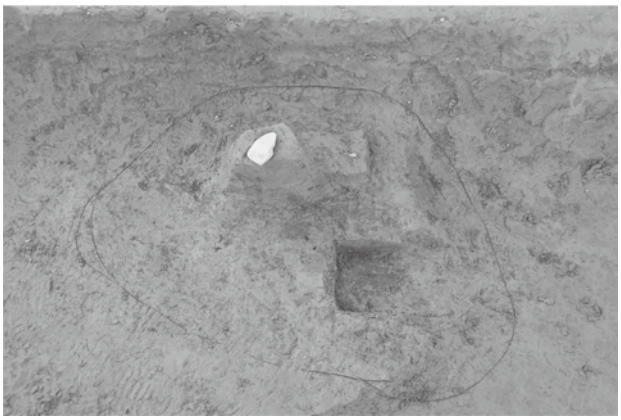


5 号竪穴建物跡　炉跡検出状況

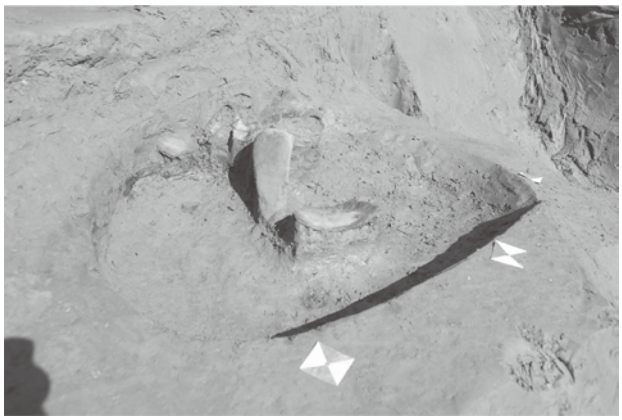


5 号竪穴建物跡　炉跡断面

6 号竪穴建物跡　北側断面



6 号竪穴建物跡　焼土集中



6 号竪穴建物跡　焼土集中遺物出土状況

写真図版10

祭祀遺構ユニット１　土器出土状況１

祭祀遺構ユニット１　土器出土状況２

祭祀遺構ユニット１　土器出土状況３

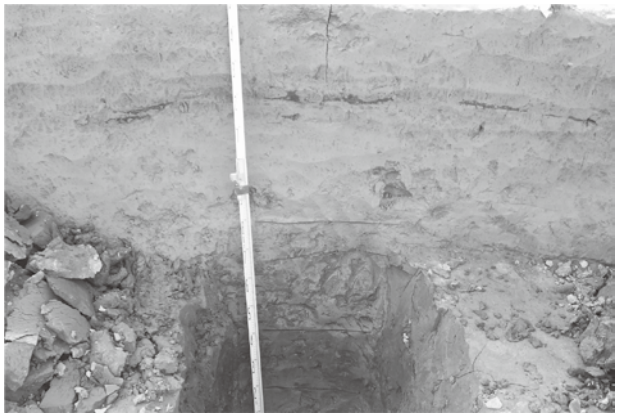
祭祀遺構ユニット１　土器内鉄斧出土状況

祭祀遺構ユニット２　土器出土状況

祭祀遺構ユニット３　土器出土状況１

祭祀遺構ユニット３　土器出土状況２

６号竪穴建物跡・祭祀遺構　完掘状況

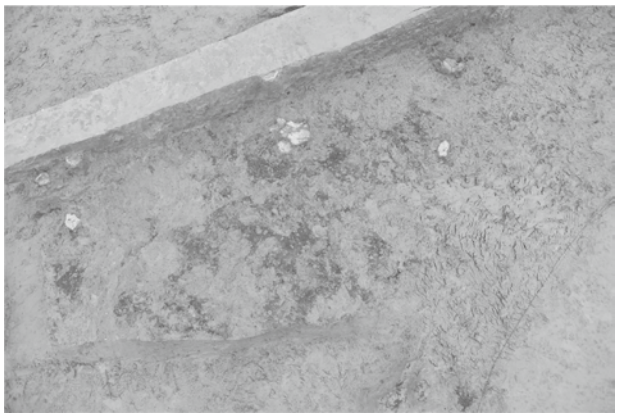


6 号竪穴建物跡床面下層の確認状況

7 号竪穴建物跡　南北断面

8 号竪穴建物跡　南北断面

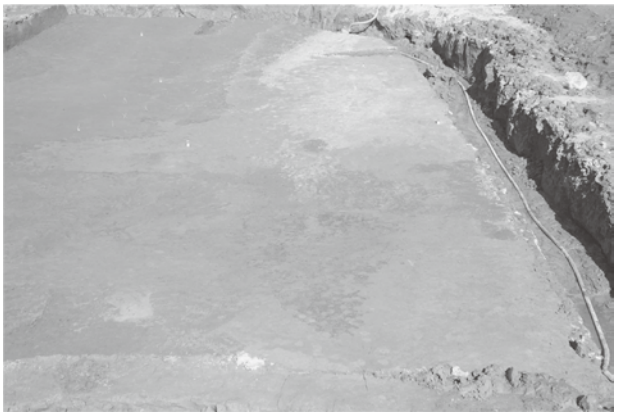
8 号竪穴建物跡　炭化材検出状況 1



8 号竪穴建物跡　炭化材検出状況 2

8 号竪穴建物跡　イノシシ歯出土状況

8 号竪穴建物跡　完掘状況

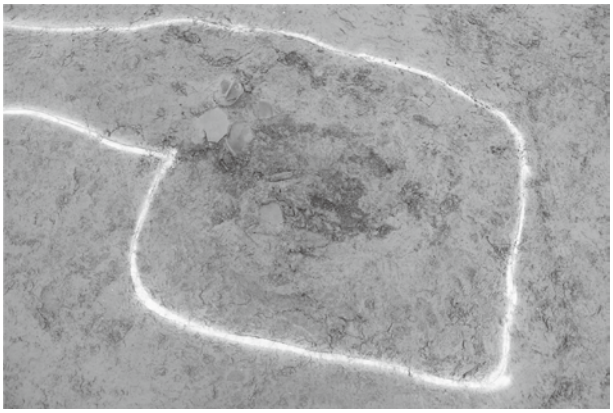


古墳～平安　自然流路検出状況

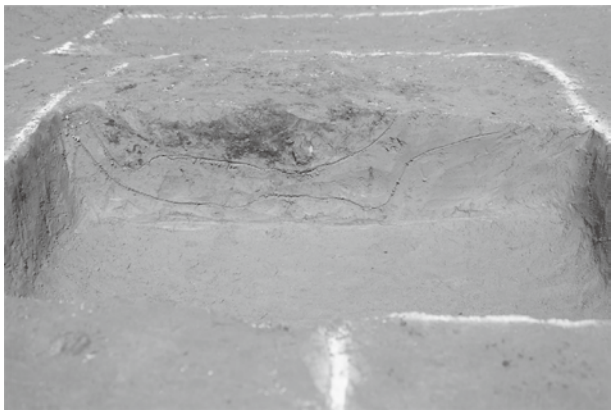
写真図版12

古墳～平安　ウシ歯出土 1

古墳～平安　ウシ歯出土 2



3 号土坑　検出・遺物出土状況

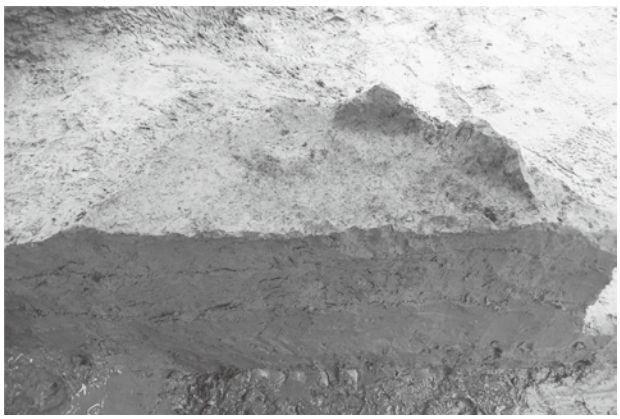


3 号土坑　半裁状況

17 号溝遺物出土状況

3 号土坑・17 号溝完掘状況

9 号竪穴建物跡　遺物出土状況

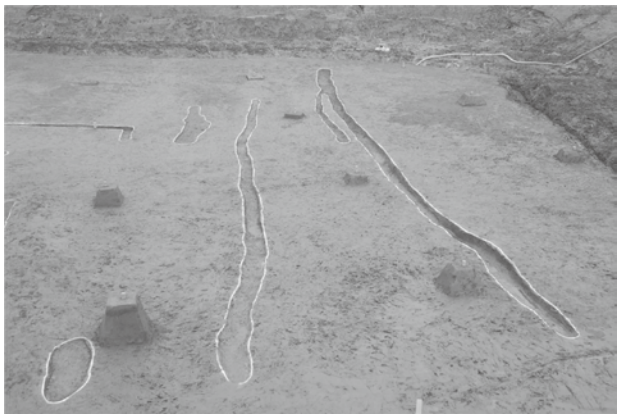


9 号竪穴建物跡　カマド半裁状況

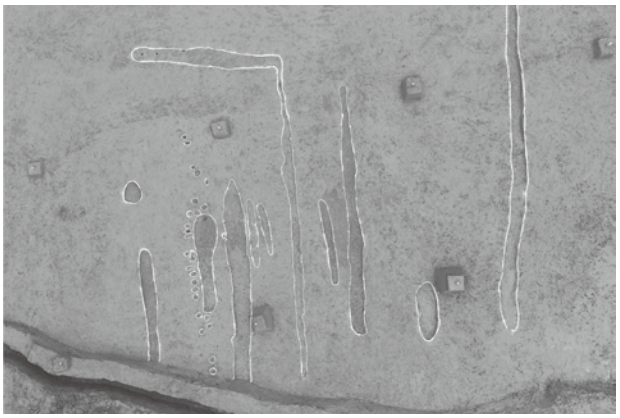
中世　溝状遺構検出状況

中世　溝状遺構完掘状況

中世　6・12・13 号溝状遺構半裁状況



中世　3・4・5・14 号溝状遺構完掘状況



中世　溝状遺構集中箇所正面俯瞰

中世　9 号溝状遺構南壁面断面

写真図版14

1

2

3

4

6

7

9

11

12

13

14

20

21

22

23

24

26

29

27

28

40

42

51

53

54

55

56

60

61

62

64

65

66

67

71

72

74

76

78

57

18

73

77

79

80

81

83

84

82

85

86

写真図版16

87
88
89
92
93
94
96
101
103
106
107
118
122
120
125
126
127
128
130
136
137
138
139
140
144
146
148
149

155

156

157

158

159

160

161

162

164

165

167

168

169

175

176

178

170

177

181

182

183

184

185

写真図版18

197

199

201

200

206

208

209

210

242

243

244

245

246

247

248

249

253

254

255

257

258

259

264

265

266

267

268

269

271

271

写真図版20

276

277

278

279

280

281

282

283

284

285

287

289

360

361

362

363

364

365

366

367

368

369

370

371

372

373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414

写真図版22

415

416

417

418

419

420

421

422

423

424

425

426

427

428

429

430

431

432

433

436

437

438

439

446

447

448

450

449

452

451

453

454

455

456

写真図版24

457

458

459

460

461

462

463

465

466

467

468

469

470

471

472

473

474

475

477

478

479

480

476

481

482

483

484

485

486

487

488

489

490

492

494

写真図版26

495

496

497

498

499

500

501

502

503

504

505

506
509
510
511
512
515
516
517
519
529
518
535
536
537
538
539
540
541
544
546
548
564
565
566
567

写真図版28

568

569

570

572

574

575

576

577

578

579

580

581

592

593

594

597

590

603

606

607

611

613

617

619

633

652

653

原寸

654

655

657

660

664 665

666

667

670

671

672

677

678

679

681

691

692

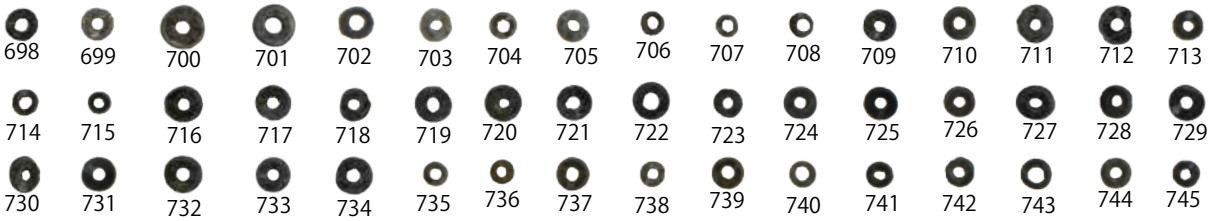
693

694

695

696

695 ～ 745　原寸



746

747

748

749

750

751

766

769

752

753

754

768

755

761

写真図版30

770

787

788

789

793

794

796

797

803
原寸

834

808

811

812

818
原寸

836

840
原寸

原寸
841

844

845

853

857

859

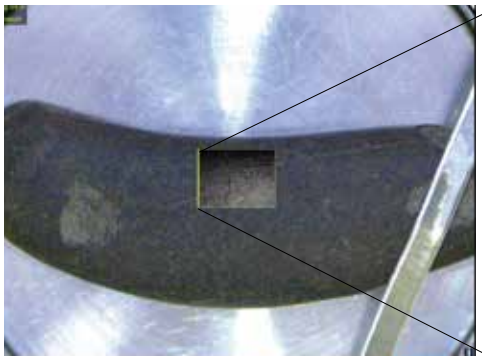
860

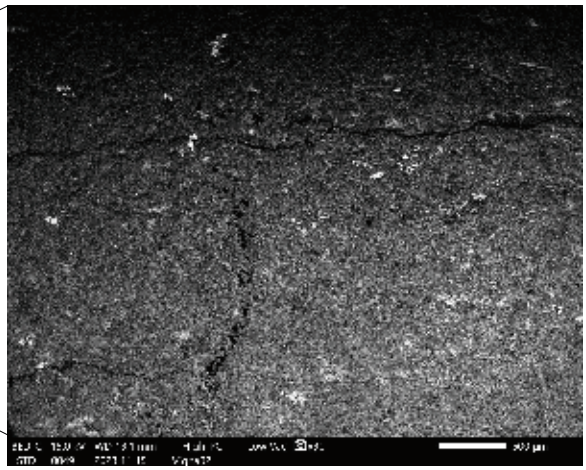
863

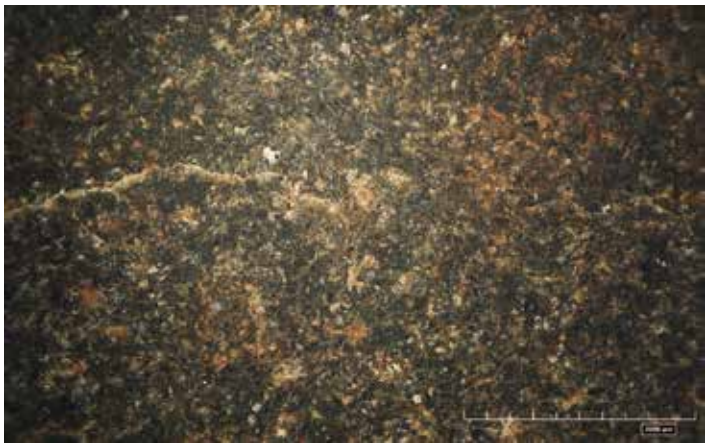
864

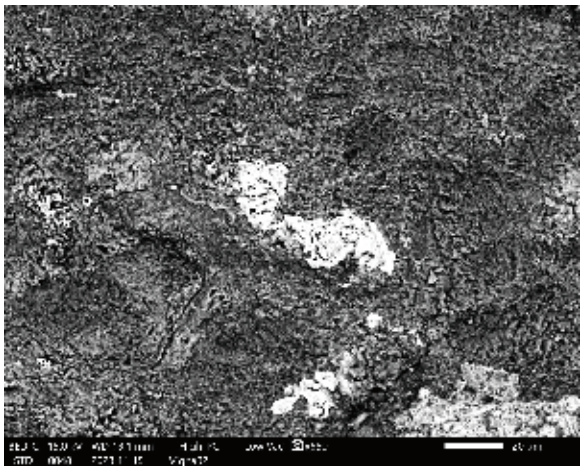
865

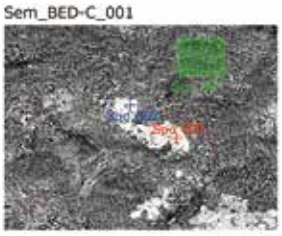
697





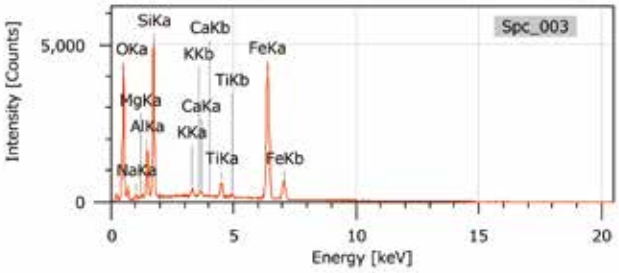






信号 BED-C
入射電圧 15.0 kV
WD 13.1 mm
倍率 x650
照射電流モード High-PC
真空モード Low Vac.

項目	値
測定条件	
加速電圧	15.00 kV
照射電流	-
倍率	x 650
プロセスタイム	T2
測定検出器	First
ライブタイム	30.00 秒
リアルタイム	31.61 秒
デッドタイム	5.00 %
カウントレート	9912.00 CPS

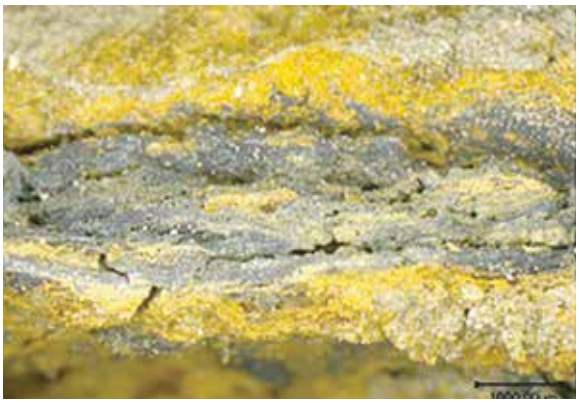


表示名	標準データ	定量補正法	検算
Spc_003	スタンダードレス	ZAF	金属

元素	ライン	Mass%	Atom%
O	K	14.83±0.25	33.51±0.57
Na	K	0.68±0.07	1.07±0.11
Mg	K	0.32±0.04	0.47±0.06
Al	K	3.77±0.12	5.06±0.15
Si	K	10.94±0.18	14.09±0.24
P	K	0.22±0.03	0.26±0.03
K	K	0.88±0.06	0.81±0.05
Ca	K	0.55±0.05	0.49±0.05
Ti	K	3.07±0.13	2.32±0.10
Fe	K	64.74±0.86	41.92±0.56
合計		100.00	100.00

Spc_003 フィッティング係数 0.0250

土器 433 土の底部



土器 433 黒色の小塊
（鉄塊？：拡大）

土器 465　土の状況

土器 465　金属片を確認

土器 201　土の状況

土器 201　底部の状況
（植物体の集積）

報　告　書　抄　録

ふりがな	きたばたみなみいせき
書名	北畑南遺跡
副書名	新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第344集
編著者名	熊谷晋祐・植月学・パリノ・サーヴェイ株式会社
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
所在地	〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923　TEL 055-266-3016
発行機関	山梨県観光文化・スポーツ部　山梨県県土整備部
発行日	2024年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
きたばたみなみいせき 北畑南遺跡	笛吹市石和町東油川	19211	石和 — 62	35° 48′ 58″	138° 22′ 16″	＜確認調査＞ 20201021 ～ 20201028	345㎡	道路
						＜本調査＞ 20201111 ～ 20210331	670㎡	

種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
集落	古墳時代 平安時代 室町時代	古墳時代前期～中期の竪穴建物跡・溝状遺構・祭祀遺構、平安時代の建物跡・土坑・溝状遺構、室町時代の溝状遺構等	古墳時代の土器（土師器・須恵器）、石製品（玉類等）、鉄製品、動物骨、平安時代の土器（土師器・須恵器）、中世の土器（土師質土器等）、陶磁器、木製品、古銭	地表下約４～５ｍに位置する。古墳時代の祭祀遺構は約100個体の土器集積を主体とするもので、周辺及び土器内より臼玉、金属製品なども出土。

要約

北畑南遺跡は、新山梨環状道路東部区間の建設工事に伴う試掘調査により新たに周知されるようになった遺跡である。遺跡は、古墳時代、平安時代、中世の生活面が確認されているが、中世の生活面は現地表下約４ｍに位置し、大深度での発掘調査となった。遺跡の保護を要する範囲を確定するための確認調査を行った後、法面を大きく取り本調査を行った。

古墳時代の生活面からは、古墳時代前期～中期の竪穴建物跡８軒、溝２条、土器集積による祭祀遺構1基が確認された。遺構の検出は困難を極め、建物跡としての根拠に乏しいものは本文に記載した。祭祀遺構は高坏や小型丸底壺、大型の壺、甕などを３か所に集積するもので、時期は古墳時代中期前葉に比定できる。土器内や周辺の土壌には、計48個の臼玉や、袋状鉄斧・刀子などの鉄製品が含まれていた。このほか、県内では事例の少ない古墳時代中期初頭の竪穴建物跡もあり、今後の古墳時代土器研究に寄与されるものである。

平安時代の生活面からは、調査区の端に９世紀第２四半期頃の竪穴建物跡が1軒検出されたほか、井戸の可能性がある土坑とそれに取り付く溝状遺構が確認された。

中世の生活面からは、溝状遺構14条、土坑2基が見つかり、出土遺物から15世紀代の所産と思われる。本遺跡周辺では、中世豪族油川氏が活躍しており、本遺跡はその勢力基盤の範囲に収まるもので、有意な関係性が見出せるかもしれない。

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 344 集

北　畑　南　遺　跡

新山梨環状道路東部区間Ⅱ期建設工事に伴う発掘調査報告書

2024 年 3 月 18 日　印刷
2024 年 3 月 26 日　発行

編　集　　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曽根町923
TEL 055-266-3016
maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp
発　行　　山梨県観光文化・スポーツ部　山梨県県土整備部
印　刷　　株式会社　峡南堂印刷所